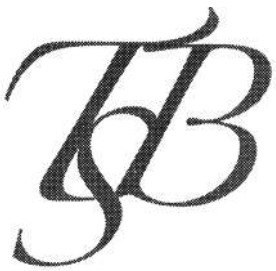
2019年度
授　業　概　要
（シラバス）

家政学部家政学科



東北生活文化大学

シラバス項目の内容

項　　目	内　　容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の到達目標	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。 **学位授与の方針との関連は、次のページを参照してください。**
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内容を記載しています。
事前学習	授業時間外の予習について記載しています。
事後学習	授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能、履修したほうがよい関係科目、或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか、加味される要素を具体的に記載しています。 **ただし、総授業回数の１／３をこえて欠席した場合はその時点で不合格となりますので、注意してください。**
教科書 参考書	授業で使用する、受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。 参考書籍がある場合記載しています。

ナンバリング：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階、順序等をあらわします。

大分類	中分類	小分類	科目番号	レベル	学年
A	1	a	01	1	1

大分類：学科をあらわします。
- A・・服飾文化専攻
- B・・健康栄養学専攻
- C・・生活美術学科
- K・・大学共通

中分類：科目の区分
- １・・大学共通教養科目
- ２・・基幹科目
- ３・・学科専攻科目
- ４・・教職に関する科目
- ５・・博物館に関する科目

小分類：科目群

家政学科各専攻の学位授与の方針

服飾文化専攻

＜知識・理解＞
1．基礎的な知識・学習能力を身につけること
2．社会人として幅広い教養と専門的な知識を身につけること
3．家政学の体系を理解するとともに、被服分野における高度な専門知識を身につけ、その知識体系の意義と社会生活を関連付けて服飾文化を理解できること

＜汎用的技能＞
4．社会に貢献できる専門的技能・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること
5．主に服飾産業における様々な分野で活躍するために必要となる技能・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること

＜態度・志向性＞
6．社会で自律的に活動するために必要な自己教育力・倫理観・責任感・生涯学習力を身につけること
7．演習・実習・実験等の実践的授業を通して、社会で自律的に活動するために必要な自己教育力・倫理観・責任感・生涯学習力を身につけること

＜統合的な学習経験と創造的思考力＞
8．これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につけること
9．これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけること

健康栄養学専攻

＜知識・理解＞
1．基礎的な知識・学習能力を身につけること
2．社会人としての幅広い教養と専門的な知識を身につけること
3．家政学の体系を理解するとともに、健康・栄養・食物分野における高度な専門知識を身につけ、その知識体系の意義と社会生活とを関連付けて理解できること

＜汎用的技能＞
4．社会の貢献できる専門的技能・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること
5．医療・福祉領域における管理栄養士又は食品業界における健康・栄養の専門家として活躍するために必要な技能・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること

＜態度・志向性＞
6．社会で自律的に活動するために必要な自己管理能力・倫理観・責任感・生涯学習能力を身につけること
7．演習・実習・実験等の実践的授業を通して、社会で自律的に活動するために必要な自己管理能力・プレゼンテーション能力・倫理観・責任感・生涯学習力を身につけること

＜統合的な学習経験と創造的思考能力＞
8．これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につけること
9．これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけること

「実務経験のある教員による授業科目」一覧

＜服飾文化専攻＞

科　目　名	担　当　者
消費生活論	水谷　浩
ファッションビジネス実務実習	水谷　浩
マーケティング論	水谷　浩
情報処理Ⅰ	水谷　浩
情報処理Ⅱ	水谷　浩
課題研究Ⅰ	水谷　浩
課題研究Ⅱ	水谷　浩
基礎調理学実習Ⅰ	深澤　律子
基礎調理学実習Ⅱ	深澤　律子
食文化論	深澤　律子
色彩学	内海　陽子
ファッションビジネス論	内海　陽子
ファッション販売論	内海　陽子
コーディネート論	内海　陽子
アパレルCADⅠ	佐藤　理恵
アパレルCADⅡ	佐藤　理恵

＜健康栄養学専攻＞

科　目　名	担　当　者
解剖生理学Ⅰ	曽根　正彦
解剖生理学Ⅱ	曽根　正彦
解剖生理学実験	曽根　正彦他
臨床医学概論Ⅰ	曽根　正彦
臨床医学概論Ⅱ	曽根　正彦
微生物学	黒川　優子
食品衛生学	黒川　優子
基礎調理学実習Ⅰ	深澤　律子他
基礎調理学実習Ⅱ	深澤　律子他
応用調理学実習Ⅰ	深澤　律子他
応用調理学実習Ⅱ	深澤　律子他
学校栄養指導論	深澤　律子
臨床栄養学Ⅰ	福岡　敦子
臨床栄養学Ⅱ	福岡　敦子
臨床栄養指導論Ⅰ	福岡　敦子
臨床栄養指導論Ⅱ	福岡　敦子
臨床栄養学実習Ⅰ	福岡　敦子
臨床栄養学実習Ⅱ	福岡　敦子
給食栄養学総合演習Ⅰ	福岡　敦子
給食栄養学総合演習Ⅱ	福岡　敦子
臨床栄養学臨地実習Ⅰ	福岡　敦子
臨床栄養学臨地実習Ⅱ	福岡　敦子
健康栄養学総合演習Ⅰ	福岡　敦子･半澤真紀子他
健康栄養学総合演習Ⅱ	福岡　敦子･半澤真紀子他
健康栄養学総合演習Ⅲ	福岡　敦子･半澤真紀子他
給食管理論	半澤　真喜子
給食経営学	半澤　真喜子
給食管理実習Ⅰ	半澤　真喜子
給食管理実習Ⅱ	半澤　真喜子
給食栄養学総合演習Ⅰ	半澤　真喜子
給食栄養学総合演習Ⅱ	半澤　真喜子
給食管理臨地実習Ⅰ	半澤　真喜子
給食管理臨地実習Ⅱ	半澤　真喜子
情報処理Ⅰ	水谷　浩
消費生活論	水谷　浩
学校食育概論	大槻　友子

目　次

大学共通　教養科目

ナンバリング	科　目　名	開講期	対象学科・専攻・年	担　当　者	頁
K-1-a-01-1	化学Ⅰ	前期	服1	菅野　修一	1
B-1-a-01-1	化学Ⅰ	前期	健1	鈴木　裕行	2
K-1-a-02-2	化学Ⅱ	後期	服1	菅野　修一	3
B-1-a-02-2	化学Ⅱ	前期	健1	鈴木　裕行	4
K-1-a-03-1	有機化学Ⅰ	後期	服1	菅野　修一	5
B-1-a-03-1	有機化学Ⅰ	後期	健1	菅野　修一	6
K-1-a-04-2	有機化学Ⅱ	前期	服2	菅野　修一	7
B-1-a-04-2	有機化学Ⅱ	前期	健2	菅野　修一	8
K-1-a-05-1	生物学Ⅰ	前期	服・健1	堀江　佐知子	9
K-1-a-06-2	生物学Ⅱ	後期	健1・服4	堀江　佐知子	10
K-1-a-07-1	環境学	後期	服・健2	黒川　優子	11
K-1-a-08-1	統計学	後期	服・健1	池田　展敏	12
K-1-a-09-2	数学	前期	服・健1	池田　展敏	13
K-1-b-01-1	経済学	前期	服1・健4	星　雅博	14
K-1-b-02-1	社会学Ⅰ	前期	服1・健4	庄司　一平	15
K-1-b-03-2	社会学Ⅱ	後期	服1・健4	庄司　一平	16
K-1-b-04-1	歴史Ⅰ	前期	服・健1	栗原　伸一郎	17
K-1-b-05-2	歴史Ⅱ	後期	服・健1	栗原　伸一郎	18
K-1-b-06-1	日本国憲法	前期	服・健1	横田　尚昌	19
K-1-b-07-2	法学概説	後期	服・健1	横田　尚昌	20
K-1-c-01-1	哲学Ⅰ	前期	服・健1	徳田　幸雄	21
K-1-c-02-2	哲学Ⅱ	後期	服・健1	徳田　幸雄	22
K-1-c-03-2	心理学Ⅰ	前期	服・健1	植松　公威	23
K-1-c-04-2	心理学Ⅱ	後期	服・健1	植松　公威	24
K-1-c-05-1	美術	後期	服1	北折　整	25
K-1-c-08-1	生活文化論	前期	服1	今林　直樹	26
K-1-d-01-1	英語Ⅰ	前期	服・健1	佐藤　恵	27
K-1-d-02-2	英語Ⅱ	後期	服・健1	佐藤　恵	28
K-1-d-03-1	英会話Ⅰ	前期	服・健1	上之原　博子	29
K-1-d-04-2	英会話Ⅱ	後期	服・健1	上之原　博子	30
K-1-d-05-1	仏語Ⅰ	前期	服・健1	村山　茂	31
K-1-d-06-2	仏語Ⅱ	後期	服・健1	村山　茂	32
K-1-d-07-1	中国語	前期	服・健1	清水　浩一郎	33
K-1-d-08-1	日本語基礎	前期	服・健1	清水　浩一郎	34
K-1-d-09-2	国語表現法	後期	服・健1	清水　浩一郎	35
K-1-d-10-1	情報基礎学	前期	服・健2	松尾　広	36
K-1-e-01-2	スポーツ身体科学	後期	服1	土井　豊	37
K-1-e-02-2	スポーツ	通年	服・健1	土井　豊	38
K-1-e-03-3	武道	前期	服・健1	佐藤　淳一	39
A-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	服1	1年次担任 他 教職員	40
B-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	健1	1年次担任 他 教職員	41
K-1-f-02-2	ライフデザイン	後期	服・健1	佐々木　晃	42
A-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	後期	服2	水谷　浩	43
B-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	前期	健1	鈴木　裕行	44
A-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	前期	服2	水谷　浩	45
B-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	前期	健2	川俣　幸一	46
A-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	後期	服3	内海　陽子	47
B-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	前期	健3	健康栄養学専攻全教員	48
A-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	後期	服3	水谷　浩	49
B-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	前期	健4	健康栄養学専攻全教員	50
K-1-f-07-1	キャリアサポートⅠ	通年	服・健3	佐藤　淳一 他 教職員	51-52
K-1-f-08-2	キャリアサポートⅡ	前期	服・健4	佐藤　淳一 他 教職員	53

家政学部基幹科目

ナンバリング	科　目　名	開講期	対象学科・専攻・年	担　当　者	頁
K-2-a-01-1	家政学原論	前期	服・健1	八巻　美智子	54
K-2-a-02-1	家族関係学	後期	服・健1	八巻　美智子	55
K-2-a-03-1	家庭経営学(家庭経済学を含む。)	前期	服・健1	前田　修也	56

服飾文化専攻科目

ナンバリング	科 目 名	学年	開講期	担 当 者	頁
A-3-a-01-1	消費生活論	2	前期	水谷　浩	57
A-3-a-02-1	社会福祉論	2	後期	伊藤　常久	58
A-3-a-03-1	地域文化論	1	後期	栗原　伸一郎	59
A-3-a-04-1	美術史Ⅰ	1	前期	瀬戸　典彦	60
A-3-a-05-1	美術史Ⅱ	1	後期	瀬戸　典彦	61
A-3-b-01-1	被服学	1	後期	菊地　紗代	62
A-3-b-02-1	色彩学	2	後期	内海　陽子	63
A-3-b-03-1	日本服装史	2	前期	川又　勝子	64
A-3-b-04-2	染織文化史	2	後期	川又　勝子	65
A-3-b-05-2	染織文化演習	2	後期	川又　勝子	66
A-3-c-01-1	被服機構・衛生学	1・2	後期	水野　一枝	67
A-3-c-02-1	スタートアップソーイング	1	前期	菊地　紗代	68
A-3-c-03-1	アパレル製図法Ⅰ(平面)	1	前期	藤川　幸子	69
A-3-c-04-2	アパレル製図法Ⅱ(応用)	1	後期	藤川　幸子	70
A-3-c-05-2	被服造形実習Ⅰ	2	前期	藤川　幸子	71
A-3-c-06-3	被服造形実習Ⅱ	2	後期	藤川　幸子	72
A-3-c-07-4	被服造形実習Ⅲ	3	通年	藤川　幸子	73-74
A-3-c-08-3	ドレーピング	3	後期	岡本　はるみ	75
A-3-c-09-1	被服平面造形学	1	前期	川又　勝子	76
A-3-c-10-2	被服平面造形実習Ⅰ	2	前期	川又　勝子	77
A-3-c-11-3	被服平面造形実習Ⅱ	2	後期	川又　勝子	78
A-3-c-12-1	ファッションデザイン	1	後期	岡本　はるみ	79
A-3-c-13-2	ファッションデザイン画	3	前期	岡本　はるみ	80
A-3-c-14-2	アパレル設計論	2	後期	玉田　真紀	81
A-3-c-15-3	アパレル生産実習	3	前期	井上　美紀	82
A-3-c-16-1	アパレル企画設計演習	4	通年	菊地　紗代	83
A-3-c-17-2	アパレル企画論	2	後期	井上　美紀	84
A-3-c-18-2	アパレルCADⅠ	2	前期	佐藤　理恵	85
A-3-c-19-3	アパレルCADⅡ	3	後期	佐藤　理恵	86
A-3-c-20-3	服飾工芸・造形(服飾手芸)Ⅰ	2	前期	黒澤　宣子	87
A-3-c-21-3	服飾工芸・造形(服飾手芸)Ⅱ	2	後期	黒澤　宣子	88
A-3-c-22-3	服飾工芸・造形(織物)Ⅲ	4	前期	横田　美和	89
A-3-d-01-1	被服繊維学	1	前期	菅野　修一	90
A-3-d-02-1	被服繊維学実験	1	後期	井上　美紀	91
A-3-d-03-2	被服材料学	1	後期	菅野　修一	92
A-3-d-04-2	被服材料学実験	2	前期	井上　美紀	93
A-3-d-05-2	被服整理学	2	前期	井上　美紀	94
A-3-d-06-3	被服整理学実験	2	後期	井上　美紀	95
A-3-d-07-2	染色加工学	2	後期	井上　美紀	96
A-3-d-08-3	染色加工学実験	3	前期	井上　美紀	97
A-3-d-09-3	染色学実習	3	通年	川又　勝子	98
A-3-d-10-2	テキスタイルデザインⅠ	3	後期	川又　勝子・三浦　輝子	99
A-3-d-11-3	テキスタイルデザインⅡ	4	前期	川又　勝子	100
A-3-e-01-1	ファッションビジネス論	2	前期	内海　陽子	101
A-3-e-02-4	ケーススタディ	3	前期	井上　美紀　(集中講義)	102
A-3-e-03-1	ファッション販売論	2	後期	内海　陽子	103
A-3-e-04-2	コーディネート論	3	前期	内海　陽子	104
A-3-e-05-1	ファッションビジネス実務実習	1	通年	水谷　浩	105
A-3-e-06-2	マーケティング論	3	前期	水谷　浩	106
A-3-e-07-1	被服心理学	2	後期	水野　一枝	107
A-3-e-09-2	情報処理Ⅰ	3	前期	水谷　浩	108
A-3-e-10-3	情報処理Ⅱ	3	後期	水谷　浩	109
A-3-f-01-2	食品学総論	2	前期	八巻　美智子	110
A-3-f-02-2	食品学各論	3	前期	佐藤　靖子	111
A-3-f-03-1	基礎栄養学	2	後期	鈴木　裕行	112
A-3-f-04-1	栄養生化学	3	後期	鈴木　裕行	113
A-3-f-05-1	調理科学論	4	前期	佐藤　靖子	114
A-3-f-06-1	基礎調理学実習Ⅰ	1	前期	深澤　律子	115
A-3-f-07-1	基礎調理学実習Ⅱ	1	後期	深澤　律子	116
A-3-f-08-2	食文化論	4	後期	深澤　律子	117
A-3-f-09-1	食生活論	2	後期		－

ナンバリング	科 目 名	学年	開講期	担 当 者	頁
A-3-f-10-1	住居学(製図を含む。)	3	前期	永井 康雄	118
A-3-f-11-1	住居デザイン	4	後期	山本 佳美	119
A-3-f-12-1	住文化論	4	前期	永井 康雄	120
A-3-f-13-1	保育学(実習及び家庭看護を含む。)	3	後期	香曽我部 琢	121
A-3-f-14-1	家庭電気・機械	3	後期	門田 和雄	122
A-3-f-15-3	小児保健	3	通年	佐藤 とよ子	123
A-3-g-01-1	家政特別講義Ⅰ	2	前期	植松 公威	124
A-3-g-02-3	家政特別講義Ⅲ(ﾌﾞﾗﾝﾄﾞﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ演習)	3	通年	井上 美紀・川又 勝子	125
A-3-g-03-4	家政特別講義Ⅳ	4	通年	井上 美紀	126
A-3-g-04-2	家政特別演習(研修旅行)	2	通年	植松 公威 (集中講義)	127
A-3-g-05-4	課題研究Ⅰ	3	後期	菅野 修一	128
A-3-g-05-4	課題研究Ⅰ	3	後期	植松 公威	129
A-3-g-05-4	課題研究Ⅰ	3	後期	井上 美紀	130
A-3-g-05-4	課題研究Ⅰ	3	後期	川又 勝子	131
A-3-g-06-5	課題研究Ⅰ	3	後期	水谷 浩	132
A-3-g-06-5	課題研究Ⅱ	4	通年	井上 美紀	133
A-3-g-06-5	課題研究Ⅱ	4	通年	川又 勝子	134
A-3-g-06-5	課題研究Ⅱ	4	通年	水谷 浩	135

健康栄養学専攻科目

ナンバリング	科 目 名	学年	開講期	担 当 者	頁
B-3-a-01-1	社会福祉論	1	後期	伊藤 常久	136
B-3-a-02-2	公衆衛生学Ⅰ	3	前期	伊藤 常久	137
B-3-a-03-3	公衆衛生学Ⅱ	3	後期	伊藤 常久	138
B-3-a-04-2	健康管理概論	1	後期	土井 豊	139
B-3-b-01-3	解剖生理学Ⅰ	1	後期	曽根 正彦	140
B-3-b-02-3	解剖生理学Ⅱ	2	前期	曽根 正彦	141
B-3-b-03-3	運動生理学	2	前期	土井 豊	142
B-3-b-04-1	微生物学	2	前期	黒川 優子	143
B-3-b-05-1	生化学Ⅰ	1	後期	鈴木 裕行	144
B-3-b-06-2	生化学Ⅱ	2	前期	鈴木 裕行	145
B-3-b-07-3	病理学	2	後期	曽根 正彦	146
B-3-b-08-3	解剖生理学実験	3	後期	川俣 幸一・曽根 正彦	147
B-3-b-09-3	生化学実験	3	前期	鈴木 裕行	148
B-3-b-10-3	臨床医学概論Ⅰ	3	前期	曽根 正彦	149
B-3-b-11-3	臨床医学概論Ⅱ	3	後期	曽根 正彦	150
B-3-c-01-2	食品学総論	2	前期	八巻 美智子	151
B-3-c-02-2	食品学各論	2	後期	佐藤 靖子	152
B-3-c-03-1	食品学実験Ⅰ	1	前期	八巻 美智子	153
B-3-c-04-2	食品学実験Ⅱ	1	後期	八巻 美智子	154
B-3-c-05-3	食品機能学	3	後期	村本 光二	155
B-3-c-06-3	食品加工学	3	後期	佐藤 靖子	156
B-3-c-07-3	食品加工実習	3	後期	佐藤 靖子	157
B-3-c-08-1	食品衛生学	3	前期	黒川 優子	158
B-3-c-09-2	食品衛生学実験	3	後期	鈴木 裕行	159
B-3-c-10-2	調理科学論	2	後期	佐藤 靖子	160
B-3-c-11-2	調理科学実験	3	前期	佐藤 靖子	161
B-3-c-12-1	基礎調理学実習Ⅰ	1	前期	平本 福子・深澤 律子	162
B-3-c-13-2	基礎調理学実習Ⅱ	1	後期	平本 福子・深澤 律子	163
B-3-c-14-3	応用調理学実習Ⅰ	2	前期	宮地 洋子・深澤 律子	164
B-3-c-15-4	応用調理学実習Ⅱ	2	後期	宮地 洋子・深澤 律子	165
B-3-c-16-3	食文化論	2	後期	宮地 洋子	166
B-3-d-01-1	基礎栄養学	1	後期	鈴木 裕行	167
B-3-d-02-1	栄養生化学	2	後期	鈴木 裕行	168
B-3-d-03-1	栄養学実験	2	前期	鈴木 裕行	169
B-3-e-01-2	応用栄養学Ⅰ	2	前期	川俣 幸一	170
B-3-e-02-2	応用栄養学Ⅱ	2	後期	川俣 幸一	171
B-3-e-03-2	栄養管理論	2	後期	川俣 幸一	172
B-3-e-04-2	応用栄養学実習Ⅰ	2	前期	川俣 幸一	173
B-3-e-05-2	応用栄養学実習Ⅱ	2	後期	川俣 幸一	174
B-3-f-01-1	食生活論	1・2	後期		－
B-3-f-02-2	栄養教育論	2	前期		－
B-3-f-03-2	栄養指導論	2	後期		－

ナンバリング	科 目 名	学年	開講期	担 当 者	頁
B-3-f-04-1	保健栄養学	3	前期	栗山 孝雄	175
B-3-f-05-3	栄養情報処理演習	2・3	後期		－
B-3-f-06-3	栄養指導論実習	3	前期		－
B-3-g-01-3	臨床栄養学Ⅰ	2	前期	福岡 敦子	176
B-3-g-02-3	臨床栄養学Ⅱ	2	後期	福岡 敦子	177
B-3-g-03-3	臨床栄養指導論Ⅰ	3	前期	福岡 敦子	178
B-3-g-04-4	臨床栄養指導論Ⅱ	3	後期	福岡 敦子	179
B-3-g-05-1	臨床栄養学実習Ⅰ	3	前期	福岡 敦子	180
B-3-g-06-2	臨床栄養学実習Ⅱ	3	後期	福岡 敦子	181
B-3-h-01-2	公衆栄養学	3	前期	栗山 孝雄	182
B-3-h-02-2	公衆栄養学実習	3	前期	栗山 孝雄	183
B-3-h-03-3	地域栄養活動演習Ⅰ	4	前期	栗山 孝雄	184
B-3-h-04-3	地域栄養活動演習Ⅱ	4	後期	栗山 孝雄	185
B-3-i-01-1	給食管理学	2	前期	半澤 真喜子	186
B-3-i-02-1	給食経営学	4	前期	半澤 真喜子	187
B-3-i-03-2	給食管理実習Ⅰ	2	後期	半澤 真喜子	188
B-3-i-04-3	給食管理実習Ⅱ	2	後期	半澤 真喜子	189
B-3-j-01-1	健康栄養学総合演習Ⅰ	3	前期	栗山孝雄・半澤真喜子・福岡敦子	190
B-3-j-02-2	健康栄養学総合演習Ⅱ	3	後期	栗山孝雄・半澤真喜子・福岡敦子・川俣幸一・栄養教育担当教員	191
B-3-j-03-3	健康栄養学総合演習Ⅲ	4	前期	栗山孝雄・半澤真喜子・福岡敦子・川俣幸一・栄養教育担当教員	192
B-3-k-01-5	給食管理臨地実習Ⅰ	3	前期	半澤 真喜子 （臨地実習）	193
B-3-k-02-5	給食管理臨地実習Ⅱ	3	後期	半澤 真喜子 （臨地実習）	194
B-3-k-03-5	臨床栄養学臨地実習Ⅰ	4	前期	福岡 敦子 （臨地実習）	195
B-3-k-04-5	臨床栄養学臨地実習Ⅱ	4	後期	福岡 敦子 （臨地実習）	196
B-3-k-05-5	公衆栄養学臨地実習Ⅰ	4	通年	栗山 孝雄 （臨地実習）	197
B-3-k-06-5	公衆栄養学臨地実習Ⅱ	4	通年	栗山 孝雄 （臨地実習）	198
B-3-l-01-1	被服学	1	後期	菊地 紗代	199
B-3-l-02-1	被服造形実習Ⅰ	2	前期	藤川 幸子	200
B-3-l-03-2	被服造形実習Ⅱ	2	後期	藤川 幸子	201
B-3-l-04-1	住居学（製図を含む。）	3	前期	永井 康雄	202
B-3-l-05-1	保育学（実習及び家庭看護を含む。）	3	後期	香曽我部 琢	203
B-3-l-06-1	家庭電気・機械	1	後期	今年度は開講せず	－
B-3-l-07-2	情報処理Ⅰ	3	前期	水谷 浩	204
B-3-l-08-1	消費生活論	2	前期	水谷 浩	205
B-3-l-09-4	学校栄養指導論	3	後期	深澤 律子	206
B-3-l-10-1	学校食育概論	3	前期	大槻 友子	207
B-3-m-01-3	セミナーⅠ	3	後期	健康栄養学専攻教員	208
B-3-m-02-4	セミナーⅡ	4	後期	健康栄養学専攻教員	209
B-3-m-03-1	家政特別講義Ⅰ	1	通年	小野 真実・八巻 美智子	210
B-3-m-04-2	家政特別講義Ⅱ	2	後期	佐藤 靖子・半澤 真喜子	211
B-3-m-05-3	家政特別講義Ⅲ（臨地実習演習）	3	後期	栗山孝雄・半澤真喜子・福岡敦子	212
B-3-m-06-4	家政特別講義Ⅳ（臨地実習演習）	4	前期	栗山 孝雄・福岡 敦子	213
B-3-m-07-5	課題研究　平成28年度入学生	3年後期～4年通年		鈴木 裕行	214
B-3-m-07-5	課題研究　平成28年度入学生	3年後期～4年通年		土井 豊	215
B-3-m-07-5	課題研究　平成28年度入学生	3年後期～4年通年		佐藤 靖子	216
B-3-m-07-5	課題研究　平成28年度入学生	3年後期～4年通年		曽根 正彦	217
B-3-m-07-5	課題研究　平成28年度入学生	3年後期～4年通年		福岡 敦子	218
B-3-m-07-5	課題研究　平成28年度入学生	3年後期～4年通年		栗山 孝雄	219
B-3-m-07-5	課題研究　平成28年度入学生	3年後期～4年通年		半澤 真喜子	220
B-3-m-07-5	課題研究　平成28年度入学生	3年後期～4年通年		川俣 幸一	221
B-3-m-07-5	課題研究　平成28年度入学生	3年後期～4年通年		深澤 律子	222
B-3-m-07-5	課題研究　平成28年度入学生	3年後期～4年通年		八巻 美智子	223

教職に関する科目

ナンバリング	科　目　名	開講期	対象学科・専攻	担　当　者	頁
K-4-b-01-2	教育原理	前期	家政・生美2	宮澤　孝子・盛下　真優子	224
K-4-a-01-1	教職概論	後期	家政・美表1	笠間　賢二	225
K-4-b-02-2	教育心理学	前期	家政・生美2	宮前　理	226
K-4-b-03-3	教育制度論	前期	家政・生美3	宮澤　孝子	227
K-4-c-01-2	教育課程論	前期	家政・生美2	中島　夏子・宮澤　孝子	228
K-4-c-02-3	家庭科教育法Ⅰ	通年	家政3	佐藤　郷美	229
K-4-c-03-4	家庭科教育法Ⅱ	通年	家政4	深澤　律子	230-231
C-4-b-01-2	美術科教育法Ⅰ	通年	生美3	加美山　裕子	232-233
C-4-b-01-2	美術科教育法Ⅱ	通年	生美4	加美山　裕子	234-235
C-4-b-01-2	工芸科教育法	通年	生美3	瀬戸　典彦	236-237
K-4-c-04-2	道徳教育の指導法	前期	家政・生美3	加美山　裕子	238
K-4-c-05-2	特別活動の指導法	前期	家政・生美2	須藤　由子	239
K-4-c-06-3	教育方法論	後期	家政・生美2	清水　禎文・松尾　広	240
K-4-d-01-3	生徒指導の理論と方法A(進路指導の理論及び方法を含む。)	後期	家政・生美3	沼山　博・佐々木　晃	241
B-4-d-02-3	生徒指導の理論と方法B	前期	健専3	沼山　博・佐々木　晃	242
K-4-d-02-2	教育相談	後期	家政・生美3	宮前　理	243
K-4-f-01-5	教職実践演習(中・高)	後期	家政・生美4	宮前　理・植松　公威	244
B-4-f-02-5	教職実践演習(栄養教諭)	後期	健専4	宮前　理・植松　公威	245

博物館に関する科目

ナンバリング	科　目　名	開講期	対象学科・専攻	担　当　者	頁
K-5-a-01-2	生涯学習概論	後期	服専・美表1	伊藤　優	246
K-5-a-02-2	博物館概論	前期	服専・美表1	伊藤　優	247
K-5-a-03-4	博物館経営論	前期	服専・生美3	笠原　信男	248
K-5-a-04-3	博物館資料論	後期	服専・生美2	手塚　均	249
K-5-a-05-3	博物館資料保存論	前期	服専・生美2	手塚　均	250
K-5-a-06-4	博物館展示論	後期	服専・生美3	笠原　信男	251
K-5-a-07-3	博物館情報・メディア論	後期	服専・生美2	佐藤　泰	252
K-5-a-08-2	博物館教育論	後期	服専・美表1	伊藤　優	253
K-5-a-09-5	博物館実習Ⅰ(学内・見学実習含む。)	通年(前)	服専・生美3	菊地　逸夫	254
	博物館実習Ⅰ(学内・見学実習含む。)	通年(後)	服専・生美3	三上　秀夫	255

大学共通教養科目

1．大学共通教養科目

授業科目名	化学Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)
担当者	菅野　修一	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服１年

授業概要

私たちの衣・食・住すべてに化学物質が関与しており、化学の知識なくしては現代の快適な生活はあり得ない。化学Ⅰでは、生活全般に密接に結び付いた化学の基礎的な内容を紹介する。さらに、身の回りを化学の目で見る習慣が身につくよう、化学の面白さや興味深さについても紹介する。さらには、原始時代から今日に至るまでの人間生活の進歩が、化学の発展の歴史と明確にリンクしていることをの理解を深めることで、今日の日常生活の奥深さを認識させ、その一つのベースとなっている化学の幅の広さについても繰り返し説明する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
物質についての基本的理解（原子・分子の本質）	○	○	○		○				○
生活と化学の関係の理解	○	○	○						○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．科学と化学の関係	教科書指定ページの熟読。
２．物質とは何か、物質を粒子としてみる	教科書指定ページの熟読。
３．元素の周期表と原子の構造	教科書指定ページの熟読。
４．量子力学の歴史と基本的な概念	教科書指定ページの熟読。
５．電子と化学結合	講義ノートの総まとめ（1回目）。
６．身の回りの物質、無機物と有機物	教科書指定ページの熟読。
７．身の回りの物質、混合物と化合物	教科書指定ページの熟読。
８．混合物と化合物	教科書指定ページの熟読。
９．原子・分子の世界におけるモルの概念	教科書指定ページの熟読。
10. 物質の状態と温度、状態変化とエネルギー	講義ノートの総まとめ（2回目）。
11. 化学反応と電子	教科書指定ページの熟読。
12. 電子の不思議（粒子としての電子・波としての電子）	教科書指定ページの熟読。
13. 水の化学	課題を指定。
14. 環境と化学、分析化学の紹介	教科書指定ページの熟読。
15. 身の回りの高分子化合物	講義ノートの総まとめ（3回目）。

履修上の注意

教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。

成績評価方法・基準

小テスト 30%、課題レポート 30%、課題ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 40%を総合的に評価する。小テストは毎回添削。

教科書　[教養としての化学入門] [Kimberley Waldron] [化学同人] [3,000 円]

参考書　必要に応じて個別に紹介する。

備　考

質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

授業科目名	化学Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	鈴木　裕行	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健１年

授業概要

健康栄養学専攻の管理栄養士養成課程で履修する、栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の学修は、栄養素／食品成分の構造・性質・機能を理解することが基本であり、そのためには「物質の構造・性質と変化」を取り扱う学問である化学の基礎知識が不可欠である。この授業では、各受講者の化学についてのこれまでの履修状況・理解度に合わせて、ごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して、今後の専門科目の理解に必要な基礎力の向上を図る。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 化学一般の基礎的な知識を身につける。	○		○						
2. 関連する練習問題を解答できるようにする。	○		○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．健康・栄養・食品と化学 ２．物質を構成する粒子 ３．元素の周期律と周期表 ４．原子の構造 ５．イオンと分子 ６．イオン性化合物～化学式の書き方	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
７．物質量：原子量・分子量・モルとは	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
８.〔中間試験〕、物質量：原子量・分子量・モルの計算 ９．試験の解説、原子価と電子式	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する
10. 化学反応と反応式のつくり方 11. 化学反応式を用いた計算 12. 化学結合と分子構造： 共有結合・イオン結合・水素結合 13. 化学結合と電気陰性度	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
14. 酸と塩基	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する
15.〔期末試験〕、中和反応 16. 試験の解説、中和反応と塩の生成	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する

履修上の注意

今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。

成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%

教科書　[ゼロからはじめる化学][立屋敷　哲][丸善(株)出版事業部][2,376 円]

参考書　無し

備　考

「キャリア開発Ⅰ」がこの授業に関連した問題演習の授業なので、併せて履修することが強く望まれる。試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

授業科目名	化学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)
担当者	菅野　修一	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服１年

授業概要

化学Ⅰで学んだ基礎をもとに、我々の生活を支える多くの化学物質、生命を支える食料としての物質、エネルギーに関する物質、さらに地球のこれまでの進化と環境に関連する大気や水や土壌に関連する化学について述べ、その反応と諸現象との関連を講義する。合わせて、暮らしを豊かにしてくれる化学について概観する。一方、原始時代から今日に至るまでの人間生活の進歩が、化学の発展の歴史と明確にリンクしていることの理解を深めることで、今日の日常生活の奥深さを認識させ、その一つのベースとなっている化学の幅の広さについても繰り返し説明する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
自然界と化学の関係の理解。	○	○		○				○	○
生活と化学の関係の理解。	○	○		○				○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．気体の圧力と沸騰	教科書指定ページの熟読。
２．蒸発と沸騰、気化熱	教科書指定ページの熟読。
３．水に溶けるものと油に溶けるものの違い	教科書指定ページの熟読。
４．過冷却、融解熱の実験	教科書指定ページの熟読。
５．化学反応熱などの熱とエネルギー	講義ノートの総まとめ（1回目）。
６．塩析と生体の機能	教科書指定ページの熟読。
７．酸と塩基、水素イオン濃度、酸塩基の強さ、中和反応	教科書指定ページの熟読。
８．酸化数、身の回りの酸化剤、還元剤	教科書指定ページの熟読。
９．角砂糖の燃焼と生体エネルギー	教科書指定ページの熟読。
10. 酸化と還元、活性酸素	講義ノートの総まとめ（2回目）。
11. 電子の移動と電池、燃料電池など各種電池	教科書指定ページの熟読。
12. 太陽エネルギーと光合成	教科書指定ページの熟読。
13. 光、波と粒子としての性質、電波と光	課題を指定。
14. 物質の色、炎色反応	教科書指定ページの熟読。
15. 高分子化合物、酸素の性質	講義ノートの総まとめ（3回目）。

履修上の注意

教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。

成績評価方法・基準

小テスト30%、課題レポート30%、課題ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ40%を総合的に評価する。小テストは毎回添削。

教科書　[教養としての化学入門] [Kimberley Waldron] [化学同人] [3,000円]

参考書　必要に応じて個別に紹介する。

備　考

質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

授業科目名	化学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	鈴木　裕行	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健１年

授業概要

健康栄養学専攻の管理栄養士養成課程で履修する、栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の学修は、栄養素／食品成分の構造・性質・機能を理解することが基本であり、そのためには「物質の構造・性質と変化」を取り扱う学問である化学の基礎知識が不可欠である。この授業では、化学Ⅰに引続き各受講者の化学についてのこれまでの履修状況・理解度に合わせて、ごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して、今後の専門科目の理解に必要な基礎力の向上を図る。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
化学一般の基礎的な知識・考え方を身につける。	○		○						
関連する計算問題を解答できるようにする。	○		○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．中和反応と濃度計算	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
２．水素イオン濃度とｐＨ	
３．酸化と還元	
４．酸化数と酸化還元反応	
５．酸化剤・還元剤	
６．金属元素のイオン化列と電池	
７．物質の三態、気体の性質、気体の法則	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
８．〔中間試験〕気体の状態方程式	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する
９．試験の解説、気体の計算	
10．溶液の性質	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
11．浸透圧、化学反応と熱・熱化学方程式	
12．熱量変化の計算	
13．有機化合物の基礎：構造式の書き方	
14．有機化合物の種類	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する
15．〔期末試験〕、生体の有機化合物	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する
16．試験の解説、有機化合物の反応	

履修上の注意

今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。

成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%

教科書　[ゼロからはじめる化学][立屋敷　哲][丸善(株)出版事業部][2,376 円]

参考書　無し

備　考

「キャリア開発Ⅰ」がこの授業に関連した問題演習の授業なので、併せて履修することが強く望まれる。試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

授業科目名	有機化学Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	菅野　修一	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服１年

授業概要

有機化学の基礎として、各原子の電子配置から解説する。特に炭素原子の sp・sp2・sp3 の各混成軌道をはじめとする電子軌道の形が、分子の形に直接影響することを認識させ、それをベースに様々な基本となる有機化合物を紹介する。さらには、有機化合物の構造式から読み取れる様々な情報を読み取れるようにし、高分子化合物を含むより複雑な化合物の理解にまでつなげる。講義の適切な個所では、繰り返し有機電子論に触れ、有機化学反応と電子の関係に触れ、有機化学の奥深さも伝える。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
原子と電子配置について理解。	○	○		○					
有機化合物の分子レベルでの理解。	○	○	○						○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．日常生活における有機化学の重要性の認識について	教科書指定ページの熟読。
２．元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素	教科書指定ページの熟読。
３．アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス	教科書指定ページの熟読。
４．分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手	教科書指定ページの熟読。
５．原子番号と電子の配列、イオン結合の復習	講義ノートの総まとめ（1 回目）。
６．原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用	教科書指定ページの熟読。
７．分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体	教科書指定ページの熟読。
８．中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造	教科書指定ページの熟読。
９．炭素の二重結合、三重結合、種々の分子式	教科書指定ページの熟読。
10. 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質	講義ノートの総まとめ（2 回目）。
11. 不飽和炭化水素、共有結合（電子対結合）、電子対	教科書指定ページの熟読。
12. 非共有電子対、配合結合、金属結合、不対電子	教科書指定ページの熟読。
13. メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、δ結合、π結合	課題を指定。
14. 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基	教科書指定ページの熟読。
15. 分岐炭化水素とその命名法、慣用名	講義ノートの総まとめ（3 回目）。

履修上の注意

教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。

成績評価方法・基準

毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。小テストは毎回添削。

教科書　[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]

参考書　必要に応じて個別に紹介する。

備　考

質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

授業科目名	有機化学Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	菅野　修一	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健１年

授業概要

生命現象を分子レベルで理解するため、生体を構成している物質の分子構造、およびそれを組み立てている結合のしくみを知る事は必須である。化学Ⅰ・Ⅱで学んだことをもとに有機化学の基本概念を述べ、それらの分子の反応性を化学結合、とりわけ共有結合の電子の配置から説明し、それをもとに官能基の性質について講義する。一方、講義の適切な個所では、化学の基本となる量子論の考え方にも触れ、有機化学の奥深さも伝える。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
生体構成物質を理解する基礎となる簡単な有機化合物の理解。	○	○	○	○					○
化学結合と電子の関係の理解。	○				○	○			

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．健康栄養学における有機化学の重要性の認識について	教科書指定ページの熟読。
２．元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素	教科書指定ページの熟読。
３．アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス	教科書指定ページの熟読。
４．分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手	教科書指定ページの熟読。
５．原子番号と電子の配列、イオン結合の復習	講義ノートの総まとめ（1回目）。
６．原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用	教科書指定ページの熟読。
７．分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体	教科書指定ページの熟読。
８．中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造	教科書指定ページの熟読。
９．炭素の二重結合、三重結合、様々な分子式	教科書指定ページの熟読。
10. 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質	講義ノートの総まとめ（2回目）。
11. 不飽和炭化水素、共有結合（電子対結合）、電子対	教科書指定ページの熟読。
12. 非共有電子対、配合結合、金属結合、不対電子	教科書指定ページの熟読。
13. メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、δ結合、π結合	課題を指定。
14. 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基	教科書指定ページの熟読。
15. 分岐炭化水素とその命名法、慣用名	講義ノートの総まとめ（3回目）。

履修上の注意

教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。

成績評価方法・基準

毎回行う小テスト30%、レポート30%、中間試験等40%を基準として総合的に評価する。

教科書　[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700円]

参考書　必要に応じて個別に紹介する。

備　考

質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

授業科目名	有機化学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	菅野　修一	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服２年

授業概要

有機化学Ｉの講義を理解していることをベースに、有機化学の基礎として知っておく必要のある典型的な有機化合物を個別に解説していく。ここでは繰り返し化合物をボンドラインフォーミュラ・ダッシュフォーミュラ・コンデンスドフォーミュラで書けるよう説明し、さらには構造式から読み取れる化合物の性質を理解できるようにする。さらに、講義の適切な個所では、化学の基本となる量子論の考え方にも触れ、、有機化学の奥深さも伝える。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
基本的有機化合物の理解。	○	○	○		○				○
有機化学反応の基礎の理解。	○	○	○						○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．有機化合物の官能基、化合物の名称	教科書指定ページの熟読。
２．アルコール、エーテル、エステルの一般的性質	教科書指定ページの熟読。
３．アンモニア、アミン、アミノ酸の構造と性質	教科書指定ページの熟読。
４．ケトン、カルボン酸の構造と性質、その関連性	教科書指定ページの熟読。
５．アルデヒドの構造、還元性としての性質、アルコールとの関係	講義ノートの総まとめ（1回目）。
６．生体内のケトン体としての構造とその存在の意味付け	教科書指定ページの熟読。
７．芳香族炭化水素、アロマの語源、ナフタリン	教科書指定ページの熟読。
８．中間試験、アルカンの誘導体、ハロアルカン、トリハロメタン	教科書指定ページの熟読。
９．共有結合の分極、フロンガスとオゾン層の破壊	教科書指定ページの熟読。
10. 求核的置換反応、脱離反応	講義ノートの総まとめ（2回目）。
11. アミンの分類と性質、アンモニアの塩基性の意味	教科書指定ページの熟読。
12. 第二級アミンと亜硝酸からニトロソアミンの生成およびその意味	教科書指定ページの熟読。
13. アルコールの構造、多価アルコール、トリアシングリセロール	課題を指定。
14. 不飽和有機化合物の性質と反応性	教科書指定ページの熟読。
15. 共鳴と共鳴構造、酸の強弱との関係	講義ノートの総まとめ（3回目）。

履修上の注意

教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。

成績評価方法・基準

小テスト30%、レポート30%、中間試験等40%を基準として総合的に評価する。

教科書　[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700円]

参考書　必要に応じて個別に紹介する。

備　考

質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

授業科目名	有機化学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）		2(30＋60)			
担当者	菅野　修一	必・選	管栄(必)	形態	講義	学期	前期	対象	健２年

授業概要

人間の生命維持に関連する現象は体内のタンパク質・糖質・脂質などが関連する代謝、つまりは複雑な化学反応によりもたらされる。生体の主構成物質の有機化合物の化学構造を理解し、さらにはその基本的有機化学反応について説明する。有機化合物の構造式から読み取れる様々な情報を読み取れるようにし、高分子化合物を含むより複雑な化合物の理解にまでつなげる。代謝に関する詳しい学習は生化学に譲るが、生化学の講義を理解するためには、この講義を理解することが前提となる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
有機化学反応の基礎の理解。	○	○	○		○				○
基礎となる有機化合物の理解。	○	○	○	○					○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．有機化合物の官能基、化合物の名称	教科書指定ページの熟読。
2．アルコール、エーテル、エステルの一般的性質	教科書指定ページの熟読。
3．アンモニア、アミン、アミノ酸の構造と性質	教科書指定ページの熟読。
4．ケトン、カルボン酸の構造と性質、その関連性	教科書指定ページの熟読。
5．アルデヒドの構造、還元性としての性質、アルコールとの関係	講義ノートの総まとめ（1回目）。
6．生体内のケトン体としての構造とその存在の意味付け	教科書指定ページの熟読。
7．芳香族炭化水素、アロマの語源、ナフタリン	教科書指定ページの熟読。
8．中間試験、アルカンの誘導体、ハロアルカン、トリハロメタン	教科書指定ページの熟読。
9．共有結合の分極、フロンガスとオゾン層の破壊	教科書指定ページの熟読。
10. 求核的置換反応、脱離反応	講義ノートの総まとめ（2回目）。
11. アミンの分類と性質、アンモニアの塩基性の意味	教科書指定ページの熟読。
12. 第二級アミンと亜硝酸からニトロソアミンの生成およびその意味	教科書指定ページの熟読。
13. アルコールの構造、多価アルコール、トリアシングリセロール	課題を指定。
14. 不飽和有機化合物の性質と反応性	教科書指定ページの熟読。
15. 共鳴と共鳴構造、酸の強弱との関係	講義ノートの総まとめ（3回目）。

履修上の注意

教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。

成績評価方法・基準

毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。

教科書　[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]

参考書　必要なプリント配布

備　考

質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

授業科目名	生物学Ⅰ		単位（総授業時間＋自習時間）		2(30+60)				
担当者	堀江　佐知子	必・選	必（健） 選（服）	形態	講義	学期	前期	対象	服・健１年

授業概要

生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。そして、その不思議さが進化した背景には、何らかの合理的な理由があると考えられる。

地球が誕生し、その地球上で生命が受け継がれてきた道筋を学ぶことで、生き物の不思議さが進化してきた理由を探る講義であり、今までと違う新たな視点で生き物の不思議さを見ることができるようになること、「生物」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指す講義である。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。	○								
学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。						○		○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．講義内容および進め方や評価方法の説明	生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。
２．原始地球の誕生	地球の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
３．地球と生命の誕生と進化	生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
４．魚の進化	魚の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
５．植物の進化（植物の誕生）	植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
６．植物の進化（裸子植物の進化）	裸子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
７．植物の進化（被子植物の進化）	被子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
８.哺乳類の誕生	哺乳類の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
９.哺乳類の進化	哺乳類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
10.鳥の進化	鳥の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
11.昆虫の進化（昆虫の誕生）	昆虫の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
12. 昆虫の進化（昆虫の情報戦略）	昆虫の情報戦略について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
13. 昆虫の進化（昆虫の共進化）	昆虫の共進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
14.人類の進化	人類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
15.講義のまとめ	講義内容をまとめる。
16.試験	

履修上の注意

特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

成績評価方法・基準

課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。

教科書　無し

参考書　無し

備　考

質問等については、講義の終了時に受付ける。

授業科目名	生物学 II		単位（総授業時間＋自習時間）		2(30+60)				
担当者	堀江　佐知子	必・選	必（健） 選（服）	形態	講義	学期	後期	対象	健 1 年 服 4 年

授業概要

生物学は生物や生命現象を学ぶ自然科学である。本講義で扱う対象は細胞内の分子のようなミクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで様々な生命現象を対象とする。本講義では、生命誕生から生物の一種として、ヒトの生物学的特徴を分子遺伝学や生理学、生態学等様々な視点から学んで行くことを通して、ヒトの普遍性や特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、生物学を多様な視点からとらえ、「生命」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指し講義を行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。	○								
学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。						○		○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．講義内容および進め方や評価方法の説明	生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。
2．生命の誕生	生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
3．ヒトの設計図、遺伝子	遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
4．骨・筋肉	骨や筋肉について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
5．肝臓	肝臓について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
6．胃・腸	胃や腸について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
7．心臓・血管	心臓や血管について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
8.免疫	免疫について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
9.脳と心（知覚）	脳（知覚）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
10. 脳と心（記憶）	脳（記憶）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
11. 脳と心（こころの進化）	脳（こころの進化）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
12. 遺伝子（日本人のルーツ）	遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
13. 遺伝子（精神の設計図）	遺伝子（精神の設計図）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
14.生物多様性と保全	生物多様性について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
15.講義のまとめ	講義内容をまとめる。
16.試験	

履修上の注意

特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

成績評価方法・基準

課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う

教科書　無し

参考書　無し

備　考

質問等については、講義の終了時に受付ける。

授業科目名	環境学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	黒川　優子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健２年

授業概要

日本各地で公害問題が多発した 1960～1970 年代の高度経済成長期から約半世紀が経過した今日では、法的な規制、汚染物質の浄化技術の発達、そして人々の環境に関する意識の向上のため、見た目の環境はかなり良くなったが、地球温暖化をはじめ、地球レベルで対策を講じなければならない課題も少なくない。したがって、環境問題に関する基礎的な知識を習得し、「環境を保全、修復するために何をすべきか」について理解を深めることが大切であり、これまでに取り組んできた調査・研究の成果を説明しながら講義を進める。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
環境に関する基礎的知識を身に付ける。	○	○			○				
環境との関わり方の大切さについて理解を深める。	○	○			○				
環境問題に関する分野で興味を持った内容について調べ、レポートを提出する。	○	○			○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．人間活動と環境とのかかわり	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
２．環境変化に伴う異変	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
３．化学物質汚染研究の基礎	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
４．大気汚染	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
５．水質汚染	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
６．土壌汚染	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
７．化学物質による汚染	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
８．放射能汚染	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
９．汚染物質の毒性と生体内での代謝	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
10．内分泌撹乱物質	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
11．アセスメント手法	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
12．飲料水と食品に関する今後の課題	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
13．ごみと廃棄物	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
14．エネルギー資源と環境問題	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
15．環境活動の実践と環境倫理	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
16．試験	授業内容を総復習して試験に臨むこと。

履修上の注意

日頃から環境に関心・興味を持つように心がけ、新聞、テレビ、インターネット、書籍等で環境に関する情報について調べておく。

成績評価方法・基準

・授業への取り組み（30%）、調査とレポートへの取り組み（30%）、試験（40%）
・提出された課題については、後日、添削して返却する。

教科書

環境科学入門　第２版－地球と人類の未来のために〕〔川合真一郎・張野宏也・山本義和〕〔化学同人〕〔2,300 円〕

参考書

・〔川合真一郎〕〔環境ホルモンと水生生物〕〔成山堂書店〕〔1,600 円〕
・〔沈黙の春〕〔レイチェル・カーソン著，青樹簗一訳〕〔新潮社〕〔766 円〕
・〔新装版　苦海浄土（くがいじょうど）　わが水俣病〕〔石牟礼道子〕〔講談社〕〔690 円〕
・〔森は海の恋人〕〔畠山重篤〕〔文芸春秋〕〔640 円〕

備　考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

授業科目名	統計学			単位（授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	池田　展敏	必・選	必(健)・選(服)	形態	講義	学期	後期	対象	服・健１年

授業の概要

前半では、集団の性質を大局的にとらえるための基礎となる記述統計（度数分布、代表値、散布度、特に標準偏差、相関係数など）の初歩的事項について解説し、簡単な例で計算練習する。中盤では、統計学の応用のために不可欠な確率と確率分布（正規分布、t 分布、カイ二乗分布など）について説明する。後半では、確率論の応用として推定や検定など推測統計の考え方ついて説明する。特に、疫学研究に欠かせないクロス表集計の考え方について言及する。

授業の目的(到達目標)	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
平均、標準偏差、相関係数などの意味と定義を理解し、その計算ができるようになる。	○								
就職試験に出題されるような、簡単な確率や数え上げの問題が解けるようになること。	○								
確率分布の種類について理解し、区間推定に応用できる。	○								
統計的検定の考え方を理解し、特定の例題が解ける。	○								

授業計画の内容	事前・事後学修の内容
1．序章：ガイダンス、統計学のイメージと概要（記述と推測）	教科書該当ページを読む。
2．1 章：資料の整理（データと度数分布）	教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。
3．1 章：資料の整理（ヒストグラム、データの代表値）	教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。
4．1 章：資料の整理（散布度、偏差、分散、標準偏差、データの標準化）	教科書該当ページを読む。計算例の確認。
5．1 章：資料の整理（散布図、共分散、相関係数）	教科書該当ページを読む。計算例の確認。
6．2 章：確率（統計的確率と数学的確率、コイン投げ）	教科書該当ページを読む。散布図、計算例の確認。
7．2 章：確率（順列や組み合わせなどの場合の数と確率）	教科書該当ページ、および、配布資料の復習
8．2 章：確率（確率に関する演習）	教科書該当ページを読む。計算例の確認。
9．2 章：確率（確率変数、確率分布、離散型の場合の平均値の定義）	該当ページを読む。
10．2 章：確率（確率変数、連続型の場合の平均値の定義、分布表の使い方、%点）	1 章の全体復習。1・2 章提出課題に取り組む。確率分布表の使い方確認
11．3 章：なぜ正規分布が必要か。中心極限定理	教科書該当ページを読む。確率分布表の使い方確認。
12．4 章：平均値の区間推定（分散既知の場合とそうでない場合）	教科書該当ページを読む。
13．4 章：区間推定の演習問題	教科書該当ページを読む。ノートの復習。
14．5 章：検定とはどんなものか（平均値の検定）	教科書該当ページを読む。プリントの復習。
15．5 章：検定の具体例（クロス表を使ったカイ 2 乗検定）	教科書該当ページを読む。2~5 章の課題の提出。
16．試験	提出課題を復習して臨むこと。

履修上の注意　電卓が必要な時があるので持参すること。

成績評価方法・基準

期末テスト（50%）。問題レポート（50%）

レポートは後日添削して返却する。試験は試験後に解答例を配布する。

教科書〔中学数学でわかる統計授業〕〔涌井良幸・他〕〔日本実業出版〕〔1,800 円〕

参考書　なし

備　考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

授業科目名	数学					単位（授業時間＋自習時間）			2(30+60)
担当者	池田　展敏	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健１年

授業の概要

数学は自然科学だけでなく、文系の分野でも幅広く利用される道具としての意味もある。授業では、集合論、代数学、解析学、幾何学など数学の体系を説明する。特に、集合と写像が数学理論の出発点となり、２項演算の導入により代数学が、変換群の導入により幾何学が発展することを述べていく。加えて、微分・積分は現代社会において欠かせないツールになっていることも説明する。また、数学の理論と中学・高校で教えられる基礎的数学の関連性を、演習問題を通じ学習するようにする。

授業の目的(到達目標)	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
数学に関する教養（歴史、分野、応用など）を修得する。	○								
集合の記法、写像の概念、関数のグラフ化、方程式の作り方や解き方を理解する。	○								
就職試験などで出題されるレベルの数学に慣れ、解ける。	○								

授業計画の内容	事前・事後学修の内容
1. ガイダンス：数学の歴史と構成	板書の復習
2. 集合と写像：集合の元の個数を比べるために集合から集合への写像を考える。	配布プリントの復習
3. 無限集合の元の個数を比べること。	配布プリントの復習
4. 集合に関する記法等の基礎事項	配布プリントの復習。
5. 数と数直線。整数、有理数、無理数、実数	配布プリントの復習。集合と数の演習問題を解く。
6. 移動と回転で幾何学模様を分類する。	配布プリントの復習。対称性の演習問題を解く。
7. 回転操作と演算表。群の定義（代数学入門）	配布プリントの復習
8. 2 項演算と代数学。方程式が解けるために必要なこと。	配布プリントの復習。命題と論理に関する演習問題を解く。
9. 一次方程式を作ったり解いたりする演習	配布プリントの復習。方程式に関する演習問題
10. 速さと時間、距離。グラフを書く練習	配布プリントの復習
11. 微分の定義	配布プリントの復習
12. 数列と簡単な関数（一次関数、2 次関数）の演習	配布プリントの復習。関数に関する演習問題
13. 積分の意味	配布プリントの復習。
14. 図形の面積、立体の体積	配布プリントの復習。幾何学に関する演習問題
15. いろいろな幾何学。同じ図形とは何なのか考える。ユークリッド幾何、射影幾何、トポロジー	配布プリントの復習。全体レポートの提出

履修上の注意　電卓が必要な時があるので持参すること。

成績評価方法・基準

テーマごとに出す宿題の提出（40%）。レポート（60%）。問題プリントは後日添削して返却し、一部を授業中に解説する。レポートは、後日解答例を配布する。

教科書　パワーポイントの資料を配布する。

参考書　なし

備　考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

授業科目名	経済学		単位（総授業時間＋自習時間）		2(30+60)				
担当者	星　雅博	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服１・健４年

授業概要

日本は、戦後奇跡的な経済成長を遂げ、経済大国となった。だが、近年、近隣諸国の経済成長に伴い相対的に日本の国際的な経済力が低下してきており、国際的、多角的な視点で経済の動きを読める能力がますます求められてきている。また、日本は世界の中で最も早く高齢化が進んでいる国でもあり、生産人口の減少による経済成長率の鈍化が懸念されている。このような、内外の経済問題に対応するための知識を一国経済と国民の日常生活との関わりを通じて、講義では、経済学の基礎知識をもとに解説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
経済学を学習する上で必要な基礎知識を身につける。	○								
社会人としての専門的な知識を身につける、		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.ガイダンス（経済学とは何か。）	経済学の考え方をまとめ次回提出する。
２.社会の変容と経済理論の変遷、需要と供給	需要と供給の内容を次回提出する。
３.消費者の選択と消費需要の決定	消費者選択の過程を次回提出する。
４.企業の生産行動	生産行動の過程を次回提出する。
５.余剰、企業の集中、市場の失敗	市場の失敗の具体例を次回提出する。
６.国民所得とは	国民所得の定義をまとめ次回提出する。
７.景気	景気の種類をまとめ次回提出する。
８.財政	財政のしくみを次回提出する。
９.金融	金融のしくみを次回提出する。
10.財政・金融政策	財政・金融政策の効果を次回提出する。
11.国際収支統計、国際通貨制度、貿易に関する基礎理論	国際通貨制度のしくみを次回提出する。
12.国際経済機構と地域経済連携、ＥＰＡとＯＤＡ	機構と連携の社会への影響を次回提出。
13.戦後の国際経済制度	国際経済制度の変遷を次回提出する。
14.日本経済の変遷	日本経済の変遷を次回提出する。
15.経済史と経済学史	歴史から学ぶこれからの経済を提出。

履修上の注意

常に、新聞（経済・社会）に目を通し、現実の経済動向が講義の内容のどこに関連するかを意識する。

成績評価方法・基準

平常点８０％（平常点は、授業への参加状況およびミニットペーパー等で総合的に判断する。）レポート２０％（必ず提出すること。未提出の場合評価の対象外とする。）

ミニットペーパー、レポートについては授業中にフィードバックを行う。

教科書：事前にプリントを配布します。

参考書：なし

備　考

質問等については、授業終了時に受付けます。

授業科目名	社会学Ⅰ					単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)
担当者	庄司　一平	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服1・健4年

授業概要

「常識」「自己と他者」「家族」「不安」「つながり」を考える社会学入門。社会と個人の関係に関する二つの基本的な考え方―社会実在論（「個人ではなく社会がすべてだ」）と社会名目論（「社会よりも個人が一番だ」）―を総合する知識社会学の考え方をふまえつつ、各トピックについて概説する。基礎知識の習得だけでなく、〈社会学的なものの見方〉を用いることにより、自己と現代社会に対して批判的・多面的な問いかけ行うことを目的とする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
社会に関する幅広い教養を身につける	○	○							
社会的コミュニケーション論をふまえた表現力を身につける				○					
社会学的なものの見方をふまえた思考力・判断力を養う						○		○	

授業計画の内容	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す
1．イントロダクション(1)～「社会」という言葉～	辞典における「社会」の語義
2．イントロダクション(2)～「社会」の誕生～	霊長類の基礎知識
3．社会学の見方（1）～自殺の社会学～	デュルケーム『自殺論』の概要
4．社会学の見方（2）～資本主義の社会学～	ヴェーバー『プロ倫』の概要
5．知識社会学入門（1）～社会のなかの個人～	制度・規範・統制・階層
6．知識社会学入門（2）～個人のなかの社会～	常識の社会的成り立ち
7．アイデンティティ(1)～自己と他者～	社会的属性と役割理論
8．アイデンティティ(2)～共同性と倫理～	多様性と共生
9．家族の社会学（1）～社会集団論、近代家族論～	集団類型と家族観
10. 家族の社会学（2）～日本の家族、アメリカの家族～	日米家族観の歴史的構築過程
11. 不安の社会学（1）～社会不安の構造～	不安と恐怖の実存的および社会的構造
12. 不安の社会学（2）～社会不安の諸相～	統計学的恐怖・不安と信仰
13. つながりの社会学（1）～社会的ネットワーク論～	友人・夫婦ネットワーク
14. つながりの社会学（2）～ソーシャル・キャピタル論～	つながりの社会的有用性
15. まとめ	全体の振り返り

履修上の注意：マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用し、時事問題や身近に起こった出来事、人々との関わりに普段から注意を向けておくこと。

成績評価方法・基準：①授業の理解度（ミニットペーパー）［50%］、②レポート［50%］により総合的に評価する。授業中に適宜振り返りを行う。

教科書：使用しない。プリントを配布する。

参考書

① ピーター・L・バーガー『社会学への招待』ちくま学芸文庫、1,296 円。②ピーター・L・バーガー／トーマス・ルックマン『現実の社会的構成―知識社会学論考』新曜社、3,132 円。その他授業中に適宜紹介する。

備　考：質問等は授業終業時に受け付ける。

授業科目名	社会学Ⅱ					単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)
担当者	庄司　一平	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服 1・健 4 年

授業概要

人間としての生活と人生を、「時間」を手掛かりに社会学的に考える。一日・一年・一生という時間の単位に基礎づけられた諸文化には、「年中行事」と「人生儀礼」が必ず存在する。「暦（こよみ）」にもとづいた生活のリズムや、「年齢」とともに変化する人生の諸段階について、伝統社会と現代社会を対比しつつ解説する。さまざまな行動様式や価値観を客観的に理解し、生活と人生－とりわけ生と死―の諸問題について、主体的に考えることを目的とする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
社会に関する幅広い教養を身につける	○	○							
社会学的想像力をふまえた表現力を身につける				○					
社会学的想像力をふまえた思考力・判断力を養う						○		○	

授業計画の内容	**事前学修：次回のキーワードを調べる** **事後学修：配布資料を見直す**
1．イントロダクション～時間と生活・人生～	辞典における「時間」の語義
2．さまざまな時間の考え方	直線的時間論・円環的時間論
3．諸宗教の時間論	世界宗教における起源と終末
4．暦～一日と一年～	さまざまな暦
5．年齢と人の一生	年齢という制度・規範、年祝い
6．子供の社会学	祈願と祝いごと
7．若者の社会学～一人前と結婚～	通過儀礼・加入儀礼
8．老いの社会学（1）～老いとは何か～	老いの文化的相対性
9．老いの社会学（2）～超高齢社会の諸問題～	高齢者の統計学
10. 病気の社会学	創られた概念としての「病気」「健康」
11. 医療の社会学	医療化・キュアとケア
12. 死の社会学（1）～死とは何か～	死の多義性・終末期と「お迎え」
13. 死の社会学（2）～諸文化における死～	葬送と墓制・供養と悲嘆ケア
14. 死生学の諸問題～どう生き、どう死ぬか～	老いと病・死の準備
15. まとめ	全体の振り返り

履修上の注意：マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用すること。身近な行事や儀礼、季節の変化や人々の時間の過ごし方に普段から注意を向けておくこと。

成績評価方法・基準：①授業の理解度（ミニットペーパー）［50%］、②レポート［50%］により総合的に評価する。授業中に適宜、振り返りを行う。

教科書：使用しない。プリントを配布する。

参考書：新谷尚紀・湯川洋司・波平恵美子（編）『暮らしの中の民俗学』1～3（吉川弘文館、2003 年）、各 2,808 円。その他授業中に適宜紹介する。

備　考：質問等は授業終業時に受け付ける。

授業科目名	歴史Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	栗原　伸一郎	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健１年

授業概要

歴史資料は、過去にあった出来事を明らかにし、考えるための材料や根拠になるものである。本講義では、伊達政宗といった仙台ゆかりの人物に関する歴史資料をはじめ、仙台に関するさまざまな歴史資料を取り上げて、そこから明らかになる内容についてみていく。その際、個々の歴史資料の特徴、作成された時代的背景や作成者の意図などに注目することで、歴史資料を読解するポイントをみていく。以上を通して、歴史を考える方法を紹介したい（単純な事項の暗記ではない）。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
①歴史に親しみ、さまざまな歴史資料があることを理解する。	○	○				○		○	
②歴史資料の性格を考え、そこから読み取ることができる内容を理解する。	○	○				○		○	
③歴史資料から歴史的事実を明らかにするための方法や留意点を理解する。	○	○				○		○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス～講義の概要～	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
2．歴史資料に親しむ①伊達政宗の手紙①	配布プリントを再読し、『仙台市史』（資料編）などの書籍で政宗の手紙について調べる。
3．歴史資料に親しむ②地図	配布プリントを再読し、古地図に描かれた場所に足を運ぶ。
4．歴史資料に親しむ③石碑	配布プリントを再読し、身の周りに残る石碑について調べる。
5．歴史資料に親しむ④新聞	配布プリントを再読し、過去の新聞について理解を深める。
6．歴史資料に親しむ⑤実物を見る	見学時、印象に残った歴史資料についてまとめ、提出する。
7．歴史資料を読み解く①公文書	宮城県公文書館に出向き、実際に公文書について調べる。
8．歴史資料を読み解く②伊達政宗の編纂記録	これまでの配布プリントを通読し、一次史料と編纂史料について整理する。
9．歴史資料を読み解く③伊達政宗の手紙②	これまでの配布プリントを通読し、読解のポイントを整理する。
10. 歴史資料を読み解く④日記	配布プリントを再読し、紹介した歴史資料の時代的な特徴について理解を深める。
11. 歴史資料と人物像①伊達政宗と伝記	これまでの配布プリントを通読し、人物の伝記に目を通す。
12. 歴史資料と人物像②伊達政宗と位	これまでの配布プリントを通読し、紹介した歴史資料の背景について理解を深める。
13. 歴史資料と人物像③伊達政宗と祭	これまでの配布プリントを通読し、近代における政宗の捉え方について理解を深める。
14. 歴史資料と人物像④伊達政宗と現代	これまでの配布プリントを通読し、インターネットで政宗がどのように取り上げられているのか確認する。
15. 補論と総括～歴史資料を考える～	これまでの配布プリントを通読し、歴史資料を利用する際の留意点を考えてみる。
16. 試験	試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。

履修上の注意

歴史Ⅱを受講する場合は、この講義を受講することが望ましい。地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。

成績評価方法・基準

平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）30%
小レポート（博物館の展示見学に関するもの）20%
期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）50%
ミニットペーパーや小レポートで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

教科書　毎回プリントを配布する。

参考書　講義中に紹介する。

備　考

質問等は授業終了時に受け付ける。授業１回分として、博物館の展示見学を予定している。

授業科目名	歴史Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)
担当者	栗原　伸一郎	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健１年

授業概要

歴史的事実の捉え方や評価は固定されているものではなく、同じ出来事や人物であっても、多様な叙述が可能であり、様々な歴史イメージを描くことができる。本講義では、日本における変革期である幕末維新期に注目して、それが明治時代から現代までどのように認識され、語られてきたのかをみていく。その際、人物像の時代的な変化について取り上げ、地域の視点でも歴史を捉えることで、多様な歴史イメージについてみていく。以上を通して、歴史を考える方法を紹介したい（単純な事項の暗記ではない）。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
①歴史事象は多様な解釈ができることを理解する。	○	○				○		○	
②歴史像が形成される過程や背景を理解する。	○	○				○		○	
③歴史事象を多角的に捉え、考える能力を身につける。	○	○				○		○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．ガイダンス～講義の内容～	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
２．幕末維新の歴史イメージ①時代劇	配布プリントを再読し、幕末維新に関する時代劇を観賞する。
３．幕末維新の歴史イメージ②教科書	配布プリントを再読し、高校の教科書や参考書などに目を通す。
４．幕末維新の歴史イメージ③一般書	配布プリントを再読し、現在どのような一般書が発行されているか確認する。
５．歴史像の形成①明治時代	配布プリントを再読し、明治政府の方針について理解を深める。
６．歴史像の形成②昭和戦前戦後	配布プリントを再読し、歴史観の変遷についてまとめる。
７．歴史像の形成③近代の東北地方	配布プリントを再読し、地域の歴史書に目を通す。
８．幕末維新の人物像①白虎隊	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、白虎隊がどのように取り上げられているのか調べる。
９．幕末維新の人物像②新選組	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、新選組がどのように取り上げられているのか調べる。
10. 幕末維新の人物像③坂本龍馬	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、坂本龍馬がどのように取り上げられているのか調べる。
11. 幕末維新の人物像④玉虫左太夫	配布プリントを再読し、講義で取り上げた他の人物との相違について考える。
12. 東北地方と幕末維新①幕末の政争と仙台藩	配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍で、仙台藩について理解を深める。
13. 東北地方と幕末維新②新政府の誕生と戊辰戦争	配布プリントを再読し、書籍などで戊辰戦争に至る大まかな流れを確認する。
14. 東北地方と幕末維新③奥羽越列藩同盟	配布プリントを再読し、奥羽越列藩同盟が結成される背景などについて理解を深める。
15. 補論と総括～さまざまな歴史像～	初回からの配布プリントを再読し、歴史像が形成された背景を再確認し、歴史を捉える際の留意点について考えてみる。
16. 試験	試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。

履修上の注意

メディア等で幕末維新期がどのように取り上げられているのか関心を持ち、高校で日本史を学んでいる場合は教科書を再読すること。受講する場合は、歴史Ｉを受講することが望ましい。また、地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。

成績評価方法・基準

平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）30％
期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）70％
ミニットペーパーや小レポートで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

教科書　毎回プリントを配布する。

参考書　『仙台市史』（通史編）。その他は講義中に紹介する。

備　考　質問等は授業終了時に受け付ける。

授業科目名	日本国憲法				単位（総授業時間＋自習時間）		2(30＋60)		
担当者	横田　尚昌	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服・健１年

授業概要　憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールを定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利について判例の事案と裁判所の判断をみながら解説していきたい。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。	○								
憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。	○	○							
憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）	近代立憲主義の基本原理が日本国憲法のなかにどのように生きているのかを確認する。
２．天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）	日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）
３.選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）	選挙制度や政党制度は､国民･市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが､それには様々な種類があることを認識しておく。そして､現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。
４．国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）	国家とは､「国権の最高機関」であると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。
５.内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）	政府の形態のいくつかの類型があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。
６．裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）	裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。
７．地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）	地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。
８．人権とは（1789 年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）	そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のありようを理解する。
９．人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）	憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する
10. 幸福追求権と法の下の平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。）	幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。
11. 内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。）	思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する
12. 表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。）	表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。
13. 経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。）	職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通して日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。
14. 生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。）	福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかように保障されているのか、またその限界について把握する。
15. 参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。）	参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。

履修上の注意　５回を超えて欠席（６回以上欠席）した場合は、理由のいかんを問わず単位修得ができないので注意すること。

成績評価方法・基準　平常点４０％（平常点は、授業時間中の勉学姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート６０％（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。

教科書　特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）

参考書　授業中に指示する。

備　考　オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の 14:00 過ぎから 4 校時開始時刻前までの間とする。

授業科目名	法学概説				単位（総授業時間＋自習時間）		2（30＋60）		
担当者	横田　尚昌	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健１年

授業概要

この講義は、１年生を対象として様々な法分野のごく基本的な知識を提供することを目指すものです。我が国は法治国家といわれますが、実際にいかなる法令がどのように私たちをそして社会を規律しているのかについて詳らかに知ることは困難です。ただ、そうした中にあっても、生活していくうえで、ちょっと知っておくと役立つ法律の知識というものがあります。そうしたことを、この講義では各回ごとに最初に事例を掲げて、みなさんと問題意識を共有しながら進めていきます。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
法学一般の考え方が身についている。	○								
社会問題を法学という視点から考えることができる。	○	○							
さまざまな紛争をルールによって解決しようとする際に生ずる問題点について説明できる。		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．オリエンテーション	
２．みんなの法とわたしの法?	公法と私法の違いを把握したうえで、公法、私法それぞれの基本理念を整理し理解する。
３．どうして約束は守らないといけないの?	自分の意思と相手方の信頼との関係を念頭におきつつ「約束を守らなければならない理由」を議論する理由を考える。
４．電車が遅れても切符の料金は戻ってこないの?	附合契約とは何かを把握したうえで、約款による契約を締結する際の注意点を整理する。
５．どうして事故を起こしたら責任を負わされるの?	過失責任とは何かについて把握したうえで、無過失責任を設けるべき理由について考える。
６．子どものしつけと虐待はどこが違うの?	「しつけ」と「児童虐待」の違いを把握し、児童虐待があった場合の法的措置について理解する。
７．校長先生の決定には従わないといけないの?	日本国憲法が保障する信教の自由の意義について理解する。
８．マンガやアニメを規制してもいいの?	青少年条例と憲法が保障する言論の自由との関係性を考える。
９．どうして悪いことをした人に権利があるの?	被疑者や被告人に黙秘権が認められる理由について説明できるようにする。
10. ギャンブルってやっちゃいけないの？	賭博(とばく)のような被害者なき犯罪を処罰する理由を整理する。
11. 仕事ができないとクビにされるの?	解雇権濫用法理が問題となる場面を考えながら解雇規制について整理し理解する。
12. 手で掴めないものにも権利があるの?	著作権の意義を理解し、私的複製に対する法的規制の在り方を把握する。
13. 損害保険と生命保険のちがいって何？	わずかな保険料（掛け金）を支払うだけで、保険事故を被ったときに多額の保険金を受け取ることが何故できるのかを整理し、保険の種類とそれぞれのしくみについて理解しておく
14. 自動車保険のしくみ	自賠責保険と任意保険の関係と、任意保険には様々な保障が用意されていることを把握する。
15. 株式会社って何？	株式会社の法的構造の基本となるところ、土台となるところを把握する。

履修上の注意

欠席数が明らかに多いと認められる者には単位を与えない。

成績評価方法・基準

平常点４０％（平常点は、授業時間中の勉学姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート６０％（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。

教科書　特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）

参考書　授業中に指示する。

備　考

オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の 14:00 過ぎから 4 校時開始時刻前までの間とする。

授業科目名	哲学Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）		2(30+60)		
担当者	徳田　幸雄	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健１年

授業概要

人間は何のために生きるのか？死んだらどうなるのか？無になってしまうのか、それともあの世で生き続けるのか？人間にとって幸福とは何なのか？愛とは何か？善とは何か悪とは何か？これからは、これまで人類が問い続け、そして今なお問い続けている諸問題でもある。本授業では、古代ギリシャを代表する哲学者たち（ソクラテス・プラトン・アリストテレス）がこれらの根本的な問いについてどのように考えたのかを、当時の時代的・社会的背景および彼らのライフヒストリーもふまえつつ概説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
死生観についての基本的な知識を身につける	○	○				○			
人生観についての考察を深める	○					○			

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.ガイダンス	要しない
２.古代ギリシャの時代背景―アテネとスパルタ―	チェックテスト①を見直す
３.ソクラテス①『ソクラテスの弁明』より	チェックテスト②を見直す
４.ソクラテス②『クリトン』より	チェックテスト③を見直す
５.ソクラテス③『パイドン』より	チェックテスト④を見直す
６.プラトン①　プラトンの生涯	チェックテスト⑤を見直す
７.プラトン②　イデア論	チェックテスト⑥を見直す
８.プラトン③　想起説	チェックテスト⑦を見直す
９.プラトン④　愛と美について	チェックテスト⑧を見直す
10.プラトン⑤　徳と善について	チェックテスト⑨を見直す
11.アリストテレス①　アリストテレスの生涯	チェックテスト⑩を見直す
12.アリストテレス②　三原理と四原因説	チェックテスト⑪を見直す
13.アリストテレス③　自然観、神観	チェックテスト⑫を見直す
14.アリストテレス④　霊魂観、倫理観	チェックテスト⑬を見直す
15.まとめ	チェックテスト①～⑬を見直す

履修上の注意

公欠を除いて、６回以上欠席した場合は受験資格を失う。

成績評価方法・基準

毎授業時のチェックテスト（５０％）チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。
学期末の試験（５０％）

教科書　使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書　無し

備　考

質問等については、授業終了時に受け付ける。

授業科目名	哲学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）		2(30-60)
担当者	徳田　幸雄	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健１年

授業概要

「人間とは何か？」この問いは、近代以降の価値観の多様化・多元化に伴い、改めて問い直されるようになった根本的な問いである。本授業では、この問いについて、中世の主役とも言える世界三大宗教（キリスト教、イスラーム、仏教）を中心とする諸宗教においてどのように捉えられていたかを学んだ上で、近代以降に人類が直面している生命倫理の諸問題（脳死や中絶など）について、その基本的な議論を学び、さらに考察を深めてゆく。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
幅広い人間観を身につける。	○	○						○	
諸宗教の基本的な知識を身につける。	○	○						○	
生命倫理の問題に関する知識を身につける。	○	○				○			

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.ガイダンス	要しない
２.ユダヤ教の人間観	チェックテスト①を見直す
３.キリスト教の人間観①　原罪とは？	チェックテスト②を見直す
４.キリスト教の人間観②　キリスト教史	チェックテスト③を見直す
５.イスラームの人間観①　六信より	チェックテスト④を見直す
６.イスラームの人間観②　五行より	チェックテスト⑤を見直す
７.インドの諸宗教における人間観	チェックテスト⑥を見直す
８.仏教の人間観①　四諦より	チェックテスト⑦を見直す
９.仏教の人間観②　日本仏教より	チェックテスト⑧を見直す
10.近代哲学における人間観―合理論と経験論	チェックテスト⑨を見直す
11.心理学における人間観　精神分析学より	チェックテスト⑩を見直す
12.臓器移植と脳死について	チェックテスト⑪を見直す
13.優生思想について	チェックテスト⑫を見直す
14.人工妊娠中絶について	チェックテスト⑬を見直す
15.総括	チェックテスト①～⑬を見直す
16.試験	要しない

履修上の注意

公欠を除いて、６回以上欠席した場合は受験資格を失う。

成績評価方法・基準

毎授業時のチェックテスト（５０％）チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。
学期末の試験（５０％）

教科書　使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書　無し

備　考

質問等については、授業終了時に受け付ける。

授業科目名	心理学Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	植松　公威	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健１年

授業概要

心理学では経験的事実の観察や実験によって仮説の検証を行い，心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学が目指している目標や研究の特色，とりわけ条件操作的な仮説検証プロセスの意義について，実際の研究事例を紹介しながら解説する。後半では現代の心理学の背景として，行動主義心理学や社会的学習理論，精神分析学などを取り上げ，それぞれの理論を説明する。また，記憶の実験を体験することを通して記憶のメカニズムについて考える。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 条件操作的な実験による仮説検証プロセスがこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようになる。	○	○							
2 行動主義心理学，社会的学習理論，精神分析学の各理論の人物名とキーワードを理解する。	○	○							
3 記憶のメカニズムについて感覚的記憶，短期記憶，長期記憶の関係を理解し，説明できるようになる。	○	○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス（教授内容と教育目標）	シラバスを熟読すること。
2．条件操作的な実験の重要性について－「利口な馬ハンス」の話など－	資料を熟読し，要点をまとめること。
3．心理学の目標と研究のプロセス	資料やノートを復習し，要点をまとめること。
4．説得における「一面（片面）提示」と「二面（両面）提示」の効果－	実験の結果を理解し，考察ついてまとめること。
5.認知的不協和理論について	実験の結果を理解し，考察ついてまとめること。
6．現代の心理学の背景① 行動主義心理学（ワトソンの理論）	資料とノートを復習し，要点をまとめること。
7．現代の心理学の背景② 行動主義心理学（スキナーの理論）	資料とノートを復習し，要点をまとめること。
8．現代の心理学の背景③ 社会的学習理論（バンデュラの理論）	資料とノートを復習し，要点をまとめること。
9．現代の心理学の背景④ 精神分析（フロイトの理論）	資料とノートを復習し，要点をまとめること。
10. 精神分析における自我防衛のメカニズム	資料を熟読し，専門用語を理解すること。
11. 自我防衛のメカニズムに関する練習問題と解説	資料を熟読し，練習問題に取り組むこと。
12. まとめの小テスト	あらかじめ復習してテストに臨むこと。
13. 記憶の実験　－系列位置曲線と系列位置効果－	実験結果の考察を考え，レポートすること。
14. 記憶のしくみ　－感覚的記憶・短期記憶・長期記憶－	ノートを見直し，専門用語を理解すること。
15. エビングハウスの忘却曲線について	資料とノートを見直し，感想をまとまること。
16. 試験	試験対策の学習をすること。

履修上の注意

毎回，ミニットペーパーに感想やわかったこと，わからなかったことなどを書いて提出すること。

成績評価方法・基準

レポート課題 20%，試験 80%
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。
各回の授業でのミニットペーパーについては，次回の授業内でフィードバックを行う予定である。
授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。

教科書　授業の中で資料（プリント）を配布する。

参考書　授業の中で適宜，紹介する。

備　考

質問等については，ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ，説明します。また，授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。

授業科目名	心理学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	植松　公威	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健１年

授業概要

「性格はどのようにして測定されるか」,「性格は変えることができるか」というテーマについて講義する。とりわけ，性格検査（心理テスト）の種類とそれぞれの長所・短所について実習をとりいれながら講義する。また，性格検査を使わずに他者の性格を推測するときに注意すべきことや陥りやすい誤った判断について解説する。性格を変えるための認知療法や交流分析といった心理療法についても実習形式で学べるようにする。講義を通して心理学には性格に関する唯一絶対の理論はなく，様々な理論や方法があることを学べるようにする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 質問紙法，作業検査法，投影法それぞれの長所と短所を理解する。	○	○							
2 認知療法の「7つのコラム法」が気分（感情）の改善に効果があるのはなぜか，説明できるようになる。	○	○							
3 交流分析における「エゴグラム」を作成し，その意味について理解し，自己の性格をどのように改善していけばよいか分析できるようになる。	○	○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス（教授内容と教育目標）	シラバスを熟読すること。
2．質問紙法の性格検査（YG 性格検査）の実施方法	資料とノートを復習し，実施方法を理解すること。
3．質問紙法の性格検査（YG 性格検査）の判定方法（尺度判定）	資料やノートを復習し，判定方法を理解すること。
4．質問紙法の性格検査（YG 性格検査）の判定方法（類型判定）と問題点	資料などを復習し，判定方法や要点を理解すること。
5．作業検査法（内田クレペリン精神検査）の特色と問題点	実施方法，判定方法，問題点を理解すること。
6．投影法の種類－ロールシャッハ・テストを中心に－	ロールシャッハ・テストの要点をまとめること。
7．集団式のロールシャッハ・テストの判定方法と問題点	資料を見直し，判定方法と問題点を理解すること。
8．他者の性格を推論するときに注意すべきこと－認知のゆがみなど－	資料とノートを復習し，専門用語を理解する。
9．性格は変わるかという問題について考える	資料をよく読み，要点をレポートすること。
10. 認知療法の基本的な考え方（人間観）	資料とノートを復習し，要点をまとめること。
11. 認知療法の 7 つのコラム法の作成方法について	資料を復習し，実際にコラムを作成すること。
12. 交流分析における基本的な考え方（人間観）－5つの自我状態－	資料とノートを見直し，要点を理解すること。
13. 交流分析におけるエゴグラムの作成	資料やノートを見直し，実際に作成すること。
14. 交流分析における基本的な考え方（人間観）－ストロークとは－	資料やノートを見直し，要点をまとめること。
15. 交流分析における基本的な考え方（人間観）－幼児決断とは－	ノートを見直し，考え方を理解すること。
16. 試験	試験対策の学習をすること。

履修上の注意

毎回，ミニットペーパーに感想やわかったこと，わからなかったことなどを書いて提出すること。

成績評価方法・基準

レポート課題 20%，試験 80%。
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。
各回の授業でのミニットペーパーについては，次回の授業内でフィードバックを行う予定である。

教科書　授業の中で資料（プリント）を配布する。

参考書　授業の中で適宜，紹介する。

備　考

質問等については，ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ，説明します。また，授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。

授業科目名	美術			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	北折　整	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服１年

授業概要

美術が生活文化の重要な構成要素であることを自覚させ、日常目にするありふれたものや事柄、行為に対する美術的な視点を獲得させる。広範な美術作品(含む大衆美術)の作例を数多く紹介し、表現の基となっている考え方や感覚について平易に解説する。また、基礎的な美術表現の技術や方法論、表現に関わる問題点等を知ることを目標に簡単な演習を課す。さらにこれらの提出課題を全体に提示、講評し、身近な他者の表現を鑑賞することで、美術を通した自己理解及び新たな価値観の構築を促す。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・美術が生活文化の一つであることを理解できるようになる。		○							
・美術表現の基礎的な方法を理解できるようになる。	○								
・多様な価値観を受容する力を身に付ける。		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.授業の導入：科目の説明・授業の方針・成績評価の方法	アンケートの記入、次回課題についての調査
2.「扉」：出入口をテーマに扱った美術	「課題ノート：扉」の作成及び次回課題についての調査
3.「壁」：を意識した美術	「課題ノート：壁」の作成及び次回課題についての調査
4.「西瓜」：視覚化に関わる美術表現	「課題ノート：西瓜」の作成及び次回課題についての調査
5.「ジプシーの荷物」：　〃	「課題ノート：ジプシー」の作成及び次回課題についての調査
6.「詰め込む」：日常の作業感覚を取りいれた美術	「課題ノート：詰め込む」の作成及び次回課題についての調査
7.「蛇口から出るもの」：　〃	「課題ノート：蛇口～」の作成及び次回課題についての調査
8.「つなぐ」：　〃	「課題ノート：つなぐ」の作成及び次回課題についての調査
9.「夢の世界」：深層心理を顕在化した美術	「課題ノート：夢の世界」の作成及び次回課題についての調査
10.「ダヴィデ」：環境との関係によって創出される物の意味	「課題ノート：ダヴィデ」の作成及び次回課題についての調査
11.「動物を描く」：個人的キャラクターの創造	「課題ノート：動物～」の作成及び次回課題についての調査
12.「空」：空の表現に見る美術史	「課題ノート：空」の作成及び次回課題についての調査
13.「リレー式絵本」(1)：コラボレーション制作における誤解と可能性	「課題ノート：リレー式絵本」の継続作成
14.「リレー式絵本」(2)　〃	「課題ノート：リレー式絵本」の継続作成
15.授業の総括：全項目に係るまとめ	「課題ノート：まとめ」の作成

履修上の注意

・「課題ノート」には授業毎の「ふりかえり」及び次回授業に関する調査を記入し、適宜提出を求める。
・簡単な演習に対応する色鉛筆等の画材を各自準備する。

成績評価方法・基準

「課題ノート」(課題・授業内容への理解 80%)と授業態度(質疑応答、協調性 20%)／各課題については、授業中にフィードバックを行う。

教科書：特に指定しない。

参考書：特に指定しない。

備　考

・ルーブリック評価については第１回目の授業で説明する。
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

授業科目名	生活文化論	単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)

担当者	今林　直樹	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服１年

授業概要

生活文化について、言語、衣食住、芸能、祭礼に焦点をあて、主として文献資料を用いて具体的に理解させるとともに、歴史的背景や社会的背景を踏まえて学ばせる。具体的には、伝統的な生活文化が現代に生きる沖縄を対象として取り上げる。

また、課題（授業時提出）をとおして沖縄の生活文化についての考察や感想などを述べさせる。課題については、翌週の授業で解説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
沖縄の生活文化について理解できる。	○	○		○		○		○	
生活文化の歴史的、社会的背景について理解できる。	○	○		○		○		○	
今後の生活文化の課題について考察できるようになる。	○	○		○		○		○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.生活文化とは何か・沖縄概説	生活文化と沖縄を調べる
2.沖縄の言葉(1)　生活言語としての「うちなあぐち」	沖縄の言葉の概要を整理する
3.沖縄の言葉(2)　「うちなあぐち」は言語か方言か	沖縄の言葉の社会的意味を整理する
4.沖縄の言葉(3)　「うちなあぐち」の保存と継承	沖縄の言葉の現在と将来を整理する
5.沖縄の「衣」(1)　紅型	紅型について調べる
6.沖縄の「衣」(2)　ミンサー織	ミンサー織について調べる
7.沖縄の「食」(1)　沖縄そば	沖縄そばについて調べる
8.沖縄の「食」(2)　チャンプルー	チャンプルーについて調べる
9.沖縄の「住」(1)　赤瓦の家	沖縄の住景観について調べる
10.沖縄の「住」(2)　風水	沖縄の住思想について調べる
11.沖縄の芸能(1)　古典芸能	琉球古典芸能について調べる
12.沖縄の芸能(2)　八重山芸能	八重山芸能について調べる
13.沖縄の祭(1)　信仰との関係―御嶽・ニライカナイ―	沖縄の信仰について調べる
14.沖縄の祭(2)　豊年祭	沖縄の豊年祭について調べる
15.沖縄の祭(3)　種取祭	沖縄の種取祭について調べる
16.期末試験	

履修上の注意

必要のない私語は慎むこと。

成績評価方法・基準

期末考査 80%、課題（授業時提出）20%によって評価する。

教科書　授業前に資料を配布する

参考書　[沖縄の歴史・政治・社会][今林直樹][大学教育出版][2200 円]

備　考

質問等については授業終了後に受け付ける。

授業科目名	英語Ⅰ	単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)

担当者	佐藤　恵	必・選	必（服・健）	形態	講義	学期	前期	対象	服・健１年

授業概要

世界の食文化を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を解説しながら、英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。各テーマをテキストに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、英文読解と英作文の技能を身に着けさせる。簡易な英文であれば理解することができ、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。英語Ⅰでは Chapter 1　All About Tea を取り上げる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。	○	○							
世界の食文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス	前期の学習内容について確認する。
2．嗜好品について	嗜好品について理解し、覚える。
3．English Tea　① Cup & Saucer	茶器について読み、ノートをまとめる。
4．　〃　② Passion for Tea	お茶の伝播について読み、ノートをまとめる。
5．　〃　③ Milk & Sugar	ミルクと砂糖について読み、ノートをまとめる。
6．　〃　④ Exercises	課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。
7．China, the Cradle of Tea　① Tea Tree	お茶の木について読み、ノートをまとめる。
8．　〃　② The History of Tea	お茶の歴史について読み、ノートをまとめる。
9．　〃　③ Macha	抹茶について読み、ノートをまとめる。
10．　〃　④ Exercises	課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。
11．The Route of Coffee　① Coffee Cantata	珈琲カンタータについて読み、ノートをまとめる。
12．　〃　② Mocha	モカについて読み、ノートをまとめる。
13．　〃　③ Coffee House	コーヒーハウスについて読み、ノートをまとめる。
14．　〃　④ Exercises	課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。
15．まとめ	ノートや小テストを見て前期の学習内容を振り返る。
16．期末試験	総復習をして試験に臨む。

履修上の注意

テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。

成績評価方法・基準

平常点 40%（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。）学期末試験 60%
毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。

教科書〔*A Global Tour of Dietary Culture*〕〔大橋久利 他著〕〔成美堂〕〔1,700 円〕

参考書　なし

備　考

質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

授業科目名	英語Ⅱ	単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)

担当者	佐藤　恵	必・選	必（健） 選（服）	形態	講義	学期	後期	対象	服・健１年

授業概要

世界の食文化を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を解説しながら、英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。各テーマをテキストに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、英文読解と英作文の技能を身に着けさせる。簡易な英文であれば理解することができ、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。英語Ⅰでは Chapter 2　The Sphere of Culture Represented by Cutlery を取り上げる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。	○	○							
世界の食文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス	前期の学習内容について確認する。
2．カトラリーについて	カトラリーについて理解し、覚える。
3．The Culture of the Knife and Fork　① Fork	フォークについて読み、ノートをまとめる。
4．〃　② Aristocracy	階級とカトラリーについて読み、ノートをまとめる。
5．〃　③ Thumb Plate	親指について読み、ノートをまとめる。
6．〃　④ Exercises	課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。
7．The Culture of the Chopsticks　① China	中国の箸文化について読み、ノートをまとめる。
8．〃　② Japan	日本の箸文化について読み、ノートをまとめる。
9．〃　③ Korea	朝鮮の箸文化について読み、ノートをまとめる。
10．〃　④ Exercises	課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。
11．The Culture of the Eating with the Fingers　① Islam	イスラムの手食文化について読み、ノートをまとめる。
12．〃　② the right hand / the left Hand	右手と左手の用い方について読み、ノートをまとめる。
13．〃　③ Hindu	ヒンドゥーの手食文化について読み、ノートをまとめる。
14．〃　④ Exercises	課題を解き、間違えた問題についてよく復習する。
15．まとめ	ノートや小テストを見て前期の学習内容を振り返る。
16．期末試験	総復習をして試験に臨む。

履修上の注意

テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。

成績評価方法・基準

平常点 40%（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。）学期末試験 60%
毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。

教科書〔*A Global Tour of Dietary Culture*〕〔大橋久利 他著〕〔成美堂〕〔1,700 円〕

参考書　なし

備　考

質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

授業科目名	英会話Ⅰ	単位（総授業時間＋自習時間）	1(30+15)

担当者	上之原 博子	必・選	必（服、健）	形態	演習	学期	前期	対象	服・健１年

授業概要

中学、高校で学んだ英語を基礎にして、簡単な挨拶、自己紹介等ができるように繰り返し指導する。テキストを用い、やさしい英語の読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、英語でコミュニケーションがとれるようにする。グループワークとして、ロールプレイ、さらには実際に英語の会話文を作り、英語を楽しみながら学ぶことを目指す。また、授業を通して異文化を理解するよう指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
１．基礎的な会話で他者とのコミュニケーションがはかれる。	○			○					
２．自分自身に関する事柄について説明できる。						○			
３．グループ活動を通して、責任感、自己管理能力を身につける。						○	○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．ガイダンス。挨拶と自己紹介。	自分の好きな事を考えてくる。
２．簡単な質問と答え方学ぶ。	復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。
３． 家族について話す。数・日付を学ぶ。	復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。
４． 自分の持ち物について話す。時間・色を学ぶ。	復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。
５． 自分の好きなことについて話す。食べ物・飲み物を学ぶ。	復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。
６ 自分の生き方について話す。手紙の書き方を学ぶ。	復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。
７． １ー６の復習。	復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。
８． 自分が住んでいるところについて話す。部屋の中のものを学ぶ。	復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。
９． 毎日の決まったことを話す。頻度を表す語を学ぶ。	復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。
10. 趣味について話す。英字新聞を読んでみる。	復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。
11. スポーツについて話す。様々なスポーツ・衣服を学ぶ。	復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。
12. 食生活について話す。	復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。会話文を日本語で考える。
13.夏休みについて話す。	復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。会話文を英文にする。
14. ７ー１３の復習。	復習プリントを確認し提出する。課題文の暗記。会話文を完成させる。
15. これまで学んだことを使い、自分の事をより詳しく表現する。	復習プリントを確認し提出する。会話文を完成させる。

履修上の注意

授業には積極的に参加する事。授業ごとの復習プリントは、必ず次の授業で提出する事。課題文は暗記する事。

成績評価方法・基準

授業態度３０％(授業への参加態度で判断する)、毎回の課題提出４０％、学期末の試験（英語の会話文の発表）３０％で評価します。

教科書 Breakthrough Plus Intro Student Book +DSB Pack (digital book) Miles Craven , Macmillan Language House © 2,916 円

参考書：特になし。

備　考

質問等については、授業終了時に受付けます。

授業科目名	英会話 II				単位（総授業時間＋自習時間）				1 (30+15)
担当者	上之原　博子	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	服・健１年

授業概要

前期で身につけた英語力を使って、友人とコミュニケーションをとり、意見を交換したり本来の目的のために英語を使う。日本人特有の英語表現や、日本的な会話形式の代わりに、日常会話として、より自然な英語語彙やフレーズを教授する。さらに、外国人に簡単な英語で対応する基本的な表現や、日本文化の説明の仕方を習得することを目指す。また、英語の表現方法としてスピーチの練習を行う。トピックは自己紹介や趣味、自分の故郷等身近なことが中心である。授業は学生の進捗状況により進めていく。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1．他者とのコミュニケーション能力を身につける。	○			○				○	
2．様々な分野で活躍するために自分の意見をまとめて、話せるようにする。	○	○			○	○			

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.交通案内：様々な交通機関についての基本的な案内を学ぶ。 スピーチ：自己紹介	日本の交通機関を調べる。自分のことを考えてみる。
2.日本の旅館について。スピーチ：私の好きな事	旅館の特徴を考える。好きな事を考える。
3.観光地について学ぶ。スピーチ：私の好きな場所	自分の身近な観光地を調べる。好きな場所を考えてみる。
4.街歩きのための道案内。スピーチ：私の好きな物	お勧めの場所を考える。好きな物を考えてみる。
5.日本の年中行事を紹介する。スピーチ：私のふるさとの行事	紹介したい年中行事を調べる。ふるさとの行事を調べる。
6.日本食の紹介①代表的な日本料理　スピーチ：私の好きな日本食	代表的な日本料理を調べる。好きな日本食を考える。
7.日本食の紹介②気軽に楽しめる日本料理　スピーチ:私好きな郷土料理	気軽に楽しめる日本食を調べる。好きな郷土料理を考える。
8.国内旅行をアレンジする。スピーチ：即興にチャレンジ	国内旅行をアレンジしてみる。
9.英語で絵本を楽しむ。	興味のある絵本を調べる。
10.日本の伝統文化やポップカルチャーを紹介する。スピーチ:私の好きな日本文化	紹介したい行事やポップカルチャーを調べる。地元のイベン。
11.自分の日本文化体験を紹介する。スピーチ：私の日本文化体験	体験した日本文化について調べる。
12.日本のお土産を紹介する。スピーチ：日本の良いところ	日本のお土産を考える。日本の良いところを考える。
13.ケガや病気の対応について。スピーチ：即興にチャレンジ	
14.東京オリンピックでのボランティアについて。スピーチ:私とボランティア	ボランティア活動について考えてみる。
15.学期を振り返る。	

履修上の注意：積極的に授業に参加することを求める。

成績評価方法・基準

平常点３０％（授業への参加態度で判断する。）課題の提出　３０％　スピーチ４０％（内容だけではなく取り組む姿勢を重視する。）スピーチ原稿は回収し、後日添削して返却する。

教科書　配布するプリントを使用する。

参考書：特になし。

備　考

質問等については、授業終了時に受付けます。

授業科目名	仏語Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）		1(30+15)		
担当者	村山　茂	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	服・健１年

授業概要

発音の基礎から始め、簡単なあいさつや自己紹介はもちろん、初級文法に則った読み、書き、開き、話す能力が身につくよう指導する。さらにフランスにまつわる様々な情報を盛り込み、多方面からのフランス語理解に努める。外国語を学ぶということは、単に異国の言語や文化に触れるだけでなく、自国の言語と文化を見直し、自身の言語感覚と教養をみがくことになるのだということを理解してもらう。授業中の積極的挙手や練習問題の正答率はポイントとして成績に反映する。受講生全体のレベルに合わせて進行する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
初級フランス語入門レベルの文を理解し、表現できるようになる。	○	○				○		○	
フランスの文化に触れ、国際的視野が身につく。	○	○				○		○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.授業方針。アルファベ。	事後に復習が必要。
２.アルファベ復習。発音の規則１。	事後に復習が必要。
３.発音の規則２。	事後に復習が必要。
４.発音の規則小テスト。フランスについて。数字１。	事前に小テスト準備、事後に復習が必要。
５.数字２。簡単なあいさつの表現。	事後に復習が必要。
６.パリに着いた!(空港)1.解説と会話文。	事後に復習が必要。
７.パリに着いた!(空港)2.文法。	事後に復習が必要。
８.パリに着いた!(空港)3. 練習問題。	事前に予習、事後に復習が必要。
９.ホテルに着いた! (フロント)1,解説と会話文。	事後に復習が必要。
10.ホテルに着いた! (フロント)2.文法。	事後に復習が必要。
11.ホテルに着いた! (フロント)3.練習問題。	事前に予習、事後に復習が必要。
12.アロー、アロー(郵便、電話)1.解説と会話文。	事後に復習が必要。
13.アロー、アロー(郵便、電話)2.文法。	事後に復習が必要。
14. アロー、アロー(郵便、電話)3.練習問題。	事前に予習、事後に復習が必要。
15.まとめの講義	事後に最終試験のための準備が必要
16.試験	

履修上の注意

私語を慎み、積極的に授業に参加すること。辞書については初回、教室にて指示する。

成績評価方法・基準

最終回に行う確認のための筆記試験（70～80%）に 20～30%の平常点（積極性などのポイント）を加えて算出し、評価する。試験答案は、添削して後日返却する。

教科書〔はじめてのパリ－新・改訂版－〕〔大津、瀧川、藤井著〕〔朝日出版社〕〔2,400 円〕

参考書：特にないが、必要に応じてプリントを配布する。

備　考

質問等については、授業終了時または電子メールにて受け付ける。

授業科目名	仏語Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）		1(30+15)		
担当者	村山　茂	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	服・健１年

授業概要

初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。フランスにまつわる様々な情報を盛り込み、フランス映画などをも教材に取り入れて、多方面からのフランス語理解に努める。外国語を学ぶということは、単に異国の言語や文化に触れるだけでなく、自国の言語と文化を見直し、自身の言語感覚と教養をみがくことになるのだということも理解してもらう。授業中の積極的挙手や練習問題の正答率はポイントとして成績に反映する。仏語Ｉを引き継ぐ形で進めてゆく。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
仏語Ｉを引き継ぎ、初級フランス語の基礎を固め、より一層の理解と表現が可能になる	○	○				○		○	
引き続きフランスの文化に触れることで、国際的視野が広がる。	○	○				○		○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.テラスでお茶を(カフェ)1.解説と会話文。	事後に復習が必要。
２.テラスでお茶を(カフェ)2.文法。	事後に復習が必要。
３.テラスでお茶を(カフェ)3.練習問題。	事前に予習、事後に復習が必要。
４.メトロに乗ろう(地下鉄)1.解説と会話文。	事後に復習が必要。
５.メトロに乗ろう(地下鉄)2.文法。	事後に復習が必要。
６.メトロに乗ろう(地下鉄)3.練習問題。	事前に予習、事後に復習が必要。
７.名所を廻ろう(観光バス)1.解説と会話文。	事後に復習が必要。
８.名所を廻ろう(観光バス)2.文法。	事後に復習が必要。
９.名所を廻ろう(観光バス)3.練習問題。	事前に予習、事後に復習が必要。
10.DVD による学習	事後に疑問点を整理しておくこと。
11.水を買う（食料品店）1.解説と会話文。	事後に復習が必要。
12.水を買う（食料品店）2.文法。	事後に復習が必要。
13.水を買う（食料品店）3.練習問題。	事前に予習、事後に復習が必要。
14.まとめの講義 1。	事後に最終試験のための準備が必要。
15.まとめの講義 2。（補足を含む）	事後に最終試験のための準備が必要。
16.試験	

履修上の注意

初心を忘れず、根気良く継続すること。

成績評価方法・基準

最終回に行なう確認のための筆記試験（70～80%）に 20～30%の平常点（積極性などのポイント）を加えて算出し、評価する。試験答案は後日返却可能。

教科書〔はじめてのパリ－新・改訂版－〕〔大津、瀧川、藤井著〕〔朝日出版社〕〔2,400 円〕

参考書：特になし。

備　考

質問等については、授業終了時または電子メールにて受け付ける。

授業科目名	中国語			単位（総授業時間＋自習時間）			1(30＋15)		
担当者	清水　浩一郎	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	服・健１年

授業概要

この授業の目標は、中国語でコミュニケーションを取る際に必要とされる基礎的な事項を学修することにあります。中国語には日本語にない発音や発声の抑揚があります。まずは発音練習をおこない、これらを正しく身につけましょう。次に、例文の読解や受講者同士の会話練習をおこない、これを通じて自己紹介や挨拶、簡単な日常会話などの知識を習得しましょう。また、中国の文化や習慣、旅行で役立つ情報なども、随時紹介していきます。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
正確な中国語の発音を身につける	○								
中国語で簡単な会話ができるようになる	○								
中国の文化や習俗について学ぶ		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.ガイダンス：中国や中国語の基礎知識。	教科書を購入して目を通す。
２.第一課：声調と単母音の発音練習	事前：教科書に目を通す。 事後:ＣＤを聴きながら発声練習をする。
３.第一課：副母音の発音練習	同上
４.第二課：子音（声母）の発音練習	同上
５.第三・四課：要注意な発音と声調変化の練習	同上
６.発音のおさらい	同上
７.第五課：“是”（～です）を用いた文章。発音練習・例文読解・練習問題	同上
８.第六課：“お名前は？”①。発声練習・例文読解	同上
９.第六課：“お名前は？”②。発声練習・練習問題	同上
10. 第七課：“ご出身は？”。発声練習	同上
11. 第七課：指示代名詞“这”（これ）と“那”（それ・あれ）。発音練習	同上
12. 第七課：発音練習・例文読解・練習問題	同上
13. 第八課：“飲み物は？”。発声練習	同上
14. 第八課：“什么”（なに）と“哪个”（どの）。発声練習・例文読解・練習問題	同上
15.発声・文法のまとめ／発音のテスト	学習した部分を全体的に復習する。
16.文法のテスト	テストの準備をする。

履修上の注意

発音の練習が非常に大切です。そのため、発音練習ではしっかりと声を出してください。また、進行状況によっては、上記の予定通りに進まない場合があります。

成績評価方法・基準

平常点 30%（平常点は授業への参加状況や発音練習などから総合的に判断）　発音テスト 20%　文法テスト 50%

教科書〔日中いぶこみ交差点〕〔相原茂 等〕〔朝日出版社〕〔2,700 円〕

参考書 なし

備　考

質問等については、学習支援室で受け付けます。詳細についてはガイダンスで説明します。

授業科目名	日本語基礎					単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)
担当者	清水　浩一郎	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健１年

授業概要

本講では、実用的側面及び教養的側面から、日本語の基礎的知識について講義をおこなう。まず前半期（2～7 回目）は、日本語の基礎となる事柄と、論理的な文章を書くための方法論について学習する。次いで後半期（8～14 回目）において、どのようにして現代の日本語が成り立ったのか、或いは日本語とはどのような特徴を持つ言語なのか、歴史的経緯をふまえて講義をおこなう。以上を通じて最終的には、各受講者が基本的な日本語運用能力を身に付けると同時に、国語について自分なりの考え方を持てるようになることを目標とする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
学生あるいは社会人として要求される日本語運用能力を習得する。	○								
日本語の特徴について基礎的な知識を得る。	○	○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. ガイダンス：授業の概要と目的、宿題の作成方法	宿題 01 の作成（毎回 100～300 字程度の作文を課します）
2. 日本語の基礎①：文法と表記	宿題 02 の作成
3. 日本語の基礎②：文章作法（1）	宿題 01 の復習
4. 日本語の基礎③：文章作法（2）	宿題 03 の作成及び宿題 01･02 の復習
5. 日本語の基礎④：日本語読解の要点（1）	宿題 01･02･03 の復習
6. 日本語の基礎⑤：日本語読解の要点（2）	宿題 04 の作成
7. 日本語の基礎⑥：敬語・慣用句	宿題 04 の復習
8. 日本語の特徴①：漢字・ひらがな・カタカナのなりたちや役割	宿題 05 の作成及び宿題 04 の復習
9. 日本語の特徴②：鎌倉時代までの日本語とその特徴	宿題 04･05 の復習
10. 日本語の特徴③：室町時代までの日本語とその特徴	宿題 06 の作成及び宿題 04･05 の復習
11. 日本語の特徴④：江戸時代までの日本語とその特徴	宿題 04･05･06 の復習
12. 日本語の特徴⑤：過去から現代に至る日本語の連続性	宿題 07 の作成
13. 現代語の特徴①：日本語の現状と傾向についての分析と考察①	宿題 08 の作成及び宿題 07 の復習
14. 現代語の特徴②：日本語の現状と傾向についての分析と考察②	宿題 07･08 の復習
15. 講義のまとめ	宿題 01～08 の総合的な復習
16. 試験	

履修上の注意

①後期に開講される「国語表現法」も履修することが望ましいです。
②毎回授業のはじめに読解力強化のための小テストを課しますので、遅刻をしないようにしてください。

成績評価方法・基準

期末試験（40%）と平常点（15%：平常点は授業への参加状況や小テストなどから総合的に判断）、宿題（45%）によって評価します。宿題は講義終了後に回収し、次々回に添削して返却します。未提出の宿題がある場合・宿題の再提出に応じない場合には、評価の対象としないことがあります。

教科書　講義前に資料を配付します。

参考書　講義中に適宜紹介します。

備　考

①提出された宿題が水準に満たない場合は、再提出を求めます。
②講義内容に関する質問や宿題の追加添削は、学習支援室で受け付けます。詳細についてはガイダンスで説明します。
③国語に関する疑問がありましたら、随時お寄せください。次回の講義でコメント致します。

授業科目名	国語表現法				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	清水　浩一郎	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健１年

授業概要

履歴書の「志望動機」や「自己 PR」、エントリーシート（ES）で頻出する質問事項などを題材に、課題の作成と添削を通じて、「ひとつの文章で扱う話題はひとつ」・「大切なことは真っ先に書く」・「“設計図”を作成してから文章を書く」など、日本語で読み書きするための要点を身につけます。「読み」については、文章の大意を把握できるようになることを目標とします。「書き」については、作文と添削を繰り返しおこなうことで、単語と単語・文と文の繋がりや文章全体の構成を意識できるようになることを目標とします。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本語を「読み」・「書き」するための要点を身に付ける。	○								
日誌・履歴書等、社会で活躍するために必要な文書を書けるようにする。		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. ガイダンス：授業の概要と目的、課題の作成方法について説明します	課題作成の方法を復習する
2. 自己紹介をしてみましょう（課題 01）	課題 01 の作成
3. 「読み」・「書き」の要点について学習します	講義内容の復習・課題 01 の再提出
4. 実用文書作成①：履歴書の「志望動機」（課題 02）の書き方を学びます	課題 02 の作成及び課題 01 の再提出
5. 実用文書作成②：履歴書の「自己 PR」（課題 03）の書き方を学びます	課題 03 の作成及び課題 01･02 の再提出
6. 実用文書作成③：ES で頻出する質問への対応を学びます	課題 01 の復習及び課題 02 の再提出
7. 実用文書作成④：「あなたの長所と短所は？」（課題 04）	課題 04 の作成及び課題 02・03 の再提出
8. 実用文書作成⑤：「今までに力を入れて取り組んだことは？」（課題 05）	課題 05 の作成及び課題 02･03・04 の再提出
9. 日誌の書き方①：実習日誌の書き方を学びます	課題 05 の再提出及び課題 02･03･04 の復習
10. 日誌の書き方②：「実習記事」を作成します（課題 06）	課題 06 の作成及び課題 05 の再提出
11. 日誌の書き方③：「考察」や「反省点」を作成します（課題 07）	課題 07 の作成及び課題 05･06 の再提出
12. 日誌の書き方④：「実習全体のまとめ」を作成します（課題 08）	課題 08 の作成及び課題 06･07 の再提出
13. 文章の読み方①：文章の大意を把握する方法と要約文の書き方を学びます	課題 08 の再提出及び課題 06･07 の再提出
14. 文章の読み方②：要約文を作成します（課題 09）	課題 09 の作成及び課題 06･07･08 の再提出
15. まとめ	課題 09 の再提出及び課題 06･07･08 復習

履修上の注意

①前期に開講される「日本語基礎」の内容をふまえて授業をおこなうため、当該の講義を履修することが望ましいです。
②毎回講義のはじめに読解力強化のための小テストを課しますので、遅刻をしないようにしてください。

成績評価方法・基準

試験は実施しません。平常点（30%：授業への参加状況等を総合的に判断します）、小テスト（15%）と提出課題（55%）によって評価します。小テストは、次回の講義で返却・解説をおこないます。課題は毎回講義終了時に回収し、添削してフィードバックします。なお、未提出の課題がある場合・課題の再提出に応じない場合については、評価の対象としないことがあります。

教科書　講義前に資料を配付します。

参考書　講義中に適宜紹介します。

備　考

①提出された課題が水準に満たない場合は、再提出を求めます。

②　質問や課題に関する追加添削は、学習支援室で受け付けます。詳細についてはガイダンスで説明します。

授業科目名	情報基礎学					単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)
担当者	松尾　広	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健２年

授業概要

データの集計・加工、グラフ作成、写真の加工を行い、それらを組み合わせて体裁の整った文書を作成したり、プレゼンテーションしたりできることを目標に、文書作成、表計算、プレゼンテーション、情報検索、簡単な画像処理などのコンピュータリテラシーについて解説する。またデータを整理、蓄積、利用する方法として簡単なデータベースの作成やほかのアプリケーションとの連携方法、データ処理の方法を論理的に考えることを目的としたプログラミングについての演習を行うことで、情報処理技術の理解を深め、ステップアップを図る。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
Word、Excel、PowerPoint を使って体裁が整った文書を作成できる。	○								
簡単な画像処理ができる。	○								
情報を処理するアルゴリズムを理解し、プログラムで表現できる。	○								

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス	学習する内容を確認する。
2．Word による文書作成（ビジネス文書作成、表の作成）	学習内容を確認し、反復する。
3．Word による文書作成（図形の扱い）	学習内容を確認し、反復する。
4．Word による文書作成（セクション、ヘッダー・フッター、段組み）	学習内容を確認し、反復する。
5．Excel による表計算（計算式、関数）	学習内容を確認し、反復する。
6．Excel による表計算（統計データの加工、グラフの作成）	学習内容を確認し、反復する。
7．Excel による表計算（データベース、差し込み印刷）	学習内容を確認し、反復する。
8．PowerPoint によるプレゼンテーション（シンプルなスライドの作成）	学習内容を確認し、反復する。
9．PowerPoint によるプレゼンテーション（アニメーションの利用）	学習内容を確認し、反復する。
10. PowerPoint によるプレゼンテーション（練習問題）	学習内容を確認し、反復する。
11. 簡単な画像処理	学習内容を確認し、反復する。
12. 簡単な動画の作成	学習内容を確認し、反復する。
13. プログラミング（アニメーション、タートルグラフィックス）	学習内容を確認し、反復する。
14. プログラミング（シンプルなゲーム）	学習内容を確認し、反復する。
15. まとめの課題	学習内容を振り返る。

履修上の注意

プリントを保存しておくこと。

成績評価方法・基準

受講態度・毎回の授業で提出するファイル 40%、まとめの課題 60%
提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

教科書　事前にプリントを配布する。

参考書　なし

備　考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

授業科目名	スポーツ身体科学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)
担当者	土井　豊	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服１年

授業概要

本授業では、今後の健康的生活の設計及びその継続にとって重要な〔健康・体力の維持増進〕について、「健康の三要素（運動・栄養・休養）」を中心に解説する。特に、現代においてはむしろ若年層の人達に運動不足傾向が顕著であることに鑑み、現代人の多くが罹患する可能性のある各種疾病と運動不足との関連性、ならびに適切な運動実施・継続による健康改善効果等に関する学習を通して、今後の健康・体力づくりに向けての知識と態度及び実践力等を身につけられるよう教育する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
体力と健康に関する基礎的知識を身につける。	○								
運動と健康・体力との関連性に関する認識を深める。		○							
今後の健康・体力づくりへの意欲と実践力を身につける。								○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.「スポーツ身体科学」概説（ガイダンス）	今後の「自身の抱負」をまとめ次回提出
2.「健康とは何か」及び「健康観の変遷」等について	学習内容と感想等をまとめ次回提出
3.「現在の日本における健康の姿」について	同上
4.「ライフスタイル（生活習慣)の現状と課題」について	同上
5.「体力と健康」: 体力の分類及びその重要性について	同上
6.「運動と健康」: 運動不足と健康について	同上
7.「健康的痩身方法に関する理論と実際」	「誤った減量法」について次回提出
8.「身体組成」及び「自身の肥痩度」についての測定実習	測定結果と感想等をまとめ次回提出
9.「メタボリックシンドロームとその予防」について	学習内容と感想等をまとめ次回提出
10.「ロコモティブシンドロームとその予防」について	同上
11.「骨粗鬆症とその予防」について	同上
12.「運動処方の考え方」等について	同上
13.「健康増進における栄養・運動・休養の役割」について	同上
14.「救急処置 ABC」について	同上
15. まとめ及び総括	本授業に関する自己評価及び授業評価

履修上の注意

正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。

成績評価方法・基準

授業への出席状況ならびにほぼ毎回課すレポートの内容を基に総合的に評価する。その内訳については、出席状況（出席回数と授業態度）50%、レポート評価 50%とする。

教科書：使用しない。授業前に資料を配布する。

参考書：適宜紹介する。

備　考

・受講人数等の事情により（例えば受講者が 5 名以下など)、授業形態を講義方式からゼミナール（演習）方式に変更する場合があります。

・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー時（曜日日時は掲示で確認）に受付けます。

授業科目名	スポーツ				単位（総授業時間＋自習時間）		2(60＋30)		
担当者	土井　豊	必・選	選	形態	実技	学期	通年	対象	服・健１年

授業概要

年間を通して複数のスポーツ・運動を実施する。団体競技の場合には、受講者を戦力がほぼ均等になるよう偶数チームに班分けをし、リーグ戦等を行う。そして、勝利チームの各人には勝ち点を与え称賛する方式を採用して、団体競技の面白みとチームワークの大切さ等を学ばせる。また一方では、対戦結果（勝敗）に関わらず、各人の競技中における課題達成度または所属チームへの貢献度等に応じて加点する方法も取り入れ、各人に奮起を促す。また個人競技においては、個々人の基礎的運動能力の向上ならびにその運動・スポーツ特有の技術習得に向け努力することの大切さを学ばせる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
スポーツ・運動実践を通し、体力づくりの重要性に気づく。	○								
団体・個人競技を通し礼儀や協働の大切さ等を身につける。		○		○					
今後共にスポーツ・運動を実践していける人材に成長する。						○		○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．ガイダンス（個人票作成等）	今後の「自身の抱負」をまとめ次回提出
２．身体計測（体位・体格等診断）	今後の自身の目標等について次回提出
３．体力測定Ⅰ（運動能力テスト）	測定内容と結果等をまとめ次回提出
４～6. ソフトボール	ルール等の予習、及び技術の強化
7～9. ターゲットバードゴルフ	同　上
10～12. バレーボール&バスケットボール	同　上
13～14. バレーボール又はバスケットボール&フットサル	同　上
15. ラジオ体操（第一&第二）の練習	ラジオ体操の復習及び練習
16. ラジオ体操（第一&第二）の実技試験	試験後の自己評価をまとめ次回提出
17～19. ミニテニス	ルール等の予習、及び技術の強化
20～23. バドミントン	ルール等の予習、及び技術の強化
24～27. 筋肉トレーニングとサーキットトレーニング	トレーニング方法を復習かつ自己鍛錬
28. 身体計測（体位・体格等診断）	目標達成状況についてまとめ次回提出
29. スポーツ実技試験	試験後の自己評価等をまとめ次回提出
30. まとめ及び総評	本授業に関する自己評価及び授業評価

履修上の注意

・毎回、運動のできる服装（ウエアー）とシューズ等を完備した上で授業に臨むこと。
・正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。
・また、遅刻３回で欠席１回と見なすので注意すること。
・通算して欠席が７回以上の者は、評価の対象外とする。

成績評価方法・基準

個人の運動能力・技術は勿論のこと、授業に取り組む姿勢や随時課すレポートの内容等を基に総合的に評価する。その内訳は、出席状況 25%、授業加点 25%、レポート 25%、実技試験 25%とする。

教科書：なし

参考書：なし

備　考

・当日の天候等により、シラバス通りの運動ができないこともあります。
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受付けます。

授業科目名	武道				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)
担当者	佐藤　淳一	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	服・健１年

授業概要

現代武道の１つで世界 36 カ国に普及し世界統一組織である少林寺拳法を、講義と実技で教授します。単に身体が丈夫になるだけではなく、心と体を調和させながら、他人と競い合う強さではなく、自己と向きあい何事にも負けることのない本当の強さ（自己確立）を体得します。呼吸法や、座禅を行うことにより心身の調整法を学び、どのように相手が攻撃してきても、力の大小、性別に関わらず自分や大切な人を守ることのできる少林寺拳法の護身の技術と心を、少林寺拳法七段で全国指導員の担当教員が伝授します。

財団法人少林寺拳法連盟に全員所属して、前期で６級（緑帯）取得を目標に教授しす。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
少林寺拳法の基礎的技術を体得する	○	○				○			
自己確立について理解することができる	○	○				○			
他と協働しながら楽しく修練できる			○			○			

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.少林寺拳法について、ガイダンス、技術体験	シラバスを読む。鍛錬法修得
２.基本、講義、座禅、構え、運歩法、突き、蹴り基本	正中線鍛錬法実践
３.基本、講義、座禅　受身、各種構え、攻撃法、防御法	丹田鍛錬法実践
４,基本,　講義、座禅、各種受身、上受け、内受け	鍛錬法実践
５.基本,講義、座禅、上段、中段直突き、蹴り上げ	体幹鍛錬法　四股
６.基本,講義、座禅、柔法（小手抜き、守法）	体幹鍛錬法　四股
７.基本,講義、座禅、柔法（腕十字固め）	体幹鍛錬法　四股
８.基本、講義、座禅、柔法（寄り抜き）	体幹鍛錬法　振り子突き
９,基本,講義、座禅、剛法（流水蹴り）	体幹鍛錬法　振り子突き　中段
10.基本、講義、座禅、単独演武天地拳第一	体幹鍛錬法　振り子突き　下段
11 基本,座禅、単独演武竜王拳第一	体幹鍛錬法　蹴り
12,基本、座禅、剛法（内受け突き）	体幹鍛錬法　まわし蹴り
13,基本、座禅、剛法（下受け蹴り）	昇級レポート作成準備
14.基本、座禅、柔法（逆小手）	昇級レポート作成準備
15、６級昇級試験準備	昇級レポート作成、提出

履修上の注意

他の安全に留意し、授業時間内にできない部分を積極的に自習すること。教員が指導します。

成績評価方法・基準

実技評価 40%､授業態度(集中して修練しているか 20%､学んだことが礼儀等態度に現われているか 20%)
昇級レポート 20%（評価して返却します）

教科書　少林寺拳法級拳士副読本、科目表（財団法人少林寺拳法連盟）

参考書　**はじめ**よう少林寺拳法（ベースボールマガジン社）

備　考

１回目から修練します。運動のできる服装で来てください。修練前後の清掃は毎回おこないます。２回目から雑巾を持参してください。授業外での質問はオフィスアワーで受け付けます。

授業科目名	スタディスキルズ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(30+15)
担当者	大学教職員	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	服専１年

授業概要

本科目では、本学の教育内容、大学での学びの基本的な姿勢について教授する。主な授業内容は、以下の通りである。

④ 学内の施設を活用した学習方法について教授する。

⑤ 「学修ポートフォリオ」を用いて、各自の学習目標、学習への取り組みについて助言する。

大学での学習の土台となる「基礎学力」の定着を目指す。具体的には、入学前に取り組んだ“e-learning”を復習して理解度を確認し、さらなる理解の向上を目指した演習を行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
大学での学習方法を身につける。	○								
自宅で学習する習慣を身につける。	○								
大学生として必要な基礎学力を身につける。	○								

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス、ポートフォリオについて（栗山、川又）	学習目標を確認する。
2.大学で学ぶということ（学長）	復習し、大学で学ぶ意味を理解する。
3.大学での学び方について（学科長、栗山、川又）	復習し、授業内容を理解する。
4.図書館の活用①（村山）	復習し、授業内容を理解する。
5.基礎学力向上「国語」①（植松）	復習し、授業内容を理解する。
6.研究倫理について（栗山）	復習し、研究倫理について理解する。
7.情報処理教育センターの活用［OA 室］（松尾）	復習し、授業内容を理解する。
8.基礎学力向上「国語」②（植松）	復習し、授業内容を理解する。
9.基礎学力向上 e-learning①［OA 室］（川又）	e-learning の学習をしてくること。
10.図書館の活用②（村山）	復習し、授業内容を理解する。
11.基礎学力向上［OA 室］（川又）	復習し、授業内容を理解する。
12.基礎学力向上 e-learning②［OA 室］（川又）	e-learning の学習をしてくること。
13.基礎学力向上「倫理的思考を鍛える」①（水谷）	復習し、授業内容を理解する。
14.基礎を学力向上「課題発見・解決能力を身につける」②（水谷）	復習し、授業内容を理解する。
15.基礎学力向上 e-learning③［OA 室］（川又）	e-learning の学習をしてくること。

履修上の注意

・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。
・事情により、担当教員の変更、授業順序の変更が生じることがある。その場合は掲示板で連絡する。

成績評価方法・基準

授業の取り組みに対する意欲と姿勢（50%）、提出物（50%）により評価する。
提出物については、後日フィードバックを行う。

教科書　〔入学前課題学習記録ノート（e-learning の教材）〕〔入学前に配布済み〕

参考書　なし。授業の中で各担当の教員が指示する。

備　考

質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。

授業科目名	スタディスキルズ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(30+15)
担当者	大学教職員	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	健専１年

授業概要

本科目では、本学の教育内容、大学での学びの基本的な姿勢について教授する。主な授業内容は、以下の通りである。

① 学内の施設を活用した学習方法について教授する。

② 「学修ポートフォリオ」を用いて、各自の学習目標、学習への取り組みについて助言する。

③ 大学での学習の土台となる「基礎学力」の定着を目指す。具体的には、入学前に取り組んだ“e-learning”を復習して理解度を確認し、さらなる理解の向上を目指した演習を行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
大学での学習方法を身につける。	○								
自宅で学習する習慣を身につける。	○								
大学生として必要な基礎学力を身につける。	○								

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス、ポートフォリオについて（栗山）	学習目標を確認する。
2.大学で学ぶということ（学長）	復習し、大学で学ぶ意味を理解する。
3.大学での学び方について（学科長、栗山）	復習し、授業内容を理解する。
4.図書館の活用①（村山）	復習し、授業内容を理解する。
5.情報処理教育センターの活用［新 OA 室］（松尾）	復習し、授業内容を理解する。
6.研究倫理について（栗山）	復習し、研究倫理について理解する。
7.基礎学力向上（栗山）	復習し、授業内容を理解する。
8.基礎学力向上 e-learning①［新 OA 室］（栗山）	e-learning の学習をしてくること。
9.基礎学力向上「国語」①（植松）	復習し、授業内容を理解する。
10.基礎学力向上 e-learning②［新 OA 室］（栗山）	e-learning の学習をしてくること。
11.基礎学力向上「国語」②（植松）	復習し、授業内容を理解する。
12.図書館の活用②（村山）	復習し、授業内容を理解する。
13.基礎学力向上「倫理的思考を鍛える」①（水谷）	復習し、授業内容を理解する。
14.基礎学力向上「課題発表・解決能力を身につける」②（水谷）	復習し、授業内容を理解する。
15.基礎学力向上 e-learning③［新 OA 室］（栗山）	e-learning の学習をしてくること。

履修上の注意

・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。

・事情により、担当教員の変更、授業順序の変更が生じることがある。その場合は掲示板で連絡する。

成績評価方法・基準

授業の取り組みに対する意欲と姿勢（50%）、提出物（50%）により評価する。

提出物については、後日フィードバックを行う。

教科書　〔入学前課題学習記録ノート（e-learning の教材）〕〔入学前に配布済み〕

参考書　なし。授業の中で各担当の教員が指示する。

備　考

質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。

授業科目名	ライフデザイン	単位（総授業時間＋自習時間）	1(30＋15)

担当者	佐々木　晃	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	服・健１年

授業概要

自分の今後の将来設計を描くにあたって、確かな勤労観を持ち、有為な社会人として活躍できる基本的な資質・能力を身に付ける。本学の開学理念である「人間生活を科学し、より良い生活へ」の具現化・体現化を目指して、現在の大学生活を振り返り、今後の大学生活を充実させるための手立て、できたことをノートにまとめ、具体的なライフプランを実現させるための方法、それらをグループで学びあい、集団討議させることでより確かなライフデザインを描けるようにする。知力、実践力、提案力、コミュニーケーション力を兼ね備えた人間力を培う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ライフデザインを学修する上で必要な基礎知識を身に付ける	○	○				○		○	
学修した情報を整理・要約できる技術を身に付ける	○	○				○		○	
学修した知識・技能・態度を社会で総合的に活用できる。	○	○				○		○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.ガイダンス、ライフデザインを学ぶ意義の説明	より良い生活のために何が必要か考える
２.自分史作成　～自己を知る～	自らの埋もれた価値を見出す視点を学ぶ
３.自己分析・自己理解・自己管理	各種の分析を用いて人間性を科学する
４.学生生活のデザイン	生活を見直しより豊かな生活を見通す
５.時事問題理解力、思考力、表現力	情報を取捨選択して活用する能力を培う
６.社会人に求められるもの	社会で必要な行動・思考・協働を学ぶ
７.社会で働くための資質・能力	採用担当が重視する社会人基礎力を学ぶ
８.業界・企業研究	最新の経済動向を踏まえた学びを深める
９.課題発見能力・協調性・提案力	現状に満足せず次を考える学びを深める
10.ビジョン構築力	自分や組織の本来的使命を理解する
11.ライフステージとライフイベント	人生の節目にどんな役割があるかを学ぶ
12.ライフデザインとライフプラン	両者の概念の違いを予習し把握する
13.ライフデザインの作成	表現内容を簡潔にまとめる工夫を行う
14.ライフデザインの発表	内容を平易に伝えるための工夫を行う
15.キャリア開発に向けて	学修全体を振り返り今後に役立てる

履修上の注意

本学キャリア教育の１年次としての自覚を持ち受講すること。

成績評価方法・基準

平常点３０％（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）レポート７０％

（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）

・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。

教科書〔シンプルリスト〕〔ドミニック・ローホー〕〔講談社〕〔630 円〕

参考書　なし

備　考

・　ルーブリック評価については第１回目の授業で説明します。
・　質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

授業科目名	キャリア開発Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）	1(15+30)				
担当者	水谷　浩	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	服専２年

授業概要（目的）

私たちは，誰もが「消費者」である。そして「消費者が経済的に効率良く，地球環境にも配慮し，暮らしていくためには，合理的な意思決定を行うための智慧（消費者力）が不可欠となっている。

本講義では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第 46 期)』としての経歴を活かし「現代社会を生きていくために知っておくべきこと，暮らしに役立つこと」という視点から，一般財団法人日本消費者協会主催『消費者力検定』の試験対策を教授するとともに，賢い消費者としての実践力の修得をめざしている。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・全ての人に関わる知識として消費者力を認識，理解できる	○	○							
・消費者行政の役割や消費者トラブルについて理解できる	○	○							
・日常生活に役立つ消費者情報について説明できる	○	○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. オリエンテーション（消費者力検定の概要説明，衣生活） 衣服の機能・表示・管理，繊維と布地の種類などを学ぶ	教科書（ワークブック）と講義ノートの内容を読み直し，学習内容の振り返りを行う。また，事前配布の資料は，授業前に読んでおくこと。
2. 食生活 食品加工と保存，食品安全行政，食品の表示などを学ぶ	
3. 住生活 住生活基本法，住まいの取得・賃貸契約などを学ぶ	
4. 消費者契約と法律 民法，消費者契約法，特定商取引法などを学ぶ	
5. 契約と消費者トラブル 消費生活相談の実態や悪質商法などを学ぶ	
6. 環境 環境問題や環境に配慮した消費行動などを学ぶ	
7. サービス インターネット取引やそのトラブル事例などを学ぶ	
8. 検定試験 消費者力検定の実施	過去問題を何度も解くことで，試験対策を怠らないこと。
9. まとめ 消費者力検定の振り返り	解答解説を踏まえ，自己採点を行うこと。

履修上の注意

受講にあたり「消費者力検定（基礎コース)」の受験申し込み（自己負担:950 円）が必要となる。

2/3 以上の出席がない場合には，単位を取得することはできない。

成績評価方法・基準

平常点・授業への参加態度(50%)+検定試験の結果(50%)にもとづき評価する。

なお，課題については，次回の授業内にフィードバックをします。

教科書〔消費者力検定ワークブック〕〔(財)日本消費者協会〕〔(財)日本消費者協会〕〔756 円〕

参考書　授業中にプリントを配布する。

備　考

【事前もしくは同時に受講して欲しい講義】

「消費生活論」

【質問・相談など】

質問や相談などは，オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。

授業科目名	キャリア開発Ⅰ		単位（総授業時間＋自習時間）						1(30＋15)
担当者	鈴木　裕行	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	健専１年

授業概要

化学Ⅰ・Ⅱの授業で取り扱った内容に関連する基礎的な問題の演習を主とし、個々の学生の理解度に合わせて、解法を担当教員および学習支援員（学生）により個別に指導する。また授業で出題された練習問題についての解説を行う。さらに将来にむけて管理栄養士の業務の実際についての説明、および４年次に受験する予定の管理栄養士国家試験の概要と対策について、また学習している化学との関連についても解説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
化学の練習問題を解けるようにする。	○		○						
管理栄養士の業務の概要を理解する。	○		○						
管理栄養士国家試験の概要と､化学の学習との関連を理解する。	○		○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．物質の構成に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。…Ⓐ
２．周期表に関連する問題演習と解説	
３．原子・イオン・分子に関連する問題演習と解説	
４．化学式に関連する問題演習と解説	
５．物質量：原子量・分子量の計算に関連する問題演習と解説	
６．管理栄養士の仕事について、モルの計算に関連する問題演習と解説	Ⓐおよび管理栄養士の仕事についての説明をまとめレポートを作成する。
７．化学反応式に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。…Ⓐ
８．化学結合に関連する問題演習と解説	
９．酸・塩基、中和に関連する問題演習と解説	
10．水素イオン濃度とｐＨに関連する問題演習と解説	
11．管理栄養士国家試験について、酸化と還元に関連する問題演習と解説	Ⓐおよび管理栄養士国家試験についての説明をまとめレポートを作成する。
12．酸化数と酸化還元反応に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。…Ⓐ
13．気体の性質に関連する問題演習と解説	
14．溶液の性質に関連する問題演習と解説	
15．化学反応と熱に関連する問題演習と解説	

履修上の注意

特に教員・学習支援員に積極的に質問して不明な点を極力残さないような取り組みを求める。

成績評価方法・基準

平常点（試問・課題）・・・80%、レポート提出・・・20%

教科書　[ゼロからはじめる化学][立屋敷　哲][丸善(株)出版事業部][2,376 円]

参考書　無し

備　考

選択科目であるが、化学の学力向上を目指したもので、化学Ⅰ・Ⅱの授業と特に関連が深く、かつ管理栄養士関連の情報提供も行うので履修することが望ましい。提出物へのフィードバックとして、コメントを後日提示する。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

授業科目名	キャリア開発Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(15＋30)
担当者	水谷　浩	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専２年

授業概要

昨今，SNS(Social Networking Service)で発信力のある個人（インフルエンサー）の情報は，消費者の購買行動や企業のコミュニケーション戦略のなかで最も注目されている。それは，企業の採用基準・方法にも反映され「言語表現力（伝わりやすさ）」が重視されつつある。

本授業では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第 46 期）』としての経歴を活かし「自分を知る」という視点から「性格検査」や「適性検査」対策，履歴書作成に不可欠な言語表現力の指導を通じて，社会人基礎力のひとつ「考え抜く力」の修得をめざしている。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・「考え抜く力」の重要性を認識，実践できる	○	○							
・将来のキャリア形成に必要な言語表現力を理解できる	○	○							
・自分のことを知り，それを読み手に分かりやすく説明できる	○	○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.オリエンテーション（自分を知るとは?） ①性格検査，②適性検査，③エントリーシートの概要を学ぶ	授業計画や事前配布資料などを参考にして予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
2.「性格・適性検査を通じて，何が分かるのか？」 行動特性や意欲を知るための質問と対策	
3.性格・適性検査を通じて，何を知りたいのか？」 情緒やライフスケール（嘘を見ぬく）ための質問と対策	
4.履歴書（エントリーシート）の記入心得 「自分のことを読み手に分かりやすく伝える方法」を学ぶ	
5.語彙力とは？ 「どれだけ言葉・単語を知っているか？」について学ぶ	
6.正しい言葉づかい，間違った言葉づかい 「正しい敬語，丁寧な言葉づかい」について学ぶ	
7.間違えやすい漢字 「誤字・脱字は，書類審査の減点対象」について学ぶ	
8.分かりやすい説明とは？ ①　概要から詳細，②重要性の順位づけ，③時系列を学ぶ	
9.まとめ 面接準備シートの作成	読み手に伝わりやすい文章を心がける。

履修上の注意

2/3 以上の出席がない場合には，単位を取得することはできない。

成績評価方法・基準

平常点・授業への参加態度(50%)+課題の提出状況(25%)+面接準備シート(25%)にもとづき評価する。
なお，課題については，次回の授業内にフィードバックします。

教科書　授業中に適宜配布する。

参考書　必要に応じて紹介する。

備　考

【事前もしくは同時に受講して欲しい講義】
「キャリアサポートⅠ」

【質問・相談など】
質問や相談などは，オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。

授業科目名	キャリア開発Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）		1(30+15)			
担当者	川俣　幸一	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	健専２年

授業概要

2017 年 1 月よりセルフメディケーション税制が開始され、今後は症状の軽い病気（生活習慣病を含む）は病院ではなく市販薬対応として世の中がシフトしていくと考えられている。また 2018 年 11 月の内閣府の経済財政諮問会議で薬剤師と管理栄養士の融合が話題となる中で、これからは薬局に勤務できるような薬に詳しい管理栄養士のニーズが高まるものと想定される。

登録販売者とは薬の知識を生かし薬局などで医薬品の販売を行うことのできる国家資格である。この授業では薬に詳しい管理栄養士を目指すため、8 月下旬に実施される登録販売者試験の合格を目標とした試験対策講座を行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
基本的な OTC 医薬品の作用機序について理解できる			○		○				
薬局栄養士についての職務内容・将来性が理解できる	○								

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．概要／人体の構造と働き・薬の働く仕組み	事前学習としてテキストの目次を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
2.医薬品の基本的な知識・副作用	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
3．薬の作用を知るための重要なポイント① （アドレナリン様作用、抗コリン作用など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
4．薬の作用を知るための重要なポイント② （抗ヒスタミン作用、プロスタグランジンの作用など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
5．OTC 医薬品① （風邪薬、アレルギー薬、催眠鎮静薬など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
6．OTC 医薬品② （鎮暈薬、痔疾用薬など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
7．OTC 医薬品③ （胃腸薬・滋養強壮保健薬など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
8．OTC 医薬品④ （皮膚薬、毛髪薬など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
9．OTC 医薬品⑤ （目薬、歯痛薬など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
10. OTC 医薬品⑥ （一般用検査薬、公衆衛生用薬）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
11. OTC 医薬品⑦ （生薬成分と漢方処方）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
12. 薬事関係法規	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
13. 医薬品の販売制度	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
14. 医薬品の適正使用	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
15. 医薬品の安全対策	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。

履修上の注意

登録販売者試験の日程に合わせて日程や時間割を調整する事がある。

成績評価方法・基準

課題レポート・・・90%
受講態度（ルーブリックで評価）・・・10%
提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

教科書　7 日間でうかる！登録販売者テキスト［堀美智子著］［日本経済新聞出版社］［1,944 円］

参考書　なし（適宜プリントを配布する）

備　考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する

授業科目名	キャリア開発Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(15＋30)
担当者	内海　陽子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専３年

授業概要

本講義では、AFT 色彩検定２級の試験対策講座を行う。色彩は、被服をはじめとする日常生活のあらゆる分野に関連する。特に、ファッション業界やインテリア業界、グラフィック業界、企業のデザイン・宣伝部門など、幅広い分野で活用される「色」についての専門知識について取り上げることで、知識の深化を図り、色彩を活用するための実践力を養う。これらの専門知識を身につけながら、AFT 色彩能力検定２級を目指す。当講義では、大手アパレルメーカーで、年間３０億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
色彩についての基礎知識を身につける。	○								
色彩を活用し実践するための専門知識を身につける。		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．生活と色、光と色	教科書を熟読し、練習問題を学習する。
２．色の表示	教科書を熟読し、練習問題を学習する。
３．色彩調和、配色イメージ	教科書を熟読し、練習問題を学習する。
４．ｳﾞｨｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝと色彩、ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝと色彩	教科書を熟読し、練習問題を学習する。
５．ファッションと配色	教科書を熟読し、練習問題を学習する。
６．インテリアデザインと色彩	教科書を熟読し、練習問題を学習する。
７．エクステリアデザインと色彩	教科書を熟読し、練習問題を学習する。
８.AFT 色彩検定の試験対策	教科書を熟読し、練習問題を学習する。

履修上の注意

AFT 色彩検定３級の内容を十分に復習して授業に臨むこと。事前に教科書を熟読し、配布する練習問題を十分に学習してくること。AFT 色彩検定２級を受験すること。

成績評価方法・基準

課題レポート（50%）、事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価。

教科書〔AFT 色彩検定 公式テキスト ２級編〕〔AFT 対策テキスト編集委員会〕〔A・F・T 企画〕〔¥3,240-〕

参考書 使用せず

備　考

質問等については、授業終了後受け付ける。

授業科目名	キャリア開発Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)
担当者	健康栄養学専攻教員	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	健専３年

管理栄養士として働くためには、栄養士免許の取得と管理栄養士国家試験に合格することが必要条件である。特に、管理栄養士国家試験に合格するためには、出題内容を把握した上での継続的な学習が不可欠である。本科目は、管理栄養士国家試験の受験対策として、以下の内容を扱う。

① 管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。
② 出題分野（科目）ごとに出題範囲、頻出事項について解説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
国家試験受験に必要な知識を身につける。	○	○	○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス（鈴木、栗山、深澤）、基礎栄養学（鈴木）①	予習・復習を行い、知識を整理する。
2．基礎栄養学（鈴木）②	不得意箇所の克服に努める。
3．基礎栄養学（鈴木）③	学習した内容全体を復習する。
4．応用栄養学（川俣）①	予習・復習を行い、知識を整理する。
5．応用栄養学（川俣）②	不得意箇所の克服に努める。
6．応用栄養学（川俣）③	学習した内容全体を復習する。
7．食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）①	予習・復習を行い、知識を整理する。
8．食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）②	不得意箇所の克服に努める。
9．食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）③	学習した内容全体を復習する。
10. 食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）④	予習・復習を行い、知識を整理する。
11. 食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）⑤	不得意箇所の克服に努める。
12. 食べ物と健康（佐藤（靖）、深澤、八巻）⑥	学習した内容全体を復習する。
13. 給食経営管理論（半澤）①	予習・復習を行い、知識を整理する。
14. 給食経営管理論（半澤）②	不得意箇所の克服に努める。
15. 給食経営管理論（半澤）③	学習した内容全体を復習する。
16.ミニテスト（栗山）	学習した内容全体を復習する。

履修上の注意

・管理栄養士国家試験受験を希望する者は履修すること。
・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席や遅刻がないように注意すること。

成績評価方法・基準

・平常点 80%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する）、
ミニテスト 20%の結果で評価する。
・提出物やミニテストは、後日フィードバックを行う。

教科書　〔管理栄養士国家試験　問題集〕〔大学作成〕
〔クエスチョンバンク 2020〕〔メディックメディア〕（7 月発売予定）

参考書　各授業で使用した教科書など（各担当の教員が指示する）。

備　考

質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。

授業科目名	キャリア開発Ⅳ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(15+30)
担当者	水谷　浩	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	服専３年

授業概要（目的）

昨今，H&M や GAP，ZOZOTOWN などの新興勢力の台頭によって，ファッション・ビジネスは新たな局面を迎えている。とりわけ，SNS(Social Networking Service)の普及は，ファッションの可能性を多彩に広げ，仕事も大きく変容しつつある。

本授業では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第 46 期)』としての経歴を活かし「将来，服飾関連分野で働く」という視点から，将来のキャリア形成に向けて，具体的な目標設定（商品の企画立案・接客・販売員，家庭科教員など）を指導することを通じて，社会人基礎力のひとつ「前に踏み出す力」の修得をめざしている。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・「前に踏み出す力」の重要性を認識，実践できる		○				○			
・多様な人々と協力し，働くために必要な能力を理解できる		○				○			
・将来のキャリア形成にむけて，具体的な目標を説明できる		○				○			○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.オリエンテーション（授業の進め方・評価，SPI 試験とは?) ①言語能力，②非言語能力，③性格の傾向と対策を学ぶ	授業計画や事前配布資料などを参考にして予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。 また，過去問題を何度も解くことで，SPI 試験対策（予習・復習）を怠らないこと。
2.業界研究 ファッション関連分野の現状と新たな可能性を学ぶ	
3.企業・職種研究 世界的に代表的な企業や仕事の内容などを学ぶ	
4.履歴書（エントリーシート）作成 「自分を知る。相手を知る」を学ぶ	
5.コミュニケーション力（対面） 「挨拶と人間関係（言葉づかい)」を学ぶ	
6.コミュニケーション力（電子メール・手紙） 「マナーと留意点」を学ぶ	
7.面接 「個人面接・グループ面接・グループワーク」を学ぶ	
8.SPI 試験対策 SPI 模擬試験の実施	
9.まとめ SPI 模擬試験の振り返り	解答解説を踏まえ，自己採点を行うこと。

履修上の注意

2/3 以上の出席がない場合には，単位を取得することはできない。

成績評価方法・基準

平常点・授業への参加態度(50%)+課題の提出状況(25%)+SPI 模擬試験の結果(25%)にもとづき評価する。
なお，課題については，次回の授業内にフィードバックします。

教科書　授業中に適宜配布する。

参考書　必要に応じて紹介する。

備　考

【事前もしくは同時に受講して欲しい講義】
「キャリアサポートⅠ」
【質問・相談など】
質問や相談などは，オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。

授業科目名	キャリア開発Ⅳ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)
担当者	健康栄養学専攻全教員	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	健専４年

授業概要

本科目は、4 年次の管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。

① 管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。
② 応用問題のように、出題分野（科目）を横断する内容の問題について、特徴や要点を説明する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
国家試験受験に必要な知識を身につける。	○	○	○					○	

授業計画の内容（全教員：鈴木、土井、佐藤、曽根、栗山、川俣、福岡、半澤、深澤、八巻）	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス（鈴木、栗山、川俣、福岡）	学習目標を確認する。
2.模擬試験①（栗山、川俣）	知識の修得状況を把握する。
3.問題解説（全教員、外部講師）①	予習・復習を行い、知識を整理する。
4.問題解説（全教員、外部講師）②	予習・復習を行い、知識を整理する。
5.問題解説（全教員、外部講師）③	不得意箇所の克服に努める。
6.問題解説（全教員、外部講師）④	不得意箇所の克服に努める。
7.模擬試験②（栗山、川俣）	知識の修得状況を把握する。
8.問題解決（全教員、外部講師）⑤	予習・復習を行い、知識を整理する。
9.問題解説（全教員、外部講師）⑥	予習・復習を行い、知識を整理する。
10.問題解説（全教員、外部講師）⑦	不得意箇所の克服に努める。
11.問題解説（全教員、外部講師）⑧	知識の修得状況を把握する。
12.模擬試験③（栗山、川俣）	知識の修得状況を把握する。
13.問題解説（全教員、外部講師）⑨	予習・復習を行い、知識を整理する。
14.問題解説（全教員、外部講師）⑩	予習・復習を行い、知識を整理する。
15.問題解説（全教員、外部講師）⑪	不得意箇所の克服に努める。

履修上の注意

・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。
・模擬試験の開催日時、問題解説の内容については、掲示で連絡する。

成績評価方法・基準

・平常点 80%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する）、模擬試験の結果 20%で評価する。
・提出物や模擬試験は、後日フィードバックを行う。

教科書　〔管理栄養士国家試験　問題集〕〔大学作成〕
〔クエスチョンバンク 2019〕〔メディックメディア〕※3 年次に購入済み

参考書　各授業で使用した教科書など（各担当の教員が指示する）。

備　考
質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。

授業科目名	キャリアサポートⅠ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(30+15)
担当者	佐藤淳一他教職員	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服・健３年

授業概要

ＡＩや情報ネットワークの急速な発展等により、産業構造及び雇用環境が大きく変化していることと、これからの時代に求められているのは文理融合型人材であることを教える。その上で、就職活動に必要な自己分析・仕事研究・企業分析・ＳＰＩ・小論文・エントリーシート・面接等と、卒業後、社会人として必要な自ら主体的に考え行動する力・情報スキル・ビジネスマナー・プレゼンテーション・時事問題等の基礎知識及びスキルの修得を目指していく。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
① 広い視野で進路を考え、選択・決定する習慣を身に付ける						○			
② 現代社会に活用できる基礎知識とスキルを身に付ける	○								
③ 就職試験に合格する実力を見に付ける	○								

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.就活準備.ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟｾﾐﾅｰ（授業ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ・就活の進め方）	授業の目的と就活の進め方を理解すること
2.「これからの生き方・働き方を考える」セミナー	変化の時代のﾗｲﾌﾌﾟﾗﾝの参考にすること
3.雇用環境セミナー（これからの時代に求められる人材像）	自身の価値を高める様学修する意識を持つこと
4.職業理解セミナー（将来を見据えた職業選択のあり方）	将来を見据えたｷｬﾘｱﾌﾟﾗﾝを考える意識を持つこと
5.SPI 基礎セミナー（SPI 試験に必要な計算の基礎知識）	基礎計算の知識を繰返し復習すること
6.第１回 SPI 模擬試験	SPI 言語・非言語の問題形式を知ること
7.ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟｾﾐﾅｰ（映像で理解するｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ）	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ=採用選考の現状を理解すること
8.自己分析&仕事研究ｾﾐﾅｰ（性格検査を活用した自己理解と仕事理解）	自己分析と仕事分析の手法の理解と復習
9.情報スキルセミナー①（Google のビックデーター活用戦略）	あらゆる仕事にﾋﾞｯｸﾃﾞｰﾀ-の活用は不可欠である。将来社会で活用できるようﾋﾞｯｸﾃﾞｰﾀ-の基礎知識と、そこに潜む危険性を理解すること
10.情報スキルセミナー②（身近な情報セキュリティ対策）	
11.情報スキルセミナー③（スマホアプリ／スマホゲーム業界の裏側）	
12.SPI 対策基礎編①（割合・損益計算）注１	配布するテキストを繰返し復習し、SPI 非言語問題を短時間で正解に導く実力を身に付けること
13.SPI 対策基礎編②（速さ・組合せ・確率）注１	
14.SPI 対策応用編①（推論・グラフの領域）注１	
15.SPI 対策応用編②（数表・比率）注１	

履修上の注意

継続して復習を行い、十分に内容を理解し実践できるようにすること

また、夏期及び春期休暇期間中に実施する SPI 夏期集中セミナー、就活直前セミナー、東京就活バスツアー等の課外のイベントにも積極的に参加し、実力向上を図ること

成績評価方法・基準

ミニットペーパーで授業態度を評価（60%）、課題提出（30%）、SPI 及び ES フィードバックの理解度（10%）

教科書　授業の際に資料を配布する

参考書　①［10 年後、君に仕事はあるのか］［藤原和博］［ダイヤモンド社］［1,512 円］

②［会社四季報業界地図 2019 年版］［東洋経済新報社］［1,296 円］※平成 31 年 9 月上旬発売

備　考

注１：第１回 SPI 模試の結果次第で授業内容変更の可能性有

授業科目名	キャリアサポートⅠ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)
担当者	佐藤淳一他教職員	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服・健３年

授業概要

ＡＩや情報ネットワークの急速な発展等により、産業構造及び雇用環境が大きく変化していることと、これからの時代に求められているのは文理融合型人材であることを教える。その上で、就職活動に必要な自己分析・仕事研究・企業分析・ＳＰＩ・小論文・エントリーシート・面接等と、卒業後、社会人として必要な自ら主体的に考え行動する力・情報スキル・ビジネスマナー・プレゼンテーション・時事問題等の基礎知識及びスキルの修得を目指していく。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
④ 広い視野で進路を考え、選択・決定する習慣を身に付ける						○			
⑤ 現代社会に活用できる基礎知識とスキルを身に付ける	○								
⑥ 就職試験に合格する実力を見に付ける	○								

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
16.第２回 SPI 模擬試験	理解出来てない分野を確認し復習すること
17.ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾅｰｾﾐﾅｰ（社会人ﾏﾅｰを楽しく体験しながら学ぶ）	普段から学んだ内容を実践し身に付けること
18.プレゼンテーションセミナー（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝの基礎知識）	普段から学んだ内容を実践し身に付けること
19.SPI 模試振返り（頻出問題の確認）注２	頻出問題を確実に正解出来るようにすること
20.就活中間レビュー（自己分析の振返りと自己 PR の作成）	充分に自己理解出来るようになること
21.小論文対策セミナー①（時事問題と小論文） 22.小論文対策セミナー②（時事問題と小論文）	時事問題に対する自分自身の意見を持つ様心掛けることと、小論文の文章構成を理解すること
23.ＥＳ対策セミナー①（企業分析から始める ES の書き方） 24.ＥＳ対策セミナー②（企業分析から始める ES の書き方）	企業の求める人材像と自分の強みをマッチングさせ ES を完成出来るよう復習すること
25.面接対策セミナー①（面接の全体像と集団面接ワーク） 26.面接対策セミナー②（個人面接ワークと全体振り返り）	ロールプレイを通じ、面接の実践力を見に付けること
27.ワークルールセミナー（求人票の見方と労働法の基礎知識）	働く者の権利と義務を理解すること
28.人事採用担当者セミナー（採用担当者が見るポイント）	人事担当者が学生を見るﾎﾟｲﾝﾄを理解すること
29.振り返りセミナー（就活の流れの再確認）	就活全体の流れをよく確認すること
30.内定者報告会（内定に至るﾌﾟﾛｾｽの理解）	内定者の生の声を聞き、就活の参考にすること

履修上の注意

継続して復習を行い、十分に内容を理解し実践できるようにすること

また、夏期及び春期休暇期間中に実施する SPI 夏期集中セミナー、就活直前セミナー、東京就活バスツアー等の課外のイベントにも積極的に参加し、実力向上を図ること

成績評価方法・基準

ミニットペーパーで授業態度を評価（60%）、課題提出（30%）、SPI 及び ES フィードバックの理解度（10%）

教科書　授業の際に資料を配布する

参考書　①［10 年後、君に仕事はあるのか］［藤原和博］［ダイヤモンド社］［1,512 円］

④　［会社四季報業界地図 2019 年版］［東洋経済新報社］　［1,296 円］　※平成 31 年 9 月上旬発売

備　考

注２：第２回 SPI 模試の結果次第で授業内容変更の可能性有

授業科目名	キャリアサポートⅡ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)
担当者	佐藤淳一他教職員	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	服・健４年

授業概要

４月時点の就職環境及び企業の採用活動と他校の学生の就職活動の動向を説明し理解させていく。その上で、面接や筆記試験の頻出問題である時事問題に絡めた小論文対策セミナーとＥＳ復習セミナーの実施のほか、学内に求人先企業をお呼びして学内説明会並びに一次選考会の実施など学生の時間と手間を省いた実践的な内容で就職活動をサポートして行く。また、一人ひとりの学生の価値観を尊重した個別指導等、実際の就職活動で結果が得られるよう丁寧な指導を行っていく。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
① 現在の就職環境を正しく理解すること	○								
② ＥＳや小論文試験に対応する文章力を身に付けること					○				
③ 直接企業の話を聴き、企業を見る目を養うこと								○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.これかの就職活動（今年度の就活動向 ）	現在の就職環境を理解すること
２．小論文対策セミナー①（時事問題と小論文）	時事問題に対する自分自身の意見を持つ様心掛けることと、小論文の文章構成を理解すること
３．小論文対策セミナー②（時事問題と小論文）	
４．ＥＳ復習セミナー①（企業分析と自己分析の振返り）	企業の求める人材像と自分の強みをマッチングさせ ES を完成出来るよう復習すること
５．ＥＳ復習セミナー②(企業の求める人材像と自分の強みのマッチング)	
６．学内単独企業説明会（企業名後日発表）	直接企業の人事担当者から、会社の業績・将来性・仕事の内容・教育制度・キャリアプラン・給与・福利厚生制度・選考方法等の話を聴き、企業を見る目を養うこと
７． 〃	
８． 〃	
９． 〃	
10. 〃	
11. 〃	
12. 〃	
13. 〃	
14. 〃	
15. 〃	

履修上の注意

授業で学んだことを実際の就職活動で実践し、その結果をＰＤＣＡサイクルで検証して実力向上を図ること

成績評価方法・基準

ミニットペーパーで授業態度を評価（60%）、課題提出（30%）、小論文フィードバック（(10%）

教科書　授業の際に資料を配布する

参考書　なし

備　考

家 政 学 部 基 幹 科 目

2．家政学部基幹科目

授業科目名	家政学原論			単位（総授業時間＋自習時間）		2(30+60)
担当者	八巻　美智子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服・健１年

授業概要

「家政学とは何か」について学ぶ。近代以降家政学がどのように扱われてきたか、また現在、私たちが抱えている生活の問題点について概説する。家政学部で各自が所属する学科で専攻科目を学びながら人間生活と生活に関わる家政学の独自性に気づきその根本について説明する。さらに、実際に生活する上でいかに家政学が重要かを理解するとともに、各自が自立しよりよく生きるための力を身につけることの重要性を理解させる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・家政学の独自性に気づき、その根本について理解する事。	○	○	○			○			
・実際に生活する上でいかに家政学が重要かを理解する。	○	○	○			○		○	
・自立しよりよく生きるための力を身につける。		○	○			○		○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス	日頃から生活の諸問題に対し自分の意見を持ち行動する事。
2．家政学とは	家政学とは何か理解し学ぶ大切さを実感すること。
3．家政学をなぜ学ぶのか	家政学をなぜ学ぶのかを理解し、重要性に気が付くこと。
4．家政学の特質、対象	家政学の対象の広さを知り、身近な学問と理解する事。
5．本学の歴史について	家政学の歴史などについて自分なりに調べる。
6．我が国の家政学史(1) 学制以前～	家政学の歴史などについて自分なりに調べて発表する。
7．〃　　(2) 昭和時代～	家政学のなど歴史について自分なりに調べて発表する。
8．諸外国の家政学について（ヨーロッパ）	プリントを見ながら復習すること。
9．〃　　（アメリカ）	プリントを見ながら復習し憶える。
10. ここまでのまとめ	プリントを見ながら復習し憶える。
11. 生活上の諸問題（家庭、衣生活）	講義で学んだことを生かしレポートする題目を決める。
12.　〃　　（食生活）	レポート内容を決める。
13. 〃　　（住生活環境、消費生活）	レポート内容について調べる。
14. 〃　　（福祉、高齢化社会）	レポートをまとめる。
15. まとめ　今後の家政学	レポートしたことを発表する。

履修上の注意

出席を重視。私語は厳禁。

成績評価方法・基準

テスト 40%、レポート・発表 30%、授業態度(提出物やその内容、教員の指示に対応しているか)30%

テスト、レポート等については授業中にフィードバックをします。解答例を配布する場合もあります。

教科書：プリント配布

参考書：〔家政学原論〕〔朝倉書店〕〔3,132 円〕

備　考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

授業科目名	家族関係学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	八巻　美智子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服・健１年

授業概要

家族とは何か」について概説する。これまでの家族やその在り方、現在や今後の家族やその在り方について解説する。身近な存在である家族は特に成長過程において、大切な存在であることを理解させる。また、家族をめぐる諸問題やその背景にある社会の変化について、いろいろなデータも取り入れて講義する。そのデータを客観的に科学的に考察することで、さまざまな諸問題に対し自発的に解決できる能力を養うことの重要性を理解させる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
さまざまな家族について理解する事。	○	○				○		○	
家族を取り巻く諸問題について理解を深める事。	○	○				○		○	
変化する社会と家族について問題点を見つけ改善していく能力を身に付ける事。	○	○				○		○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス	家族について考える
2.家族とは.家族の種類と分類	家族の存在について考える
3.自分と家族	行事と家族について考える
4.家族の多様化（生活スタイル）	行事と家族について考える
5．小テスト　これまでのまとめ	小テストに向けて学修する
6．結婚と家族	家族について自分なりの考えをまとめる
7．家族関係と法律	家族関係と法律について理解を深める
8．新しい生命の誕生と家族	生命の誕生と家族のかかわりについて理解を深める
9．子どもの成長と家族	生命の誕生と家族のかかわりについて理解を深める
10. 様々な環境で育つ子ども	さまざまな環境下で育つ子供について理解する
11. 高齢社会における家族	小テストに向けて学修する
12. 小テスト　これまでのまとめ	レポート課題に取り組む
13. 家族のこれからの在り方	レポート課題に取り組む
14.家族のこれからの在り方	図表を見て客観的に理解する
15.まとめの講義	図表を見て客観的に理解する

履修上の注意

出席を重視。私語は厳禁。

成績評価方法・基準

授業参加状況（提出物、授業に積極的に参加しているかなど）20%、小テスト 50%、レポート課題 30%
テスト、レポート等については授業中にフィードバックをします。解答例を配布する場合もあります。

教科書　変化する社会と家族　建帛社　　定価 2000 円+税

参考書　講義時に指示する

備　考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。

授業科目名	家庭経営学（家庭経済学を含む。）	単位（総授業時間＋自習時間）	2(30＋60)

担当者	前田　修也	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服・健１年

授業概要

家庭生活を取り巻く環境は大きく変化している。社会のあらゆる面における国際化、少子・高齢化、情報化などである。本講義では、このような変化に対応した家庭経営のあり方を、「家計」という視点から解説する。その中で、現代の日本経済が直面している諸問題を社会保障制度などの基礎知識を織り交ぜながら、国民経済の中の家庭経済の位置と役割や家庭経済の基礎である世帯の変化など家政学の基本的視点を講義する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
現代の日本経済が直面している諸問題を理解することができる	○	○							
社会保障制度などの基礎的知識を獲得することができる	○	○							
家政学の基本的視点を理解することができる	○	○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.ガイダンス：講義内容についての概要の説明	1回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
２.家庭経済とは何か①（家庭の経済活動）	2回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
３.家庭経済とは何か②（家庭経済の特質）	3回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
４.国民経済の中の家庭経済①（家庭経済と国民経済との関係）	4回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
５.国民経済の中の家庭経済②（国民経済における家庭経済の収支）	5回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
６.国民経済の中の家庭経済③（家庭経済の経済活動と国民経済）	6回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
７.家庭経済の基礎としての世帯①（世帯規模と世帯構造の変動）	7回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
８.家庭経済の基礎としての世帯②（核家族化）	８回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
９. 家庭経済の基礎としての世帯③（少子高齢化）	9回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
10.収支と支出①（世帯の所得）	10 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
11.収支と支出②（世帯の消費構造）	11 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
12.収支と支出③（消費支出に影響を与える要因）	12 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
13.物価①（物価とは何か）	13 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
14.物価②（消費者物価指数の見方）	14 回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
15.振り返り	振返りの授業内容に関してノートを中心にまとめておく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）

履修上の注意

私語を慎み、授業への積極的な参加を望みます。

成績評価方法・基準

おおむね、振り返り（40%）、ノートの内容（30%）とレポートの内容（30%）で評価します。それぞれフィードバックを行います。

教科書：開講時に提示します。

参考書：毎回授業で提示します

備　考：オフィスアワーに関しては、開講時に話します。

服飾文化専攻専攻科目

3．服飾文化専攻専攻科目

授業科目名	消費生活論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	水谷　浩	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服専２年

授業概要（目的）

私たちは，誰もが「消費者」である。さまざまな商品やサービスを購入し，それらを利用（消費）し，暮らしている。そうしたなか「経済的に効率良く，地球環境にも配慮し，暮らしていくためには，合理的な意思決定を行うための智慧（消費者力）が求められる。

本講義では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第 46 期)』としての経歴を活かし，消費者問題の歴史的変遷を解説するともに，消費者・行政・企業の事例研究を通じて「現代社会を生きていくために知っておくべきこと，暮らしに役立つこと（消費者力)」の修得をめざしている。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・現代社会を生きていくための智慧(消費者問題)を理解できる	○	○							
・全ての人に関わっている問題という認識をもち，説明できる					○	○			
・今後の消費者・行政・企業のあるべき姿について説明できる				○			○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. オリエンテーション（授業のすすめ方・評価，消費者力） 現代社会を生きていくための智慧とは？	授業計画やテキストなどを参考にして，予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
2. 消費者政策の歴史 消費者保護基本法から消費者基本法へ転換した理由は？	
3. 消費者政策の理念と歴史 消費者の４つの権利から 6 つの権利へ発展した理由は？	「消費者の４つの権利」と「消費者の 6 つの権利」について A4 用紙 2 枚（1,600 字以上）のレポートにまとめ提出。
4. 消費者行政と消費者関係法 消費者に役立つ様々な法律を学ぶ	
5. 消費生活の安全の確保 消費生活相談員の役割を学ぶ	
6. 広告・表示の適正化 景品表示法関連法令と事例について学ぶ	インターネット取引における広告・表示規制について調べ，A4 用紙 2 枚（1,600 字以上）のレポートにまとめ提出。
7. 消費者契約の適正化 消費者契約法と重要説明事項を学ぶ	
8. 企業と業界団体の責務 消費者・顧客志向の経営を学ぶ	東北地域の企業・業界団体の消費者対応を調べ，その概要をまとめるとともに，その取り組みに対する所感について A4 用紙 2 枚（1,600 字以上）のレポートを作成し，提出。ただし，取り上げる企業・業界団体は 3 社以上とする。
9. 消費者対応部門の役割と機能 企業の消費者対応を学ぶ	
10. 業界団体の消費者対応 通販 110 番や訪問販売 110 番などの事例について学ぶ	
11. 消費者教育 国民生活センターや日本消費者協会を事例について学ぶ	「現代社会を生きていくために知っておくべきこと，暮らしに役立つこと」の視点から，これまでの授業のなかで，最も印象に残ったことについて要約し，考察を加え，A4 用紙 2 枚（1,600 字以上）のレポートにまとめ提出。
12. 消費生活における情報の重要性 合理的な意思決定とは?	
13. 消費生活情報の現況 I 暮らしに役立つ情報を見極めるには?	
14. 消費生活情報の現況Ⅱ 賢い消費行動の実践に向けて	
15. まとめ（消費者力検定の紹介）	

履修上の注意

2/3 以上の出席がない場合には，単位を取得することはできない。

成績評価方法・基準

平常点・授業への参加態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)にもとづき評価する。
なお，課題については，授業中にフィードバックをします。

教科書〔消費生活論〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔1,600 円〕

参考書　授業中に適宜指示する。

備　考

質問などは，オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。

授業科目名	社会福祉論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	伊藤　常久	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専２年

授業の概要

国民が健康で自立した安心できる生活を送ることができるよう支援することは、社会福祉の目的の一つである。講義では、日本や諸外国における社会福祉の歴史と発展について取り上げながら、社会福祉の理念や考え方について紹介する。また、少子高齢化が一層進みつつある我が国の高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉の仕組み（法・制度）と現状と合わせ、現在生じているさまざまな課題等について、私たちの生活と関連付けて解説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
社会福祉の理念や概念について理解する。	○	○							
社会福祉に関連する法・制度を理解する。	○	○							
社会福祉の現状や課題について考える力を身につける。	○	○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
２．日本における社会福祉の歴史と発展	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
３．諸外国における社会福祉の歴史	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
４．諸外国における社会福祉の現状とその制度（VTR）	VTR の内容をまとめ、感想と共に次回提出
５．社会福祉のニーズとは	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
６．社会福祉に携わる専門職	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
７．ボランティア	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
８．社会福祉援助技術	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
９．障害者福祉①概念とその歴史	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
10. 障害者福祉②身体障害者補助犬法	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
11. 高齢者福祉	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
12. 児童福祉	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
13. 子どもの権利条約	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
14. 貧困問題と社会福祉	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
15. これからの社会福祉、まとめ、授業評価アンケート	配布プリントの復習
16. 試験	講義内容の振り返りと筆記試験に向けた復習

履修上の注意
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻３回で欠席１回とする。
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。

成績評価方法・基準
・期末試験（70%）、受講態度：主としてミニットペーパーの提出状況より判断する（30%）。
・各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

教科書　資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

参考書〔新版 社会福祉概論〕〔金子光一編著〕〔建帛社〕〔2,484 円〕

備　考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

授業科目名	地域文化論					単位（総授業時間＋自習時間）	2(30＋60)
担当者	栗原　伸一郎	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専１年

授業概要

本学が立地している仙台や東北といった地域に注目し、江戸時代から現代までの歴史・文化についてみていくことで、自分たちが立脚する地域の特徴や形成過程を確認する。具体的には、城下町・仙台および都市・仙台の成り立ちや、江戸時代の仙台人が認識した「日本」内外の政治・社会・文化の特徴、近世近代移行期の「東北」地方をめぐる地域内外の動き、などについて教授する。また、地域の歴史・文化を次代に継承していく方法や活動についてを教える。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
① 仙台や東北の歴史・文化について理解できる。							○		○
② 地域の歴史･文化を継承していく活動について理解できる。							○		○
③上記について関心を持ち、その意味を考える。							○		○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．ガイダンス～講義の概要～	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
２．仙台の歴史・文化①伊達政宗の生涯	配布プリントを再読し、書籍などで政宗について調べる。
３．仙台の歴史・文化②仙台城	配布プリントを再読し、仙台城址を見学する。
４．仙台の歴史・文化③城下町・仙台	配布プリントを再読し、旧仙台城下（市内中心部）を散策する。
５．仙台の歴史・文化④杜の都・仙台	配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍に目を通す。
６．仙台藩士の異文化体験①蝦夷地	配布プリントを再読し、蝦夷地について書籍などで調べる。
７．仙台藩士の異文化体験②アメリカ	配布プリントを再読し、幕末期の対外関係について書籍などで調べる。
８．仙台藩士の異文化体験③アメリカと日本	配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍に目を通す。
９．可変的な地域①幕末維新期の東北	配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍に目を通す。
10. 可変的な地域②近代の東北・仙台	配布プリントを再読し、本学が立地する行政区域の変遷を調べる。
11. 地域の歴史・文化を伝える①歴史・文化を伝えるもの	配布プリントを再読し、自分の出身地にある「歴史資料」「文化財」について調べてみる。
12. 地域の歴史・文化を伝える②ＮＰＯと資料保存	配布プリントを再読し、現在住んでいる地域にある「歴史資料」「文化財」について調べてみる。
13. 地域の歴史・文化を伝える③災害と資料保存	配布プリントを再読し、インターネットなどで、災害と資料保存をめぐる現状を調べる。
14. 地域の歴史・文化を伝える④公文書と資料保存	配布プリントを再読し、宮城県公文書館に出向き、実物を読んでみる。
15. 補論と総括～地域の歴史・文化を考える～	初回からの配布プリントを再読し、仙台・東北の歴史・文化について、他地域や現在との相違について考えてみる。
16. 試験	試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。

履修上の注意

歴史Ⅰと歴史Ⅱは、この講義と関連し、理解する上で参考になる。講義の進展状況等によっては、内容を一部変更する場合がある。

成績評価方法・基準

平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）30%
期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）70%
ミニットペーパーで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

教科書　毎回プリントを配布する。

参考書　『仙台市史』（通史編）。その他は講義中に紹介する。

備　考

質問等は授業終了時に受け付ける。

授業科目名	美術史Ⅰ		単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	瀬戸　典彦	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服1年

授業概要

①ヴィレンドルフのビーナスから近代に至る西洋美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性について教授する。②それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させる「つくる美術史のテキスト」と「美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集」、「美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説集」を用い理解の深化を図る。③西洋の美術史おける「オリジナリティー」の意味と価値について考察を促す。④作品と作品、美術家と美術家の関係性の中で歴史の脈絡が形成され、その流れの中で価値が構築されることを示唆する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
19 世紀までの西洋美術史の脈絡について、自分の言葉で説明できる。	○	○							
作品間、美術家間の関係を説明できる。	○	○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. 美術史における「個人」について	「つくる美術史のテキスト」による予習
2. メソポタミア文明以前の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」による復習
3. エジプト文明の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」による復習
4. ギリシャ文明化～ヘレニズム時代の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」による復習
5. 初期キリスト教美術	「クイズ集」、「解答・解説集」による復習
6. ビザンティン美術	「クイズ集」、「解答・解説集」による復習
7. 初期中世美術	「クイズ集」、「解答・解説集」による復習
8. 中間テスト	「クイズ集」、「解答・解説集」による復習
9. ロマネスク・ゴシックの美術	「クイズ集」、「解答・解説集」による復習
10. ルネッサンス	「クイズ集」、「解答・解説集」による復習
11. ルネッサンスとベネチア派	「クイズ集」、「解答・解説集」による復習
12. マニエリスム～北方ルネッサンス	「クイズ集」、「解答・解説集」による復習
13. バロック・ロココ	「クイズ集」、「解答・解説集」による復習
14. 新古典主義・ロマン主義・写実主義の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」による復習
15. 象徴主義の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」による復習
16. 試験	テキスト、参考書を用いて自己採点

履修上の注意

毎回、講義にクイズを課す。（必ず提出してから退出すること）中間テスト、期末試験を課す。

成績評価方法・基準

中間テスト:20%（フィードバックを行う）　期末試験:70%、クイズ提出:10%（フィードバックを行う）

期末試験では「つくる美術史のテキスト」の参照を認める。但し、その場合は、満点を 80 点とする。（参照なしの解答については、満点を 120 点とする）

教科書〔つくる美術史のテキスト〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕

参考書〔美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕
〔美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕

備　考　オフィスアワー：2 時間/１週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

授業科目名	美術史Ⅱ		単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	瀬戸　典彦	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服1年

授業概要

①縄文土器から浮世絵に至る日本美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性について教授する。②仏教美術の概要に触れ、日本美術への影響について理解を促す。③釈迦の思想と仏教美術の関係に触れ、仏教思想の体現としての仏教美術のあり方とその乖離について考察を促す。④それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させるワークシートとクイズ、解答例を用い理解の深化を図る。⑤日本の美術史おける変化の背景について考察を促す。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本美術史の流れについて説明できる。	○	○							
東洋美術史と日本美術史の関係について説明できる。	○	○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. オリエンテーション （縄文人が築いたものー弥生人が築いたもの）	ワークシートによる予習
2. 縄文時代	クイズ、配布資料（解答例）による復習
3. 弥生時代・古墳時代の美術	クイズ、配布資料（解答例）による復習
4. 仏教、仏像について	クイズ、配布資料（解答例）による復習
5. 飛鳥時代の美術	クイズ、配布資料（解答例）による復習
6. 奈良(白凰)時代の美術	クイズ、配布資料（解答例）による復習
7. 奈良(天平)時代の美術1(塑像等)	クイズ、配布資料（解答例）による復習
8. 中間テスト	クイズ、配布資料（解答例）による復習
9. 奈良(天平)時代の美術2(乾漆像等)	クイズ、配布資料（解答例）による復習
10. 奈良(天平)時代の美術3(平面)	クイズ、配布資料（解答例）による復習
11. 平安時代の美術1(密教美術)	クイズ、配布資料（解答例）による復習
12. 平安時代の美術2(立体)	クイズ、配布資料（解答例）による復習
13. 平安時代の美術3(平面)	クイズ、配布資料（解答例）による復習
14. 鎌倉時代・南北朝時代・室町時代の美術	クイズ、配布資料（解答例）による復習
15. 桃山・江戸時代以降の美術	クイズ、配布資料（解答例）による復習
16. 試験	ワークシート、配布資料を用いて自己採点

履修上の注意

毎回、クイズを行います。中間テスト、期末試験を行います。

成績評価方法・基準

中間テスト:20%(フィードバックを行う) 期末試験:70%、クイズ提出:10%(フィードバックを行う)

期末試験では「つくる美術史のテキスト」の参照を認める。但し、その場合は、満点を 80 点とする。(参照なしの解答については、満点を 120 点とする)

教科書　その都度、資料を配布する。

参考書　その都度、参考資料を配布する。

備　考

オフィスアワー：2 時間/ 1 週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

授業科目名	被服学			単位（総授業時間＋自習時間）					2 (30+60)
担当者	菊地　紗代	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	服専１年

授業概要

被服は人間の生活に大きな役割を果たしてきた。しかし、私たちを取り巻く社会環境が変化したため、この変化に対応すべく、今後の被服について考えていく必要がある。そこで本講義では、健康・安全・快適性をキーワードに衣生活について概説する。人間の着用を中心におきながら、社会性、素材、品質と管理について取り上げる。さらに、消費、環境についても触れ、これからの衣生活を向上させるために必要な知識を習得させ、実践能力が高められるよう指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
衣服の機能について理解できる。	○								
社会と被服の関係について理解できる。		○							
環境に配慮した衣生活を送るために必要な知識を身につける。			○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.オリエンテーション、被服学とは	教科書に目を通しておく。
2.人はなぜ装うのか	装いの機能についてまとめる。
3.気候風土と装い	民族服についてまとめる。
4.衣服のかたちの変遷	洋装と和装についてまとめる。
5.装いと健康	快適性についてまとめる。
6.装いによる気候調節	温度調節についてまとめる。
7.動きやすさと衣服	動きやすさについてまとめる。
8.衣服の素材と加工	素材についてまとめる。
9.衣服の品質と管理	表示、洗濯、管理についてまとめる。
10.人の成長とからだつき	体型についてまとめる。
11.アパレル産業と既製服	既製服についてまとめる。
12.装いのコミュニケーション	色、流行、個性についてまとめる。
13.ユニバーサルデザインと装い	ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝについてまとめる。
14.装いと生活環境	再利用についてまとめる。
15.まとめ	レポートを作成する。

履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。
日頃から被服に関することに興味関心を持つこと。

成績評価方法・基準

提出物（ワークシートやレポート 60%、受講状況(ミニットペーパー)40%で評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。）
提出物については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。

教科書〔ビジュアル衣生活論〕〔岡田宣子編著〕〔建帛社〕〔2,415 円〕

参考書　無し（適宜、プリントを配布する）

備　考

ルーブリック評価については、第一回目の授業で説明する。

質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。

授業科目名	色彩学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	内海　陽子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専２年

授業概要

色彩の基本理論、知識を学び、色彩に関わる諸問題を調整・解決するための色のスペシャリスト

ファッションコーディネート色彩能力検定３級受験に対応できる理論の習得を目的としている。

アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。

当講義では、大手アパレルメーカーで、年間３０億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
6月に行われるAFT色彩能力検定3級合格の実力をつける	○	○	○					○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.光と色・色彩心理	教科書を熟読する
2.色の表示①　色の分類と三属性　PCCS 言葉による色表示	教科書を熟読し練習問題を学習する
3.色彩効果と生活・ファッションと色彩	教科書を熟読する
4.インテリアと色彩・色の見え方と色覚の仕組み	教科書を熟読する
5.色彩調和①配色の基本的な考え方　色相から配色を考える	教科書を熟読し練習問題を学習する
6.色彩調和②トーンから配色を考える	教科書を熟読し練習問題を学習する
7.AFTの色彩能力検定3級の試験対策	練習問題を学習する
8.AFTの色彩能力検定3級の試験対策　過去問題集	練習問題を学習する
9.さまざまな色覚タイプや高齢者の色の見え方	教科書を熟読する
10.色彩調和③配色カード演習　色相から調和を考える	教科書を熟読し練習問題を学習する
11.色彩調和④配色カード演習　トーンから調和を考える	教科書を熟読し練習問題を学習する
12.色彩調和⑤配色カード演習　アクセントカラー	教科書を熟読し練習問題を学習する
13.色彩調和⑥配色カード演習　グラデーション	教科書を熟読し練習問題を学習する
14.色彩の効果	教科書を熟読し練習問題を学習する
15.色彩の応用	教科書を熟読し練習問題を学習する

履修上の注意

事前に教科書を熟読し、配布する練習問題を十分に学習してくること

成績評価方法・基準

課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価

教科書　〔色彩能力検定対策テキスト3級編〕〔(社) 全国服飾教育連合会〕〔2,835円〕

参考書　なし

備　考

質問等については、授業終了後受け付ける。

授業科目名	日本服装史			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	川又　勝子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専２年

授業概要

縄文時代から近代までの日本人の生活と服装の変遷について概説する。その際、服飾関連資料だけでなく、絵画・彫刻・文学・法令等と関連付けて読み取ることで、それぞれの時代の日本人の装いについて理解を深められるようにする。また、美術館・博物館での学外研修や本学資料室・図書館での研修を随時取り入れることで、実物の歴史資料や服飾関連資料を見る目を養い、それらについて考察する能力を身に付ける機会を設ける。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本人の生活と服装の変遷について理解できる。			○						
図像資料や文字資料について考察できる能力を身につける。	○								
日本文化について理解を深める。		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．オリエンテーション	次回キーワードについて調査する。
２．縄文～弥生時代の服装	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
３．古墳時代の服装	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
４．飛鳥時代の服装	ワークシートの完成、学外研修の事前調査
５．学外研修：博物館・美術館等での研修	研修レポートの作成、次回キーワードの調査
６．奈良時代の服装	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
７．平安時代の服装	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
８．中世の服装（小袖の変遷を中心に）	ワークシートの完成、学外研修の事前調査
９．学外研修：博物館・美術館等での研修	研修レポートの作成、次回キーワードの調査
10. 近世の服装１：安土桃山時代～江戸初期まで	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
11. 近世の服装２：町人の服飾	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
12. 近世の服装３：身分と美意識	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
13. 近代の服装１：きものの移り変わり	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
14. 近代の服装２：女性の洋装化	ワークシートの完成、資料室研修の事前調査
15. 本学資料室・図書館での研修	研修レポートの作成

履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。学外研修の費用は自己負担とします。

成績評価方法・基準

提出物（ワークシート・レポート等）による評価を 55%、受講状況（ミニットペーパー・参加状況）を 45%として評価します。なお提出物やミニットペーパーは添削して後日返却します。

教科書〔きものと裂のことば案内〕〔長崎巌〕〔小学館〕〔1,944 円〕

参考書〔日本服飾史辞典〕〔増田美子 他〕〔東京堂出版〕〔25,920 円〕

備　考

博物館・美術館等の展示内容により、シラバスの順番が前後することがあります。また、質問等は、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）時に受け付けます。

授業科目名	染織文化史			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	川又　勝子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専２年

授業概要

原始から現代までの日本における染織技術について、服飾関連資料・染織関連資料・絵画・文書等と関連付けて読み取りながら、日本が世界に誇る染織技術について概説する。さらに、東北地方の伝統的な染織技術や衣服素材、その歴史についても取り上げることで地域の服飾文化についても理解を促す。また、歴史資料や服飾・染織関連資料を目にするために、博物館・美術館・図書館・本学資料室における研修を随時取り入れることで、染織文化についての理解を深めさせる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
染織技法や染織品の変遷について理解できる。			○						
図像資料や染織資料から衣生活やそれを作り出した技術を考察できる。							○		
日本の文化について理解を深める。		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．オリエンテーション	次回キーワードについて調査する
２．原始の染織	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
３．上代の染織	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
４．古代の染織	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
５．中古の染織	ワークシートの完成、学外研修の事前調査
６．学外研修：博物館・美術館等での研修	研修レポートの作成、次回キーワードの調査
７．中世の染織	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
８．近世の染織１（安土桃山時代～江戸前期）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
９．近世の染織２（江戸中期～江戸末期）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
10. 近代の伝統染織	ワークシートの完成、図書館研修の事前調査
11. 染織技法と文様の変遷のまとめ（図書館での研修）	研修レポートの作成、学外研修の事前調査
12. 学外または学内での研修	研修レポートの作成、次回キーワードの調査
13. 東北の伝統染織１（北東北の染織）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
14. 東北の伝統染織２（南東北の染織）	ワークシートの完成、資料室研修の事前調
15. 本学資料室での研修	研修レポートの作成

履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。学外研修の費用は各自で負担していただきます。

成績評価方法・基準

提出物（ワークシートやレポート等）による評価を 55%、受講状況（ミニットペーパー・参加状況）を 45%として評価します。なお、提出物やミニットペーパーは添削して後日返却します。

教科書〔きものと裂のことば案内〕〔長崎巖〕〔小学館〕〔1,944 円〕

参考書〔日本服飾史辞典〕〔増田美子 他〕〔東京堂出版〕〔25,920 円〕

備　考

博物館・美術館等の展示内容により、シラバスの順番が前後することがあります。また、質問等は、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）時に受け付けます。

授業科目名	染織文化演習			単位（総授業時間＋自習時間）			2(30＋60)		
担当者	川又　勝子	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	服専２年

授業概要

日本の染織技術は、日本各地の風土や人々からの需要により発展したものであり、その繊細で高度な技術は世界に類を見ないものである。本演習では、古くから行われた伝統染織の基本的な方法について実習を取り入れながら概説する。特に、東北地方において行われた植物染料による染色・特徴的な文様染め・古布の再利用法・刺し子について取り上げることで、厳しい生活条件にありながらもできる限り美しいものを身につけようとしていた東北地方の先人達の知恵と工夫についても理解を深めさせる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
伝統染織の基本的技法を習得する。							○		
東北地方の染織文化について理解する。			○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．オリエンテーション	配布プリントを熟読する
２．藍染めについて	板書内容の復習、藍についての文献調査
３．藍染めの準備	制作ノートを記入し、染色方法を理解する
４．藍染めによる小作品制作	制作ノートを記入し、レポートを作成する
５．茜染めについて	板書内容の復習、茜についての文献調査
６．茜染めの準備	制作ノートを記入し、染色方法を理解する
７．茜染めによる小作品制作	制作ノートを記入し、レポートを作成する
８．東北地方の特徴的な文様について	板書内容の復習、文様についての文献調査
９．東北地方の特徴的な文様の小作品制作	制作ノートを記入し、レポートを作成する
10. 古布の再利用について	板書内容の復習、古布再利用の文献調査
11. 古布を再利用した小作品制作	制作ノートを記入し、レポートを作成する
12. 刺し子について	板書内容の復習、刺し子についての文献調査
13. 刺し子による小作品制作①（準備を含む）	制作ノートを記入し、制作を進める
14. 刺し子による小作品制作②（仕上げまで）	制作ノートを記入し、レポートを作成する
15. 授業のまとめ	制作ノートの完成、レポートの不備を訂正

履修上の注意

染織文化史を同時修得することが望ましい。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。制作ノートはその都度きちんとまとめてください。材料費として 2,500 円程度を徴収します。

成績評価方法・基準

提出物（制作品・レポート）による評価を 55%、受講状況（制作ノート・参加状況）を 45%として評価します。なお、提出物や制作ノートはコメントを付して後日返却します。

教科書　プリントを配布します。

参考書　その都度指示します。

備　考

ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

業科目名	被服機構・衛生学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)
担当者	水野　一枝	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	服専１・２年

授業概要

最も身近な環境である衣服は、人間の健康と深く関わっている。人の生理機能が、衣服や衣服を着用する生活環境に影響を受けることを解説する。
本講義では、体温調節を中心とした生理機能の基礎、衣服による調節と快適性、衣服と暑熱環境や寒冷環境、圧迫、皮膚との関連について論述する。更に、体型や体勢、生理機能等が異なる乳幼児・学童・高齢者の衣服、睡眠時の寝衣や寝具についても考え、安全で快適・機能的な衣服の条件や特性、健康な衣生活のあり方について解説を深める。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・人間の生理機能、形態、運動機能を理解する。	○		○						
・健康的な衣服の選択や着用方法に関する知識を習得する。			○	○	○				
・環境や年齢を考慮した、健康的な衣服の着用が実践できる。			○					○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ヒトと環境を結ぶ衣服	教科書を読んでおく。配布されたプリント、教科書を読んでヒトと衣服、環境の関わりを理解する。
2．環境に関わる条件とその測定方法	教科書を読んでおく。配布されたプリント、教科書を読んで衣服に関連する環境要因について内容をまとめる。
3．ヒトの体温調節	教科書を読んでおく。配布されたプリント、教科書を読んで体温調節のしくみを理解する。
4．衣環境の調節に関わる素材	教科書を読んでおく。配布されたプリント、教科書を読んで被服衛生学に関連する材料試験と測定方法をまとめる。
5．着衣を通しての熱や水分の移動	教科書を読んでおく。配布されたプリント、教科書を読んでクロー値と衣服内気候について理解しておく。クロー値に関する小課題を次回提出。
6．寒冷・暑熱環境と衣服	教科書を読んでおく。配布されたプリント、教科書を読んで内容をまとめるとともに、寒冷・暑熱環境に適した衣服を確認する。
7．衣服を着るヒトの構造と動き	教科書を読んでおく。配布されたプリント、教科書を読んでヒトの構造や動きと衣服の関連についてまとめる。
8．衣服の運動快適性	教科書を読んでおく。配布されたプリント、教科書を読んでヒトが運動する際の快適性についてまとめる。
9．身体に影響を及ぼす衣服圧	教科書を読んでおく。配布されたプリント、教科書を読んで衣服圧と衣服圧に影響する要因を理解する。
10. 皮膚の機能と衣服	教科書を読んでおく。配布されたプリント、教科書を読んで皮膚の機能や、材料の肌触りについて理解する。肌触りに関する小課題を次回提出。
11. 乳幼児の衣服	教科書を読んでおく。配布されたプリント、教科書を読んで乳幼児の特性と適した衣服について内容をまとめる。
12. 学童の衣服	教科書を読んでおく。配布されたプリント、教科書を読んで学童の特性と適した衣服について内容をまとめる。
13. 高齢者の衣服	教科書を読んでおく。配布されたプリント、教科書を読んで高齢者の特性と適した衣服について内容をまとめる。
14. 睡眠環境と衣服	教科書を読んでおく。配布されたプリント、教科書を読んで睡眠と睡眠時に適した衣服、寝具について内容をまとめる。
15. まとめの講義	配布されたプリント、これまでのまとめに目を通す。講義で曖昧だった章について復習する。
16. 試験	

履修上の注意

配布された講義資料を毎回持参すること。遅刻３回で欠席１回とする。

成績評価方法・基準

講義の節目に小課題を提出し、試験を行う予定である。試験結果 70%、小課題 15%、毎講義後のミニットペーパーを含む授業姿勢 15%で評価する。小課題は後日添削して返却する。ミニットペーパーは、次回の講義でフィードバックを行う。試験については、試験範囲の要点をまとめたレジュメを配布する。

教科書〔快適服の時代〕〔編著齋藤秀子、呑山委佐子〕〔おうふう〕〔2,600 円〕

参考書〔アパレルと健康〕〔日本家政学会被服衛生学部会（編集）〕〔井上書院〕〔2,400 円〕

備　考

質問については、ミニットペーパーへの記載、講義終了時に受け付けます。

授業科目名	スタートアップソーイング			単位（総授業時間＋自習時間）					1(30+15)
担当者	菊地　紗代	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	服専１年

授業概要

被服造形分野に不可欠な被服に関する知識と、製作技術の基礎・基本について習得させる。縫製に使われる用具、布地の扱い方、手縫いの基礎、ミシンの使い方などについて取り上げる。布地と副資材の選び方では、仙台市内の店舗にて学外研修を実施し、材料を選ぶポイントを指導する。また、課題制作は基礎的事項を重視した内容であり、服作りの基本となる方法を正しく習得させ、応用展開につながる実践力を身につけさせる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
被服造形分野の基礎的知識と技術、実践力を身につける。	○				○				
自己管理能力、倫理観、課題解決能力を身につける。							○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.オリエンテーション、被服製作の基礎知識、用具確認	教科書に目を通す。
2.基礎縫い：手縫い①（並縫い、印つけ）	指定箇所まで作業を終わらせる。
3.基礎縫い：手縫い②（しつけ、まつり）	指定箇所まで作業を終わらせる。
4.基礎縫い：手縫い③（縫い代の始末）	指定箇所まで作業を終わらせる。
5.基礎縫い：手縫い④（留め具付け）	指定箇所まで作業を終わらせる。
6.基礎縫い：ミシン縫い①（直線、ロックミシン使い方）	指定箇所まで作業を終わらせる。
7.基礎縫い：ミシン縫い②（縫い代の始末）	指定箇所まで作業を終わらせる。
8.基礎縫い：手縫い・ミシン縫い（穴かがり、玉縁穴）	指定箇所まで作業を終わらせる。
9.布地、副資材の選び方（学外研修を含む）	研修内容を見直す。
10.課題制作：地直し、裁断	指定箇所まで作業を終わらせる。
11.課題制作：印つけ、本縫い	指定箇所まで作業を終わらせる。
12.課題制作：本縫い	指定箇所まで作業を終わらせる。
13.課題制作：付属品付け	指定箇所まで作業を終わらせる。
14.課題制作：仕上げ、検品	指定箇所まで作業を終わらせる。
15.まとめ、提出	全行程を振り返る。

履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。授業に必要な用具一式を毎回持参すること。
課題制作の材料費（2,000 円程度）は各自負担。

成績評価方法・基準

提出物 60%、受講状況（作業状況、ミニットペーパー）を 40%として評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。）

課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。

教科書〔服飾造形の基礎〕〔文化服装学院編〕〔文化学園教科書出版部〕〔2,754 円〕

参考書　無し（適宜、プリントを配布する）

備　考

演習内容や課題は、作業の進行状況等により、変更する場合がある。
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。
質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。

授業科目名	アパレル製図法Ⅰ（平面）	単位（総授業時間＋自習時間）	1(30＋15)

担当者	藤川　幸子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服専１年

授業概要

衣服が製作される過程では、個人を対象とした個別製作（注文服）と、不特定多数の人を対象にした合理的な大量生産（既製服）の方法がある。近代では、圧倒的に既製服が多く占めている。ここでは、衣服を生産するために、基本的な原型を理解し、工程を教授する。成人女子・男子用衣料参考寸法を基準に、原型作図を起こし、それぞれの製作のプロセスを実習を通し習得させる。さらに作図の基礎となる原型、の女子、男子のパターンの基礎製作の作図方法の基礎を身につける。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
基礎知識について理解できる。			○						
生産する上で、基礎になるパターン製作ができる。	○								
平面作図と立体裁断による知識を習得する。					○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.基礎用具、ミシンの取り扱い	家庭用・職業・ロックミシン
2．原型について	各部の名称
3．衣服製作の人体形態の把握	計測の基礎について
4．原型平面作図（９ＡＲ）	原型パターン作図
5．基礎線の引き方　①	基礎線の引き方　　後ろ身頃
6．基礎線の引き方　②	前身頃・袖・輪郭線
7．原型作図（各自）	パターンをシーチングで作る
8．パターン作図　①	各自のパターン作図
9．パターン作図　②	各自のパターン作図
10. 原型平面作図（男子）	プリント参考
11. 基礎線の引き方	男子パターン作図
12. パターン作図	男子パターン作図
13. ファスナー部分縫い　①エフロンファスナー	エフロンファスナー
14.　　②コンシールファスナー	コンシールファスナー
15. 後期に向けて	部分縫い完成

履修上の注意

進度に遅れがある場合は、遅れを取り戻すよう、実習を通し努力する。

成績評価方法・基準

提出作品完成度合　授業状況（ミニットペーパー）（７０％）作品は添削して返却する

授業に対する取り組みと意欲・姿勢　（３０％）

教科書［文化ファッション大系改訂版・服装造形講座①服飾造形基礎］［文化服装学院編］［学校法人文化学園　文化出版局］［２，０１０円］［文化ファッション大系改訂版・服装造形講座⑨メンズウェアⅠ］［文化服装学院編］［文化出版局］［２，０１０円］

参考書　プリント使用［プリント配布］・〔アパレル製作入門〕〔衣料管理協会〕〔２．９００円〕

備　考

質問は授業後に受け付けます。

授業科目名	アパレル製図法Ⅱ（応用）			単位（総授業時間＋自習時間）					1(30＋15)
担当者	藤川　幸子	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	服専１年

授業概要

衣服を製作する過程を学び、注文服と既製服を知り、その違いを理解する。特定の個人を対象にした注文服、個々のライフスタイルを重視し、注文服の欲求を満たす。既製服の場合は、消費者ニーズの変化に対応した製品作りが求められ、ファッション情報、商品動向情報、マーケット情報の収集。それぞれの製作のプロセスについて学ぶ。特に前期に作図した原型を用いて、シーチングモデルを製作し、縫製の基礎と補正の基礎について指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
パターン製作の基礎を身につける。			○						
平面製図と立体裁断による原型製作の基礎を身につける。	○								
被服製作の基礎を身につける。	○								

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．さまざまなデザイン・ダーツ移動の応用	ダーツ移動の応用
２．平面作図法と立体裁断法による原型作成①	原型作図
３．平面作図法と立体裁断法による原型作成②	原型作図
４．平面作図法と立体裁断法による原型作成③	原型作図
５．原型からのデザイン展開	原型作図
６．ダーツの展開から見る作図	原型作図
７．布地の整理と裁断（地の目・縫い代）	布地の地の目
８．縫製手順と縫製法　①印のつけ方	縫製方法
９．　②組立の手順	印のつけ
10.　③仮縫いの順序	印のつけ
11.　④仮縫いの順序	組立
12. シーチングモデルの試作と確認	組立
13. ①試着補正・体型観察	作品の点検
14. 布地の立体化	人体による立体化
15. 裏地、芯地の扱い	縫い代について

履修上の注意

進度に遅れがある場合は、遅れを取り戻すよう実習を通し努力する。

成績評価方法・基準

提出作品は完成度合　授業状況（ミニットペーパー）７０％　提出作品は添削して返却する。

授業に対する取り組みち意欲・姿勢　（３０％）

教科書　［文化ファッション大系改訂版・服装造形講座①服飾造形基礎］［文化服装学院編］［学校法人文化学園　文化出版局］［２，０１０円］［文化ファッション大系改訂版・服装造形講座⑨メンズウェアⅠ］［文化出版局］［２,，０１０］

参考書　〔アパレル製作入門〕〔衣料管理協会〕〔２．９００円〕［プリント使用］

備　考

受講生の進度によりシラバス内容が前後することがある。質問は授業後に受け付けます。

授業科目名	被服造形実習Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(45＋30)
担当者	藤川　幸子	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	服専２年

授業概要

パターンメイキング（型紙の作成）平面の布を立体的に作り出す。パターンメイキングについて、その手法とデザインによる、各種のパターンの製作をする。衣服を製作する上で、欠かすことの出来ない原型について、使用方法を教授し、原型操作（切り開き方・操作の方法）を学び、基本的でシンプルなデザインと型紙の作図の方法、切り開き方を学び、パターン製作とする。衣服の製作する上で、副素材（接着芯）の扱いを学び立体的に作り出す技術を深く理解出来る基礎を習得させる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
技術製作の習得を目的とする。			○		○				
実習を通し立体的に作り出す。	○				○				
製作出来る基礎を身につける。	○				○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.ブラウスパターンのパターンメイキング	デザインと作図
２.原型パターン操作による展開（講義）	原型のダーツ操作・分散
３.パターン作図　　後・前身頃作図	作図の要点　　（後ろ身頃・前身頃）
４.　　衿・袖作図　（パターンチェック方法）	（衿・袖）
５.使用量　　（布地の見積もり講義）	使用量
６.裁断準備　　布地の確認　・地直し　・裁断　・	裁合せ
７.　　パターンの配列　・縫い代	パターンと縫い代
８.　　芯地の説明　・印付け	芯の裁断と接着
９.　　仮縫い（組立の順序）　・補正	作品の組立
10.縫製法　（プリント参考）　ダーツ・ポケット・肩合わせ	縫製（プリント参考）
11.　　衿を作る　・身頃に衿を付ける	〃
12.　　左・右脇縫い合わせ・裾上げ	〃
13.　　袖を作る　袖付け　・	〃
14.部分縫い　　ボタンホール　・ボタン付け	ミシンによる穴かがり
15.仕上げ　　提出	完成を目指す

履修上の注意

日頃から服装に関する身近な作品に関心を持つ。

進度に遅れがある場合は、遅れを取り戻すよう、実習を通し努力する。

成績評価方法・基準

提出作品は完成度合（７０％）作品は添削して返却することでフィードバックとする。

授業に対する取り組みと意欲・姿勢（３０％）

教科書〔文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座③ブラウス・ワンピース〕［文化服装学院編］
［学校法人文化学園　文化出版局］［１，３６２円］

参考書　プリント参考

備　考

質問があれば授業後に受け付けます。

授業科目名	被服造形実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(45＋30)
担当者	藤川　幸子	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	服専２年

授業概要

目的とする服作りのための基礎となる作図の方法を取り上げ、更にこの作図をもとに布地を裁断・縫製する授業である。衣服に関心をもち、衣服の基本的な構造を知り、製作出来る専門知識を学び、技術習得を目的とする。作品が出来るまでの平面による作図、立体的に作り出す技術を理解し実習する。衣服製作を通し、副素材を良く理解し、扱い方を学び総合的に知識・縫製技術の扱いを習得させる。また作図方法の違い、割り出し方、作図の方法のことなるパンツのパターンの割り出し方を習得させる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
実習でえた総合的な知識向上を目的とする。			○						
各自で正しい衣服を選ぶ知識を目的とする。					○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.婦人スカート　　各自パターン作図・用布の見積もり方	デザインと作図・作図の要点
2.裁断　　地直し・パターン配列・縫い代の説明	使用量
3.組立　　印付け・組立・補正	裁合せ・縫い代
4.　　仮縫い・試着・(補正)	印付けと組立
5.本縫い　　ダーツ・パーツの縫い合わせ・ロックミシン	特種ミシンの使い方
6.　　左脇（ファースナー付け）右脇ミシン・裾上げ	ファスナー付け
7.裏地の裁断　地直し・パターン配列・縫い代の説明・印付け	裏地の裁断
8.　　ダーツ・パーツの縫い合わせ・ロックミシン	印付け
9.　　裾上げ・表地裏地を合わせ、ファスナー始末	裏地と表地
10.　　ベルト付け（ウエスト、裾始末）	ベルト付け
11. 仕上げ　.提出　スナップ（板金製ホック）付け	完成を目指す。
12.パンツパターン作図の説明・引き方	ストレートパンツ（基本型）
13.　　前身頃パターン作図	スカートとパンツの作図の違い
14.　　後身頃パターン作図	前後股上の訂正
15.　　ベルト作図・パターンチェック方法	パンツのパターンを仕上げる。

履修上の注意

日常から服装に関する身近な作品に関心を持つ。

進度に遅れがある場合は、遅れを取り戻すよう、実習を通し努力する。

成績評価方法・基準

提出作品完成度合　（７０%）作品は添削して返却することでフィードバックとする。

授業に対する取り組み方と意欲・姿勢　（３０%）

教科書〔文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座②スカート・パンツ〕〔文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔１３６３円〕

参考書〔文化学園大学講座〕〔服装造形学〕〔文化服装学院編・技術編Ⅰ〕

備　考

質問があれば授業後に受け付けます。

授業科目名	被服造形実習Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）			2(90＋60)		
担当者	藤川　幸子	必・選	選	形態	実習	学期	通年(前)	対象	服専３年

授業概要

テーラードジャケットを製作する。オーソドックスな本実習では、被服製作をする上で、縫製の実習と被服に関する総合的な知識向上を目的とする。より良い作品作りを目的とし、副素材の扱い方の部分的な使用方法の実習を通し、着心地の良い服作りに必要な知識・技術を習得させる。平面で作り上げたパターンを立体的に体に合わせて作り上げ、作品の着用目的と縫製の実習を通し、技術を深く理解し習得させる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
着用出来る衣服製作の技術を身につける。			○		○				
実習を通し衣服の仕組みを理解する。		○							
衣服を作りだす技術を理解できる	○								

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.ジャケットのアイテム	プリント参考
２.ジャケットのデザインと作図	原型のダーツ操作
３.総裏ジャケットパターン作図	原型ダーツの分散
４.各自パターン作図　①	作図の要点　　（後・前）
５.　　パターン作図　②	（衿・袖）
６.　　パターン作図　③	（輪郭線）パターンの完成。
７.布地の見積もり方　　（ジャケットに適する素材）	使用量
８.表布の裁断　　裁断・パターンの配列（マーキング）	裁合せ
９.接着芯の条件　（温度・圧力・時間）	芯の裁断と芯地
10.印付け	印付けの完成。
11. 組立	組立説明
12.試着・補正　　（縫製工程の講義）	本縫い・プリント参考
13.ポケットの部分縫い　①	①パッチポケット
14.ポケットの部分縫い　②	②箱ポケット
15.ポケットの部分縫い　③	③フラップポケット、部分縫いの完成

履修上の注意

日常生活の洋服に関心を持ち、いろいろの面で意識的に観察する。
進度に遅れがある場合は、遅れを取り戻すよう、実習を通し努力する。

成績評価方法・基準

提出作品の完成度　授業状況（ミニットペーパー（７０％）提出作品は添削して返却する。
授業に対する取り組みと意欲・姿勢　（３０％）

教科書〔文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座④ジャケット・ベスト〕〔学校法人文化学園　出版局〕
〔１，８３６円〕

参考書〔文化学園大学講座・服装造形学　技術編Ⅱ〕

備　考

質問があれば授業後に受け付けます。

授業科目名	被服造形実習Ⅲ			単位（総授業時間＋自習時間）			2(90＋60)		
担当者	藤川　幸子	必・選	選	形態	実習	学期	通年(後)	対象	服専３年

授業概要

テーラードジャケットを製作する。オーソドックスな本実習では、被服製作をする上で、縫製の実習と被服に関する総合的な知識向上を目的とする。より良い作品作りを目的とし、副素材の扱い方の部分的な使用方法の実習を通し、着心地の良い服作りに必要な知識・技術を習得させる。平面で作り上げたパターンを立体的に体に合わせて作り上げ、作品の着用目的と縫製の実習を通し、技術を深く理解し習得させる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
着用出来る衣服製作の技術を身に付ける。					○				
実習を通し衣服の仕組みを理解する。			○						
衣服を作りだす技術を理解出来る。			○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.ポケットをつける。	３点のポケットより選択
２.裏地パターン配列	裏地の裁断
３.裏地の裁断	裏地の裁断
４.印つけと組立	裏地の印つけ
５.第一ミシン　（ダーツのミシン）	組立
６.　　（パーツのミシン）	裏・表肩縫い合わせ。
７.衿付け　①	裏衿付け
８.衿付け　②	表衿付け
９.衿外回りと前端、縫い合わせ	身頃の完成。
10.袖作り　①	表袖・裏袖
11.袖作り　②	表袖・裏袖
12.袖付け	表袖・裏袖のまとめ
13. 裏袖まつり	まとめ
14.まとめ・仕上げ（	ステッチミシン。ボタンホール。ボタン）
15.完成　仕上げ　提出	完成を目指す。

履修上の注意

日常生活の洋服に関心を持ち、いろいろな面で意識的に観察する。
進度に遅れがある場合は、遅れを取り戻すように努力する。

成績評価方法・基準

提出作品の完成度　授業状況（ミニットペーパー）（７０％）提出作品は添削して返却する。
授業に対する取り組みと意欲・姿勢　（３０％）

教科書〔文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座④ジャケット・ベスト〕〔学校法人文化学園　出版局〕〔１，８３６円〕

参考書〔文化学園大学講座・服装造形学　技術編Ⅱ〕

備　考

質問があれば授業後に受け付けます。

授業科目名	ドレーピング			単位（総授業時間＋自習時間）			1(30＋15)		
担当者	岡本　はるみ	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専３年

授業概要

ドレーピング（立体裁断）は、平面製図に頼らず、人体模型であるボディーに直接、シーチング布（未晒の天竺木綿布）を添わせてピン打ちすることで、衣服をデザインし形作ることである。本講座は女性の身体形状を把握し、9AR 寸法を基に、動く体を包むために必要な『ゆとり寸法』とその取り入れ方や、シーチングの下準備とピン」の打ち方、ダーツ)位置のきめ方などを学ばせ、ピンワークしたシーチングをパターンに展開するまでの、ドレーピング基本技術を教授する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ドレーピングの目的と活用の利点を学ぶ。	○		○	○	○		○		
布地の特性、ダーツの役割を理解してドレーピングする。	○		○	○	○		○		
ドレーピングしたものをパターンに展開することができる。	○		○	○	○		○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.授業の進め方と事前準備についてとドレーピングについて	提示された用具を準備する
2.人台の種類(サイズ・テーピング・ゆとり)シーチングについて	シーチングの下処理を済ませておく
3.スカートの平面製図（9AR）前・後スカートの構成を理解する	時間内に提出できないものは、次回まで完成させておく
4.タイトスローパーのドレーピング（前・後スカート）	時間内に提出できないものは、次回まで完成させておく
5.ドレーピング後のシーチングをトレース１　タイトスローパー完成させる	シーチング（ドレーピング済）とスローパーを必ず提出
6.タイトスローパーのデザイン展開の仕方（A ラインスカート他）	シーチング（ドレーピング済）とスローパーを必ず提出
7.フレアースカートのドレーピング（前・後スカート）	スカートのデザインを何点か考えておく
8.デザインスカートのドレーピング（デザイン画とパターンを提出）	デザイン画は指示通りの仕上げとし、授業内提出できない場合は１週間以内に提出の事とする

履修上の注意

専門知識と技術を習得する科目であるので、理解できない点は必ず質問し「わからないまま」「自分流」「友人に教えてもらう」はしない事。

成績評価方法・基準

提出作品・課題（１００％）。作品・レポート等は添削して返却することでフィードバックとする。

教科書　授業前にプリントを配布する。

参考書：なし

備　考

質問があれば授業後に受け付けます。

授業科目名	被服平面造形学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)
担当者	川又　勝子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服専１年

授業概要

和服は江戸時代に完成された日本固有の衣服であり、日本人ならではの文化が凝縮された平面造形による衣服である。この講義では、現代に受け継がれ着用されている和服の基本について、①日本人の服装の変遷と和服の現状、②和服の構成上の特徴と各部の名称、③着装時の基本的約束事、④和裁の用具と布地、⑤和服縫製の基本的な技術 の観点から和服の基本について概説する。さらに、小裁単衣長着（産着仕立て）の製作を通して、和服縫製の基礎技術を指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
和服の歴史と現状、構成上の特徴、着装の約束事について理解できる。			○		○				
和服縫製技術の初歩を習得する。							○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．授業の進め方について、 手縫い服の特徴と運針	ワークシートの完成、運針練習
２．和服の基礎知識：日本人の服装の変遷と和服の分類	ワークシートの完成、運針練習
３．　〃　：伝統的な和服地とその産地、着装と季節	ワークシートの完成、運針練習
４．和服の構成と製作の基礎①：運針、構成・材料・採寸、裁ち切り平面図・折り積り図、地直し	ワークシートの完成、運針練習
５．　〃　②：子供の和服の種類と特徴（折り積り、裁断）	ワークシートの完成、運針練習
６．　〃　③：和服の袖各種（袖標、袖縫い）	ワークシートの完成、袖縫い
７．　〃　⑤：身頃の特徴と肩当て・居敷当ての役割（身頃標、肩当て・居敷当て）	ワークシートの完成、運針練習
８．　〃　⑥：衽の役割（衽標、衿下始末）	ワークシートの完成、衿下始末
９．　〃　⑦：衽の構成（衽付け）	ワークシートの完成、衽付け
10．　〃　⑧：衿各種と共衿の役割（衿・共衿、衿先）	ワークシートの完成、衿地縫い
11．　〃　⑨：綴けることの利点（衿本綴け、脇縫い）	ワークシートの完成、衿綴け
12．　〃　⑩：単衣物の構成と縫い代の始末１(脇始末)	ワークシートの完成、脇始末
13．　〃　⑪：単衣物の構成と縫い代の始末２(裾、褄角)	ワークシートの完成、裾綴け
14．　〃　⑫：単衣物の構成と縫い代の始末３(袖付け)	ワークシートの完成、袖付け
15．　〃　⑬：新生児用の産着の特徴　(紐作り、紐付け)	ワークシートの完成、紐付け
16. 授業のまとめ	ワークシートの完成

履修上の注意：　遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。ワークシートもその都度きちんとまとめてください。実習費として3,000 円程度を徴収します。

成績評価方法・基準

提出物（ワークシート・製作品等）による評価を 55%、受講状況（参加状況・ミニットペーパー）を 45%として評価します。なお、提出物やミニットペーパーは添削して後日返却します。

教科書〔和　裁〕〔斎藤輝子・細目しげ子・大塚　静子〕〔東北生活文化大学三島学園女子短期大学和裁研究室〕〔非売品〕

参考書〔きものの基本 改訂版〕〔全日本きもの振興会 編〕〔ハースト婦人画報社〕〔2,160 円〕

備　考：ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

授業科目名	被服平面造形実習Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45＋45)
担当者	川又　勝子	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	服専２年

授業概要

日本固有の衣服である和服の製作方法について指導する。和服の素材や文様には日本の伝統文化が凝縮されていると言われているが、縫製方法にも伝統的技術が生かされている。この実習では、被服平面造形学で学んだ和服についての基礎知識と手縫いの基礎技術を発展させて、大裁女子単衣長着(ゆかた)の製作方法を指導する。この製作を通して、小裁単衣長着（一つ身）と女子用単衣長着の違いについて理解させるとともに、和服製作の知識・技術の向上ねらう。また、最終回には着装実習を行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
和服の基本的な知識について理解できる。			○						
女子用和服の構成を理解し、着装・帯結びができる。					○				
和服縫製の基礎知識と基本的技術を習得する							○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．基礎学習（構成・材料・採寸）	ワークシート完成、運針練習
２．裁ち切り平面図・折り積り図の作成、丸み型紙作り	ワークシート完成、運針練習、材料準備
３．柄合わせ、折り積り、裁断	ワークシート完成、運針練習
４．袖の標付け、袖縫い、袖口留め	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
５．袂丸み、袖の始末と飾り躾	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
６．身頃の標付け、背縫い、肩当て作り）	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
７．衽の標付け、衿下三つ折り絎け、肩当て付け、居敷当て作り	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
８．居敷当て付け、衽付け、衽縫い代の始末	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
９．衿・共衿付け準備、衿付け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
10. 三つ衿芯、衿先、衿絎け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
11. 共衿掛け、脇縫い	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
12. 脇縫い代始末、褄角作り	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
13. 裾の始末、袖付け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
14. 袖縫い代の始末、肩当ての始末	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
15. 仕上げ	ワークシート完成、仕上げ、着付け小物準備
16. 授業のまとめと着装実習	提出期限までに不備を修正する、着付けの復習

履修上の注意： 遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。ワークシートもその都度きちんとまとめてください。反物・縫い糸については初回に説明するので、各自で準備してください。実習費として 300 円程度を徴収します。

成績評価方法・基準： 提出物（ワークシートや製作品等）による評価を 55%、受講状況（ミニットペーパー）を 45%として評価します。なお、提出物やミニットペーパーはコメントを付して後日返却します。

教科書〔和　裁〕〔斎藤輝子・細目しげ子・大塚　静子〕〔東北生活文化大学三島学園女子短期大学和裁研究室〕〔非売品〕

参考書　なし（その都度プリント等を配布します）

備　考　ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

授業科目名	被服平面造形実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45＋45)
担当者	川又　勝子	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	服専２年

授業概要

日本固有の衣服である和服の製作方法について指導する。和服の素材や文様には日本の伝統文化が凝集されていると言われているが、縫製方法にも伝統的技術が集約されている。この実習では、前期の被服平面造形実習Ⅰで修得した和服についての基礎知識と手縫いの基礎技術を発展させて、大裁男子単衣長着製作方法を指導する。この製作を通して、男子用と女子用の長着の違いについて理解させるとともに、素材に適した仕立て方の違いについて理解させる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
和服の基本的な知識について理解できる。			○						
男子用和服の構成を理解し、着装・帯結びができる。					○				
和服縫製の基礎知識と基本的技術を習得する							○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．基礎学習(構成・材料・採寸）、裁ち切り平面図・折り積り図の作成	ワークシート完成、運針練習、材料準備
２．裁断	ワークシート完成、運針練習
３．袖の標付け、袖縫い、袖口留め	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
４．袂丸み、人形、袖口の始末	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
５．後身頃・内揚げの標付け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
６．前身頃・衽の標付け、衿下三つ折り絎け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
７．背縫い、内揚げ縫い	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
８．肩当て作り、肩当て付け、居敷当て付け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
９．衽付け、衽縫い代の始末	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
10. 共衿付け準備、衿付け、衿先布付け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
11. 三つ衿芯、衿先、衿絎け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
12. 共衿掛け、脇縫い	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
13. 脇縫い代始末、褄角作り	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
14. 裾の始末、袖付け留め、袖付け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
15. 袖縫い代の始末、仕上げ	ワークシート完成、提出期限までに不備を訂正する
16. 着装実習、授業のまとめ	提出期限までに不備を修正し、着付けを復習する

履修上の注意　被服平面造形実習Ⅰの単位を修得していること。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。ワークシートもきちんとまとめてください。反物・縫い糸については初回に説明するので、各自で準備してください。実習費として 300 円程度を徴収します。

成績評価方法・基準　提出物（ワークシートや製作品等）による評価を 55%、受講状況（参加状況・ミニットペーパー）を 45%として評価します。なお、提出物やミニットペーパーはコメントを付して後日返却します。

教科書〔和　裁〕〔斎藤輝子・細目しげ子・大塚　静子〕〔東北生活文化大学三島学園女子短期大学和裁研究室〕〔非売品〕

参考書　なし（その都度プリント等を配布します）

備　考　ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

授業科目名	ファッションデザイン			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+15)
担当者	岡本　はるみ	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専１年

授業概要

人の第一印象とは、視覚と感覚や物腰から得る印象であるが、衣服は瞬時にその人となりを判断する視覚ツールそのものでありファッションである。授業では、衣服の必要性とファッションが果たす役割を教授し、女性の服飾史を通して、時代の政治や文化、気候風土など服装に与える多々の影響がファッションとなっていく様を学ばせる。デザインの基礎としてデザインディテール名称と服飾用語を学ばせ、ベーシックプロモーション・デザイン画の描き方を指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・ファッションに関心を持ち観察力をつける。									○
・ディテール名称と服飾用語を学ぶ。	○	○	○						
・プロポーションベーシックを描くことができる。				○	○		○		○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.　苦手意識をなくす「デザイン画は設計図である」	デザイン画を描く事についての考えとファッションへの関心度をレポートにまとめて提出する。
2.　時代と共に変化するファッション	
3.　プロポーション・ベーシック（Ⅰ）	
4.　プロポーション・ベーシック（Ⅱ）	
5.　ボトムズ（パンツとスカート）の名称と描き方レッスン	・所有するボトムズを描いておく（7.の授業で使用する）
6.　プロポーション・重身移動による軸足の位置	※時間内に仕上がらなかった作品等は次回までに完成させて提出する。 順次添削して返却するので､チェックしてより良い作品が。描けるようにする。
7.　プロポーション・重身移動による描き方レッスン	
8.　衿ぐりと衿について	
9.　プロポーション・頭部と手・足の描き方レッスン	
10. プロポーション・着装（布の厚みとゆとり）レッスン	
11. デザイン画(1)下絵	
12. デザイン画(2)線入れ	
13. デザイン画(3)彩色	
14. シルエットとラインについて	ホームワークで復習すること。
15. ８大感性と服飾用語	重要用語を覚える。
16.　試験	採点後返却。

履修上の注意

常に衣服のデザインや素材に関心を持つように心掛ける。作画に必要な、定規、鉛筆等指定された道具を準備する。

成績評価方法・基準

筆記試験 50%、提出作品 50%いずれも採点後、添削後返却する事でフィードバックとする。

教科書　授業前にプリントを配布する

参考書　なし

備　考　ファッションデザインの基礎をしっかり習得させるので、個々の能力進度により授業計画通りに進まない場合がある。質問があれば授業後に受け付けます。

授業科目名	ファッションデザイン画			単位（総授業時間＋自習時間）					1(30+15)
担当者	岡本　はるみ	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	服専３年

授業概要

ファッションデザイン画を学ぶにあたり、ファッションが持つ「意味」と「力」と「必要性」を認識させ、おしゃれを楽しむ自分を意識させる。個々人の美意識の違いを“感性”として捉え、その”イメージ”をメッセージ性のある個性的なデザイン画に表現できるように指導する。また、衣服の構成とパターンを考察してデザイン画を描くことも大切であり、そのために画法だけだなく、シルエット・ディテール・カラー・素材などの専門的知識を教授する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・テキスタイルとデザインの関連性を学ぶ。			○	○					
・製図をみてデザイン画が描ける。					○				
・イメージ・インスピレーションを作品(デザイン画)にする							○		○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. ファッションの発生と波及・今昔について	自分流ファッション考察のレポート提出
2. プロポーション・ベーシックを描く	時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。
3. プロポーション・ポージィングを描く	時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。
4. デザイン画〈スカート部にデザインのあるワンピース〉	時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。
5. デザイン画〈スカート部にデザインのあるワンピース〉	時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。
6. ディテール・テクスチャーについてと描き方レッスン	時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。
7. 製図を見てデザイン画を描く・スカート	時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。
8. 製図を見てデザイン画を描く・衿と袖	時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。
9. 製図を見てデザイン画を描く・ジャケット	時間内に仕上らない作品は必ず仕上げて次授業時に提出することとし、「苦手」を残さない事。
10.　８大感性とデザインへ進む行程	それぞれの感性イメージをまとめてレポート提出する
11.　デザイン画〈オリジナルデザイン〉イメージ MAP	イメージ MAP から選択したテイストを図案化しておく
12.　デザイン画〈オリジナルデザイン〉ラフデザイン	ファッションスタイル画に添える、デザインポイント、素材等の仕様書を作成する
13.　デザイン画〈オリジナルデザイン〉下描き	授業内に指導されたところはデザイン画に反映させておく
14.　デザイン画〈オリジナルデザイン〉彩色	図案化したイメージ MAP、仕様書、デザイン画の 3 点を、次回の最終授業で、揃えて提出できるように用意しておく
15.　デザイン画〈オリジナルデザイン〉仕上げ	それぞれの感性イメージをまとめてレポート提出する

履修上の注意

SNS 等の情報だけに頼らず、ショップで実際に布地の質感や色調をチェックする作図に必要な用具を持参する。

成績評価方法・基準

提出書類 100%、提出課題・作品は添削し返却することでフィードバックとする。

教科書　授業前にプリントを配布する

参考書　なし

備　考　ファッションは流動的である事と演習授業であるため、授業計画通りに進まない場合がある。質問があれば授業後に受け付けます。

授業科目名	アパレル設計論			単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)		
担当者	玉田　真紀	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専２年

授業概要

アパレル産業とは、その歴史的変遷と商品分類を考えた上で、アパレル生産の２つの工程（注文服と既製服）について、商品企画・素材選定から生産段階まで、特徴と課題を解説する。さらに、アパレル設計に必要な人体形態（個体差）を把握するための計測方法と、既製服の設計に必要な JIS 衣料サイズ規格について解説する。また、パターン設計を習得するための基礎である原型と様々な立体化技法への展開方法についても演習を通して解説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
アパレル設計・生産の専門知識が身につく			○		○		○		
アパレル業界で活躍するために必要な思考力が身につく			○		○		○		
アパレル商品を客観的に見る力が身につく		○	○		○		○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.アパレル産業とは：歴史的変遷とアパレルの商品分類	アパレルの類似語について調べる
2.アパレル生産の２つの工程（1）注文服の生産工程	注文服の生産工程の特徴をまとめる
3.アパレル生産の２つの工程（2）既製服の生産工程	既製服の生産工程の特徴をまとめる
4.注文服と既製服生産の比較	利点と問題点について考える
5.人体の構造と計測方法	人体各部の名称を復習する
6.衣服設計のための人体の採寸方法（1）成人女子	採寸方法を復習する
7.衣服設計のための人体の採寸方法（2）成人男子	採寸方法を復習する
8.衣料サイズ規格（1）体格調査の変遷（2）衣料サイズの種類	衣料サイズ表示を調べてみる
9.衣料サイズ規格（3）JIS 成人男子と成人女子衣料サイズ	JIS 衣料サイズの復習をする
10.衣服設計の基礎となる布地の立体化技法、動作性と設計	立体化技法が利用された例を探す
11.パターン設計（1）立体裁断と平面作図（2）原型とは	原型の種類と特徴を復習する
12.パターン設計（3）見ごろ原型の展開	原型からの展開を復習する
13.パターン設計（4）袖原型と動作性（5）袖原型の展開	袖原型と動作性を復習する
14.パターン設計（6）衿の種類（7）衿型紙の展開	衿のパターンを復習する
15.加齢に伴う体型変化とパターンの補正 16.試験	体型変化と補正を復習する

履修上の注意

遅刻３回で１回欠席扱い、1/3 以上欠席者は原則として不合格にする。

講義には教科書を使用する。適宜、プリントを配布するのでファイルに整理する。

授業後に疑問点や質問事項を書くこと。できるだけ次回に解答するようにする。

成績評価方法・基準

授業後の感想や質問の書き込み内容（10%）試験（90%）（試験は教科書、ノート、プリント全て持込み可）
授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。

教科書〔アパレル設計・生産論〕〔衣料管理協会〕〔2300 円〕

参考書　適宜、授業で紹介する

備　考　質問があれば授業後に受け付けます。

授業科目名	アパレル生産実習			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+15)
担当者	井上　美紀	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	服専３年

授業概要

アパレル生産実習を通じて、アパレル設計生産論で学んだ知識を深め、さらに、品質の良い製品を効率的に工業生産するための工業生産方式に関連する事柄について教授する。特に実習では、工業生産に関わる工程の中で、工業用パターンメーキング、縫製仕様書の作成と縫製仕様書に従った作業等を行い、全体の仕組みと流れを教授する。生産工程では、検反と裁断、縫製作業、検品と製品評価についての事項と技術も教授する。さらに、作業効率化のための工程分析についても触れる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
工業生産に必要な技能、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力、思考力を身に着ける。				○	○				
課題解決能力を身につける。							○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．はじめに：実習の進め方、縫製見本の作成	縫製見本を完成させる。
２．生産工程と分析 1．縫製機器の理解、見本の作成	縫製の文献資料収集と課題の取組。
３．生産工程と分析 2．作業工程分析とパターン分析	生産の文献資料収集と課題の取組。
４．生産工程と分析 3．作業工程表の作成	課題を完成させる。
5．縫製仕様書の作成 1．分析結果を基に作成	仕様書と工程分析の内容を振り返る。
6．縫製仕様書の作成 2．校正	課題に取り組む。
7．縫製作業工程分析表の作成 1．工程分析を基に作成	課題に取り組む。
8．縫製作業工程分析表の作成 2．校正	課題を完成させる。
９．工業用パターンの作成 1．パターンの作成	工業用ﾊﾟﾀｰﾝの文献収集と課題の取組。
10．工業用パターンの作成 2．工業用パターンへの展開	課題に取り組む。
11．工業用パターンの作成 3．グレーディング	課題を完成させる。
12．マーキング	課題に取り組み、内容を振り返る。
13．縫製機器のレイアウト	課題に取り組む。
14．プレゼンテーション（課題の発表）、リメイク	課題に取り組む。
15．おわりに：課題の振り返り、授業のまとめ	全範囲を振り返る。課題を完成させる。

履修上の注意　遅刻・欠席をせず、課題を計画通りに進めること。授業に必要な道具を（テキスト、洋裁セット一式、ノート、ファイル、衣服等）を毎回持参する。分解しても構わない衣服を１着準備する。

成績評価方法・基準

受講状況（作業状況、ミニットペーパー）50%、課題・提出物 50%

教科書　繊維製品の基礎知識ｼﾘｰｽﾞ、ｱﾊﾟﾚﾙ設計生産論、日本衣料管理協会　入学時と２年次に購入済

参考書　必要に応じて紹介する。

備　考

実習の作業状況、機器の台数の都合により、授業計画の順番や内容の変更を行う場合がある。

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価や進め方は１回目の授業で説明する。

課題は、授業中にフィードバッグ、または後日添削して返却する。

課題が未提出、実施されない等の際には、評価の対象としないことがある。

分解する衣服は襟・カフス付きのシャツブラウス、またはポケット・ファスナー付きのパンツとする。

授業科目名	アパレル企画設計演習			単位（総授業時間＋自習時間）		2(60+30)			
担当者	菊地　紗代	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服専４年

授業概要

これまでの被服分野の専門科目で習得した知識・技術を発展させ、まず始めに規定のテーマに沿ったアパレル製品の企画・分析・設計・プレゼンテーションを実施する。次に現在の衣生活の中の問題点を見つけて解決のためのテーマを設定し、企画・設計・さらに実際に製作し、プレゼンテーションを実施することで理解を深める。問題解決方法を探り、論理的に考察し、再びアパレルとして還元する企画能力が身につくよう指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
衣生活の問題点を把握し、考察する能力を身につける。			○						
課題解決方法を探り、実行し、プレゼンテーションができる。				○	○			○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.オリエンテーション	アパレル関連の授業を振り返る。
2.課題１：企画	テーマについて調べる。
3.　目的、対象	資料・情報収集し、検討する。
4.　調査、分析	資料・情報収集し、検討する。
5.　環境・機能性検討	資料・情報収集し、検討する。
6.　色彩・付属品検討	資料・情報収集し、検討する。
7.　プレゼンテーション	事前準備をする。
8.　相互評価	結果を考察する。
9.課題２：衣服の問題点の把握、整理	衣生活上の課題をまとめる。
10.　現状調査	資料・情報収集、市場調査をする。
11.　問題解決のためのテーマ決定	テーマを決定する。
12.　問題解決のための情報収集、解決方法検討	資料・情報収集し、解決方法を検討する。
13.　製作①縫製方法・作業工程分析	製作計画を立てる。
14.　製作②パターン制作	資料収集し、パターンを作成する。
15.　製作③材料選定	材料を調達する。
16.　製作②裁断（シーチング）	試作する。
17.　製作③仮縫い（シーチング）	試作する。
18.　製作④試着、補正	試作し、補正する。
19.　製作⑤地直し、裁断	裁断する。
20.　製作⑥印つけ、本縫い	製品を縫製する。
21.　製作⑦本縫い	製品を縫製する。
22.　製作⑧本縫い	製品を縫製する。
23.　製作⑨本縫い	製品を縫製する。
24.　製作⑩本縫い	製品を縫製する。
25.　製作⑪本縫い、付属品付け	製品を縫製する。
26.　製作⑫仕上げ、検品	製品を完成させる。
27.プレゼンテーション準備	準備を整える。
28.プレゼンテーション	課題に取り組む。
29.相互評価、新たに出た問題点の把握	結果を考察する。
30.まとめ	全行程を振り返る。

履修上の注意　日頃からアパレル製品に興味を持ち、市場調査をしておくこと。材料費は各自負担。

成績評価方法・基準　提出物 60%、受講状況（作業状況、ミニットペーパー）を 40%として評価する。
課題については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。

教科書　各自のテーマに応じて指示する。

参考書　無し（適宜、プリントを配布する。）

備　考　受講生の進度によりシラバス内容が前後することがある。
課題が未提出、実施されない場合には評価の対象としないことがある。
質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。

授業科目名	アパレル企画論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	井上　美紀	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専２年

授業概要

アパレル企業における仕事の中の、「企画設計」分野について主に教授する。

アパレル企画・設計に必要な消費者ニーズのとらえ方、ファッション情報の収集の仕方、ファッション情報の分析の仕方について主に取り上げる。また、企画を具現化する方法についても教授する。

特に授業では、企画の背景や意図、商品化、展示会までの全体の流れについて、課題に取り組みながら理解できるように指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
アパレル企画設計に関する知識を身につける。					○				
技能・コミュニケーション能力、論理的思考力を身につける。				○					
倫理観、責任感を身につける。							○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．はじめに、アパレル商品の種類と特徴、市場動向	プリントを見直す。
２．アパレル企画設計のプロセス、進め方	プリントを見直す。
３．ブランドコンセプト設定、ブランドボードの作成	ボードを完成させる。
４．市場動向、競合他社の情報収集（図書館にて実施）	ネット、雑誌などでの情報を収集する。
５．市場動向、競合他社の分析	ポジショニングマップを完成させる。
６．今期のコンセプト設定	プリントを見直す。
７．商品企画設計	プリントを見直す。
８．カラー・素材企画設計	プリントを見直す。
９．コーディネート企画設計	プリントを見直す。
10．ファッションボードの作成　（6～10 は同時進行）	ボードを完成させる。
11．展示会シミュレーション	プリントを見直す。
12．展示会用シミュレーションボードの作成	シミュレーションボードを完成させる。
13．販売促進企画	プリントを見直す。
14．プレゼンテーションの準備	プレゼン用資料を完成させる。
15．おわりに、プレゼン・講評会、これからのアパレル企画	プレゼン内容と学習範囲を見直す。

履修上の注意

ファッション雑誌、はさみ、糊、色ペン等を準備する（使用前に授業内で指示）。

提出物の期限を守ること。

成績評価方法・基準

課題の進行状況等の受講態度に対し 50%、プレゼンテーションの内容、提出物 50%

教科書　授業前にプリントを配布する。

参考書　繊維製品の基礎知識ｼﾘｰｽﾞ 日本衣料管理協会　入学時購入済

備　考

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
評価や提出物等は１回目の授業で説明する。
提出物は後日添削して返却しフィードバッグする。
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
提出物が未提出の場合は評価の対象としない。

授業科目名	アパレル CAD Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）			1(30+15)		
担当者	佐藤　理恵	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専２年

授業概要

●数々の国内メーカーの型紙や縫製仕様、工業用パターン製作に携わった経験を、アパレル CAD の講義及び実技演習を通じて指導する。
●アパレル CAD（パターンメーキング、工業用パターンメーキング、マーキング、グレーディング）とは何か。
●企業でのアパレル CAD の役割（服作りとしての知識の把握、設計や生産工程の効率化等）。
●アパレル CAD でどの様なことが出来るのか基本操作を中心に説明し、演習（身頃の原型、スカートの原型のパターン作成）を行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. アパレル CAD の基本操作を学ぶ。	○	○	○		○	○			
2. アパレル CAD で原型を作成する技術を習得する。	○	○	○		○	○			

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．オリエンテーション	
２．基本操作①（CAD ソフトの開始・終了、直線、曲線等）	基本操作①の復習
３．基本操作②（コピー・移動、ファイルに保存、印刷等）	原型の書き方を予習復習し理解する
４．作図①（身頃の原型作成：新文化式）	作図①の復習
５．講義（身頃の原型を利用して工業用パターンを何かを学ぶ）	スカート原型の書き方を予習復習し理解する
６．作図②（スカートの原型作成：新文化式）	作図②の復習
７．作図③（スカートの原型から工業用パターンへと展開する為に必要な情報を加える）マーキングについて	作図③、マーキングについて復習
８．まとめ、試験	プリント配布するので記載内容を予習

履修上の注意

初回の講義で説明する履修上の注意を厳守すること。
アパレル CADⅡを選択することが望ましい。

成績評価方法・基準

試験　80%、平常点　20%（平常点は授業への総合的な取り組みで判断する。）
試験は採点後、後日返却する。

教科書　使用せず

参考書　〔CAD パターンメーキング〕〔文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔2,754 円〕

備　考　・ルーブリック評価については第１回目の授業で説明します。
・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付けます。

授業科目名	アパレル CAD Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	佐藤　理恵	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専３年

授業概要

●数々の国内メーカーの型紙や縫製仕様、工業用パターン製作に携わった経験を、アパレル CAD の講義及び実技演習を通じて指導する。
●アパレル CAD（パターンメーキング、工業用パターンメーキング、マーキング、グレーディング）とは何か。
●企業でのアパレル CAD の役割（服作りとしての知識の把握、設計や生産工程の効率化等）を説明。
●アパレル CAD でどの様なことが出来るのか基本操作及び応用について講義し、演習（身頃の原型、スカートの原型、ブラウスのパターン作成）を行う。
●自由作図（ワンピース・パンツ・ベスト・ジャケット・コート等のパターン作成）を行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1.アパレル CAD の基本操作からの応用技術を学ぶ。	○	○	○		○	○	○	○	○
2.アパレル CAD で多種多様なアイテムを作成し専門技術を身に着ける。	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．オリエンテーション	
２．基本操作の復習（CAD ソフトの開始・終了、直線、曲線等） ３．作図①（身頃の原型作成：新文化式） ４．作図②（身頃のダーツの展開と分散）	基本操作の復習 原型の書き方を予習復習し理解する 作図②の復習
５．作図③（身頃のダーツのデザイン展開） ６．作図④（身頃の原型からブラウスパターンへ展開：原型操作）	作図③の復習 プリント配布するので記載内容を予習
７．作図⑤（身頃の原型からブラウスパターンへ展開：身頃の作図） ８．作図⑥（ブラウスのパターンから工業用パターンへと展開する為に必要な情報を加える） ９．作図⑦（スカートの原型作成、スカートの原型から工業用パターンへと展開する為に必要な情報を加える）	作図⑤の復習 作図⑥の復習 スカート原型の書き方を予習復習し理解する
10. 作図⑧（ダーツの展開：原型からフレアスカートとマーメードスカートのパターンへ） 11. 作図⑨（自由作図）ワンピース等を作図する。	作図⑧の復習 自由作図デザインのレポート 作図⑨の復習
12. 作図⑩（自由作図）　同上 13. 作図⑪（自由作図）⑩で作図した型紙を用いて縫製仕様書を作成 14. 作図⑫（自由作図）作図した型紙を 1/2 サイズと実寸で印刷、グレーディングについて 15. まとめ、試験	作図⑩の復習 作図⑪の復習 作図⑫、グレーディングについての復習

履修上の注意

初回の講義で説明する履修上の注意を厳守すること。
アパレル CAD Ⅰ を選択していることが望ましい。

成績評価方法・基準

試験　70%、課題（自由作図、レポート、縫製仕様書）30%　試験、課題は採点後、後日返却する。

教科書　使用せず

参考書　〔CAD パターンメーキング〕〔文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔2,754 円〕

備　考

・ルーブリック評価については第１回目の授業で説明します。
・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付けます。

授業科目名	服飾工芸・造形（服飾手芸）Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）			1(45＋30)		
担当者	黒澤　宜子	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	服専２年

授業概要

刺繍とは、布地の面に針と糸で模様などを縫いあらわし、布地を美しく加工する方法のひとつである。２種類のドイリー(敷物)を製作し、基本ステッチの技法を教える。多種多様な糸やリボンに触れ、製作物の用途や手法に合わせて素材を選べるようにする。①太さが異なる刺繍糸やリボン、立体刺繍などを組み合わせて装飾。②規則正しく並べて刺すブロック刺繍と、その部分の織糸をカットして格子状に抜き、かがりステッチで模様を表すハーダンガー刺繍で装飾。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
刺繍の基本ステッチの技法を習得する。					○		○		○
習得した技法を応用作品に活かせる。					○		○		○
製作品の用途や手法に合わせた素材選びの知識を深める。					○		○		○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.「授業内容と進め方」「用具と材料」説明／布端の裁ち目かがり／図案を写す	次回から基本ｽﾃｯﾁに取り組めるように、図案写しを仕上げる。
2.基本ｽﾃｯﾁ(①ﾗﾝﾆﾝｸﾞｽﾃｯﾁ、②ｽﾚｯﾃｨﾄﾞﾗﾝﾆﾝｸﾞｽﾃｯﾁ　他６種)	①～⑦を仕上げる。
3.基本ｽﾃｯﾁ(⑧ｹｰﾌﾞﾙｽﾃｯﾁ、⑨ｺｰﾁﾝｸﾞｽﾃｯﾁ　他２種)	⑧～⑩⑭を仕上げる。
4.基本ｽﾃｯﾁ(⑪ｻﾃﾝｽﾃｯﾁ、⑫ﾘｰﾌｽﾃｯﾁ、ﾊﾞｯｸｽﾃｯﾁ　他２種)	⑪～⑬⑮、『ﾌﾞﾙｰﾍﾞﾘｰ』を仕上げる。
5.基本ｽﾃｯﾁ(⑮'ﾊﾞﾘｵﾝﾉｯﾄｽﾃｯﾁ、⑯ｽﾄﾚｰﾄｽﾃｯﾁ、ﾚｾﾞｰﾃﾞｰｼﾞｰｽﾃｯﾁ他２種)	⑮'～⑱、『木』『りんご(ｽﾌﾟﾘｯﾄｽﾃｯﾁ)』を仕上げる。
6.基本ｽﾃｯﾁ(⑲ｱｳﾄﾗｲﾝｽﾃｯﾁ、ｽﾊﾟｲﾀﾞｰｽﾞｳｪﾌﾞｽﾃｯﾁなど　他１種)	⑲～⑳、ﾌﾚﾝﾁﾅｯﾂｽﾃｯﾁ(ﾌﾞﾙｰﾍﾞﾘｰ、木、りんご)
7.基本ｽﾃｯﾁ(□ﾁｪｰﾝｽﾃｯﾁ、ﾌﾞﾗﾝｹｯﾄｽﾃｯﾁなど　他ﾘﾎﾞﾝ２種)	□～□、『糸』３種を仕上げる。
8.基本ｽﾃｯﾁ(立体刺繍□ﾊﾞｯｸﾞ、□ｽｶｰﾄ、横布端１cm三つ折り：ﾍﾑｽﾃｯﾁ)	□～□、ﾍﾑｽﾃｯﾁを仕上げる。
9.基本ｽﾃｯﾁ(立体刺繍□上衣、□帽子、□ﾋﾟﾝｸｯｼｮﾝ、縦布端１cm三つ折り)	□～□、縦布端１cm三つ折りを仕上げる。
10.基本ｽﾃｯﾁ(縦布端：ｸﾛｰｽﾞﾄﾞﾎﾞﾀﾝﾎｰﾙｽﾃｯﾁ、かがりｽﾃｯﾁ)／ﾊｰﾀﾞﾝｶﾞｰ刺繍について説明	ｸﾛｰｽﾞﾄﾞﾎﾞﾀﾝﾎｰﾙｽﾃｯﾁ、かがりｽﾃｯﾁを仕上げる。ﾊｰﾀﾞﾝｶﾞｰ刺繍用の糸＃５を各自準備。
11.基本ｽﾃｯﾁで装飾したﾄﾞｲﾘｰのｱｲﾛﾝ仕上げ、作品ｶｰﾄﾞを記入し提出／ﾊｰﾀﾞﾝｶﾞｰ刺繍①：裁ち目かがり、縦横の中心に案内線を入れる、ｸﾛｽｽﾀｰﾌﾞﾛｯｸをｽﾃｯﾁ)	全体の 1/2 部分をｸﾛｽｽﾀｰﾌﾞﾛｯｸでｽﾃｯﾁする。
12.ﾊｰﾀﾞﾝｶﾞｰ刺繍②：ｸﾛｽｽﾀｰﾌﾞﾛｯｸをｽﾃｯﾁ、織糸をｶｯﾄし格子状に抜く	ｸﾛｽｽﾀｰﾌﾞﾛｯｸのｽﾃｯﾁを仕上げ、その内側の織糸をｶｯﾄし、格子状に抜く。
13.ﾊｰﾀﾞﾝｶﾞｰ刺繍③：格子状に抜いた糸をかがりｽﾃｯﾁ	かがりｽﾃｯﾁを仕上げる。
14.ﾊｰﾀﾞﾝｶﾞｰ刺繍④：縁の始末(ﾌﾞﾗﾝｹｯﾄｽﾃｯﾁ)	ﾌﾞﾗﾝｹｯﾄｽﾃｯﾁを仕上げる。
15.ﾊｰﾀﾞﾝｶﾞｰ刺繍⑤：外回りの布をｶｯﾄ、ｱｲﾛﾝ仕上げ、作品ｶｰﾄﾞを記入し提出	完成作品に作品カードを縫い付けて提出。

履修上の注意

進度が異なるので自ら質問し、理解した上で丁寧に製作すること。また、時間外学習に繋げられるように取り組む。材料費 600 円。

成績評価方法・基準

課題作品（60%）計画的に取り組む授業姿勢(事前・事後学習を含む)（40%）作品にコメント付す。

教科書：授業前にプリントを配布

参考書：なし

備　考

質問等については、授業終了時のオフィスアワーに受付けます。

授業科目名	服飾工芸・造形（服飾手芸）Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(45＋30)
担当者	黒澤　宜子	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	服専２年

授業概要

かぎ針編みとは、針先がかぎ状となったかぎ針１本を使って編む手編みの編み方で、コースター(２種類)とミニドイリー(敷物)を製作。棒針編みとは、編み棒を使って編むところから分類された名称であり、２本針を用いてマフラーを製作。見本を基に各自で糸を選び、糸の種類や太さに合わせたかぎ針・棒針を準備。そして課題作品に取り組みながら「記号図の見方」「糸と針の持ち方」「最初の作り目の作り方」「編み目記号と編み方」などの基礎を教え、応用作品に活かせるようにする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
編み物の「記号図の見方」「編み目記号」を理解する。					○		○		○
「糸と針の持ち方」「作り目」「編み方」などの基礎を習得する。					○		○		○
製作品に合わせた素材を選び、編み物ができる。					○		○		○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.「授業内容と進め方」「用具と材料」説明／かぎ針編み①「糸とかぎ針の持ち方」「作り目の作り方」(鎖編み、引き抜き編み、長編み)	次回から使用する、かぎ針と糸を各自準備する。
２.かぎ針編み②ｺｰｽﾀｰＡ：「記号図の見方」「作り目」「編み目記号と編み方」(1～4 段)	ｺｰｽﾀｰＡ：1～4 段まで仕上げる。
３.かぎ針編み③ｺｰｽﾀｰＡ：「編み目記号と編み方」(5～6 段)／ｺｰｽﾀｰＢ：(1～2 段)	ｺｰｽﾀｰＡ：5～6 段、ｺｰｽﾀｰＢ：1～2 段まで仕上げる。
４.かぎ針編み④ｺｰｽﾀｰＢ：「編み目記号と編み方」(3～6 段)	ｺｰｽﾀｰＢ：3～6 段仕上げる。
５.かぎ針編み⑤ﾐﾆﾄﾞｲﾘｰ：「編み目記号と編み方」(ﾓﾁｰﾌ 5 個繋げる)	ﾐﾆﾄﾞｲﾘｰ：ﾓﾁｰﾌ 5 個繋げて仕上げる。
６.かぎ針編み⑥ﾐﾆﾄﾞｲﾘｰ：「編み目記号と編み方」(ﾓﾁｰﾌ 7 個繋げる)／ｺｰｽﾀｰＡ・Ｂ、ﾐﾆﾄﾞｲﾘｰをｱｲﾛﾝ仕上げ、作品ｶｰﾄﾞ記入、作品提出	完成作品に、作品カードを縫い付けて提出。
７.棒針編み①棒針編みについて説明：「記号図の見方」「糸と棒針の持ち方」「最初の作り目」（表目編み、裏目編み）	次回から使用する、棒針と毛糸を各自準備する。
８.棒針編み②ﾏﾌﾗｰ：「糸と棒針の持ち方」「最初の作り目」「編み目記号と編み方」(1～31 段)	ﾏﾌﾗｰ：1～31 段仕上げる。
９.棒針編み③ﾏﾌﾗｰ：「編み目記号と編み方」(32～63 段)	ﾏﾌﾗｰ：32～63 段仕上げる。
10.棒針編み④ﾏﾌﾗｰ：「編み目記号と編み方」(64～95 段)	ﾏﾌﾗｰ：64～95 段仕上げる。
11.棒針編み⑤ﾏﾌﾗｰ：「編み目記号と編み方」(96～127 段)	ﾏﾌﾗｰ：96～127 段仕上げる。
12.棒針編み⑥ﾏﾌﾗｰ：「編み目記号と編み方」(128～159 段)	ﾏﾌﾗｰ：128～159 段仕上げる。
13.棒針編み⑦ﾏﾌﾗｰ：「編み目記号と編み方」(160～191 段)	ﾏﾌﾗｰ：160～191 段仕上げる。
14.棒針編み⑧ﾏﾌﾗｰ：「編み目記号と編み方」(192～223 段)	ﾏﾌﾗｰ：192～223 段仕上げる。
15.棒針編み⑨ﾏﾌﾗｰ：「編み目記号と編み方」(224～248 段)、ﾌﾘﾝｼﾞを付けて仕上げる、作品ｶｰﾄﾞを記入、作品提出	完成作品に作品カードを縫い付けて提出。

履修上の注意

進度が異なるので自ら質問し、理解した上で丁寧に製作すること。また、時間外学習に繋げられるように取り組む。

成績評価方法・基準

課題作品（60%）計画的に取り組む授業姿勢(事前・事後学習を含む)（40%）作品にコメント付す。

教科書：授業前にプリントを配布

参考書：なし

備　考

質問等については、授業終了時のオフィスアワーに受付けます。

授業科目名	服飾工芸・造形Ⅲ（織物）	単位（総授業時間＋自習時間）	1(45＋15)

担当者	横田　美和	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	服専４年

授業概要

卓上織機を使用し織物を制作するための知識や技術を教授する。
前半はテキスタイルデザインⅠで学んだ作業工程と道具の使い方等を振り返る。また、織物の三原組織（平織、綾織、繻子織）の他にもある変化組織についても、組織図の見方・書き方を教授し制作につなげる。
　後半ではオリジナル作品を制作する。そのためのデザイン・材料選び等の準備を通して、より作業工程の理解を深め更に織物製品としての完成度を高めるための技術を身につけられるように教授する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
織物に関する技術を身につける。					○		○		
織物の組織についての知識を身につける。					○		○		
織物制作を通して布製品の扱い方を身につける。			○				○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.「授業内容と進め方」の説明と織物組織・道具類の確認	三原組織・変化組織を調べておく
2.「設計表作り」と「整経」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
3.「経巻」と「小拵え」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
4.「織る」作業（前半）	時間内に終わらない時は完成させておく
5.「織る」作業（後半）	時間内に終わらない時は完成させておく
6.仕上げと講評	これまでの工程をまとめておく
7オリジナル作品のデザインと設計表作り.	オリジナル作品のデザインを考えておく
8.「整経」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
9.「経巻」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
10.「小拵え」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
11.「織る」作業（前半）	時間内に終わらない時は完成させておく
12.「織る」作業（中間）	時間内に終わらない時は完成させておく
13.「織る」作業（後半）	時間内に終わらない時は完成させておく
14.仕上げ	時間内に終わらない時は完成させておく
15.講評・まとめ	これまでの工程をまとめておく

履修上の注意

オリジナル作品で使用する糸は各自で購入のこと。

講義一回で一工程進むため遅れた場合は次回までに終わらせておく。

成績評価方法・基準

課題作品 60%・受講態度 40%

※課題が未提出の際には評価の対象としないことがあります。提出物は添削して後日返却します。

※受講態度はその時間の作業工程を理解・クリアしているかの状況をみて評価します。

教科書　無し

参考書　無し

備　考

都合により授業計画の順番等を変更することがあります。

質問等については授業終了後に受け付けます。

授業科目名	被服繊維学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	菅野　修一	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服専１年

授業概要

被服繊維の観点から高分子化学について講述する。繊維の性質や製造法について理解を深めることをとおして、高分子化学に関する学問体系全体の概念に接することを重視するが、より具体的には、繊維の分子構造に由来する繊維特性について詳しく解説する。一方、原始時代から今日に至るまでの繊維の歴史が、科学技術発展の歴史と明確にリンクしていることをの理解を深めることで、日常なにげなく当たり前に使用している被服の奥深さを認識させ、そのベースとなっている学問の幅の広さについても繰り返し説明する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
高分子の概念の理解。	○	○	○		○				○
繊維の体系的な理解。	○	○	○		○				○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．高分子とは何か：高分子の特徴と分子量	教科書指定ページの熟読。
２．　〃　：環境と高分子	教科書指定ページの熟読。
３．高分子鎖のかたち：コンホメーションとコンフィグレーション	教科書指定ページの熟読。
４．繊維としての高分子化合物	教科書指定ページの熟読。
５．天然繊維：植物繊維（種子毛繊維）	講義ノートの総まとめ（1回目）。
６．　〃　：　〃　（靭皮繊維と葉脈繊維）	教科書指定ページの熟読。
７．　〃　：動物繊維（繭繊維）	教科書指定ページの熟読。
８．　〃　：　〃　（獣毛繊維）	教科書指定ページの熟読。
９．化学繊維：再生繊維・半合成繊維	教科書指定ページの熟読。
10.　〃　：合成繊維	講義ノートの総まとめ（2回目）。
11.　〃　：最新の合成繊維	教科書指定ページの熟読。
12. 高分子の合成：　付加重合	教科書指定ページの熟読。
13.　〃　：重縮合	課題を指定。
14. 高分子の合成反応速度論	教科書指定ページの熟読。
15. 機能性ポリマー：様々な最新のポリマー	講義ノートの総まとめ（3回目）。

履修上の注意

理解をより深めるため、有機化学Ⅰ・Ⅱ及び化学Ⅰ・Ⅱの受講が望ましい。

成績評価方法・基準

小テスト30%、レポート30%、課題プレゼンテーション40%を基準として総合的に評価する。

（小テストは直後に答え合わせをする。）

教科書　[繊維製品の基礎知識シリーズ第１部] [日本衣料管理協会刊行委員会] [日本衣料管理協会] [1800円]

参考書　必要なプリント配布

備　考

質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

授業科目名	被服繊維学実験			単位（総授業時間＋自習時間）					1(45+15)
担当者	井上　美紀	必・選	必	形態	実験	学期	後期	対象	服専１年

授業概要

被服繊維学で学んだ知識について実験を通してさらに理解を深められるように、繊維の鑑別実験、繊維の製造実験、繊維の取出し実験、繊維から織物の制作実験、糸の番手・表示実験を主に教授する。特に繊維の鑑別実験では、各繊維の特徴をとらえることができるように実験方法と分析方法についても解説する。また、はじめての科学的な実験になるため、実験の進め方や器具の使い方、溶液の調整方法、レポートのまとめ方、実験データの考察の仕方についても教授する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
繊維、糸等に関する高度な知識・技術を身につける。			○						
実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。					○		○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．はじめに：概要、進め方、グループ構成、器具の使い方	器具の名称を覚える。
２．溶液調整、注意、レポート、鑑別実験１　外観・手触り	溶液の調整法とレポート書式を覚える。
３．鑑別実験２　各種試薬に対する溶解性	レポートを作成しプリントに目を通す。
４．鑑別実験３　燃焼特性	レポートを作成しプリントに目を通す。
５．鑑別実験４　染色性・呈色反応	レポートを作成しプリントに目を通す。
６．鑑別実験５　顕微鏡による形態観察	レポートを作成しプリントに目を通す。
７．鑑別実験６　赤外線吸収スペクトル	配布プリントに目を通す。
８．鑑別実験のまとめ	レポートを作成しプリントに目を通す。
９．繊維の製造　合成繊維	レポートを作成しプリントに目を通す。
10. 繊維の取り出し１　絹	レポートを作成しプリントに目を通す。
11. 繊維の取り出し２と紡績　綿	レポートを作成しプリントに目を通す。
12. 糸の実験　番手・撚り・表示	レポートを作成しプリントに目を通す。
13. 織布の制作１　手織	織り作業を終わらせる。
14. 織布の制作２　織機	配布プリントに目を通す。
15. おわりに：実験のまとめ、レポートの整理	レポートの校正した箇所を振り返る。

履修上の注意

安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。必要に応じ電卓を持参する（√機能付電卓、携帯電話不可）。レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。

成績評価方法・基準

実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し 50%
事前準備をしてグループで協力しながら実験結果を出すことに対し 50%

教科書　繊維製品の基礎知識ｼﾘｰｽﾞ 日本衣料管理協会　入学時購入済

参考書　必要に応じて授業内で紹介、授業前にプリントを配布する

備　考

実験作業状況等の都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価と実験の進め方は１回目の授業で説明する。

レポートは後日添削して返却する。レポートが未提出の際には、評価の対象としない。

授業科目名	被服材料学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	菅野　修一	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	服専１年

授業概要

主にケミストリーの観点から被服材料について論述する。被服材料について科学的に理解を深めることをとおして、科学に関する学問体系全体の概念に接することに主眼をおく。より具体的には、関連物質を化学式で理解し、その特性との因果関係を解説する。さらには、原始時代から今日に至るまでの繊維の歴史が、科学技術発展の歴史と明確にリンクしていることをの理解を深めることで、日常なにげなく当たり前に使用している被服の奥深さを認識させ、そのベースとなっている学問の幅の広さについても繰り返し説明する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
被服材料及び関連物質を化学式で理解。	○	○	○	○	○				○
繊物と編物の基礎知識の習得。	○	○	○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．被服材料としての繊維の歴史	教科書指定ページの熟読。
２．被服材料としての繊維とは何か質	教科書指定ページの熟読。
３．セルロースと植物繊維	教科書指定ページの熟読。
４．タンパク質と動物繊維	教科書指定ページの熟読。
５．原油と合成繊維	講義ノートの総まとめ（1 回目）。
６．糸の分類	教科書指定ページの熟読。
７．糸の製造プロセス	教科書指定ページの熟読。
８．糸の構造と性質	教科書指定ページの熟読。
９．織物の分類と製造法	教科書指定ページの熟読。
10. 織物の組織	講義ノートの総まとめ（2 回目）。
11. 織物の構造と性質	教科書指定ページの熟読。
12. 編物の分類と製造法	教科書指定ページの熟読。
13. 編物の組織	課題を指定。
14. 編物の構造と性質	教科書指定ページの熟読。
15. 環境保全の観点からの繊維のリサイクルについて	講義ノートの総まとめ（3 回目）。

履修上の注意

理解をより深めるため、有機化学Ⅰ・Ⅱ及び化学Ⅰ・Ⅱの受講が望ましい。

成績評価方法・基準

小テスト 30%、レポート 30%、課題プレゼンテーション 40%を基準として総合的に評価する。
（小テストは直後に答え合わせをする。）

教科書　[繊維製品の基礎知識シリーズ第 1 部] [日本衣料管理協会刊行委員会] [日本衣料管理協会] [1800 円]

参考書　必要なプリント配布

備　考

質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

授業科目名	被服材料学実験			単位（総授業時間＋自習時間）			1(45+15)		
担当者	井上　美紀	必・選	必	形態	実験	学期	前期	対象	服専２年

授業概要

被服材料学で学んだ知識について、実験を通してさらに理解を深められるように、織物・編物の構造分析、被服材料の性能に関わる消費性能試験を主に教授する。織物の基本構造と分析では、織布の作成方法について教授し、様々な織物への展開方法を解説する。布の消費性能試験では、各種強度、風合い、快適性に関わる実験の測定方法について教授し、さらに試験結果のまとめ方、分析方法、評価についても教授する。学外施設での外部研修も行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
被服材料に関する高度な知識・技術を身につける。			○						
実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。					○		○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．はじめに：概要、グループ構成　織物の基本構造と展開	織物の基本組織を見直す。
２．織物と編物の基本構造と展開、織機での織布の作製１	編物の組織と織物の変化組織を見直す。
３．織物・編物の構造分析、織機での織布の作製２（応用）	プリントに目を通す。
４．消費性能試験１　進め方、引張強度・引張伸度	レポートを作成しプリントに目を通す。
５．消費性能試験２　摩擦強度・破裂強度・引裂強度	レポートを作成しプリントに目を通す。
６．消費性能試験３　剪断特性・曲げ剛性	レポートを作成しプリントに目を通す。
７．消費性能試験４　防しわ性、剛軟性１	レポートを作成しプリントに目を通す。
８．消費性能試験５　剛軟性２、ドレープ性	レポートを作成しプリントに目を通す。
９．消費性能試験６　通気性、保温性	レポートを作成しプリントに目を通す。
10. 消費性能試験７　吸水性・透湿性	レポートを作成しプリントに目を通す。
11. 消費性能試験８　データの整理、性能試験のまとめ	レポートを作成しプリントに目を通す。
12. 消費性能と造形性１　試料作成	プリントに目を通す。
13. 消費性能と造形性２　性能測定、データ解析	レポートを作成しプリントに目を通す。
14. 外部研修　実施できない場合は消費性能試験に変える	レポートを作成しプリントに目を通す。
15. おわりに：本実験のまとめ、レポートの整理	レポートの校正した箇所を振り返る。

履修上の注意

安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。必要に応じ電卓を持参する（√機能付電卓、携帯電話不可）。レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。

成績評価方法・基準

実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し 50%

事前準備をしてグループで協力しながら実験結果を出すことに対し 50%

教科書　繊維製品の基礎知識ｼﾘｰｽﾞ 日本衣料管理協会　入学時購入済

参考書　必要に応じて授業内で紹介、授業前にプリントを配布する

備　考

実験作業状況等の都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
消費性能試験 1-7 は、機器の台数の関係で、班ごとに授業順番が変わる。
質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
評価と実験の進め方は１回目の授業で説明する。
レポートは後日添削して返却する。レポートが未提出の際には、評価の対象としない。
学外施設での研修は都合により実験に代わることもある。

授業科目名	被服整理学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	井上　美紀	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	服専２年

授業概要

被服の消費段階に行われる被服整理について教授する。特に洗濯用洗剤の主成分である界面活性剤、ビルダーと添加剤の作用、洗浄理論、各種繊維製品に適した洗濯方法、保管方法ついて主に教授する。表示では、取扱い絵表示の基本を教授するとともに、各製品に対する最適な表示の選択についても解説する。洗濯では、家庭洗濯と商業洗濯の実際について教授する。さらに被服の適切な取扱い方法や被服整理の環境との関連性、安全性についても解説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
被服整理に関する基礎的な知識を身につける。			○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．はじめに：被服整理とは、被服整理の意義、被服の汚れ	ﾃｷｽﾄ 1 章を読む。
2．汚れの付着機構、洗浄の型	ﾃｷｽﾄ 1 章を読む。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰを見直す。
3．洗剤の種類と成分、用途	ﾃｷｽﾄ 2 章を読む。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰを見直す。
4．界面活性剤の分類、製法と作用	ﾃｷｽﾄ 3 章を読む。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰを見直す。
5．ビルダー・添加物の機能	ﾃｷｽﾄ、ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰと中間テストを見直す。
6．洗濯用水と影響	ﾃｷｽﾄ 2 章を読む。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰを見直す。
7．洗浄の理論	ﾃｷｽﾄ 3 章を読む。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰを見直す。
8．洗浄方式、洗濯機	ﾃｷｽﾄ 4.6.7 章を読む,ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰを見直す。
9．漂白・増白	ﾃｷｽﾄ 8 章を読む。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰを見直す。
10. 柔軟加工・糊加工・仕上げ加工	ﾃｷｽﾄ 10 章ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰ中間ﾃｽﾄを見直す。
11. 家庭洗濯の実際	ﾃｷｽﾄ 5 章を読む。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰを見直す。
12. 商業洗濯の分類と方法	ﾃｷｽﾄ 12 章を読む。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰを見直す。
13. 表示と適切な取り扱い　（グループワーク）	ﾃｷｽﾄ 13 章を読む。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰを見直す。
14. 保存と管理・適切な取り扱い（グループワーク・プレゼン）	ﾃｷｽﾄ 11 章を読む。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰを見直す。
15. 被服整理と環境問題、おわりに：本講義のまとめ	ﾃｷｽﾄ 2 章ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰ中間ﾃｽﾄを見直す。
16. 本試験	全範囲を振り返る。

履修上の注意

ミニットペーパーを授業最初と最後に行い、単元毎に中間テストを行うので振返りを大切にする。

成績評価方法・基準

ミニットペーパーと中間テスト等の受講態度に対し 50%、本試験 50%（持ち込み不可）

教科書〔被服整理学〕〔日本衣料管理協会〕〔1,200 円〕

参考書　繊維製品の基礎知識ｼﾘｰｽﾞ日本衣料管理協会　入学時購入済

授業前にプリントを配布する

備　考

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価やミニットペーパー、中間テスト等は 1 回目の授業で説明する。

ミニットペーパーは後日添削して返却し、中間テストと試験は授業内でフィードバッグする。

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

授業科目名	被服整理学実験			単位（総授業時間＋自習時間）					1(45+15)
担当者	井上　美紀	必・選	必	形態	実験	学期	後期	対象	服専２年

授業概要

被服整理学で学んだ基礎的な理論について実験を通してさらに理解を深められるように、洗濯用洗剤の主成分である界面活性剤に関する実験、ビルダーや添加剤に関する実験、洗濯用水に関する実験、洗浄実験、漂白・増白実験、柔軟加工・糊加工・仕上げ加工実験について主に教授する。特に界面活性剤に関する実験では、製造方法、用途、洗浄作用についても取り上げ教授する。商業洗濯に対する理解を深めるため、関連施設で外部研修も行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
被服整理に関する高度な知識・技術を身につける。			○						
実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。					○		○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．はじめに：概要、実験上の注意、器具の使い方、汚れ定量	実験器具の使い方を見直す。
２．界面活性剤の製造１　陰イオン系合成界面活性剤	被服整理学の内容について見直す。
３．界面活性剤の製造２　石けん洗剤	レポートを作成しプリントに目を通す。
４．界面活性剤の分類と用途	レポートを作成しプリントに目を通す。
５．界面活性剤の性質と汚れの除去作用	プリントに目を通す。
６．表面張力と臨界ミセル濃度の測定	レポートを作成しプリントに目を通す。
７．洗濯用水の硬度、ビルダーと添加剤の作用	レポートを作成しプリントに目を通す。
８．洗浄実験１　洗浄準備、洗浄	プリントに目を通す。
９．洗浄実験２　洗浄力の測定、データの整理と解析	レポートを作成しプリントに目を通す。
10. 漂白実験１　漂白剤の型の分類	プリントに目を通す。
11. 漂白実験２　漂白剤の分類と用途、漂白力の測定	レポートを作成しプリントに目を通す。
12. しみ抜き実験	プリントに目を通す。
13. 商業洗濯　外部研修　都合により実施できない場合は実験に変える	レポートを作成しプリントに目を通す。
14. 仕上げ加工１　柔軟加工、糊加工、アイロン仕上げ	レポートを作成しプリントに目を通す。
15. 仕上げ加工２　測定、おわりに：まとめ、レポートの整理	レポートの校正した箇所を振り返る。

履修上の注意

安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。必要に応じ電卓を持参する（√機能付電卓、携帯電話不可）。レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。

成績評価方法・基準

実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し 50%

事前準備をしてグループで協力しながら実験結果を出すことに対し 50%

教科書　被服整理学　日本衣料管理協会　1200 円

参考書　必要に応じて授業内で紹介、授業前にプリントを配布する

備　考

実験作業状況等の都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価と実験の進め方は１回目の授業で説明する。

レポートは後日添削して返却する。レポートが未提出の際には、評価の対象としない。

学外施設での研修は都合により実験に代わることもある。

授業科目名	染色加工学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	井上　美紀	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専２年

授業概要

ほとんどの繊維製品には染色と加工が施されているので、繊維製品に関する染色加工について主に教授する。染色では染色理論、天然染料、合成染料、測色と表色、染色堅牢度等について解説する。また日本の伝統的な染色についても取り上げる。加工では、風合い改良、機能性付与・性能向上を目的とする加工、仕上げ加工等、様々な加工方法を教授する。さらに、染色加工に関連する安全性や環境への影響についても教授する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
染色・加工に関する基礎的な知識を身につける。			○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．はじめに：生活の中の色、色材、染色加工の歴史	プリントを見直す。
2．染色プロセス	ﾃｷｽﾄ 1 部 4-1 を読む。
3．染色理論　染着機構	ﾃｷｽﾄ 4-3。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰプリントを見直す
4．染料 1．合成染料	ﾃｷｽﾄ 4-3。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰプリントを見直す
5．代表的な合成染料と各種繊維の染色方法、染色条件	4-1～4-3。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰプリントを見直す
6．染料 2．天然染料、代表的な天然染料と染色方法	プリント、ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰを見直す。
7．捺染	4-4、ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰ中間テストを見直す。
8．工業染色技術、染色機	4-4 を読む。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰを見直す。
9．伝統的な染法・文様	プリントを見直す。
10. 測色、染色堅牢度 1　試験項目と試験方法	4-5 を読む。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰ、プリント見直す。
11. 染色堅牢度 2　評価	4-5 を読む。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰ、プリント見直す。
12. 事故事例品の原因追及と対策	プリントを見直す。
13. 整理仕上げ加工、特殊加工 1 外観・風合い改善加工等	4-6～4-8。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰプリントを見直す
14. 特殊加工 1、2 機能性付与加工等	4-6～4-8。ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰプリントを見直す
15. 染色加工と安全性、おわりに：本講義のまとめ	p112、ﾐﾆｯﾄﾍﾟｰﾊﾟｰ中間テストを見直す。
16. 試験	全範囲を振り返る。

履修上の注意

授業終了時にミニットペーパー、中間テストを単元毎に行うので振返りを大切にする。選択科目であるが、TA 取得希望者は必ず履修する。必要に応じ、√機能付電卓を持参する。（携帯電話不可）

成績評価方法・基準

ミニットペーパー、中間テスト等の受講態度に対し 50%、本試験 50%（持ち込み可）

教科書　繊維製品の基礎知識ｼﾘｰｽﾞ 日本衣料管理協会　入学時購入済

参考書　必要に応じて紹介する。授業前にプリントを配布する。

備　考

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
評価やミニットペーパー、中間テスト等は 1 回目の授業で説明する。
ミニットペーパーは後日添削して返却し、中間テストと試験は授業内でフィードバックする。
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

授業科目名	染色加工学実験			単位（総授業時間＋自習時間）					1(45+15)
担当者	井上　美紀	必・選	選	形態	実験	学期	前期	対象	服専３年

授業概要

染色加工学で学んだ知識をさらに理解を深められるように、染色実験、染色堅牢度試験、加工実験を主に教授する。特に工業的な量産の視点で実験を行う。染色実験では、染料の合成、天然染料による染色方法、合成染料による染色方法、測色、染着率の測定方法について教授する。また染色堅牢度試験では、染色堅牢度の測定方法とその評価方法について、加工実験では風合い改善、性能向上等、繊維の特性に応じた加工方法について教授する。関連施設での外部研修も行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
染色加工に関する高度な知識・技術を身につける。			○						
実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。					○		○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.概要、進め方、グループ構成　　染料の合成実験	染色加工学の学習範囲を見直す。
2．天然染料による染色１　染料の抽出と染色・媒染	レポートを作成しプリントに目を通す。
3．天然染料による染色２　特殊な染色①　　作業の都合上、	プリントに目を通す。
4．天然染料による染色３　特殊な染色②　　3-4 は同時進行	レポートを作成しプリントに目を通す。
5．合成染料による染色１　各種繊維の染色性、染色条件	レポートを作成しプリントに目を通す。
6.合成染料による染色２　代表的な染料と染色、染色見本作成	プリントに目を通す。
7．合成染料による染色３　測色　作業の都合上、6−7 は同時進行	レポートを作成しプリントに目を通す。
8．染着率の測定、染色堅牢度試験１　試料の準備	プリントに目を通す。
9．染色堅牢度試験２　概要、染色堅牢度の測定と評価	レポートを作成しプリントに目を通す。
10. 捺染実験１　染色と捺染の比較、製版とプリント	プリントに目を通す。
11. 捺染実験２　プリント、製品への展開	レポートを作成しプリントに目を通す。
12. 外部研修（山形市の工場にて）都合により実施できない場合は実験に変える	レポートを作成しプリントに目を通す。
13. 加工実験１　繊維の溶解性を利用した加工	プリントに目を通す。
14.　　〃　　２　繊維の特性や加工剤を利用した加工	レポートを作成しプリントに目を通す。
15. 加工実験３　応用実験、実験のまとめ、レポート整理	レポートの校正した箇所を振り返る。

履修上の注意　安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。必要に応じ電卓を持参する（√機能付電卓、携帯電話不可）。レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。選択科目ではあるが、TA 資格取得希望者は必ず履修すること。

成績評価方法・基準

実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し 50%
事前準備をしてグループで協力しながら実験結果を出すことに対し 50%

教科書　繊維製品の基礎知識ｼﾘｰｽﾞ 日本衣料管理協会　入学時購入済

参考書　授業前にプリントを配布する。必要に応じて紹介します。

備　考

実験作業状況等の都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
評価と実験の進め方は１回目の授業で説明する。
レポートは後日添削して返却する。レポートが未提出の際には、評価の対象としない。
学外施設での研修は都合により実験に代わることもある。外部研修のための費用（1500 円程度）

授業科目名	染色学実習			単位（総授業時間＋自習時間）					2(90+30)
担当者	川又　勝子	必・選	選	形態	実習	学期	通年	対象	服専３年

授業概要

日本の伝統的染色技法は、世界的にみても類のない繊細で巧みな技術が駆使されているものである。本実習では、各種の伝統的染色技法の中から、絞り染め・ろうけつ染め・友禅染・型染め・描き更紗・藍染めを取り上げ、染色作品制作の基礎を指導する。これまでに習得した繊維や染料についての知識を生かしながら、前期は主に浸染の技法、後期は捺染の技法を行うことで、それぞれの染色技法の特徴を理解させ、伝統工芸への理解を深めさせる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本の伝統的染色技法の基本的技法を習得する。							○		
伝統工芸への理解を深める。					○				
これまでに習得した繊維や染料に関する知識を応用できる。									○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．①ガイダンス、②伝統的染色技法、③染色用具・染料・助剤、④図案	板書内容を復習する、絞り染め基礎作品の下絵作成
2．工芸染色① 浸染―絞り染めの基礎（縫い絞り）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
3．　〃　　〃　（直接染料による浸染）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
4．　〃　　〃　（仕上げ・有松絞り DVD 鑑賞）	ファイルまとめ、絞り染め応用作品の下絵作成
5．工芸染色② 絞り染め応用作品制作（縫う）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
6．　〃　（絞る）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
7．　〃　（反応染料による浸染）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
8．　〃　（仕上げ）	ファイルまとめ、ろうけつ染め基礎作品の下絵作成
9．工芸染色③ 浸染―ろうけつ染めの基礎　（防染）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
10．　〃　　〃　（建染染料による浸染）	ファイルまとめ、ろうけつ染め応用作品の下絵作成
11．工芸染色④ ろうけつ染め応用作品制作　（ろう描き）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
12．　〃　　〃　（反応染料による彩色）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
13．　〃　　〃　（ろう伏せ）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
14．　〃　　〃　（建染染料による浸染）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
15．　〃　　〃　（脱ろう・仕上げ）	ファイルまとめ
16．工芸染色⑤ 捺染―友禅染の基礎・京友禅 DVD 鑑賞・下絵	レポート作成、友禅染作品の下絵作成
17．　〃　手描き友禅作品制作　（青花・糸目糊）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
18．　〃　　〃　（彩色）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
19．　〃　　〃　（糊伏せ）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
20．　〃　　〃　（地染め）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
21．　〃　（蒸し・水元・仕上げ）、型染め DVD 鑑賞	ファイルまとめ、レポート作成型絵染めの下絵作成
22．工芸染色⑥ 捺染―型染の基礎・型絵染作品制作（型彫り）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
22．　〃　型絵染作品制作　（型彫りつづき）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
23．　〃　　〃　（紗張り・型置き）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
24．　〃　　〃　（彩色・糊伏せ）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
25．　〃　　〃　（引き染）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
26．　〃　（蒸し・水元・仕上げ）、更紗の作品鑑賞	ファイルまとめ、描き更紗作品の下絵作成
27．工芸染色⑦ 捺染―描き更紗作品制作　（彩色）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
28．　〃　　〃　（蒸し・水元・仕上げ）	制作ノート記入、ファイルまとめ
29．工芸染色⑧―藍の浸染	制作ノート記入、ファイルまとめ
30．授業のまとめ・各種染色技法と繊維製品の取り扱い	ファイルまとめ

履修上の注意　染色加工学の単位を修得していることが望ましい。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。制作ノートはその都度きちんとまとめてください。材料費として 2,000 円程度を徴収します。

成績評価方法・基準　提出物（制作品・ファイル）による評価を 55%、受講状況（制作ノート・参加状況）を 45%として評価します。なお、提出物や制作ノートはコメントを付して後日返却します。

教科書　なし

参考書〔きもののたのしみ〕〔全日本きもの振興会 編〕〔世界文化社〕〔2,160 円〕

備　考　ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

授業科目名	テキスタイルデザインⅠ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(45+45)
担当者	川又勝子・三浦輝子	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	服専３年

授業概要

衣服の企画・設計にあたっては、使用目的や用途にあった物性・風合い･色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択できる能力が不可欠である。そこで本実習では、被服繊維学・被服材料学・色彩学・染色加工学等で習得したテキスタイルに関する基礎知識をもとに、パソコン・布帛用インクジェットプリンタを用いたテキスタイルデザイン実習と、卓上手織り機による織布実習を通して、目的・用途に応じた織物および色柄の形成方法について指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
用途や目的に合った物性・風合い・色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択するための知識と技術を身に付ける。					○		○		
これまでに習得した基礎知識をテキスタイルに応用できる。			○						○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．テキスタイルデザインの概要　(川又)	配布プリントを熟読する
2．繊維素材とﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ、ﾄﾞﾛｰｿﾌﾄの基本操作 (川又)	制作ノート完成、終わらなかった作業を終わらせる
3．織編と編物、ﾄﾞﾛｰｿﾌﾄによる基本的なﾘﾋﾟｰﾄ柄作成 (川又)	制作ノート完成、終わらなかった作業を終わらせる
4．布地の風合い、ﾌｫﾄﾚﾀｯﾁｿﾌﾄによる織柄表現(川又)	制作ノート完成、終わらなかった作業を終わらせる
5．代表的な織物の名称と組織(専用ｿﾌﾄ使用) (川又)	制作ノート完成、終わらなかった作業を終わらせる
6．ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ専用ｿﾌﾄによる布帛の企画 (川又)	制作ノート完成、終わらなかった作業を終わらせる
7．布帛用ｲﾝｸｼﾞｪｯﾄﾌﾟﾘﾝﾀによる布帛の捺染 (川又)	制作ノート完成、終わらなかった作業を終わらせる
8．ﾃｰﾌﾞﾙｾﾝﾀｰ制作：デザイン・織物計画 (三浦)	織物計画ノート完成、織行程についてプリント予習
9．ﾃｰﾌﾞﾙｾﾝﾀｰ制作：糸密度・糸の太さと織物の関係、糸巻き (三浦)	織物計画ノート完成、織行程についてプリント予習
10.　〃　：糸の種類・組織と風合いの関係、整経 (三浦)	織物計画ノート完成、織行程についてプリント予習
11.　〃　：筬通し (三浦)	織物計画ノート完成、織行程についてプリント予習
12.　〃　：綜絖通し・張力調整 (三浦)	織物計画ノート完成、織行程についてプリント予習
13.　〃　：織り(平織り) (三浦)	織物計画ノート完成、織行程についてプリント予習
14.　〃　：織り(綾織) (三浦)	織物計画ノート完成、織行程についてプリント予習
15.　〃　：仕上げ (三浦)	織物計画ノート完成、織行程について資料等のまとめ

履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。実習費として実費(3,000 円程度)を徴収します。宿題がある場合や、時間内に進められなかった箇所は必ず次回までに行ってください。

成績評価方法・基準

提出物（制作品等）による評価を 55%、受講状況（制作ノート・織物計画ノート）を 45%として評価します。なお、提出物や制作ノートは添削して後日返却します。

教科書 授業時にプリントを配布する

参考書〔ﾃｷｽﾀｲﾙ用語辞典〕〔成田典子〕〔ﾃｷｽﾀｲﾙﾂｳﾘｰ〕〔3,600 円〕

備　考　受講生の習熟度によりシラバス内容を変更する事があります。なお、質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

授業科目名	テキスタイルデザインⅡ			単位（総授業時間＋自習時間）		1(45+45)		
担当者	川又　勝子	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	服専４年

授業概要

衣服の企画・設計にあたっては、使用目的や用途にあった物性・風合い･色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択できる能力が不可欠である。そこで本実習では、テキスタイルデザインⅠで習得したテキスタイルデザインに関する基礎知識と基本的な技術を発展させるために、主にコンピュータグラフィックスによる手法を取り上げ、使用目的に応じたテキスタイルを企画・製作する方法、デジタルデータを活かした布地のデザイン方法について指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
用途や目的に合った物性・風合い・色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択するための知識と技術を身に付ける。					○		○		
これまでに習得した基礎知識をテキスタイルに応用できる。			○						○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．授業の進め方、テキスタイルの製作方法	配布プリントを熟読する
2．リピート柄の基本	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
3．リピート柄の応用①（汎用ソフトによる）	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
4．リピート柄の応用②（テキスタイル専用ソフトによる）	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
5．課題制作① カットソー布帛のデザイン	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
6．課題制作② ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾌﾟﾘﾝﾄによる用布の出力	制作ノート作成、材料準備
7．課題制作③ カットソーの縫製・仕上げ	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
8．先染め柄の基本	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
9．先染め柄の応用①（汎用ソフトによる）	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
10. 先染め柄の応用②　（テキスタイル専用ソフトによる）	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
11. 課題制作①トートバッグのデザイン・型紙作成	制作ノート作成、材料準備
12. 課題制作②トートバッグ用布の出力	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
13. 課題制作③トートバッグの縫製・仕上げ	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる
14. ﾌｪﾙﾃｨﾝｸﾞによるﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ① 制作の準備	制作ノート作成、材料準備
15. ﾌｪﾙﾃｨﾝｸﾞによるﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ② ティーマット制作	制作ノート作成、終わらなかった作業を終わらせる

履修上の注意　テキスタイルデザインⅠの単位を修得していること。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。実習費として実費（3,000 円程度）を徴収します。宿題がある場合や、時間内に進められなかった箇所は必ず次回までに行ってください。

成績評価方法・基準　提出物（作品等）による評価を 55%、受講状況（参加状況・制作ノート等）を 45%として評価します。なお、提出物や制作ノートはコメントを付して後日返却します。

教科書　授業時にプリントを配布する。

参考書〔ﾃｷｽﾀｲﾙ用語辞典〕〔成田典子〕〔ﾃｷｽﾀｲﾙﾂﾘｰ〕〔3,600 円〕

備　考　ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。受講生の習熟度によりシラバス内容を変更する事があります。なお、質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

授業科目名	ファッションビジネス論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	内海　陽子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専２年

授業概要

アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。
ファッションビジネスの特性と歴史、その構成産業の構造を理解し、アパレルメーカーとアパレル小売業の現状と問題点を国内外から分析し、今後の展望を考察する。
当講義では、大手アパレルメーカーで、年間３０億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ファッションビジネスの特性、構造について理解でき、また考察することが出来る。			○		○		○		○
アパレルメーカー・アパレル小売業の現状について理解でき、考察することが出来る。			○		○		○		○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ファッションビジネスの特性（企業戦略）	指定された店舗に行き観察する
2.ファッションビジネスの特性（消費行動）	指定された店舗に行き観察する
3.ファッション史　①（海外ブランド）	海外ブランドについて調べる
4.ファッション史　②（日本ブランド）	国内ブランドについて調べる
5.ファッション史　③（日本ブランド）	国内ブランドについて調べる
6.ファッションビジネスの職種　①（マーケティング）	講義内容を復習する
7.ファッションビジネスの職種　②（マーチャンダイジング）	講義内容を復習する
8.ファッションビジネスの職種　③（営業・ロジスティック）	講義内容を復習する
9.ファッション素材産業の概要	講義内容を復習する
10.アパレル産業の概要　①（海外ブランド）	指定された店舗に行き観察する
11.アパレル産業の概要　②（国内大手ブランド）	指定された店舗に行き観察する
12.アパレル産業の概要　③（SPA）	指定された店舗に行き観察する
13.アパレル産業流通の仕組み　①	講義内容を復習する
14.アパレル産業流通の仕組み　②	講義内容を復習する
15.日本のファッションビジネス環境の課題と展望	講義内容を復習する

履修上の注意

ファッションビジネスは日々変化しています。実社会において即実践できる内容で講義を構成しているので講義で学んだことを常に意識しつつ感性を磨き続けること。

成績評価方法・基準

課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価

教科書〔ファッションビジネス論〕〔日本衣料管理協会〕〔1,300 円〕

参考書 なし

備　考

質問等については、授業終了後受け付ける。

授業科目名	ケーススタディ			単位（総授業時間＋自習時間）			1(15+30)		
担当者	井上　美紀	必・選	必	形態	集中講義	学期	前期	対象	服専３年

授業概要

繊維製品に関する品質管理について主に教授する。品質管理の基本、品質管理に使う様々な道具と使い方、繊維製品に関連する法令についても解説する。また、繊維製品についての品質管理は、企画設計から流通に至る各工程で行われるため、工程管理の手法や、製品検査についても解説する。さらに授業では、事例研究も取り入れ、繊維製品に関連する問題の原因究明の仕方、解決のための手順、問題や苦情発生の未然防止策などについても教授する。この授業はグループワークを交えて進める。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
品質管理に関する高度な専門知識を身につける。			○						
論理的思考力やコミュニケーション能力、倫理観、責任感等を身につける。					○		○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．はじめに：概要、品質とは、良い商品づくりと品質管理	テキスト第３部６章全範囲を読む。
２．繊維製品に関連する法令、品質管理の実際１　管理の基本	プリント、小テストを振り返る。
３．品質管理の実際２　QC の７つ道具	プリントと課題を振り返る。
４．品質管理の実際３　新 QC の７つ道具	プリントと課題、小ﾃｽﾄを振り返る。
５．品質管理の実際４　繊維製品に関連する手法	課題を振り返り練習する。
６．繊維製品に関連する事例研究１　原因究明	文献情報を収集し、プリントに目を通す。
７．繊維製品に関連する事例研究２　再発防止策、品質保証	ﾌﾟﾘﾝﾄ、課題、小テストを振り返る。
８．製品設計と品質管理　おわりに：本講義のまとめ	テキスト第３部６章と試験を振り返る。
９．	
10.	
11.	
12.	
13.	
14.	
15.	

履修上の注意　２日間連続の集中講義となる。事前にテキスト範囲に目を通して授業に臨むこと。小テストを単元毎に行う。√機能付電卓（携帯電話不可）、指定の実験ノート、定規、色ペン、メジャー、衣服（上下）を持参する。掲示にて詳細は指示する。

成績評価方法・基準

課題取り組み状況等の受講態度に対し 50%、小テスト・課題に対し 50%

教科書　繊維製品の基礎知識ｼﾘｰｽﾞ 日本衣料管理協会　入学時購入済

参考書　必要に応じて紹介、授業前にプリントを配布する

備　考

質問などは、期間中の休み時間、放課後に受け付ける。

評価、本試験、小テスト、課題は１回目の授業で説明する。

都合により授業計画の順番を変更することがある。

試験と課題内容は授業内でフィードバッグする。

課題が未提出、小テストや試験を受験しない際には、評価の対象としない。

授業科目名	ファッション販売論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	内海　陽子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専２年

授業概要

アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。
前期で学んだ「ファッションビジネス論」を基本に応用範囲を広げ、商品の仕入れから販売までの流れを学び、ファッション小売業の現状と課題を読み取り、今後の展望を考察する。
当講義では、大手アパレルメーカーで、年間３０億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
商品の仕入れから販売までの基礎知識を身につける。			○		○		○		○
ファッション小売業の現状と課題を読み取り、今後の展望を考察する。			○		○		○		○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ファッション小売業の役割と歴史	講義内容を復習する
2.ファッション小売業の構造①（百貨店と量販店）	指定された店舗に行き観察する
3.ファッション小売業の構造②（ショッピングセンター）	指定された店舗に行き観察する
4.ファッション小売業の構造③（SPA,セレクトショップ）	指定された店舗に行き観察する
5.ファッション小売業の構造④（無店舗販売）	講義内容を復習する
6.ファッション小売業の職種	講義内容を復習する
7.ファッション小売業の経営戦略①（事業計画と出店戦略）	講義内容を復習する
8.ファッション小売業の経営戦略②（マーケティング）	講義内容を復習する
9.ファッション小売業の販売①（販売の基礎）	指定された店舗に行き観察する
10.ファッション小売業の販売②（販売の技術）	指定された店舗に行き観察する
11.ファッション小売業の売り場演出①（VMD の基礎）	指定された店舗に行き観察する
12.ファッション小売業の売り場演出②（VMD の基礎）	指定された店舗に行き観察する
13.ファッション小売業の売り場演出③（VMD の応用）	指定された店舗に行き観察する
14.ファッション小売業の仕入れと計数	講義内容を復習する
15.ファッション小売業の商品開発とプロモーション戦略	講義内容を復習する

履修上の注意

ファッションビジネスは日々変化しています。実社会において即実践できる内容で講義を構成しているので講義で学んだことを常に意識しつつ感性を磨き続けること。

成績評価方法・基準

課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価

教科書　〔新版ファッション販売論〕〔日本衣料管理協会〕〔1,300 円〕

参考書　なし

備　考

質問等については、授業終了後受け付ける。

授業科目名	コーディネート論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	内海　陽子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専３年

授業概要

アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。
ファッションコーディネートとはあらゆるモノの組み合わせに伴う調整・調和などの技術提案であり
ファッションコーディネートに必要な基本的な知識と技術を学び、コーディネートプランを作成する。
当講義では、大手アパレルメーカーで、年間３０億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ファッションコーディネートの基礎知識を学ぶ	○	○	○	○					
ファッションコーディネートの基礎的な技術を学び、実際にコーディネートプランを作成する					○	○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ファッションコーディネートとは	講義内容を復習する
2.ファッションコーディネート　スペシャリストの特性	講義内容を復習する
3.ファッションと流行	トレンドについてリサーチする
4.ファッショントレンドサイクル	トレンドについてリサーチする
5.ファッション情報①　ファッション情報の種類	講義内容を復習する
6.ファッション情報②　時系列フロー	講義内容を復習する
7.ファッション情報③　発信機関　イベント	講義内容を復習する
8.ファッション情報④　20 世紀のファッション史	講義内容を復習する
9.コーディネートの基本的な知識と技術	講義内容を復習する
10.イメージに視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
11.素材に視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
12.ライフスタイルに視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
13.色彩に視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
14.アクセサリー・体型カバーに視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
15.ファッションコーディネートのまとめ	講義内容を復習する

履修上の注意

ファッションビジネスは日々変化しています。実社会において即実践できる内容で講義を構成しているので講義で学んだことを常に意識しつつ感性を磨き続けること。

成績評価方法・基準

課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価

教科書〔コーディネートテクニック　演出篇〕〔文化服装学院編〕〔学校法人文化学園文化出版局〕　〔2,754円〕

参考書　なし

備　考

質問等については、授業終了後受け付ける。

授業科目名	ファッションビジネス実務実習	単位（総授業時間＋自習時間）	1(45+15)

担当者	水谷　浩	必・選	選	形態	実習	学期	通年	対象	服専１年

授業概要（目的）

ファッションビジネスは，私たちの暮らしや社会と深く関わりながら存在する。今後，社会人として働くためには，現場（仕事）で必要な能力を理解していくことが求められる。

本授業では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第 46 期)』としての経歴を活かし，①事前指導・②5 日程度の学外研修（講義＋職場見学，就業体験）・③事後指導を通じて，職場や地域社会で多様な人々と働くために必要な基礎的な力（社会人基礎力)」のなかでも，1)前に踏み出す力，2)考え抜く力，3)チームで働く力の修得をめざしている。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・前に踏み出す力を理解，実践できる			○		○				
・考え抜く力の必要性を認識，実践できる			○		○				○
・チームで働くことの重要性を認識，実践できる			○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. オリエンテーション（実習の概要・評価など）	事前に，業界や研修先企業の情報を収集しておく。 研修後，講義や職場見学の内容について A4 用紙 2 枚（1,600 字以上）のレポートにまとめ，提出。
2. 企業研修Ⅰ 講義「ファッションビジネスの実際」を学ぶ	
3. 企業研修Ⅱ 職場見学「現場のナマの声」を学ぶ	
4. 履歴書作成Ⅰ 作成上の留意点を学ぶ	自己分析や企業研究を踏まえ，履歴書に必要事項を記入し，提出。
5. 履歴書作成Ⅱ 自己分析，企業研究（情報収集分析・店舗調査）を学ぶ	
6. 事前指導 実習ノートの書き方・心構え・マナーを学ぶ	講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
7. 就業体験Ⅰ 3 つの実践力を学ぶ	就業体験を通じて「学んだこと・気づいたことなど」を実習ノートに毎日記入し，提出。
8. 就業体験Ⅱ 〃	
9. 就業体験Ⅲ 〃	
10. 就業体験Ⅳ 〃	
11. 就業体験Ⅴ 〃	
12. 就業体験Ⅵ 〃	
13. 就業体験Ⅶ 〃	
14. 就業体験の振り返り・礼状作成 実践の振り返りと課題の整理	受入先企業への礼状および報告会の発表資料を作成し，提出。
15. まとめ（報告会）	発表を通じて，全体の振り返りを行う。

《企業での就業体験》
1.期間
平成 32 年 2～3 月予定
※受入先企業の指定日時
2.内容
接客販売，品質管理など
3.注意事項
受入先企業の面談結果によっては，受入可否の条件や事前事後指導などが追加されます。

履修上の注意

原則的に全出席**（ただし，課題の未提出，実習中の態度不良や遅刻・欠席した場合は，単位を取得できない）**

成績評価方法・基準

企業研修・課題(30%)+就業体験・実習ノート(50%)+報告会(20%)にもとづき評価する。

教科書　なし

参考書　なし

備　考

開講日時は，掲示にて指示します。課題や実習ノートは，授業中あるいは後日添削し，返却します。
質問などは，オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。

授業科目名	マーケティング論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	水谷　浩	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専 3 年

授業概要（目的）

マーケティング論では，社会・経済の変化，消費者の購買行動やファッション・トレンドなどを調査・分析し，それらの結果をビジネスに活かすための考え方や手法などについて学びます。

本講義では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第 46 期)』としての経歴を活かし「顧客との関係に，価値を創造し，〈コミュニケーションにより〉価値を伝え，価値を届ける」という観点から，アパレル・ビジネス分野のマーケティング活動に求められる基礎的な知識の教授を通じて，ビジネス（時代）感覚の修得をめざしている。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・マーケティングの仕組みを理解し，説明できる			○		○		○		
・新たな時代の価値創造の担い手としての役割を理解できる			○		○		○		
・今後のアパレル・ビジネスのあるべき姿について説明できる			○		○		○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. オリエンテーション（授業のすすめ方・評価など） 2. アパレル・ビジネスの仕組み アパレル・ビジネスの特徴（業種・業態）を学ぶ 3. アパレルとマーケティング マーケティングの歴史的変遷を学ぶ 4. マーケティング戦略 なぜ，市場創造から顧客価値の重視に転換した理由は？	授業計画やテキストなどを参考にして，予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
5. 市場変化とその予測 日本のアパレル・ビジネスの盛衰に学ぶ 6. 小売店出店戦略 他店舗戦略と限定出店戦略の違いを学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの出店戦略について A4 用紙 2 枚（1,600 字以上）のレポートにまとめ提出。
7. 価値の創造 対象顧客の重要性について学ぶ 8. 商品企画 商品企画の必要性を学ぶ	インターネットを利用し，今年の秋・冬のファッション・トレンドについて調べ，A4 用紙 2 枚（1,600 字以上）のレポートにまとめ提出。
9. 店舗の品揃え 商品構成とコーディネートの汎用性を学ぶ 10. 顧客満足と品揃え プライスゾーンとプライスラインを学ぶ 11. 情報収集・分析と品揃え 情報収集・分析に基づく品揃えの重要性について学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの実店舗の品揃え・プライスゾーンを調べ，まとめるとともに，その取り組みに対する所感について A4 用紙 2 枚（1,600 字以上）のレポートを作成し，提出。
12. 価値のコミュニケーション 企業のコミュニケーションについて学ぶ 13. 価値のデリバリー イメージ価値の創造と伝達とは? 14. ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）戦略 売り場づくりの工夫について学ぶ 15. まとめ（顧客満足とクレーム対応）	「新たな時代の価値創造の担い手」という視点から，これまでの授業のなかで，最も印象に残ったことについて要約し，考察を加え，A4 用紙 2 枚（1,600 字以上）のレポートにまとめ提出。

履修上の注意

2/3 以上の出席がない場合には，単位を取得することはできない。

成績評価方法・基準

平常点・授業への参加態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)にもとづき評価する。
なお，課題については，授業中にフィードバックをします。

教科書〔マーケティング論〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔1,300 円〕

参考書　授業中に適宜指示する。

備　考

質問などは，オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。

授業科目名	被服心理学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	水野　一枝	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専２年

授業概要

人が衣服を選択、購入、または着装する行動は、様々な心理的、社会的な要因に影響を受ける。本講義では、人の価値観や欲求、性格、身体特性と着装の関連、着装行動が対人認知や他者の印象に与える影響、集団の規範（行動の基準となる模範：例えば、学校で制服を着用）や、社会の規範が着装に及ぼす影響、流行と着装との関連について論述する。更に、被服心理学の研究手法を用いて研究課題を作成し、発表を行うことで人の着装行動について理解を深める。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・人の着装行動が、人の欲求や心理、身体特性に関連していることを理解する。	○		○						
・着装行動が対人認知や他者の印象に影響すること、規範や流行との関連について理解する。				○	○				
・被服心理学の研究手法を理解し、実践することができる。							○	○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１０．　ガイダンス	配布されたプリントの重要語句をまとめ、理解する。
１１．　欲求・選択行動と装い	前回配布されたプリントの復習をする。プリントを読み、人の欲求と着装行動について復習をし、理解する。
１２．　感覚・感情と装い	前回配布されたプリントの復習をする。プリントを読み、感覚や感情と衣服の関わりについて理解する。衣服と感情に関する小課題を次回提出。
１３．　装いの心理　自己	前回配布されたプリントの復習をする。プリントを読み、自己と着装行動の心理について理解する。
１４．　装いの心理　身体	前回配布されたプリントの復習をする。プリントを読み、身体特性と心理、着装行動の関係について理解する。着装行動と身体意識に関する小課題を次回提出。
１５．　印象形成・対人認知と装い	前回配布されたプリントの復習をする。プリントを読み、着装行動が対人認知と印象形成に及ぼす影響を理解し、まとめる。
１６．　集団と装い	前回配布されたプリントの復習をする。プリントを読み、集団が着装行動に及ぼす影響について理解する。
１７．　社会的役割と装い	前回配布されたプリントの復習をする。プリントを読み、社会的役割と着装行動の関連を理解する。
１８．　社会規範と装い	前回配布されたプリントの復習をする。プリントを読み、社会規範と規範からの離脱、服装規範と着装行動の関係についてまとめる。
10. 流行と装い	前回配布されたプリントの復習をする。プリントを読み、流行と着装行動の関連について理解する。
11. 被服心理学の研究手法	前回配布されたプリントの復習をする。プリントを読み、被服心理学で使用されている研究手法をまとめ、統計に関する本を調べる。
12. 研究課題の検討・資料収集	前回配布されたプリントの復習をする。研究課題を決め、書籍や文献から資料を収集し、まとめて次回提出する。
13. 課題作成	研究課題の発表に必要な資料や文献を収集し、まとめる。
14. 課題の成果、発表準備	課題の成果発表のためのパワーポイント、発表原稿について再検討を行う。
15. 課題の発表	発表準備と課題の再確認を行う。課題の発表についての反省をし、発表原稿とパワーポイントの修正を行う。

履修上の注意

統計学の講義を受講しておくことが望ましい。配布された講義資料を毎回持参すること。遅刻 3 回で欠席 1 回とする。

成績評価方法・基準

講義中の小課題 15%、課題作成、発表 70%、毎講義後のミニットペーパーを含む授業姿勢 15%で評価する。小課題は後日添削して返却する。ミニットペーパーは、次回の講義でフィードバックを行う。課題作成については後日添削して返却する。

教科書　講義前にプリントを配布する

参考書〔装いの心理〕〔小林茂雄〕〔(株) アイ・コーポレーション〕〔1,296 円〕

備　考　質問については、ミニットペーパーへの記載、講義終了時に受け付けます。

授業科目名	情報処理Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	水谷　浩	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	服専3年

授業概要（目的）

近年，情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）の進展にともなって，ファッション・ビジネスに求められる知識や技能は大きく変わりつつある。とりわけ，SNS(Social Networking Service)で発信力のある個人(influencer)のファッション情報は，消費者の購買行動や企業のコミュニケーション戦略で最も注目されている。

本授業では，民間シンクタンクの研究員や情報システム担当者としての実務経験を活かし，ビジネス文書作成や統計処理，PC を用いたプレゼンテーション技法などを教授することにより，最先端のファッション・ビジネスに欠かせない情報リテラシーの修得をめざしている。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・ソフトウェアを利・活用し，文章表現や統計計算ができる				○	○	○			
・情報倫理に配慮し，情報の収集・加工・表現・発信ができる				○	○	○			
・ICT の仕組みと原理を理解し，説明できる				○	○	○			

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. オリエンテーション（授業のすすめ方・評価，情報倫理）	学生便覧の「ソーシャルメディア利用のガイドライン」および「OA 実習室・OA 教室利用案内」を必ず熟読しておくこと。
2. 日本語文書処理Ⅰ Microsoft Word の基本（入力・書式変更）を学ぶ	
3. 日本語文書処理Ⅱ Microsoft Word の応用①（見やすい文書作成）を学ぶ	授業計画やテキストを参考にして，Word の諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，Word の諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
4. 日本語文書処理Ⅲ Microsoft Word の応用②（画像・グラフ挿入）を学ぶ	
5. 日本語文書処理Ⅳ Microsoft Word の応用③（描画機能）を学ぶ	
6. 日本語文書処理Ⅴ これまでの授業の振り返り（課題作成）	
7. 表計算Ⅰ Microsoft Excel の基本（表・グラフの作成）を学ぶ	授業計画やテキストを参考にして，Excel の諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，Excel の諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
8. 表計算Ⅱ Microsoft Excel の応用①（表・グラフの加工）を学ぶ	
9. 表計算Ⅲ Microsoft Excel の応用②（データベース機能）を学ぶ	
10. 表計算Ⅳ Microsoft Excel の応用③（関数の使い方）を学ぶ	
11. 表計算Ⅴ これまでの授業の振り返り（課題作成）	
12. プレゼンテーションⅠ Microsoft PowerPoint の基本（スライド作成）を学ぶ	授業計画やテキストを参考にして，Power Point の諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，Power Point の諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
13. プレゼンテーションⅡ Microsoft PowerPoint の応用（オブジェクト作成）を学ぶ	
14. プレゼンテーションⅢ これまでの授業の振り返り（課題作成）を行う	
15. まとめ（課題発表）	5 分以内に発表できるように練習する

履修上の注意

2/3 以上の出席がない場合には，単位を取得することはできない。

成績評価方法・基準

平常点・授業への参加態度(35%)+課題の提出状況(30%)+課題発表(35%)にもとづき評価する。

なお，課題については，授業中にフィードバックをします。また，実習費（1,000 円）を徴収します。

教科書

〔30 時間アカデミック情報リテラシーOffice2016〕〔杉本くみ子，大澤栄子〕〔実教出版〕〔1,404 円〕

参考書　授業中に適宜指示する。

備　考

質問などは，オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。

授業科目名	情報処理Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	水谷　浩	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	服専３年

授業概要（目的）

本授業では，民間シンクタンクでの研究員や情報システム担当者としての実務経験を活かし「ビジュアル・マーチャンダイジング（Visual Merchandising）戦略に不可欠な企画・演出などのための資料作成」という視点から，グラフィックソフト（Illustrator，Photoshop）の設定や操作方法を教授することにより，ファッションの出版・広告，売場づくりや商品ディスプレイの効果的なレイアウトや配色など，視覚伝達の基本の修得をめざしている。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・ソフトウェアを利・活用し，グラフィック画像を制作できる				○	○	○			
・情報倫理に配慮し，情報の収集・加工・表現・発信ができる				○	○	○			
・視覚伝達の基本を理解し，説明できる				○	○	○			

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.　オリエンテーション（授業のすすめ方・評価，視覚伝達の基本） 分かりやすく伝えるとは？	学生便覧「OA 実習室・OA 教室利用案内」を必ず熟読しておくこと。
2.　ベクトル系ソフトⅠ Illustrator の基本①（図形や線を描く方法）を学ぶ	授業計画やテキストを参考にして，Illustrator の諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，Illustrator の諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
3.　ベクトル系ソフトⅡ Illustrator の基本②（オブジェクト選択と変形）を学ぶ	
4.　ベクトル系ソフトⅢ Illustrator の基本③（色と透明度の設定）を学ぶ	
5.　ベクトル系ソフトⅣ Illustrator の基本④（オブジェクトの編集と合成）を学ぶ	
6.　ベクトル系ソフトⅤ Illustrator の基本⑤（線と文字の設定）を学ぶ	
7.　ベクトル系ソフトⅥ Illustrator の振り返り（覚えておきたい機能と課題作成）	提出期限内に課題を完成させること。
8.　ラスター系ソフトⅠ Photoshop の基本①（レイヤー操作と色調補正）を学ぶ	授業計画やテキストを参考にして，Photoshop の諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，Photoshop の諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
9.　ラスター系ソフトⅡ Photoshop の基本②（選択範囲の作成と色の設定）を学ぶ	
10.　ラスター系ソフトⅢ Photoshop の基本③（レイヤーマスクを使う）を学ぶ	
11.　ラスター系ソフトⅣ Photoshop の基本④（文字・パス・シェイプ）を学ぶ	
12.　ラスター系ソフトⅤ Photoshop の基本⑤（画像の修正・加工）を学ぶ	
13.　ラスター系ソフトⅥ Photoshop の基本⑥（フィルターとレイヤースタイル）を学ぶ	
14.　ラスター系ソフトⅦ Photoshop の振り返り（覚えておきたい機能と課題作成）	提出期限内に課題を完成させること。
15.　まとめ（授業全体の振り返り）	授業で分からなかったことを再確認する

履修上の注意

2/3 以上の出席がない場合には，単位を取得することはできない。

成績評価方法・基準

平常点・授業への参加態度(35%)+課題の提出状況(30%)+課題作品(35%)にもとづき評価する。

なお，課題については，授業中にフィードバックをします。また，実習費（1,000 円）を徴収します。

教科書〔Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書〕〔ピクセルハウス〕〔技術評論社〕〔2,680 円〕

参考書　授業中に適宜指示する。

備　考

質問などは，オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。

授業科目名	食品学総論			単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)		
担当者	八巻　美智子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専２年

授業概要

食品はヒトの生活にとって必須のものであり、食品について正しい情報を持つことは食品を利用するうえで重要である。そこで、化学、生化学、基礎栄養学などの知識を基礎として、食品を構成する各成分の化学的特性と食品における役割、栄養と健康とのかかわりついて講義する。また、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのか解説する。食品学を学ぶことで関連する他分野への興味関心も高めるられることの重要性を理解させる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
食品を構成する各種成分について理解する	○	○							
食品の各成分の栄養特性と物理特性についての知識を習得する	○	○							
美味しく栄養バランスのとれた食事について科学的に考える力を身に付ける。	○	○				○			

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.食品の定義および分類、食品の成分と機能、食品と環境	事前：教科書にて授業内容に記された内容を概覧しておく。（以下の回も同様）
２.水分　水の構造と性質、食品中での役割、食品成分表について	事後：教科書、ノートを見直して講義内容を理解し、
３.炭水化物　糖の構造と種類	理解が不十分な点については教員に質問するなど
４．炭水化物　糖の性質、糖の反応と炭水化物としての糖	して問題点を解決する。（以下の回も同様）
５．脂質　脂肪酸の構造と性質	小テストに向けて学修する
６．脂質　油脂の酸化、油脂の栄養	教科書にて授業内容に記された内容を概覧しておく。
７．タンパク質　タンパク質の構造と構成アミノ酸	教科書にて授業内容に記された内容を概覧しておく。
８．タンパク質　タンパク質の性質と栄養価	小テストに向けて学修する
９．脂溶性ビタミン	教科書にて授業内容に記された内容を概覧しておく。
10. 水溶性ビタミン	教科書にて授業内容に記された内容を概覧しておく。
11. ミネラル	教科書にて授業内容に記された内容を概覧しておく。
12. 食品の呈味成分、色素、香気成分	小テストに向けて学修する
13. 食品の官能評価	教科書にて授業内容に記された内容を概覧しておく。
14.食品の機能性成分、食品の物性と美味しさ	試験に向けて学修する
15.これまでのまとめ	試験に向けて学修する
16.試験	試験に向けて学修する

履修上の注意

遅刻、欠席は厳禁（遅刻３回で欠席１回とする）。講義に集中し、ノートを作製する。予習で生じた疑問点について解決できるようにする。

成績評価方法・基準

授業態度、小テストの成績（20%）、試験（80%）の割合で評価する。

小テスト、試験については解答例を配布することでフィードバックとする。

教科書〔食品学総論〕〔著者名：森田潤司、成田宏使　編〕〔出版社名：化学同人〕〔価格：2800 円+税〕

参考書〔講義時に指示する〕

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
講義の順番や内容は前後または変更する可能性があります。

授業科目名	食品学各論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	佐藤　靖子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専３年

授業概要

食品材料である植物性食品、動物性食品その他食品について、図鑑および写真等の資料を実物投影機を用いることにより、食品の外観および内部構造の特徴を理解しやすいようにする。さらに、食品材料の生産上および生物学上の特徴による分類、食材に含まれる成分および旬を含む食材の成長による成分変化等についての基礎知識を学修することにより、食品に対する選択能力を高めるとともに、食生活と健康との関連を習得できるようにする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 食品材料の特徴を知る	○		○						
2 食品材料の分類ができる		○	○						
3 食品の選択能力を身につける	○		○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス　食品の分類・スローフード	授業後成分表により分類を確認する
2.植物性食品の特徴	教科書をよく読み授業に臨む
3.穀類：コメ、コムギの特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
4.穀類：トウモロコシ、ソバの特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
5.イモ類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
6.マメ類：乾燥豆および野菜としての種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
7.野菜類：葉菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
8.野菜類：茎菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
9.野菜類：根菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
10.野菜類：果菜類・花菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
11.果実類：種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
12.動物性食品の特徴	教科書をよく読み授業に臨む
13.魚介類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
14.畜肉類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
15.その他の食品について	教科書をよく読み分類・特徴を把握する
16.試験	

履修上の注意：出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は３回で１回の欠席とする
ミニットペーパーを課した場合は、提出確認後返却して加点対象とする。

成績評価方法・基準

期末試験 70%、受講態度・提出物 30%
試験問題は、教科書およびノートからの出題です。解答は教科書・ノートで各自確認すること

教科書　書名：品学各論　著者名：瀬口正晴・八田　一　出版社：化学同人　価格 2,400 円

参考書　書名：原色食品図鑑　著者名：井上四郎・菅原龍吉　出版社名：建帛社　価格：2,900 円

備　考　配布プリントは、講義ノートに張り付けるか転載しておくこと
都合（出張等）により授業計画が変更されることがある
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

授業科目名	基礎栄養学		単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)		
担当者	鈴木　裕行	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専２年

授業概要

ヒトをはじめ生物が外界の物質を体内に取り入れ、それをエネルギー源や体構成の材料として利用する「栄養」という現象は生命維持に不可欠である。ヒトの食欲を調節するしくみ、摂取した食物の消化と栄養素の吸収に携わる消化器官系の各臓器の構造と機能、消化（食品成分の分解反応）・吸収の機構、また、栄養素の種類と各栄養素の化学構造・性質、体内での代謝・機能と欠乏症・過剰症、および栄養素同士の関わりについて説明する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
健康の保持・増進における栄養の役割を説明できる	○	○	○						
消化・吸収における各消化器官の役割を説明できる	○	○	○						
各栄養素の代謝とその生理的意義を説明できる	○	○	○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．栄養とは、遺伝形質と栄養	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
２．食欲の調節、食事のタイミング	
３．消化器の構造	
４．消化器の機能	
５．各栄養素の消化吸収、消化吸収率	
６．たんぱく質・アミノ酸の体内代謝	
７．たんぱく質の量と質の評価	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
８．[中間試験]、糖質の体内代謝	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する
９．試験の解説、血糖の調節	
10．脂質の体内代謝	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
11．脂質の量と質の評価	
12．ビタミンの分類・構造	
13．ビタミンの機能・・・脂溶性ビタミン	
14．ビタミンの機能・・・水溶性ビタミン	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する
15．[期末試験]、ミネラルの種類と体内分布	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する
16．　試験の解説、ミネラルの機能	

履修上の注意

他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。

成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%

教科書　基礎栄養学、駒井三千夫　他、アイ・ケイコーポレーション、2,400 円＋税

参考書　栄養の生化学 1-2-3 改訂第 3 版、遠藤克己、南江堂、2,000 円＋税

備　考

試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

授業科目名	栄養生化学	単位（総授業時間＋自習時間）	2(30＋60)

担当者	鈴木　裕行	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専３年

授業概要

メタボリック・シンドロームはその患者数の多さから現代の社会問題とも言えるが、いずれもその発症と進行に食生活が大きく関与する疾患群である。それに含まれる肥満症・糖尿病・脂質異常症・高血圧症・骨粗鬆症・および癌といった各疾患について、発症や病態の背景となる各種栄養素（特にエネルギー分子）の代謝とその調節機構、および発症と症状の進行の分子生物学的・細胞生物学的機構について講義する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
メタボリックシンドロームの病態を生化学的に説明できる	○	○	○						
メタボリックシンドロームの予防・治療への栄養に役割を説明できる	○	○	○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．メタボリック・シンドロームとは ２．メタボリック・シンドロームと関わるミネラルの機能 ３．肥満遺伝子 ４．脂肪細胞の機能 ５．血糖調節機構と糖尿病の分類 ６．糖尿病の発症機序と代謝	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
７．糖尿病関連遺伝子、食事療法	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
８．[中間試験]、リポタンパク質とその受容体 ９．試験の解説、動脈硬化症の発症機序と代謝	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する
10．動脈硬化症の治療と関連遺伝子 11．血圧調節機構 12．高血圧症の発症機序 13．カルシウム代謝調節機構	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
14．骨粗鬆症の発症機序と治療	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する
15．[期末試験]、発癌の分子機構 16．試験の解説、発癌と食事	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する

履修上の注意

他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。

成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%

教科書　無し（資料を配布する）

参考書　栄養の生化学 1-2-3 改訂第３版、遠藤克己、南江堂、2,000 円＋税

備　考

試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

授業科目名	調理科学論			単位（総授業時間＋自習時間）					2（30＋60）
担当者	佐藤　靖子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専 4 年

授業概要

食品材料は、生食および加熱など様々な調理操作を経て食される。調理操作の種類や方法の確認を行いながら、食品素材の色調変化、組織の軟化、香りの発現などについて基礎的な知識を学習する。さらに基本的な調理方法の役割および食品の物理的・化学的変化について科学的視点を身につける。また、主菜・副菜の調理で使用される香辛料や香草については、可能な限り実物を用意して風味を学修する機会を与え、利用性について理解する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 基本的調理操作を理解できる	○	○							
2 調味料の種類と特徴を理解できる	○	○							
3 食品の調理特性を科学的に理解する能力を身につける	○	○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス、調理科学の定義	ノートを整理しておく
2．調理と嗜好性	教科書をよく読み授業に臨む
3．調理操作　非加熱調理	授業内容を教科書・ノートで確認する
4．〃　　加熱調理　煮る・蒸す	授業内容を教科書・ノートで確認する
5．〃　　加熱調理　揚げる・焼く	授業内容を教科書・ノートで確認する
6.調味料の種類と特徴	授業内容を教科書・ノートで確認する
7.香辛料の種類と特徴	授業内容を教科書・ノートで確認する
8.スパイスの風味を体験する	風味の特徴をまとめておく
9.ハーブおよび食塩の風味を体験する	次週の授業開始までにスパイス、ハーブ
10. 油脂・油脂性食品の調理特性	に関する特徴・献立のレポート提出
11. 炭水化物質性食品の調理特性	授業内容を教科書・ノートで確認する
12. タンパク質性食品の調理特性：食肉、魚介類	授業内容を教科書・ノートで確認する
13. 〃　　：卵、牛乳	授業内容を教科書・ノートで確認する
14. 成分抽出性食品の調理特性：デンプン	授業内容を教科書・ノートで確認する
15. 〃　　：ゼラチン、寒天その他	授業内容を教科書・ノートで確認する
16.試験	

履修上の注意　出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は 3 回で 1 回の欠席とする
ミニットペーパーを課した場合は、採点後に返却し加点対象とする。

成績評価方法・基準
期末試験 65%、受講態度・レポート提出 35%
試験問題は、教科書およびノートからの出題です。試験後各自確認すること
レポートは、提出後返却します

教科書　書名：調理科学　　著者名：森高初恵、佐藤恵美子　出版社：建帛社　価格：2500 円

参考書　調理のためのベーシックデータ

備　考：出張等の都合により授業計画が変更されることがある
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

授業科目名	基礎調理学実習Ⅰ	単位（総授業時間＋自習時間）	1(15+30)

担当者	深澤　律子	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	服専1年

授業概要

調理学実習を通して、食品衛生の衛生管理全般（食品取扱者の健康管理等）について学び、衛生習慣を身につける。日本・西洋・中国料理の春から夏の日常食と行事食、郷土料理の献立を通して食事の文化的側面についての知識と理解を深め、盛り付け、配膳などの基本を修得する。食材や調理法についての知識、調理操作のポイントを科学的に理解する能力を身に着け自分の食生活で実践し、自己評価または家族の評価をもとに課題を考える。栄養、嗜好、食環境など多様な側面から食べる人にとって望ましい食事を計画し、食事として作り上げる技術を修得する。高等学校の家庭科教員の経験を活かしてこの授業を進めていく。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
①　食材や調理法についての基礎的な知識と技能を修得する。	○		○		○	○			□
②　修得した知識をもとに、実際の調理技術を修得する。	○		○		○	○			□
③　調理学実習を通して衛生管理の知識と技術を修得する。	○		○		○	○			□

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.オリエンテーション・美味しさと健康（衛生管理と個人衛生、健康管理）	P245～249 を読み、重要な箇所にアンダーラインを引く。
2.講義・調理の基本（計量・調味パーセント、廃棄率）、実習計画表の記入のしかた	P87～97 を読み、調味パーセント、廃棄率をレポートにまとめ、提出。電卓の準備。実習計画表の記入。
3.調理の基礎技術 1（日本料理）：文化鍋でご飯を炊く。鯛めし、潮汁、アスパラの和え物	P11～12　飯の炊き方、貝類の扱い方をレポートにまとめ提出。
4．調理の基礎技術 2 調理技能の実技試験（野菜の切り方 1～12 まで　短冊切り、千切り、ささがき等）	P8　1～12 小口切りからみじん切りまで家庭で野菜の切り方を練習する。実習計画表の記入
5．調理の基礎技術 3（日本料理）筍飯、若竹汁、だし巻き卵	P12　味付け飯、出汁のとり方、P105 筍の部位と用途をレポートにまとめ提出。実習計画表の記入
6．調理の基礎技術 4（中国料理）中華粽、春捲、玉米湯	P218 鶏湯（たん）の取り方、P232 粽の作り方をまとめ提出。実習計画表の記入
7.調理の基礎技術 5（西洋料理）コンソメジュリエンヌ、鮭のムニエル、タルタルソース、グリーンサラダ、紅茶のゼリー	P44～45　ブイヨン、P39 野菜の切り方の名称、卵の特性、マヨネーズ、ゼラチンの扱いをまとめ提出。実習計画表の記入
8.調理の基礎技術 6（日本料理）さくら飯、鯵の塩焼き、小松菜のお浸し、ひじきの煮物、水ようかん	P12 味付け飯、P18～19 焼き物をレポートにまとめ提出。実習計画表の記入
9.調理の基礎技術 7（中国料理）麻婆豆腐、涼拌三絲、杏仁豆腐	P230～231 を読んで、まとめ提出。実習計画表の記入
10.調理の基礎技術 8（西洋料理）ハンバーグステーキ、コンビネーションサラダ、コーンポタージュ、ブラマンジェ	コーンスターチ、ブラマンジェについて調べ、P164、P177、P152、P191 を読んでまとめ、提出。実習計画表の記入
11.調理の基礎技術 9（日本料理）鶏の竜田揚げ、切り干し大根の煮物、いんげんの胡麻和え、赤だし、グレープフルーツ寒	P123　竜田揚げ、寒天の扱い方、乾物の扱い、味噌の種類、P127、P108、を読んでまとめ提出。実習計画表の記入
12.調理の基礎技術 10（日本料理）七夕そうめん、フルーツ白玉	P103、P99、P136 読んでまとめ提出。実習計画表の記入
13.調理の基礎技術 11（西洋料理）夏野菜ドライカレー、シーザーサラダ、レモンスカッシュ	P186、P175、P202 を読んでまとめ提出。実習計画表の記入
14.調理の基礎技術 12（郷土料理）おくずかけ、三色おはぎ、千草漬け	P147，P102、P99、P130 を読んでまとめ提出
15.調理の理論　前期のまとめ	野菜の切り方、実習で学んだ料理の要点等を実習ノートにまとめ提出。
16.筆記試験	

履修上の注意

前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子、タオルハンカチを準備する。調理室内ではボールペン使用。調理室に入室したら手洗い消毒を済ませ、衛生点検表に記入し、教員の点検を受ける。配布資料はファイルに保管する。出席することが重要です。調理技術の習得のためには、自宅で実践してください。

成績評価方法・基準　実技試験 30%、実習レポート提出 30%、衛生管理点検表の記入 10%、筆記試験 20%、授業態度 10%（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等）で評価する。

教科書〔改定新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,300 円〕、［日本食品成分表 2018　7 訂 本表編］［医歯薬出版］［1400 円］＊教科書は最新版のものを 1 回目の講義で配布します。

参考書〔調理学〕〔柳沢幸江 柴田圭子　編著者〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2,700 円〕

備　考

・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示します。
・季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがあります。
・事前・事後学習で、教科書の改訂により、上記のページ数と異なることがあります。
・ルーブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照してください。
・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付けます。

授業科目名	基礎調理学実習Ⅱ	単位（総授業時間＋自習時間）	1(15+30)

担当者	深澤　律子	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	服専1年

授業概要

調理学実習を通して、食品衛生の衛生管理全般（食品取扱者の健康管理等）について学び、衛生習慣を身につける。日本・西洋・中国料理の秋から冬の日常食と行事食、郷土料理の献立を通して食事の文化的側面についての知識と理解を深める。季節の行事食についての知識と理解を深め、食品の選択、食品の調理技術、盛り付け、配膳などの基本を習得する。栄養教育のツールとして、人々に一食分の適量や栄養バランスを伝えるための方法（3・1・2 弁当箱法）についての知識と技術を修得する。高等学校の家庭科教員の経験を活かしてこの授業を進めていく。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
①　食材や調理法についての基礎的な知識と技能を修得する。	○		○		○	○			□
②　修得した知識をもとに、実際の調理技術を修得する。	○		○		○	○			□
③　調理学実習を通して衛生管理の知識と技術を修得する。	○		○		○	○			□

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．講義　夏休みの課題「家族への食事作りのレポート」を発表する。 「3・1・2 弁当箱法」についての講義	レポートにまとめ、発表の準備を行う。 配布テキストを読み、レポート提出。「3・1・2 弁当箱法」の実習計画表の提出。
2.実習 1　栄養教育ツール「3・1・2 弁当箱法」の実習	配布テキストを読み、レポート提出。次回（1 回目）実習計画表の提出。
3.調理の基礎技術 1（西洋料理）スパゲティミートソース、蒸し野菜サラダ、カスタードプリン	P187、P199、P157 をまとめ次回提出。 2 回実習計画表の提出。
4.調理の基礎技術 2（日本料理）：郷土料理を取り入れた秋の献立、はらこ飯、茶碗蒸し、味噌がんづき	配布プリントを読み、レポートにまとめ次回提出。3 回実習計画表の提出。
5.調理の基礎技術 3（中国料理）：実技試験：胡瓜の蛇腹切り（包丁の扱いを習熟する）、炒飯、胡瓜の蛇腹切りの和物	P227 配布プリントを読み、レポートにまとめ次回提出。4 回実習計画表の提出。
6.調理の基礎技術 4（西洋料理）マカロニグラタン、南瓜のマッシュ、コールスローサラダ、クッキー	P100、P110、P126 配布プリントを読み、まとめ提出。5 回実習計画表の提出。
7.調理の基礎技術 5（日本料理）炊きおこわ、さばの味噌煮、菊花豆腐の吸い物、亥の子餅	P123～124、P96、P104、P137 をまとめ提出。6 回実習計画表の提出。
8.調理の基礎技術 6（中国料理）鶏粥、青椒炒牛肉絲、 マーラーカオ	P227、P211、配布プリントを読み、まとめ次回提出。7 回実習計画表の提出。
9.調理の基礎技術 7（西洋料理）ビーフシチュー、フルーツケーキ	P159，P175，P196 をまとめ、次回提出。8 回実習計画表の提出。
10.調理の基礎技術 8（中国料理）五目あんかけ焼きそば、肉まん、胡麻揚団子	P233 を読み、レポートにまとめ次回提出。9 回実習計画表の提出。
11.調理の基礎技術 9（西洋料理）行事食の献立 1：クリスマスの献立、ローストチキン、温野菜サラダ、クリスマスケーキ	スポンジケーキ、ローストチキンの要点をまとめ、10 回実習計画表の提出。
12.調理の基礎技術 10（日本料理）行事食の献立 2：正月の献立　おせち料理　お雑煮	教科書、配布プリントを読み、レポートにまとめ次回提出。11 回実習計画表の提出。
13.調理の基礎技術 11（日本料理）行事食の献立 3：のり巻き、かきたま汁、豆大福	厚焼き玉子、すし飯の作り方をレポートにまとめ次回提出。
14.冬休みの課題レポート発表、実技試験	冬休みの課題をレポートにまとめ、提出する。かきたま汁、茶わん蒸しの実技試験にむけて練習する。
15.調理の理論、後期のまとめ 16.筆記試験	実習で学んだ料理の要点をノートにまとめ次回提出。

履修上の注意

前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子、タオルハンカチを準備する。調理室内ではボールペン使用。調理室に入室したら手洗い消毒を済ませ、衛生点検表に記入、教員の点検を受ける。配布資料はファイルに保管する。出席することが重要です。調理技術の習得のためには、自宅で実践してください。

成績評価方法・基準

実技試験 30%、実習レポート提出 30%、衛生管理点検表の記入 10%、筆記試験 20%、授業態度 10%（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等）で評価する。

教科書〔改定新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,300 円〕、［日本食品成分表 2018　7 訂 本表編］［医歯薬出版］［1400 円］＊教科書は最新版のものを 1 回目の講義で配布します。

参考書〔調理学〕〔柳沢幸江 柴田圭子　編著者〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2,700 円〕

備　考

・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示します。
・季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがあります。
・事前・事後学習で、教科書の改訂により、上記の頁数が異なることがあります。
・ルーブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照してください。
・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付けます。

授業科目名	食文化論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	深澤　律子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専 4 年

授業概要

2013 年 12 月、ユネスコ無形文化遺産に「和食；日本人の伝統的な食文化―正月を例として―」が登録された。提案書では、和食文化の実践者はすべての日本人であるとされ、栄養士として、日本の食文化を学び、実践する意義は大きい。日本人は古代よりその土地の気候風土に合った農耕や狩りや漁をして、安全で美味しい食物を摂取するための努力を重ねてきた。歴史の中で外国から来た食材や料理を取り入れ、米と大豆、魚や野菜を中心に発酵食が発達した。食文化の変遷をたどり、現在の日本人の食生活と健康について科学的な根拠をもとに考察する。給食の現場で献立を作成した経験を活かしてこの講義を進めていく。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
① 食べ物と人との関わりを歴史的変遷、食の嗜好性、食文化の観点から説明できる。	□	□				○	○	□	□
② 現在の食生活と健康の問題点を提起し、解決方法を見出し考察できる。						○	○	□	□
③ 日本の食文化を理解し、年中行事と行事食、郷土料理、食事の作法の基礎知識を身につける。	□	□				□			

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス、「和食」日本人の伝統的な食文化、DVD 視聴	「典座教訓」「精進料理」「和食」に関することを調べてレポートにまとめ提出。
2.世界の食物史と日本の食文化	世界の食文化と日本の食文化についてまとめ提出。
3.世界の食文化の形成、粉食文化と粒食文化	P22～29 を読み、感想を書き提出。
4.日本の食文化形成と展開　米（稲作の伝播と調理）	P32～39 を読み、感想を書き提出。
5.異文化接触と受容（古代～近世、南蛮文化、欧米文化）	P42～49 を読み、感想を書き提出。
6.主食の文化（木の実と芋類）（米）（大麦・小麦・雑穀）	興味のある食品について調べて提出。
7.副食の文化（魚介類）（豆類、大豆）（肉、乳、卵）	興味のある食品について調べて提出。
8.副食の文化（野菜、果物、きのこ、海藻）	興味のある食品について調べて提出。
9.調味料（塩と砂糖）発酵調味料（酒と酢）（みそと醤油）、	興味のある食品について調べて提出。
10.油脂、だし、香辛料	興味のある食品について調べて提出。
11.菓子（和菓子、洋菓子）、茶、酒	興味のある食品について調べて提出。
12.日本料理の形成と発展（本膳料理、懐石料理、会席料理）	P92～99 を読み、感想を書き提出。
13.食物に関わる年中行事	年中行事と行事食をまとめて提出。
14.行事食と郷土食	地場産品と地元の郷土料理を調べて提出。
15.儀礼と食べ物、食事の作法（箸の作法）	箸の作法を調べてまとめ提出
16.筆記試験	

成績評価方法・基準

筆記試験 50%、毎時間のレポート提出 40%、受講態度 10%（感想・レポート内容・熱心さ等）

提出されたレポートは、後日添削して返却し、フィードバックする。

教科書

〔日本の食文化「和食」の継承と食育　新版〕〔江原絢子・石川尚子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2500 円〕

参考書

〔日本のしきたりがまるごとわかる本〕〔沢井竜太〕〔普遊舎〕〔680 円〕

備　考

・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示します。

・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。

・ルーブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照してください。

・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付けます。

授業科目名	住居学(製図を含む。)	単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)

担当者	永井　康雄	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専３年

授業概要

住居は「生活の器」と言われているように、人間生活の中で最も基本的な役目を果している。しかしながら、住居は時代とともに、また風土・生活様式・地方性などの文化的要因からも大きな影響を受けながら、絶えず変化している。これらの観点から「住居」「人が住まう」とは何かを考える。前半は住居を構成する基本的な諸室に求められる機能について理解し、住居を設計する上での様々な留意点や考え方を理解する。後半は前半で身につけた考え方に基づき自らの生活スタイルに合った未来の住宅を設計・提案する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
住空間の設計方法を理解する	○	○							
生活行為を具体的に想定し、経年変化のイメージと人体的感覚を養う	○	○							
住空間のデザイン手法、空間特性、インテリアの観点から住空間を考える	○	○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．日本の住まいの特徴	建築はどの様にして成り立っているのかを意識して建物を観察する
２．間取り	〃
３．居間	〃
４．台所	〃
５．個室	〃
６．子どもと高齢者の住まい	〃
７．住宅の選択（戸建・集合住宅）	建築雑誌などを見て、建築に対する意識を高める
８．図面による表現方法の習得	〃
９．平面計画の検討(必要な室と広さ)	各自設計案を持参し、計画を検討する
10．平面計画の検討(室の配置と動線計画)	〃
11．断面計画の検討	〃
12．立面計画の検討	〃
13．製図(平面図・配置図)	〃
14．製図(立面図)	〃
15．製図(作品提出)	〃

履修上の注意

後半の設計・製図では、毎回各自の設計案を持参すること。

成績評価方法・基準

事前・事後学習を含む授業姿勢(30%)　提出課題(70%)

教科書　毎時間、資料を配布する

参考書　なし

備　考

オフィスアワー：授業終了後

授業科目名	住居デザイン			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	山本　佳美	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専４年

授業概要

私たちがあたりまえに住まう住居。住居を構成する環境や材料についての基礎を理解し学んでほしい。講義内容については住居を構成する内装材、窓、建具、設備、インテリアを構成する照明、窓装飾、家具等の日常生活に必要な構成材の基本的な特徴を学び、空間に対する寸法感覚を養い、インテリアデザインの独創性を身につける。インテリアプレゼンテーションの方法についてパース、作図方法、平面プランニング等の技法を学ぶ。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・住居を構成するインテリアの基礎知識を身につける。	○	○							
・住居・インテリア空間の寸法について寸法感覚を養う。	○	○							
・インテリアデザインについての技法を身に着ける。	○	○			○				○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.インテリアデザインの種類､インテリアスタイルの種類を学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
2.建築家のデザインを紹介し世の中にあふれるデザインを学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
3.インテリアの歴史①西洋インテリアと家具を学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
4.インテリアの歴史②日本のインテリアと家具を学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
5.インテリアの構成①内装	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
6.インテリアの構成②窓装飾	
7.インテリアの構成③照明	
8.インテリアの構成④家具	
9.インテリアの構成⑤設備・その他	
10.部屋別インテリアのスタイルとポイント	
11.インテリアレイアウト	
12.インテリアカラー	
13.課題：私の好きなインテリア　コラージュ	
14.インテリアコーディネート演習	
15.プレゼンテーション	

履修上の注意　インテリアに興味を持とう！

成績評価方法・基準

課題提出。提出された課題に対し、授業で学んだポイントに沿った内容となっているか確認し、内容によっては再提出といたします。

教科書　授業前に配布のプリント使用。カタログ配布。

参考書　なし

備　考　質問については授業中、または授業終了後時に受付いたします。

授業科目名	住文化論		単位（総授業時間＋自習時間）		2(30+60)				
担当者	永井　康雄	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	服専４年

授業概要

日本の先史時代から近代までの各時代における住宅建築の特徴を理解し、今日の住宅がどの様にして成立したのか考える。具体的には縄文・弥生時代及び古墳時代における住居の発生から、日本住宅の二大様式である寝殿造と書院造の成立と各々の特徴を学習し、近世までに確立した日本住宅の様式が明治以降の西洋文化の影響を受けて現代住宅へと変化していく過程を理解し、過去・現在、そして未来における住文化を考察するための基本的な力を養成する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本の古代から近代に至るまでの住宅の歴史的変遷を理解する	○	○							
過去・現在・未来における住文化を考察する為の基礎力を養成する	○	○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.先史時代の住居―縄文・弥生時代	身の回りにどの様な歴史的建築が存在するか注意し、実際に見に行ってみる。
２. 先史時代の住居―古墳時代	〃
３.古代の神社と飛鳥・奈良時代の貴族住宅	〃
４.古代の都城と内裏	〃
５.平安時代の貴族住宅―寝殿造	〃
６.中世の住居―室町将軍邸・武士の屋敷	〃
７.中世の住居―座敷飾り	〃
８.近世の住居―客殿・広間・書院	〃
９.近世の住居―江戸の大名屋敷	〃
10.数奇屋と茶室	〃
11.城下町	仙台を事例に町の構成を考えてみる。
12.町屋	村田町の町屋について調べてみる。
13.民家	川崎町の民家園に移築されている建物について調べてみる。
14.近代の住居―擬洋風建築	明治という時代背景について考えてみす。
15.近代の住居―住居の近代化	現代の住宅や未来の住宅について考えてみる。

履修上の注意

歴史用語や建築的専門用語が多数出てくるので、各時間に覚えるようにする。

成績評価方法・基準

事前・事後学習を含む授業姿勢(30%)　提出課題(70%)

教科書　毎時間、資料を配布する

参考書〔日本住宅史図集〕〔住宅史研究会編〕〔理工図書〕〔2100 円〕

備　考

受講人数等の事情により、校外授業を行なう場合がある。オフィスアワー：授業終了後

授業科目名	保育学(実習及び家庭看護を含む。)			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	香曽我部　琢	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専３年

授業概要

本科目では，まず、家庭科教育の「A 家族生活と家族」分野の内，保育領域に焦点を当て，その指導に必要とされる基本的な知識と技能を身につける。次に，基本的な知識と技能を基盤として、生涯発達の視点に立ち，最新の脳神経科学や大規模縦断研究の知見をもとに、人の発達や生活における諸様相とその特徴を理解した上で，現代社会において求められる適切な保育者・養育者の援助や環境構成の在り方について検討を行い，専門的知識と技能の修得を目指す。また、これらの専門的な知識や技能を身につける際に、アクティブラーニングを実施し、他者や社会との相互作用の中で、自律的にそれらの知識や技能を適応させて問題解決する力を身につける。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
「A 家族生活と家族」分野における保育領域の指導に必要とされる基本的な知識と技能を習得する。	○								
生涯発達の視点に立ち，人の発達や生活における諸様相とその特徴を理解することで、専門的な知識と技能を学ぶ。		○		○					
身につけた知識と技能を、他者や社会との相互作用の中で総合的、適応的に用いる能力を身につける。				○		○		○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．オリエンテーション：発達とは何か・保育とは何か	教科書の目次を読んで、授業の概要について把握する。
2．新生児，乳児期の発達と発育の特徴	教科書をよく読み、新生児から乳児までの発達の概要を把握する。
3．幼児期の発達と発育の特徴	教科書をよく読み、幼児期までの発達の概要を把握する。
4．児童期～成人期の発達，生涯発達とは	教科書をよく読み、児童期から青年、成人までの発達の概要を把握する。
5．言語と概念の発達	教科書をよく読み、新生児から乳児までの言語と概念発達の概要を把握する。
6．社会的認知の発達	教科書をよく読み、新生児から乳児までの社会的認知に関する発達の概要を把握する。
7．他者との関係発達	教科書をよく読み、発達における社会の相互作用の影響について概要を把握する。
8．生涯発達の視点から捉える自己形成のプロセス	教科書をよく読み、生涯発達の概念について理解する。
9．五感の発達：共感覚の発達を知る	教科書をよく読み、共感覚について知る。
10. 脳神経科学の視点で発達を捉える	教科書をよく読み、脳神経科学の最新の知見について把握する。
11. 社会・文化心理学の視点で発達を捉える	教科書をよく読み、社会・文化心理学における発達の概念の特徴を知る。
12. 比較行動学・進化心理学の視点で発達を捉える	教科書をよく読み、ヒト以外の動物の学習や認知の発達について、その概要を把握する。
13. 発達理論の歴史的変遷	教科書をよく読み、ヒトの発達を捉える概念の歴史的変遷を把握する。
14. 遊びの発達	教科書をよく読み、遊びが幼児の心身の発達に与える影響を把握する。
15. 生活習慣の育ちを知る	教科書をよく読み、乳幼児期に生活習慣を身につける意義を把握する。

履修上の注意

遅刻３回で欠席１回とする。

成績評価方法・基準

授業ごとのリアクションペーパー（40%）、基礎的な知識に関する小テスト(30%)、平常点(30%)
リアクションペーパーと小テストの未提出は評価の対象としないことがある。
リアクションペーパーや小テストについては後日添削して返却する。

教科書〔子ども理解のメソドロジー〕〔中坪史典〕〔ナカニシヤ出版〕〔2,160 円〕

参考書〔発達心理学をアクティブに学ぶ〕〔山本真由美〕〔北大路書房〕〔2,376 円〕

備　考

・ルーブリック評価については、第１回目の授業で説明します。
・質問等については、授業終了後に受け付けます。

授業科目名	家庭電気・機械	単位（総授業時間＋自習時間）	2(30＋60)

担当者	門田　和雄	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	服専３年

授業概要

日常生活では多種多様な家庭電気機器が利用されている。そして，これらの機械的しくみ及び電気回路，制御方法などを理解し，合理的、創造的な生活態度を身につけることが現代人にとって不可欠となっている。本講義では家庭電気・機械の理解に必要な機械工学（機械の動くしくみであるリンク機構やカム機構、また代表的な機械要素であるねじや歯車など）と電気工学（電気回路や電子回路、制御回路など）の基礎的事項を学ぶとともに、身の回りの家庭電気機械の保守点検についても学ぶ。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
機械工学の基礎知識を身につける。	○	○							
電気工学の基礎知識を身につける。	○	○							
家庭電気機器の簡単な保守・点検ができる。	○	○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.エネルギー変換に関する技術	エネルギーとは何か
２.機械エネルギーと熱エネルギー	機械とは何か，熱とは何か
３.電気エネルギーを作るしくみ：さまざまな発電方式	発電方式の種類について
４.電気エネルギーを供給するしくみ：送電・配電	直流と交流について
５.電気回路の基礎：オームの法則，直列・並列	オームの法則について
６.家庭電気機器のしくみ１：アイロン，照明器具	熱エネルギー，光エネルギーの利用
７.家庭電気機器のしくみ２：炊飯器，電子レンジ	電磁波のエネルギー
８.家庭電気機器のしくみ３：洗濯機，掃除機，ミシン	電気モータの種類について
９.電気機器の安全な使い方：ブレーカ，アース	電気部品の定格
10.電気機器の保守・点検：テスターの使い方	テスターとは
11.機械要素とそのはたらき１：ねじ	家庭電気機器に用いられるねじ
12.機械要素とそのはたらき２：歯車，ベルト，チェーン	家庭電気機器に用いられる歯車
13.機械要素とそのはたらき３：軸受，軸接手，ばね	家庭電気機器に用いられるばね
14.機械要素とそのはたらき４：リンク機構，カム機構	家庭電気機器に用いられるリンク機構
15.まとめ	全体的な復讐
16.試験	

履修上の注意

毎回，小テストを実施する。

成績評価方法・基準

期末試験（60%），小テスト（20%），事前・事後学習を含む授業姿勢（20%）

提出された課題は、後日添削して返却する。

教科書　授業時にプリントを配布する

参考書〔新しい技術・家庭〕〔技術分野〕〔東京書籍〕〔価格〕

備　考

質問等は、授業終了後受け付けます。

授業科目名	小児保健	単位（総授業時間＋自習時間）	4(60＋120)

担当者	佐藤　とよ子	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	服専３年

授業概要

子どもを産み育て健全な人間社会を構築するには、まず健全な母性から始まる。この母性の働きも含めて、生命の誕生から子どもの成長発達、栄養、よくみられる子どもの病気と事故、そして感染症と予防接種、保健指導などについて、映像をできるだけ多く用いながら小児保健の基礎知識を教授する。この知識の習得を通して、健康の捉え方、日常生活のあり方について振り返り、自分なりに見直すことを目的とする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
病気の基礎知識を身につけ、健康に留意できるようになる。	○								
子どもの事故の特徴を理解し事故防止ができるようになる。		○							
感染症についての知識を身につけ、予防できるようになる。		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．授業内容と進め方、評価方法について	
2．DVD「懸命に生きる子どもたち」鑑賞	感想文を次回提出のこと
3．DVD「生命の誕生」鑑賞	感想文を次回提出し、生きる意味を考えること
4．出生前の母子の健康（発育経過と影響因子）	たばこの害について調べてくること
5．出生前の母子の健康（たばこ、アルコール、薬）	感想文を次回提出のこと
6．身体発育の測定	自分の出生時の記録を調べてくること
7．身体発育の評価	発育の評価方法について調べてくること
8．運動機能の発達と評価	教科書をよく読んでくること
9．精神機能の発達と評価	教科書をよく読んでくること
10. 発達障害の理解	発達障害について調べてくること
11. 発達障害（DVD 事例紹介）	感想文を次回提出のこと
12. 発達障害（DVD 東田直樹）	感想文を次回提出のこと
13. 生理機能の発達（体温、呼吸、脈拍）	1 週間の体温と脈拍を測定してくること
14. 生理機能の発達（感覚、排泄、睡眠）	睡眠について調べてくること
15. 免疫の発達、感覚の発達	教科書をよく読んでくること
16. 母乳栄養と人工栄養	母乳の利点を調べてくること
17. 子どもの事故の特徴	子どもの事故について調べてくること
18. 事故防止	教科書をよく読んでくること
19. 応急処置	救命措置について調べてくること
20. 日常における養護の方法	教科書をよく読んでくること
21. 体調不良時の症状別対応	教科書をよく読んでくること
22. よくかかる子どもの感染症	教科書をよく読んでくること
23. 予防接種	予防接種歴を調べてくること
24. 性行為感染症（DVD 事例紹介）	感想文を次回提出のこと
25.　HIV 感染症	昨年の HIV 新規患者数を調べてくること
26.　AIDS	昨年の AIDS 患者数を調べてくること
27. 慢性疾患	家族の病歴を調べてくること
28. アレルギー性疾患	教科書をよく読んでくること
29. 生活習慣病の予防	家族の処方薬を調べてくること
30. 試験	ノート持参可
31. まとめ、フィードバック	

履修上の注

遅刻 3 回で欠席 1 回とする。

成績評価方法・基準

期末試験 60%、レポート 20%、受講態度 20%（授業中の勉学姿勢やミニットペーパー）で評価する。
試験については次週に解説を行いフィードバックする。提出物やミニットペーパーは添削し返却する。

教科書〔これならわかる！子どもの保健演習ノート〕〔榊原洋一監修〕〔診断と治療社〕〔2,160 円〕

参考書〔わかりやすい小児保健〕〔西村昂三編著〕〔同文書院〕〔2,376 円〕

備　考

受講人数、進度により、授業計画の内容が前後することがあります。
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーで（保健室で常時）受け付けます。

授業科目名	家政特別講義Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(60＋30)
担当者	植松　公威	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	服専２年

授業概要

「新聞記事から学ぶ私たちの生活文化」をテーマに課題解決に取り組む。新聞記事は生活文化の宝庫である。しかし，記事を鵜呑みにし，受身的に受け取るだけでは不十分である。記事を能動的に，批判的に処理することが重要である。そこで，読者の理解を促進するためには，記事に関して，どのような援助や工夫が有効であるか，仮説を立てて検証したり，記事に記されている事柄は実際に起こりうる事例であるかどうかを検証したり，読者の立場から課題を見つけ，課題解決能力の育成を図る。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 新聞記事の読解を通して様々な課題を発見できるようになる。						○	○		○
2 私たちの生活文化を紹介した新聞記事に関する課題について，どのようにすれば解決ができるか，チームで検討できるようになる。						○	○		○
3 課題解決のために関連する文献の収集や地域からの協力・援助によって，実験や調査を計画・準備し，結果をまとめ，考察できるようになる。						○	○		○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス（年間の予定と教育目標）	シラバスを熟読すること。
2．チーム構成員同士のリレーションシップの形成	積極的に仲間づくりをすること。
3．課題の設定に向けた準備（新聞などからの発見）	資料を集め，目を通すこと。
4．興味・関心を得た新聞記事の選択	チームで話し合い，新聞記事を絞り込むこと。
5．選んだ新聞記事の要約と発見した課題の発表・共有	発見した課題についてレポートし，発表すること。
6．発見した課題から自分たちの研究テーマを決め，研究目的を定める	チームの中でよく話し合い，目標を定めること。
7．課題解決への道筋を計画する（どこで何をするか計画案を立てる）	チームの中で協力しながらスケジュールを立てる。
8．課題解決に向けて行動する（実験，調査の構想を立てる）	チームの中で協力しながら役割分担を決める。
9．課題解決に向けて行動する（実験，調査の準備をする）	チームの中で話し合いながら準備を進める。
10．課題解決に向けて行動する（実験，調査を行う）	チームの中で協力しながらデータを得る。
11. データを表や図にまとめる	チームの中で協力しながら進める。
12. 表や図を読み取る　～　中間発表　～　24 回目まで各自，行動する	疑問や問題が発生したらチームで話し合うこと。
25. まとめのレポートを書く（問題と目的）	チームで話し合い，協力すること。
26. まとめのレポートを書く（方法）	チームで話し合い，協力すること。
27. まとめのレポートを書く（実験，調査の結果）	チームで話し合い，協力すること。
28. まとめのレポートを書く（考察）	チームで話し合い，協力すること。
29. 発表（プレゼンテーションと質疑応答）	今後に向けて改善点などを出し合い，共有すること。
30. 総括（まとめ）	感想を述べ，皆で共有すること。

履修上の注意

毎回，休まず出席すること。欠席する場合は必ず連絡を入れること。積極的に学び，チーム内で協力して自主的に作業を進めること。わからない点は相談すること。報告・連絡・相談を忘れずに。

成績評価方法

熱心に準備をしているか，協力して取り組んでいるか等，態度に関して 50%，成果に関して 50%

教科書　課題に応じて，テーマに沿って指示する。

参考書　課題に応じて，テーマに沿って指示する。

備　考

質問等については，いつでもお答えします。各セッションの中で，または終了時，あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。

授業科目名	家政特別講義Ⅲ（ﾌﾞﾗﾝﾄﾞﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ演習）		単位（総授業時間＋自習時間）		2(30+30)
担当者	井上美紀・川又勝子	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服専３年

授業概要

服飾文化専攻ブランドマネジメント演習のオリジナルファッションブランドである「mishima&Co」コーポレートブランドより、学生自身が企画、運営を行って商品の開発販売に至る全過程＝ブランドマネジメントを実践し、ファッションビジネス全般を実際に体験する PBL 型授業を行う。特に製品ラインブランドのマネジメントを展開する。このために必要な知識や手法を教授する。さらに関連施設での外部研修や、成果発表のための外部での展示会も行う。この授業はグループワークやディスカッションを交えて進める。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ﾌﾞﾗﾝﾄﾞﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄに関する知識とマネジメント力を身につける。			○						
実践力と社会人として必要な基礎力を身につける。					○	○	○	○	○

授業計画の内容　（全時、井上・川又の２人で指導）	自習（事前・事後学修の内容）
１．はじめに：授業概要、今年度の連携事業内容	連携先資料を収集する。
２．ブランドマネジメント概論１　概要、素材、役割分担	文献資料を収集する。
３．ブランドマネジメント概論２　起業の実際、ブランドロゴ	配布プリントを見直す。課題に取り組む。
４．ブランドコンセプトの策定１　コンセプト案	配布プリントを見直す。課題に取り組む。
５．ブランドコンセプトの策定２　コンセプト設定	文献資料を収集する。課題に取り組む。
６．事業計画の策定、製品計画１　素案	課題に取り組む。
７．製品計画２　決定	課題に取り組む。
８．外部研修　（山形県内の連携先）	研修内容を整理する。
９．製造１　仕入れ･検品、サンプル作製①	必要な材料を整理する。
10．製造２　サンプル作製②	課題に取り組む。
11．製造３　サンプル作製③	課題に取り組む。
12．製造４　商品製造①	課題に取り組む。
13．製造５　商品製造②	課題に取り組む。
14．製造６　商品製造③	課題に取り組む。
15．製造７　商品製造④	課題に取り組む。
16．製造８　商品製造⑤	取り組み内容を振り返る。
17．製造９　商品製造⑥	課題に取り組む。
18．製造 10　商品製造⑦	課題に取り組む。
19．製造 11　商品製造⑧	課題に取り組む。
20．製造 12　商品製造⑨	課題に取り組む。
21．製造 13　商品製造⑩	課題に取り組む。
22．商品検査	取り組み内容を振り返る。
23．ブランドマネジメント概論３　ブランドプロモーション	配布プリントを見直す。
24．プロモーション計画　（進捗状況により製造を同時進行）	課題に取り組む。
25．プロモーション試料準備、展示会準備	課題に取り組む。
26．プロモーション活動、展示会準備	課題に取り組む。内容を振り返る。
27．展示会１　搬入・展示	課題に取り組む。
28．展示会２	課題に取り組む。
29．展示会３　搬出	課題に取り組む。
30．おわりに：検討会、本演習のまとめ	全内容を振り返る。

履修上の注意　学生が主体となって取り組む PBL 型の授業となる。全員で協力し合い積極的に取組む。社会人としてのマナーを心掛ける。課題は、自身の案を事前にまとめて授業に臨むこと。外部での研修や展示会を開催する。

成績評価方法・基準

事前準備をし、チームで協力して積極的に課題に取組んでいるかに対し 60%、展示会・成果 40%

教科書　内容に応じて指示する。

参考書　必要に応じて紹介する。

備　考

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
評価や演習の進め方、事業での連携内容は１回目の授業で説明する。
課題は授業内でフィードバッグする。
連携先の依頼や作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間等を変更することがある。
展示会の開催期間や外部研修日時が定時の時間外に行われる事もある。
課題が未提出、実施されない等の際には、評価の対象としないことがある。
外部研修のための費用がかかります。（前期・後期それぞれ 1500 円程度を目安）

授業科目名	家政特別講義Ⅳ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60＋30)
担当者	井上　美紀	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	服専４年

授業概要

家政特別講義のまとめとして様々な課題に取り組む。

上級学年での学生生活にスムーズに取り組めるように学びの意義や履修について教授する。また、外部講師の講話や服飾文化専攻の卒業生の講話等、様々な事柄について触れ、より幅広い視点で様々な事柄を捉えることができるように指導する。また、生活安全や防災など、学生生活を安心して過ごせるための講話や訓練も行う。さらに、服飾文化や家政学に関する研究について学び、課題の設定や解決方法について教授する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
倫理観、課題解決能力、応用力、生涯学習力等を身につける。					○		○		○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．はじめに　ガイダンス①、学生生活、防災	取組の内容を把握する。
2．外部講師による生活安全に関する講話①	レポートを完成させる。
3．OG/OB による講話①	レポートを作成する。
4．OG/OB による講話②	レポートを完成させる。
5．服飾文化・家政学の課題①	レポートを作成する。
6．服飾文化・家政学の課題②	レポートを完成させる。
7．前半のまとめ	内容を振り返る。
8．ガイダンス②、学生生活、防災	取組の内容を把握する。
9．外部講師による生活安全に関する講話②	レポートを完成させる。
10. OG/OB による講話③	レポートを作成する。
11. OG/OB による講話④	レポートを完成させる。
12. 服飾文化・家政学の課題③	レポートを作成する。
13. 服飾文化・家政学の課題④	レポートを作成する。
14. 服飾文化・家政学の課題⑤	レポートを完成させる。
15. おわりに　講義のまとめ	全体の内容を振り返る。

履修上の注意

開講日時は掲示にて、またはガイダンス時に指示する。

成績評価方法・基準

授業への参加状況・レポート課題の進度で 50%、レポート内容 50%

教科書　なし

参考書　なし

備　考

レポート課題が未提出の際には、評価の対象としない。

レポートは後日添削してフィードバックする。

授業科目名	家政特別演習(研修旅行)				単位（総授業時間＋自習時間）		2(30＋60)		
担当者	植松　公威	必・選	必	形態	集中講義	学期	通年	対象	服専２年

授業概要

飾をはじめ家政学，美術・工芸に関わる博物館，企業，工場などの施設を見学し，授業で学んだ知識や技能を基にした，服飾や家政学に関する実際的な知識を体験的に習得する。あらかじめ，事前学習により知りたいこと，疑問に思うことなどを明確にした上で，現地で説明を聞いたり，展示物を見たりすることによって課題解決を図ることが望ましい。研修で学んだことはその後の学習や進路選択，就職活動に生かせるようにする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・生産，流通に関わる企業の活動に対する理解を深める		○	○						
・博物館や企業の資料館の展示物を見ることにより，歴史的，文化的，社会貢献に関する知識を深める		○	○						
・将来の進路（職業選択）を考える基礎とする		○	○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス	研修先，スケジュールの確認
2.事前学習（研修先である博物館や資料館，企業，工場などに関する説明と各自の事前の調査）	説明をよく聞き，訪問する施設についての情報を調べること
3.事前学習（各施設で調べたいこと，知りたいこと，見たいものなどを明確化する）	あらかじめ，疑問点や学びたいこと，目的などを明確にして，記録しておくこと
4.事前学習（上記３の整理と発表・共有）	研修で何を学ぶのか，皆の前で発表し，意識を高めるとともに，研修の目的を確立させること
5.研修旅行（３泊４日）	事故やけががないように慎重に行動すること
6.レポートの作成	施設の資料や写真やメモ（記録）を参考に，見たこと，聞いたこと，わかったこと，わからなかったことを振り返り，整理し，レポートすること
7.研修のまとめ	皆で感想を共有すること

履修上の注意

研修先では社会人としてふさわしい言動，規律ある行動をするように留意すること。
事前にしっかりとした研修計画を立て，何を学ぶのかという目的を明確化することが実りある研修につながるので，事前の学習にも力を入れるように。

成績評価方法・基準

事前学習での調査状況 20%，研修中の活動状況 50%，研修レポートの内容 30%で評価する。
レポートは講評のうえ返却する。

教科書　使用しない。

参考書　研修施設に応じて指示する。

備　考

質問，相談は各セッションの中で，または終了時，オフィスアワーで受け付けるが，随時来室（不在のときあり）してコミュニケーションしてもよい。

授業科目名	課題研究Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(60＋30)
担当者	菅野　修一	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	服専３年

授業概要

大学生活の集大成としてポリマーケミストリーの観点からテーマを選定し、現象に対する科学的に理解を深めることをとおして、科学に関する学問体系全体一端に触れる。より具体的には、参考文献の収集・実験技術の習得・実験データのまとめ方・論文作成の手法・研究発表の手法に関する基礎を習得できる。

具体的テーマは各個人の単位履修状況及び興味などを考慮して決定する。研究のペースも、各個人の単位履修状況を考慮して進める。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
研究目的を理解し実践する。						○	○	○	○
研究成果を発表し、論文としてまとめる。						○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．研究の動機づけと目的の確認	指定文献の熟読。
2．文献調査	指定文献の熟読。
3．文献調査	指定文献の熟読。
4．精製実験	指定文献の熟読。
5．精製実験	指定文献の熟読。
6．合成実験	指定文献の熟読。
7．合成実験	データを見直す。
8．合成実験	データを見直す。
9．合成実験	データを見直す。
10. 合成実験	データを見直す。
11. 分析実験	データを見直す。
12. 分析実験	データを見直す。
13. データ整理	論文作成。
14. 口頭発表準備	論文作成。
15. 課題研究Ⅰ発表会	論文作成。

履修上の注意

理解をより深めるため、有機化学Ⅰ・Ⅱ及び化学Ⅰ・Ⅱの受講が望ましい。

成績評価方法・基準

実験をしてデータを出すことに対して50%、得られたデータを論文としてまとめプレゼンテーションをおこなうことに対して50%を基準として総合的に評価する。

教科書　多くの参考文献や専門書は必要に応じて配布あるいは貸し出す。

参考書　必要なプリント配布

備　考

質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

授業科目名	課題研究Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）	2(30＋15)				
担当者	植松　公威	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	服専３年

授業概要

この授業では教育心理学の分野の研究活動に取り組む。目標としては，教育心理学に関する研究テーマを先行研究から選び，追試研究を行うことを目指す。選んだ先行研究をよく理解した上で，先行研究の実験方法などを模倣する形で新たな実験を準備，実施し，データを集計し，論文を作成する。特に，複数の要因に関して表や図を作成したり，結果を読み取ったりする訓練を行う。一連の活動を通して研究に必要なリテラシーやプレゼンテーション力を習得させることを目的とする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 ワードやエクセルを用いてデータの集計と図表の作成，読み取りが行えるようになる。						○	○	○	○
2 教育心理学の研究に必要な基礎的なリテラシー（読み書き能力）を身につける。						○	○	○	○
3 教育心理学の研究に興味をもち，今後の課題を見つけ，新たな仮説を立てられるようになる。						○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス（年間の予定と教育目標）	シラバスを熟読すること。
2．リレーションづくり	あらかじめ質問内容を考えておくこと。
3．過去の研究テーマの調査	教育心理学の研究テーマについて自主的に調べる。
4．研究テーマの選定	興味のある研究テーマをいくつかに絞る。
5．研究論文の構成について学ぶ	論文の構成とそれぞれの意味について理解する。
6．先行研究の内容についてまとめる	興味のある先行研究を選び，レポートする。
7．先行研究の内容について報告し，討論する。	選んだ先行研究についてレジュメを作成する。
8．実験の準備（質問紙，教材，課題などの作成）	選んだ先行研究に基づいて実験計画を立てる。
9．実験の準備（実験で使う冊子のチェックと印刷）	実験で使う冊子を作成し，必要な部数印刷する。
10. 実験の実施	いつ，どこで，誰に実験を行うのか計画する。
11. エクセルにデータを入力する	記入済みの冊子を回収し，データを入力する。
12. エクセルを使ってデータを分析し，表や図を作成する	平均値や正答者数（率）を算出し，図表を作る。
13. ワードによる研究論文の作成	仮説が支持されたかどうかを検証しておく。
14. 発表の準備（パワーポイントの画像，発表原稿の作成）	口頭発表の原稿とパソコンの画像を照合する。
15. 研究発表	前もって発表のリハーサルをしておく。

履修上の注意

毎回，休まず出席すること。欠席する場合は必ず連絡を入れること。先行研究を熟読し，積極的に学び，作業を自主的に進めること。わからない点は相談すること。報告・連絡・相談を忘れずに。必修であるための義務感から取り組むのではなく，指導教官との共同研究として，お互いに議論や意見交換しながら，熱心に取り組むこと。とりわけ日本における学校教育のあり方を少しでも良いものに改善するための実証的研究を目指して取り組むこと。

研究に対する取り組み 30%，論文の内容 30%，研究発表の準備と当日のパフォーマンス 40%

教科書　必要に応じて資料（プリント）を配布する。

参考書　研究課題に応じて指示する。

備　考

質問等については，いつでもお答えします。各セッションの中で，または終了時に，あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。

授業科目名	課題研究Ⅰ（被服科学）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+30)
担当者	井上　美紀	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	服専３年

授業概要

被服科学分野では、被服整理・染色加工・被服材料に関連する研究課題を相談して決定し、課題に応じて文献調査と実験を行う。このための研究手法を教授する。特に、研究の進め方、課題設定方法、研究計画方法、文献調査方法を解説し、実験手法を教授する。課題に対する成果は論文にまとめ、課題研究Ⅰの発表会でプレゼンテーションするとともに、課題研究Ⅱへの土台づくりを行うため、論文の書き方、プレゼンテーションの手法も教授する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
倫理観、課題解決能力、応用力、生涯学習力等を身につける。						○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．はじめに：課題研究とは、研究の進め方、課題の設定方法	文献資料を収集する。課題に取り組む。
２．研究課題の選定、文献調査の方法、論文の書式	文献資料を収集する。
３．研究計画、文献調査	文献資料を収集する。課題に取り組む。
４．文献調査のまとめ	文献調査のまとめを完成させる。
５．実験計画、試料の準備	計画を立て、作業順番を決める。
６．実験１　課題に応じた内容	課題に取り組む。
７．実験２　課題に応じた内容	課題に取り組む。
８．実験３　課題に応じた内容	課題に取り組む。
９．実験データの整理と考察	実験データの整理と考察を完成させる。
10. 論文の書き方、論文の構成、論文作成１	課題に取り組む。
11. 論文作成２	課題に取り組む。
12. 論文作成３	論文を完成させる。
13. プレゼンテーションの方法、資料作成、抄録作成	抄録を完成させる。
14. プレゼンテーション資料作成、発表練習	プレゼン資料を完成させる。
15. おわりに：プレゼン、論文提出、課題研究Ⅰのまとめ	内容を振り返り、Ⅱへの課題を見出す。

履修上の注意

実験は安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねる。
新しい指定の実験ノートを準備する。

成績評価方法・基準

事前準備をし、実験やディスカッションに取組みデータを適切にまとめている事に対し 50%
論文・プレゼンテーションの内容に対し 50%

教科書　研究課題に応じて指示する。

参考書　必要に応じて紹介する。

備　考

実験内容、作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間の変更と延長等を行う場合がある。

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価や進め方は１回目の授業で説明する。

課題は、授業中にフィードバッグ、または後日添削して返却する。

課題が未提出、実施されない等の際には、評価の対象としないことがある。

授業科目名	課題研究Ⅰ(染色学)			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	川又　勝子	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	服専３年

授業概要

３年次前期までに習得した服飾文化に関する知識や技術の中から、特に、服飾史と染色学に関する知識・技術をもとに、各種染色資料についての調査研究を行う。研究対象は、本学をはじめとする東北地方に残されている染色関連資料とする。各自が設定したテーマに合わせて、研究計画を立て、調査・分析方法について指導する。さらに、研究の成果をまとめるレポート作成と課題研究発表会に向けてのレゼンテーション法についても指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
文献調査や資料調査など研究の進め方の基本を身につける。							○		
これまでに習得した知識・技術を応用できるようになる。									○
計画的にものごとを進める能力を身につける。						○			
レポートやプレゼンテーション資料作成の基本を身につける。								○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．ガイダンス：課題研究Ⅰの進め方	研究テーマの選定
２．テーマの決定、文献の調べ方	図書館等で文献調査を行う
３．文献調査：各自で文献の収集と調査	図書館等で文献調査を行う
４．　〃　：文献調査のまとめ	収集した文献をまとめ、報告資料を作成
５．　〃　：文献調査の報告と今後の計画	報告資料の訂正、今後の計画を策定
６．研究指導：個別に調査等の指導①	時間内に終わらなかった調査等を進める
７．　〃　：個別に調査等の指導②	時間内に終わらなかった調査等を進める
８．　〃　：個別に調査等の指導③	時間内に終わらなかった調査等を進める
９．　〃　：個別に調査等の指導④	時間内に終わらなかった調査等を進める
10. レポート指導：レポートのまとめ方	資料調査の結果をまとめる
11.　〃　：個別にレポート作成の指導	レポートの作成
12.　〃　：個別にレポート作成、抄録原稿作成の指導	レポートの訂正と抄録作成
13. 発表資料の作成指導：プレゼンテーション資料の作成について	プレゼンテーション資料作成
14.　〃　：個別にプレゼンテーション資料の作成の指導と発表練習	プレゼンテーション資料の訂正
15. 課題研究Ⅰ発表会	発表会での指摘内容をﾚﾎﾟｰﾄに反映させる

履修上の注意

日頃から伝統染織に関しての情報を収集するように心掛けてください。文献や資料の調査、レポート作成などについては、各自で積極的に進め、意欲的に取り組んでください。

成績評価方法・基準

平常の取り組みによる評価（研究ノート等）を50%とし、調査の成果・レポート・発表会でのプレゼンテーションを50%として評価します。なお、研究ノートやレポートは、後日コメントを付して返却します。

教科書 各自のテーマに沿って指示する。

参考書 各自のテーマに沿って指示する。

備　考： 質問等は、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）時にも受け付けます。

授業科目名	課題研究Ⅰ（商品学）		単位（総授業時間＋自習時間）		2(30+60)
担当者	水谷　浩	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	服専３年

授業概要（目的）

本演習は，消費生活協同組合や民間シンクタンクなどでの実務経験や『消費生活コンサルタント（第 46 期）』の経歴を踏まえ「身体の不自由なヒトの生活の質（Quality of Life:QOL）改善と衣生活の役割」についてのフィールド調査および商品特性に関する研究を指導する。

具体的には，①身体の不自由なヒトの身体的・感覚的・認知的特性を学び，②彼らの衣生活に関してのフィールド調査，そして③アクセシブルデザイン（Accessible Design:身体の不自由なヒトの更衣動作への工夫や配慮）の研究を通じて，人間中心設計（Human Centered Design:HCD）の考え方に基づく，被服観の修得をめざす。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・商品学的な視点で，被服の商品特性を理解できる						○	○	○	○
・身体の不自由なヒトの困難さについて，共感的に理解できる						○	○	○	○
・アクセシブルデザインの意義を理解し，説明できる						○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. オリエンテーション（授業のすすめ方・評価など） 2. 身体の不自由なヒトたちの暮らし 障がい理解を通じて，衣生活を学ぶ 3. 支援者からみた障がい理解 対象者をとらえる３つの視点を学ぶ 4. 商品学的視点からみた，身体の不自由なヒトの被服 身体の不自由なヒトの更衣動作への配慮や工夫を学ぶ	障がい理解を通じて，被服の商品特性への理解を深め，各自の研究課題（テーマ）を検討する
5. 研究の企画・立案 先行研究を調査し，新たな課題を見つける 6. 自主研究Ⅰ（個別テーマ） 研究目的を明確化し，基礎統計資料を収集・分析する 7. 自主研究Ⅱ（個別テーマ） 仮説（調査内容）を検討する 8. 自主研究Ⅲ（個別テーマ） フィールド調査(アンケート・インタビュー)を実施する 9. 自主研究Ⅳ（個別テーマ） 課題制作を通じて，アクセシブルデザインの知見を深める	先行研究を参考にして，各自の研究課題について，自らの仮説にもとづき，それを解決するための調査方法を設定する。次に，フィールド調査を実施し，そこから得られたデータを整理・図表化することにより，これらデータの意味（アクセシブルデザイン）について考察する。
10. 自主研究Ⅴ（個別テーマ） 課題制作を通じて，アクセシブルデザインの知見を深める 11. 自主研究Ⅵ（個別テーマ） 課題制作を通じて，アクセシブルデザインの知見を深める 12. 自主研究Ⅶ（個別テーマ） 研究成果の論文執筆に取り組む	フィールド調査の結果から，課題制作のテーマを設定し，アクセシブルデザインの知見を深める。
13. 自主研究Ⅷ（個別テーマ） 研究成果の論文執筆に取り組む 14. 自主研究Ⅸ（個別テーマ） 研究成果の発表資料作成に取り組む 15. まとめ（報告会）	フィールド調査および課題制作の結果を論文にまとめ，それらを簡潔に説明するための発表資料を作成する。

履修上の注意

自主的な調査・研究には，知識と経験の積み重ねが不可欠なことから，毎日最低１時間以上，文献・資料調査，もしくは課題の制作など，予習・復習を継続すること。2/3 以上の出席がない場合には，単位取得できない。

成績評価方法・基準

平常点・授業への参加態度(5%)+制作物・論文(50%)+研究発表(45%)にもとづき評価する。

なお，制作物・論文・発表資料のフィードバックについては，適時，行います。

教科書〔より多くの人が使いやすいアクセシブルデザイン入門〕〔星川安之他〕〔(日本規格協会〕〔972 円〕

参考書　授業中に適宜指示する。

備　考

フィールド調査は，授業の空き時間や休日に実施します。また，課題制作費などは，自己負担となります。

なお，質問などは，オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。

授業科目名	課題研究Ⅱ（被服科学）		単位（総授業時間＋自習時間）	4(60+60)

担当者	井上　美紀	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服専４年

授業概要

被服科学分野では、課題研究Ⅰから引き続き、家政学を基本として、被服整理・染色加工・被服材料に関連する分野の研究課題を設定して取り組む。授業では、課題に応じて文献調査と実験を行う。さらに課題に対する成果は論文にまとめ、発表（課題研究発表会でのプレゼンテーション、課題研究展でのポスター展示）する。このための研究課題の設定、文献調査の手法、実験方法、論文のまとめ方、発表方法等、研究の手法を教授する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
自己管理能力、倫理観、課題解決能力、応用力等を身につける。						○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．はじめに：課題研究Ⅱの進め方	課題研究Ⅰの内容を見直す。
2．研究計画Ⅰでの成果と課題	課題研究Ⅰの内容を見直す。
3．研究計画　計画案の策定と修正立案	課題に取り組む。
4．文献調査１　文献の検索	文献資料を収集する。課題に取り組む。
5．文献調査２　内容の整理	課題に取り組む。
6．文献調査３　まとめ	文献調査を完成させる。
7．実験計画１　試料準備	研究計画を振り返り、計画する。
8．実験１　課題に応じた内容	課題に取り組む。
9．実験２　課題に応じた内容	課題に取り組む。
10．実験３　課題に応じた内容	課題に取り組む。
11．実験４　課題に応じた内容	課題に取り組む。
12．実験５　課題に応じた内容	課題に取り組む。
13．実験６　課題に応じた内容	課題に取り組む。
14．実験７　課題に応じた内容	課題に取り組む。
15．実験データの整理と考察１	実験データの整理と考察を完成させる。
16．実験計画２　試料準備	前期の内容を振り返り、計画する。
17．実験８　課題に応じた内容	課題に取り組む。
18．実験９　課題に応じた内容	課題に取り組む。
19．実験10　課題に応じた内容	課題に取り組む。
20．実験データの整理と考察２	実験データの整理と考察を完成させる。
21．論文の構成	課題に取り組む。
22．論文作成１	課題に取り組む。
23．論文作成２	課題に取り組む。
24．論文作成３	課題に取り組む。
25．論文作成４	論文を完成させる。
26．抄録作成、プレゼンテーション資料作成	課題に取り組む。
27．プレゼンテーション資料作成、発表練習	課題に取り組む。
28．プレゼンテーション	課題に取り組む。
29．ポスターセッション資料作成	ポスターを完成させる。
30．おわりに　課題研究のまとめ	課題研究ⅠとⅡを振り返る。

履修上の注意

実験は安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねる。
課題研究Ⅰと同じ指定の実験ノートを準備する。

成績評価方法・基準

事前準備をし、実験やディスカッションに取組みデータを適切にまとめている事に対し50%
論文・プレゼンテーションに対し50%

教科書　研究課題に応じて指示する。

参考書　必要に応じて紹介する。

備　考

実験内容、作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間の変更と延長等を行う場合がある。
質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
評価や進め方は１回目の授業で説明する。
課題は、授業中にフィードバッグ、または後日添削して返却する。
課題が未提出、実施されない等の際には、評価の対象としないことがある。

授業科目名	課題研究Ⅱ（染色学）			単位（総授業時間＋自習時間）				4(60+30)
担当者	川又　勝子	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服専４年

授業概要

課題研究Ⅰでまとめたレポートを基に、より詳細な文献調査や染織色料調査、作品の制作等を行うことで染色学に関する知見を深めさせる。研究対象は、本学をはじめとする東北地方に残されている染色関連資料とし、各自が設定したテーマに合わせて研究計画を立て、調査・分析方法について指導するが、進捗状況をみて個別指導を行う。さらに、研究の成果をまとめる論文作成と課題研究発表会に向けての効果的なプレゼンテーション資料作成についても指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
文献調査や資料調査など研究の進め方の基本を身につける。							○		
これまでに習得した知識・技術を応用できるようになる。									○
計画的に研究を進める能力を身につける。						○			
レポートやプレゼンテーション資料作成の基本を身につける。								○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス：課題研究Ⅱの説明	課題研究Ⅰの復習
2．テーマの確認と今後の進め方	課題研究Ⅰの復習
3．文献・資料等の収集 ①	図書館等での文献収集
4．文献・資料等の収集 ②	図書館等での文献調査
5．文献・資料等の調査 ①	文献を読み進める
6．文献・資料等の調査 ②	文献を読み進める
7．個別に制作・調査等の指導 ①	時間内に終わらなかった調査等を進める
8．個別に制作・調査等の指導 ②	時間内に終わらなかった調査等を進める
9．個別に制作・調査等の指導 ③	時間内に終わらなかった調査等を進める
10．個別に制作・調査等の指導 ④	時間内に終わらなかった調査等を進める
11．個別に制作・調査等の指導 ⑤	時間内に終わらなかった調査等を進める
12．個別に制作・調査等の指導 ⑥	時間内に終わらなかった調査等を進める
13．個別に制作・調査等の指導 ⑦	時間内に終わらなかった調査等を進める
14．個別に制作・調査等の指導 ⑧	これまでの成果をまとめたレポート作成
15．制作・調査の結果まとめ（研究室内発表会）	レポートの修正
16．個別に制作・調査等の指導 ⑨	時間内に終わらなかった調査等を進める
17．個別に制作・調査等の指導 ⑩	時間内に終わらなかった調査等を進める
18．個別に制作・調査等の指導 ⑪	時間内に終わらなかった調査等を進める
19．論文作成の指導 ①	論文作成を進める
20．論文作成の指導 ②	論文作成を進める
21．論文作成の指導 ③	論文作成を進める
22．論文作成の指導 ④	論文作成を進める
23．論文作成の指導 ⑤	抄録原稿を作成する
24．抄録原稿作成指導	抄録を修正し、プレゼンテーション資料を作成する
25．プレゼンテーション資料作成指導	プレゼンテーション資料を修正する
26．発表練習	指摘箇所に注意して発表の練習をする
27．課題研究発表会	発表会での指摘内容を論文に反映させる
28．ポスター制作 ①	ポスター原稿作成
29．ポスター制作 ②	ポスター作りを完成させる
30．課題研究展でのポスターセッション	ポスターセッションの内容を振り返る

履修上の注意　日頃から伝統染織に関しての情報を収集するように心掛けてください。就職活動等で忙しいこともあると思いますが、シラバスの進度を守るよう努力してください。

成績評価方法・基準　平常の取り組みによる評価（研究ノート等）を 50%とし、調査の成果・制作品・論文・発表会でのプレゼンテーションを 50%として評価します。研究ノートや資料については個別指導時に添削・指導します。研究ノート等は、コメントを付して後日返却します。

教科書　各自のテーマに沿って指示する。

参考書　各自のテーマに沿って指示する。

備　考：　文献や資料の調査、作品制作、論文作成などについては、各自で積極的に進め、意欲的に取り組んでください。研究指導の曜日時間は各人と相談し決定します。合わせて、オフィスアワーも活用してください。

授業科目名	課題研究Ⅱ（商品学）		単位（総授業時間＋自習時間）	4(60+60)

担当者	水谷　浩	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	服専 4 年

授業概要（目的）

本演習は，消費生活協同組合や民間シンクタンクなどでの実務経験や『消費生活コンサルタント（第 46 期）』としての経歴を踏まえ『課題研究Ⅰ』の知見をさらに深めるためのフィールド調査や商品特性に関する研究などを指導する。

具体的には「あなたの研究は，どのように社会の役に立つのか？」という視点から，社会的意義をより明確にし，フィールド調査や被服の商品特性に関する研究を通じて，課題発見力や問題解決力に加えて，総合的な専門知識・技能修得をめざす。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・商品学的視点から，研究の社会的意義を理解し，説明できる						○	○	○	○
・課題解決のための研究方法を立案し，計画的に実行できる						○	○	○	○
・研究成果（制作物）を論文にまとめ，効果的に発表できる						○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1　オリエンテーション（授業のすすめ方・評価など） 2　今年度の研究計画（昨年度の振返り） 昨年度の研究成果を踏まえ，研究計画を作成する	課題Ⅰの振返り
3-4 研究の社会的意義（問題認識）について明確化 課題や現況について，自らの問題認識を明らかにする 5-6 文献研究 研究テーマにそって，先行研究の調査・分析をすすめる 7-8 統計調査 研究テーマにそって，統計資料の調査・分析をすすめる 9-10 仮説の検討 自らの研究について，結論（仮説）を検討する 11 フィールド調査の事前指導 対外的な研究協力の要請方法・マナーを学ぶ 12 フィールド調査の実施 アンケート調査やインタビューなどを実施する 13 フィールド調査の振り返り 研究の方向性や内容（仮説）を再検討する	研究の社会的意義（問題意識）を明確にした上で，自らの仮説にもとづき，それを解決するための先行研究や統計調査をすすめる。 次に，フィールド調査を実施し，そこから得られたデータを整理・図表化することにより，これらデータの意味について考察する。
14-15 課題制作Ⅰ（試作） 課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める 16　実証実験 実証実験を通じて，課題発見力を学ぶ 17-25 課題制作Ⅱ（改良・改善） 改善改良を通じて，問題解決力を学ぶ	フィールド調査の結果から，課題制作のテーマを設定し，実証実験や改善・改良などを経て，被服の商品特性への知見を深める。
26-28 論文執筆 研究成果を論文にまとめる 29　報告会準備 報告会のための発表資料をまとめる 30　まとめ（報告会）	フィールド調査および課題制作の結果を論文にまとめ，それらを簡潔に説明するための発表資料を作成する。

履修上の注意

自主的な調査・研究には，知識と経験の積み重ねが不可欠なことから，毎日最低 1 時間以上，文献・資料調査，もしくは課題の制作など，予習・復習を継続すること。2/3 以上の出席がない場合には，単位取得できない。

成績評価方法・基準

平常点・授業への参加態度(5%)+制作物・論文(50%)+研究発表(45%)にもとづき評価する。

なお，制作物・論文・発表資料のフィードバックについては，適時，行います。

教科書　各自の自主研究のテーマや専門分野に応じて指示する。

参考書　授業中に適宜指示する。

備　考

フィールド調査は，授業の空き時間や休日に実施します。また，課題制作費などは，自己負担となります。

なお，質問などは，オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。

健康栄養学専攻専攻科目

4．健康栄養学専攻専攻科目

授業科目名	社会福祉論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	伊藤　常久	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専１年

授業の概要

国民が健康で自立した安心できる生活を送ることができるよう支援することは、社会福祉の目的の一つである。講義では、日本や諸外国における社会福祉の歴史と発展について取り上げながら、社会福祉の理念や考え方について紹介する。また、少子高齢化が一層進みつつある我が国の高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉の仕組み（法・制度）と現状と合わせ、現在生じているさまざまな課題等について、私たちの生活と関連付けて解説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
社会福祉の理念や概念について理解する。		○	○		○				
社会福祉に関連する法・制度を理解する。		○	○		○				
社会福祉の現状や課題について考える力を身につける。		○	○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
2．日本における社会福祉の歴史と発展	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
3．諸外国における社会福祉の歴史	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
4．諸外国における社会福祉の現状とその制度（VTR）	VTR の内容をまとめ、感想と共に次回提出
5．社会福祉のニーズとは	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
6．社会福祉に携わる専門職	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
7．ボランティア	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
8．社会福祉援助技術	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
9．障害者福祉①概念とその歴史	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
10. 障害者福祉②身体障害者補助犬法	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
11. 高齢者福祉	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
12. 児童福祉	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
13. 子どもの権利条約	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
14. 貧困問題と社会福祉	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
15. これからの社会福祉、まとめ、授業評価アンケート	配布プリントの復習
16. 試験	講義内容の振り返りと筆記試験に向けた復習

履修上の注意
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻３回で欠席１回とする。
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。

成績評価方法・基準
・期末試験（70%）、受講態度（30%）。
・各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

教科書　資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

参考書〔新版 社会福祉概論〕〔金子光一編著〕〔建帛社〕〔2,484 円〕

備　考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

授業科目名	公衆衛生学Ⅰ	単位（総授業時間＋自習時間）	2(30＋60)

担当者	伊藤　常久	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専３年

授業の概要

生活における健康をどのように捉え、どう考えるのか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを科学的な角度から紹介する。公衆衛生学Ⅰでは、主に公衆衛生の概念や歴史といった概要の他、疾病と予防対策、保健衛生統計等の意義と役割、及び社会と健康について概説する。また、医学や疫学をはじめとする諸科学と公衆衛生との関係、そして各ライフステージにおける公衆衛生活動とその現状ついても合わせて説明する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
公衆衛生の概念や歴史について理解する。		○	○		○				
ライフステージ・分野毎の公衆衛生活動を理解する。		○	○		○				
公衆衛生の状況や課題を把握する力を身につける。		○	○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス、公衆衛生概要：健康の概念	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
2．公衆衛生概要：公衆衛生の概念と歴史	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
3．主要疾患の疫学と予防対策：生活習慣病の概念	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
4．主要疾患の疫学と予防対策：主要部位のがん、その他	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
5．公衆衛生に関する統計資料：保健統計	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
6．公衆衛生に関する統計資料：人口動態統計、その他	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
7．健康・疾病の測定と評価：疫学の概念	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
8．健康・疾病の測定と評価：疫学の応用	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
9．環境と健康：生態系と人間生活	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
10. 環境と健康：環境汚染と健康	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
11. 国民健康づくり対策	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
12. 学校保健	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
13. 母子保健	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
14. 産業保健	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
15. 高齢者保健、まとめ	配布プリントの復習
16. 試験	講義内容の振り返りと筆記試験に向けた復習

履修上の注意
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻３回で欠席１回とする。
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。

成績評価方法・基準
・期末試験（70%）、受講態度（30%）。
・各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

教科書〔衛生・公衆衛生学〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,024 円〕

参考書　資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

備　考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

授業科目名	公衆衛生学Ⅱ	単位（総授業時間＋自習時間）	2(30＋60)

担当者	伊藤　常久	必・選	管栄(必)	形態	講義	学期	後期	対象	健専３年

授業の概要

生活における健康をどのように捉え、どう考えるのか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを科学的な角度から紹介する。公衆衛生学Ⅱでは、健康状態・疾病の測定の評価をはじめ、生活習慣の現状とその対策、保健・医療・福祉・介護等の制度、日本や海外の公衆衛生の取り組み、そして、国際的な健康戦略であるヘルスプロモーションの概念等について説明を行う。また、生命と安全に関わる防災対策と公衆衛生との関連についても概説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
公衆衛生に関する法・制度を理解する。		○	○		○				
公衆衛生行政・事業と人々の健康状態について理解する。		○	○		○				
公衆衛生の状況や課題を把握し、考える力を身につける。		○	○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．健康・疾病の測定と評価：疫学調査・デザインの解釈	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
2．健康・疾病の測定と評価：リスクアナリシス	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
3．健康・疾病の測定と評価：疫学研究と倫理	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
4．生活習慣の現状と対策：保健行動の概念とモデル	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
5．生活習慣の現状と対策：保健行動のグループワーク	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
6．公衆衛生の法規・制度（衛生行政）	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
7．保健と医療：社会保障の概念	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
8．保健と医療：医療制度と保健	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
9．福祉と介護：介護保険制度	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
10. 福祉と介護：保健・医療・福祉・介護の連携	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
11. 環境保健、国際保健	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
12. 精神保健	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
13. 災害と公衆衛生	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
14. ヘルスプロモーション	配布プリントの復習とミニットペーパーの提出
15. まとめ	配布プリントの復習
16. 試験	講義内容の振り返りと筆記試験に向けた復習

履修上の注意

・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻３回で欠席１回とする。

・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。

成績評価方法・基準

・期末試験（70%）、受講態度（30%）。

・各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。

・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

教科書〔衛生・公衆衛生学〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,024 円〕

参考書　資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

備　考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

授業科目名	健康管理概論			単位（総授業時間＋自習時間）		2(30＋60)		
担当者	土井　豊	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専１年

授業概要

本授業では、現在の日本が世界的にもトップクラスの長寿国となった実情を踏まえ、今後の健康管理のあり方について教授する。具体的には、これまでの日本における疾病構造の変遷について学習すると共に、特に近年においては悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、肥満といったいわゆる非感染性疾患（生活習慣病）が増加している現実及びその主な要因等について解説する。また、各種疾病を含む健康現象についても教授するが、どの時点においても「私たちの健康度（健康＋体力）を維持増進させるための学習」であることを貫く。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
「健康とは何か」を説明できる基礎的知識を身につける。	○	○							
平均寿命より健康寿命こそが重要であることを認識する。	○	○							
健康寿命の延伸には自助努力が重要であることを認識する。			○						
健康情報の利用・管理法等についても学び、専門的職業人になるための実力を身につける。					○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.「健康管理概論」概説（ガイダンス）	今後の「自身の抱負」をまとめ次回提出
2.「健康的痩身方法についての実証的研究」について	学習内容（感想含）をまとめ次回提出
3.「日本人の平均寿命延長の主な要因」について	教科書にて復習、及び次回の予習
4.「少子高齢化の日本の姿」について	同上（復習及び次回の予習）
5.「現代の日本における健康の姿」について	同上
6.「日本人に多い疾病及び死因の今昔」について	同上
7.「ライフスタイルの現状と課題」について	同上
8.「メタボリックシンドロームとその予防」について	同上
9.「ロコモティブシンドロームとその予防」について	同上
10.「転ばぬ先の杖（骨）づくり」について	学習内容（感想含）をまとめ次回提出
11.「総合保健活動としての第一次～第三次予防」について	教科書にて復習、及び次回の予習
12.「性と健康」（STD 及び HIV／AIDS 等を含む）について	学習内容（感想含）をまとめ次回提出
13.「冬場に多いヒートショックとその予防」について	学習内容（感想含）をまとめ次回提出
14. 総復習及びまとめ：「今後の栄養・運動・休養」について	総復習をし、次回の試験に備える
15. 期末試験	自己採点による自己反省・評価
16. 試験問題の解説及び総括	本授業に対する自己評価及び授業評価

履修上の注意

正当な理由無き「欠席」は厳禁とする。

成績評価方法・基準

受講態度と随時課すレポート及び期末試験の成績を総合的に評価する。その内訳は平常点（毎回の受講態度及びミニットペーパーの内容等）50%、レポート＋期末試験 50%とする。なお、毎回のミニットペーパー及びレポートと期末試験については、添削かつ評価・採点後に返却することを常とする。

教科書：〔衛生･公衆衛生学〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2,800 円（税別)〕

参考書：適宜紹介する。

備　考

・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー時（曜日日時は掲示で確認）に受付けます。

授業科目名	解剖生理学Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	曽根　正彦	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専１年

授業概要

生命現象をなすヒトの体の構造（解剖学）と機能（生理学）とは表裏一体である。つまり生命現象を理解するには、解剖学と生理学を統合的に関連付けて学習する事が望ましい。講義は内科医の立場から行い、実践的な臨床または健康管理を意識付け、健康と栄養に関連する基礎的な知識の修得を目指す。解剖生理学は領域が広範であるため、1 年後期の解剖生理学Ⅰと 2 年前期の解剖生理学Ⅱに分けてある。解剖生理学Ⅰでは骨格系、筋系、神経系、感覚器系、内分泌系、血液について解説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・解剖生理学の基本的知識を学び身につける。	○	○	○						
・人体の構造と機能が破綻した病気との関連を理解できる。	○	○	○						
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．オリエンテーション、人体の基本構造	第１章 A をよく読み、不明点は質問
２．人体の基本構造（細胞・組織など）	第１章 BCD をよく読み、不明点は質問
３．循環器系（構成、循環、心臓、血管、生理学など）	第２章 A～D をよく読み、不明点は質問
４．循環器系（血管、循環調節、リンパ系など）	第２章 D～G をよく読み、不明点は質問
５．呼吸器系（呼吸器系の構造）	第３章 A～D をよく読み、不明点は質問
６．呼吸器系（呼吸生理学）	第３章 EFG をよく読み、不明点は質問
７．消化器系（総論、口、咽頭、食道）	第４章 AB をよく読み、不明点は質問
８．消化器系（胃、小腸、大腸）	第４章 B をよく読み、不明点は質問
９．消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓など）	第４章 CD をよく読み、不明点は質問
10．腎臓（総論、構造と機能）	第５章 AB をよく読み、不明点は質問
11．腎臓の働き・尿路系	第５章 BC をよく読み、不明点は質問
12．血液・免疫系（総論、血球と血漿など）	第６章 ABC をよく読み不明点は質問
13．血液・免疫系（血液凝固、造血など）	第６章 DE をよく読み、不明点は質問
14．血液・免疫系（免疫のしくみ）	第６章 F をよく読み、不明点は質問
15．血液・免疫系（血液型）、予備日	第６章 G をよく読み、不明点は質問
16．筆記試験	

履修上の注意

解剖生理学の学習のためには生物学の知識が重要である。
事前に生物学の知識を十分に整理しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準

期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

教科書〔なるほどなっとく！解剖生理学〕〔多久和典子　多久和 陽　著〕〔南山堂〕〔3,200 円〕

参考書　「無し」

備　考

都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。
今年度から教科書が変更になるので、注意すること。

授業科目名	解剖生理学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	曽根　正彦	必・選	管栄(必)	形態	講義	学期	前期	対象	健専２年

授業概要

生命現象をなすヒトの体の構造（解剖学）と機能（生理学）とは表裏一体である。つまり生命現象を理解するには、解剖学と生理学を統合的に関連付けて学習する事が望ましい。講義は内科医の立場から実践的な臨床または健康管理を意識付け、健康と栄養に関連する基礎的な知識の修得を目指す。解剖生理学は領域が広範であり解剖生理学Ⅰと解剖生理学Ⅱに分けてある。解剖生理学Ⅱは心臓血管系、リンパと生体防御、呼吸器系、消化器系、代謝と体温調節、泌尿器系、生殖器系、発生学などを解説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・解剖生理学の基本的知識を学び身につける。	○	○	○						
・人体の構造と機能が破綻した「病気」との関連を理解できる。	○	○	○						
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．オリエンテーション、心臓血管系（心臓）	第９章をよく読み、不明点は質問
２．心臓血管系（循環、構造、生理学、循環調節）	第９章をよく読み、不明点は質問
３．リンパ系と生体防御（非特異的生体防御など）	第 10 章をよく読み、不明点は質問
４．リンパ系と生体防御（特異的生体防御など）	第 10 章をよく読み、不明点は質問
５．呼吸器系（呼吸器系の構成）	第 11 章をよく読み、不明点は質問
６．呼吸器系（呼吸生理学）	第 11 章をよく読み、不明点は質問
７．消化器系（口、咽頭、食道）	第 12 章をよく読み、不明点は質問
８．消化器系（胃、小腸、大腸）	第 12 章をよく読み、不明点は質問
９．消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓）	第 12 章をよく読み、不明点は質問
10．エネルギー代謝と体温調節	第 13 章をよく読み、不明点は質問
11．泌尿器系（泌尿器系の構成）	第 14 章をよく読み、不明点は質問
12．泌尿器系（腎臓の働き、体液の恒常性など）	第 14 章をよく読み、不明点は質問
13．生殖器系（男性生殖器・女性生殖器の構成）	第 15 章をよく読み、不明点は質問
14．生殖器系（性周期：卵巣周期と月経周期、乳腺）	第 15 章をよく読み、不明点は質問
15．人体の発生（生殖細胞、性の決定、受精など）	第 16 章をよく読み、不明点は質問
16．筆記試験	

履修上の注意

解剖生理学の学習のためには生物学の知識が重要である。
事前に生物学の知識を十分に整理しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準

期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

教科書〔解剖生理学〕〔高野康夫 編〕〔化学同人〕〔3,000 円〕

参考書「無し」

備　考

都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。

授業科目名	運動生理学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	土井　豊	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専２年

授業概要

本授業では、運動に伴う生理的な諸現象について学習すると共に、現代人の多くが罹患する可能性がある各種生活習慣病の予防及び要介護予防等に必要な運動処方を作成するための基礎的知識について教授する。そして、対象者（運動実施者）の身体的特性等に応じた適切な運動処方を作成できるまでの能力を身につけさせる。加えて受講者個々人に対しても、自分に合った運動やスポーツを積極的・継続的に実践していく人材に成長していけるよう指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
「運動生理学」についての基礎的知識を身につける。	○		○						
運動と健康・体力との関連性に関する認識を深める。		○	○						
科学的・合理的な運動処方を作成できる能力を身につける。					○				
今後の健康・体力の維持増進への意欲と実践力を身につける。					○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.「運動生理学」概説（ガイダンス）	今後の「自身の抱負」をまとめ次回提出
2.「健康・体力づくりと運動との関係性」について	教科書にて復習、及び次回の予習
3.「運動と呼吸器系の生理学」について	同上（復習及び次回の予習）
4.「運動と循環器系の生理学」について	「血液循環系」について次回提出
5.「有酸素運動と無酸素運動」について	教科書にて復習、及び次回の予習
6.「運動と筋肉の生理学」について	同上
7.「運動とエネルギー代謝」について	同上
8.「季節と運動（暑さ寒さと運動)」について	同上
9.「健康･体力づくりとトレーニングの実際」について	同上
10.「運動処方の理論と実際」(1)：運動処方の手順について	同上
11.「運動処方の理論と実際」(2)：運動処方の実際について	同上
12.「転ばぬ先の杖（骨）づくり」について	同上
13.「健康的痩身方法に関する理論と実際」について	「誤った減量法」について次回提出
14. 総復習及びまとめ	総復習をし、次回の試験に備える
15. 期末試験	受験後の自己採点による反省・評価
16. 試験問題の解説及び総括	本授業に関する自己評価及び授業評価

履修上の注意

正当な理由無き「欠席」は厳禁とする。

成績評価方法・基準

受講態度と随時課すレポート及び期末試験の成績を総合的に評価する。その内訳は平常点（毎回の受講態度及びミニットペーパーの内容等）50%、レポート＋期末試験 50%とする。なお、毎回のミニットペーパー及びレポートと期末試験については、添削かつ評価・採点後に返却することを常とする。

教科書：〔健康のためのスポーツ生理学〕〔池川繁樹編著〕〔光生館〕〔1,800 円（税別)〕

参考書：適宜紹介する。

備　考

・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー時（曜日日時は掲示で確認）に受付けます。

授業科目名	微生物学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	黒川　優子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専２年

授業の概要

私たちの身の回りには病原性の細菌やウイルスが存在し、日常の生活に有害な作用を示すが、その一方で、味噌、納豆、酒類など私たちの日常生活に役立つ微生物も少なくない。人間と微生物の関わりを理解するために、微生物の種類と特徴、微生物による疾患、微生物を用いた食品などについて学ぶ。さらに、病原性微生物の場合、感染および発症機構や免疫機構等についても理解を深める。また、環境中の微生物の単離方法、合成化学物質の微生物分解等、これまでの実務経験を反映させた講義を行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
それぞれの微生物の特徴を習得する。	○	○	○		○				
微生物と人間との関わり方を理解する。	○	○	○		○				
微生物に関する分野で興味を持った内容について調べ、レポートを提出する。	○	○	○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．微生物学の歴史①　人間と微生物の関わり	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
２．微生物学の歴史②　感染症と治療	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
３．微生物学の基礎①　微生物の種類と性質	関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。
４．微生物学の基礎②　原虫・寄生虫・真菌	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
５．微生物学の基礎③　細菌の大きさと性質・染色法	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
６．微生物学の基礎④　細菌の形・構造	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
７．微生物学の基礎⑤　ウイルス・微生物の生理と代謝	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
８．食品微生物学①　微生物と食品	関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。
９．食品微生物学②　食品の腐敗・変敗と食品の保存	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
10．食品微生物学③　微生物を利用した食品	関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。
11．病原性微生物学①　細菌・真菌・ウイルス・原虫	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
12．病原性微生物学②　新興感染症・再興感染症・抗生物質	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
13．滅菌・消毒	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
14．免疫学　免疫機構・免疫の種類・ワクチン・アレルギー	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
15．微生物を利用したバイオテクノロジー	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
16．試験	授業内容を総復習して試験に臨むこと。

履修上の注意

微生物の理解には生物学の知識が必要となるので、高等学校での生物科目を復習して授業に臨むこと。

成績評価方法・基準

・授業への取り組み（30%）、調査とレポートへの取り組み（30%）、試験（40%）
・提出されたレポートは、後日、添削して返却する。

教科書　・〔エキスパート微生物学〕〔小林秀光編〕〔化学同人〕〔2,500 円〕
・必要に応じて資料を配布する。

参考書　授業時間内に適宜、参考書を紹介する。

備　考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

授業科目名	生化学Ⅰ		単位（総授業時間＋自習時間）						2(30＋60)
担当者	鈴木　裕行	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専１年

授業概要

ヒトの生体を構成する、細胞の構造と細胞内に存在する細胞内小器官の種類と機能について説明する。また、生体構成分子であるとともに食品の主たる構成成分で主要栄養素でもあるタンパク質・糖質・脂質の構造と化学的性質について詳説する。さらに、生体内の物質変化であり、栄養素の体内での機能発現の機構である代謝を理解する最初の段階として、代謝反応を司る酵素とはどのようなものであるか、また、酵素の種類・性質と機能について説明する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
細胞の構成の概要を説明できるようにする	○	○	○						
タンパク質・脂質・糖質等の種類、構造と化学的性質を説明できるようにする	○	○	○						
酵素とは何か、およびその性質を説明できるようにする	○	○	○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．生化学とは、細胞の構造 ２．細胞内小器官の機能、生体構成成分 ３．アミノ酸とは、アミノ酸の種類 ４．アミノ酸の性質、タンパク質とは ５．タンパク質の高次構造、タンパク質の種類 ６．糖質とは	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
７．単糖類・オリゴ糖類の種類と性質	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
８．〔中間試験〕、多糖類の種類・構造と性質 ９．試験の解説、脂質とは、脂質の種類	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する
10．脂肪酸の特徴と種類、単純脂質の種類・構造と性質 11．複合脂質の種類・構造と性質 12．誘導脂質の種類・構造と性質 13．酵素とは	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
14．酵素の 補因子	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する
15．〔期末試験〕、酵素の分類と性質酵素活性の調節 16．試験の解説、酵素活性の調節	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する

履修上の注意

基礎栄養学の内容と関連が深いので、学習内容を対比して理解を深めること。

成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%

教科書　[わかりやすい生化学][林寛　他][三共出版][2,592 円]

参考書　[栄養の生化学 1-2-3 改訂第 3 版][遠藤克己][南江堂][2,160 円]

備　考

試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

授業科目名	生化学Ⅱ		単位（総授業時間＋自習時間）						2(30＋60)
担当者	鈴木　裕行	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専２年

授業概要

生化学Ⅰでの学習内容を基礎として、糖質・脂質・アミノ酸のヒト体内での様々な代謝を、エネルギー代謝を中心に詳説する。さらに、これらの物質から生体で利用できるエネルギーを取り出す機構について説明する。また、様々な生命現象の基本となる遺伝情報を担う情報高分子の構造と機能および遺伝情報の発現の仕組みについて説明する。加えて、ヒトの身体の生理機能の維持の基本となる生体内の情報伝達と恒常性維持の機構について説明する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
糖質･脂質･タンパク質の代謝および生体エネルギーの利用の仕組みを説明できる。	○	○	○						
情報高分子の構造と機能を説明できる	○	○	○						
生体内の情報伝達と生体の恒常性を説明できる。	○	○	○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．解糖系 ２．クエン酸回路 ３．グリコーゲン合成経路、ペントースリン酸経路 ４．生体内の酸化還元反応とエネルギー ５．電子伝達系 ６．脂肪酸のβ酸化、ケトン体の生成	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
７．脂肪酸生合成、TG・リン脂質の合成	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
８．〔中間試験〕、コレステロール代謝、 ９．試験の解説、血漿リポタンパク質	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する
10．アミノ酸代謝の概要、尿素サイクル 11．アミノ酸代謝各論 12．エネルギー分子の代謝の相互関係 13．核酸と遺伝子	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
14．タンパク質の生合成	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する
15．〔期末試験〕、細胞間・細胞内の情報伝達 16．試験の解説、生体内の恒常性の維持	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する

履修上の注意

基礎栄養学の内容と関連が深いので、学習内容を対比して理解を深めること。

成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%

教科書　[わかりやすい生化学]林寛　他][三共出版][2,592 円]

参考書　[栄養の生化学 1-2-3 改訂第 3 版][遠藤克己][南江堂][2,160 円]

備　考

試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

授業科目名	病理学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	曽根　正彦	必・選	管栄・栄(必)	形態	講義	学期	後期	対象	健専２年

授業の概要

病理学は医学を正しく理解するために、基本となる重要な学問である。現代医療が専門化・細分化する中、次年度に履修する臨床医学概論をより深く理解するために、病理学を学習して大局的に疾病の全体像を把握する事が求められる。主に病理学の総論としての病因、細胞の異常、循環障害、代謝異常、感染症、免疫、炎症、腫瘍について、ヒトの病気の成り立ちに興味を持ちながら、体系立てて理解できることを目指す。授業は内科医の立場から実際の臨床現場での事例を紹介し、最新医学の話題を解説しながら幅広く学習し、健康と栄養に関連する専門的な基礎知識を修得できるように講義を行う 147

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・病理学の基本的知識を学び身につける。		○	○						
・ヒトの病気の成り立ちを体系的に理解できるようになる。		○	○				○		
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。							○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．オリエンテーション、病気と病理学（内因、外因）	第１章をよく読み、不明点は質問
2．細胞の異常（細胞構造と細胞傷害、新陳代謝）	第２章 AB をよく読み、不明点は質問
3．細胞の異常（正常細胞の新陳代謝、再生・修復など）	第２章 CD をよく読み、不明点は質問
4．循環器系の働き	第４章 A をよく読み、不明点は質問
5．循環障害と主な疾患	第４章 BC をよく読み、不明点は質問
6．代謝異常（総論、糖尿病）	第５章 A～C をよく読み、不明点は質問
7．代謝異常（脂質・核酸・蛋白など）	第５章 D～H をよく読み、不明点は質問
8．感染（原因となる病原体、感染防御能など）	第７章 A～C をよく読み、不明点は質問
9．感染発症（感染源、感染経路、日和見感染・院内感染）	第７章 D をよく読み、不明点は質問
10. 免疫（免疫機構、免疫監視機構、免疫のしくみと働き)）	第８章 A をよく読み、不明点は質問
11. 免疫異常（アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全など）	第８章 B～F をよく読み、不明点は質問
12. 炎症（炎症の正体、原因、基本病変、分類など）	第９章 A～C をよく読み、不明点は質問
13. 炎症（全身反応)、腫瘍（癌の正体、分類）	第９章 D 第 10 章 AB をよく読み、質問
14. 腫瘍（癌の特性、癌の診断）	第 10 章 CD をよく読み、不明点は質問
15. 腫瘍（癌の治療)、先天異常、老化など	第 10 章 E、第３・６章をよく読み、質問
16. 試験	

履修上の注意

以前に学習した生物学、解剖生理学に関連する分野を復習しておくことが望ましい。
授業は教科書に沿って講義を進める。

成績評価方法・基準

期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で
評価する。試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

教科書〔なるほどなっとく！病理学〕〔小林正伸　著〕〔南山堂〕〔2,200 円〕

参考書　「無し」

備　考

都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。

授業科目名	解剖生理学実験			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45＋15)	
担当者	川俣幸一・曽根正彦	必・選	管栄・栄(必)	形態	実験	学期	後期	対象	健専３年

授業概要

解剖生理学や栄養学で学んだ知識を基に、確認・体験する事を目的とする。具体的には、身体計測、尿・血液に関する実験、味覚に関する実験について説明し、基本的な実験手技を取得できるように指導する。尿・血液の健康に関する指標や、栄養素の代謝に関する指標を測定する事により、病態時と健康時の指標を理解させる。また、人体の解剖生理に関して、循環器系や消化器系をはじめとして、身体を構成する組織の構造・機能を説明し、理解させる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1）身体のしくみについての理解を深める	○				○				
2）実験の基本的な手技を習得する		○		○					
3）尿・血液に関する指標を知ることができる			○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．はじめに／人体スケッチの実験（川俣）	ルーブリックを配布する。事後学習としてレポート作成。
2．脳・神経・感覚に関する実験（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの脳･神経回の予習。事後学習としてレポート作成。
3．味覚に関する実験（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの味覚回の予習。事後学習としてレポート作成。
4．体表面積・基礎代謝に関する実験（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの体表面積回の予習。事後学習としてレポート作成。
5．血液に関する実験①（ヘモグロビン測定）（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの血液回の予習。事後学習としてレポート作成。
6．血液に関する実験②（血糖値測定）（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの血液回の予習。事後学習としてレポート作成。
7．尿に関する実験①（定性試験）（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの腎臓回の予習。事後学習としてレポート作成。
8．尿に関する実験②（クレアチニンの定量）（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの腎臓回の予習。事後学習としてレポート作成。
9．尿に関する実験③（尿中尿素の定量）（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの腎臓回の予習。事後学習としてレポート作成。
10. 組織（筋肉など）に関する実験①（たんぱく質）（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの組織回の予習。事後学習としてレポート作成。
11. 組織（筋肉など）に関する実験②（ビタミン）（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの組織回の予習。事後学習としてレポート作成。
12. 組織（筋肉など）に関する実験③（グリコーゲン）（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの組織回の予習。事後学習としてレポート作成。
13. 呼吸器・運動器に関する実験（川俣）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの呼吸器回の予習。事後学習としてレポート作成。
14. 人体の解剖生理１　循環器系等：DVD 等を供覧し、レポートを作成（曽根）	解剖生理学ⅠⅡを復習し、授業時の記録ノートから詳細なレポートを作成する
15. 人体の解剖生理２　消化器系等：DVD 等を供覧し、レポートを作成（曽根）	解剖生理学ⅠⅡを復習し、授業時の記録ノートから詳細なレポートを作成する

履修上の注意

実験のため、出席して体験し、実験記録（ノート）を取ること。

成績評価方法・基準

課題レポート・受講態度（ルーブリックで評価）・・・100%

提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

教科書

適宜プリントを配布する

参考書　なし

備　考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する

授業科目名	生化学実験	単位（総授業時間＋自習時間）	1(45＋15)

担当者	鈴木　裕行	必・選	管栄(必)・選	形態	実験	学期	前期	対象	健専３年

授業概要

生体情報高分子であるタンパク質と核酸の性質・機能を理解させるため、牛乳に含まれる各種タンパク質の分離・分析実験を通して、タンパク質の精製法・分析法の基礎を指導する。また、酵素アミラーゼの諸性質の解析および酵素の反応速度解析の基礎的な手法を指導する。さらに生体試料からのゲノム DNA の抽出法と PCR による遺伝子増幅を用いた遺伝子多型の解析法や、大腸菌を用いた基礎的な遺伝子組換え（形質転換）実験の手法を指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
タンパク質の精製・分離の基本的方法を習得する	○	○	○	○	○		○		
酵素活性の測定と反応速度の解析法を習得する	○	○	○	○	○		○		
生体試料からの DNA 抽出と遺伝子解析の基礎を習得する	○	○	○	○	○		○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．実験の概要説明	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。
２．牛乳中のカゼイン・乳清タンパク質の分離：等電点沈殿	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「タンパク質実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
３．牛乳中のカゼイン・乳清タンパク質の分離：硫安分画	
４．SDS ポリアクリルアミドゲル電気泳動：ゲル作製・泳動	
５．電気泳動パターンの解析	
６．アミラーゼ活性の測定	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「酵素実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
７．酵素反応の最適 pH の決定	
８．基質濃度と反応速度の解析	
９．遺伝子実験の概要説明・DNA の基本的性質	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
10．植物試料からのゲノム DNA の抽出	
11．ヒトゲノム DNA の抽出	
12．PCR での遺伝子増幅	
13．PCR による遺伝子多型の解析	
14．プラスミド DNA 導入による大腸菌の形質転換	
15．大腸菌の形質転換の評価	

履修上の注意

実験レポート作成に備え、実験記録をできるだけ綿密に取ること。

成績評価方法・基準

実験レポート（80%）および平常点（受講状況・実施状況；20%）・・・詳細はルーブリック参照
成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。レポートへのフィードバックとして後日コメントを提示する。

教科書　無し（プリントを配布）

参考書　無し

備　考

オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

授業科目名	臨床医学概論Ⅰ		単位（総授業時間＋自習時間）		2(30+60)				
担当者	曽根　正彦	必・選	管栄(必)	形態	講義	学期	前期	対象	健専３年

授業概要

栄養学の専門家として求められるのは種々の患者の栄養治療だけでなく、一次予防を中心とした健康増進・疾病予防まで多岐にわたってきている。そのため、臨床医学概論の授業では疾患診断・治療などの基礎知識を学び主要疾患の知識を身につける必要がある。ただ臨床医学の領域は広範であり、前期の臨床医学概論Ⅰと後期の臨床医学概論Ⅱに分けてある。臨床医学概論Ⅰでは、疾患診断・検査・治療に続き各論として栄養・代謝、消化器系、循環器系などの基礎知識を修得し、臨床現場や健康管理における栄養学的な指導が可能となる事を目指す。この授業では、内科医の立場から実践的な健康管理や臨床現場で行われている事例などを紹介し、最新医学の話題を解説しながら講義を行なう。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・主要疾患それぞれの基礎知識を学び身につける。		○	○						
・疾患の成因、病態から診断、治療まで体系的に理解できる。		○	○						
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．オリエンテーション、疾患診断（一般的診察）	1－A をよく読み、不明点は質問
2．疾患診断（主な症候）	1－B をよく読み、不明点は質問
3．臨床検査：総論、一般・血液学・生化学検査	1－C をよく読み、不明点は質問
4．免疫・微生物学検査、画像検査、疾患の経過	1-C 2-A をよく読み、不明点は質問
5．疾患治療（治療の種類や治療計画、治療の方法）	2-B～D をよく読み、不明点は質問
6．疾患治療（末期患者治療、救命救急診療）など	2－EF をよく読み、不明点は質問
7．栄養障害の成因、病態、症状、診断、治療	4－A をよく読み、不明点は質問
8．代謝疾患：糖尿病とその合併症、低血糖	4－B をよく読み、不明点は質問
9．代謝疾患：脂質異常症、高尿酸血症など	4－B をよく読み、不明点は質問
10. 消化器系（上部消化器疾患など）	5－A をよく読み、不明点は質問
11. 消化器系（クローン病、潰瘍性大腸炎など）	5－A をよく読み、不明点は質問
12. 消化器系（肝疾患）	5－A をよく読み、不明点は質問
13. 消化器系（胆道系疾患、膵炎など）	5－A をよく読み、不明点は質問
14. 循環器系（総論、高血圧、動脈硬化）	6－AB をよく読み、不明点は質問
15. 循環器系（狭心症、心筋梗塞、心不全、不整脈）	6－B をよく読み、不明点は質問
16. 筆記試験	

履修上の注意

臨床医学の学習のためには解剖生理学、病理学の知識が重要である。
事前にこれらの知識を十分に整理しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準

期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で
評価する。また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

教科書〔疾病の成因・病態・診断・治療〕〔竹中優 編〕〔医歯薬出版株式会社〕〔3,500 円〕

参考書「無し」

備　考

都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。

授業科目名	臨床医学概論Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）			2(30+60)		
担当者	曽根　正彦	必・選	管栄(必)	形態	講義	学期	後期	対象	健専３年

授業概要

医学の進歩が著しい現代において、栄養学の専門家として求められるのは種々の患者の栄養管理だけでなく、一次予防を中心とした健康増進・疾病予防まで多岐にわたってきている。臨床医学概論の授業では、疾患の診断・治療の基礎知識を学び、主要疾患の知識の修得が求められる。後期の臨床医学概論Ⅱでは前期に引き続いて、各論である腎・尿路系、内分泌系、神経系、呼吸器系、血液系、運動器系、感染、免疫・アレルギー、悪性腫瘍などの基礎知識を修得し、臨床現場や健康管理における栄養学的な指導が可能となる事を目指す。この授業では、内科医の立場から実践的な健康管理や臨床現場で行われている事例などを紹介し、最新医学の話題を解説しながら講義を行なう。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・主要疾患それぞれの基礎知識を学び身につける。		○	○						
・疾患の成因、病態から診断、治療まで体系的に理解できる。		○	○						
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。		○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．腎・尿路系（症候:電解質の意義～pH 異常）	7-AB をよく読み、不明点は質問
2．腎・尿路系（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群）	7-C をよく読み、不明点は質問
3．腎・尿路系（腎不全、糖尿病性腎症）	7-C をよく読み、不明点は質問
4．腎・尿路系（慢性腎臓病、尿路結石、透析）	7-CD をよく読み、不明点は質問
5．内分泌系（下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン）	8-A をよく読み、不明点は質問
6．内分泌系（副甲状腺・副腎疾患など）	8-A をよく読み、不明点は質問
7．神経・精神系（感覚器・神経疾患など）	9-ABC をよく読み、不明点は質問
8．呼吸器系（COPD、気管支疾患、肺炎など）	11-A をよく読み、不明点は質問
9．血液（赤血球系疾患）	11-A をよく読み、不明点は質問
10．血液（白血球系疾患、悪性リンパ腫など）	11-A をよく読み、不明点は質問
11．運動器系（骨粗鬆症、骨軟化症・くる病など）	12-A をよく読み、不明点は質問
12．感染（感染症の概要、化学療法の概要）	13-AB をよく読み、不明点は質問
13．免疫（アレルギー性疾患、自己免疫疾患）	14-AB をよく読み、不明点は質問
14．後天性免疫不全症候群、悪性腫瘍（腫瘍総論）	14-B、15-A を読み、不明点は質問
15．悪性腫瘍各論：食道・胃・大腸・肝臓・肺	15-B をよく読み、不明点は質問
16．筆記試験	

履修上の注意

臨床医学の学習のためには解剖生理学、病理学の知識が重要である。
事前にこれらの知識を十分に整理しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準

期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

教科書〔疾病の成因・病態・診断・治療〕〔竹中優 編〕〔医歯薬出版株式会社〕〔3,500 円〕

参考書「無し」

備　考

都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。

授業科目名	食品学総論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	八巻　美智子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専２年

授業概要

食品はヒトの生活にとって必須のものであり、食品について正しい情報を持つことは食品を利用するうえで重要である。そこで、化学、生化学、基礎栄養学などの知識を基礎として、食品を構成する各成分の化学的特性と食品における役割、栄養と健康とのかかわりついて講義する。また、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのか解説する。食品学を学ぶことで関連する他分野への興味関心も高められる重要性を理解させる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
食品を構成する各種成分について理解する	○	○	○						
食品の各成分の栄養特性と物理特性についての知識を習得する	○	○	○						
美味しく栄養バランスのとれた食事について科学的に考える力を身に付ける。	○	○	○	○	○	○	○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.食品の定義および分類、食品の成分と機能、食品と環境	事前：教科書にて授業内容に記された内容を概覧しておく。（以下の回も同様）
２.水分　水の構造と性質、食品中での役割、食品成分表について	事後：教科書、ノートを見直して講義内容を理解し、
３.炭水化物　糖の構造と種類	理解が不十分な点については教員に質問するなど
４. 炭水化物　糖の性質、糖の反応と炭水化物としての糖	して問題点を解決する。（以下の回も同様）
５. 脂質　脂肪酸の構造と性質	小テストに向けて学修する
６. 脂質　油脂の酸化、油脂の栄養	教科書にて授業内容に記された内容を概覧しておく。
７. タンパク質　タンパク質の構造と構成アミノ酸	教科書にて授業内容に記された内容を概覧しておく。
８. タンパク質　タンパク質の性質と栄養価	小テストに向けて学修する
９. 脂溶性ビタミン	教科書にて授業内容に記された内容を概覧しておく。
10. 水溶性ビタミン	教科書にて授業内容に記された内容を概覧しておく。
11. ミネラル	教科書にて授業内容に記された内容を概覧しておく。
12. 食品の呈味成分、色素、香気成分	小テストに向けて学修する
13. 食品の官能評価	教科書にて授業内容に記された内容を概覧しておく。
14.食品の機能性成分、食品の物性と美味しさ	試験に向けて学修する
15.これまでのまとめ	試験に向けて学修する
16.試験	試験に向けて学修する

履修上の注意

遅刻、欠席は厳禁（遅刻３回で欠席１回とする）。講義に集中し、ノートを作製する。予習で生じた疑問点について解決できるようにする。

成績評価方法・基準

授業態度、小テストの成績（20%）、試験（80%）の割合で評価する。
小テスト、試験については解答例を配布することでフィードバックとする。

教科書〔食品学総論〕〔著者名：森田潤司、成田宏使　編〕〔出版社名：化学同人〕〔価格：2800 円+税〕

参考書〔講義時に指示する〕

備　考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
講義の順番や内容は前後または変更する可能性があります。

授業科目名	食品学各論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	佐藤　靖子	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専２年

授業概要

食品材料である植物性食品、動物性食品その他食品について、図鑑および写真等の資料を実物投影機を用いることにより、食品の外観および内部構造の特徴を理解しやすいようにする。さらに、食品材料の生産上および生物学上の特徴による分類、食材に含まれる成分および旬を含む食材の成長による成分変化等についての基礎知識を学修することにより、食品に対する選択能力を高めるとともに、食生活と健康との関連を習得できるようにする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 食品材料の特徴を知る	○		○						
2 食品材料の分類ができる		○	○						
3 食品の選択能力を身につける	○		○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス　食品の分類・スローフードについて	授業の進め方、ノートのまとめ方を知る
2.植物性食品の特徴	教科書をよく読み授業に臨む
3.穀類：コメ、コムギの特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
4.穀類：トウモロコシ、ソバの特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
5.イモ類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
6.マメ類：乾燥豆および野菜としての種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
7.野菜類：葉菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
8.野菜類：茎菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
9.野菜類：根菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
10.野菜類：果菜類・花菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
11.果実類：種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
12.動物性食品の特徴	教科書をよく読み授業に臨む
13.魚介類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
14.畜肉類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・ノートで確認する
15.その他の食品について	教科書をよく読み分類・特徴を把握する
16.試験	

履修上の注意：出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は３回で１回の欠席とする
ミニットペーパーを課した場合は、提出確認後返却して加点対象とする。

成績評価方法・基準

期末試験 70%、受講態度・提出物 30%

試験問題は、教科書およびノートからの出題です。解答は教科書・ノートで各自確認すること

教科書　書名：品学各論　著者名：瀬口正晴・八田　一　出版社：化学同人　価格 2,400 円

参考書　書名：原色食品図鑑　著者名：井上四郎・菅原龍吉　出版社名：建帛社　価格：2,900 円

備　考　配布プリントは、講義ノートに張り付けるか転載しておくこと

都合（出張等）により授業計画が変更されることがある

質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

授業科目名	食品学実験Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(45+45)
担当者	八巻　美智子	必・選	必	形態	実習	学期	前期	対象	健専１年

授業概要

食品学実験では、さまざまな食品からそれぞれの栄養素を分離しその特性を理解するとともに、化学実験を行うにあたっての基本的な認識、態度や基礎的な知識、技術を習得する。すなわち、器具の取り扱い方、測定器具の使用方法、データのまとめ方、レポートの書き方について習得することを目指す。管理栄養士養成課程に設置されている実験科目を習得する上での基礎的な技術と心がまえを身につける。また、実験を通して食品を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面において、定量的な考えが応用できることを目標とする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・化学実験を行うにあたっての基本的な態度や基礎的な技術を習得する			○		○		○		
・データのまとめ方、レポートの書き方について習得			○		○		○	○	
・食物を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面において、定量的な考えが応用できることを目標とする			○		○		○	○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．実験実施上の注意	事前：テキストを読んでくる.
２．じゃがいもからデンプンの分離	事前：澱粉についてテキストを読んでくる.
３．光学顕微鏡によるデンプン粒の観察	事後：レポート作成
４．糖質の定性反応１：モーリッシュ反応 他	事前：糖質についてテキストを読んでくる
５．糖質の定性反応２：バーフォード反応 他	事後：レポート作成
６．小麦粉からグルテンの分離	小麦粉からグルテンの分離方法についてテキストを読んでくる
７．グルテンからグリアジンの分離	グルテンとグリアジンについて理解を深める
８．蛋白質の定性反応	タンパク質についてテキストを読んでくる
９．蛋白質の加水分解	事後：レポート作成
10．アミノ酸の定性反応	事後：レポート作成
11．油脂のケン化と脂肪酸とグリセリンの分離	脂質の分析方法についてテキストを読んでくる
12．脂肪酸のエステル化（ｶﾞｽｸﾛﾏﾄの前処理）	沈殿滴定法についてテキストを読む
13．ガスクロマトグラフによる脂肪酸の測定	沈殿滴定（特に力価）について理解を深める
14．沈殿滴定１：硝酸銀溶液の調製と標定	事後：レポート作成
15．沈殿滴定２：各醤油中の食塩量の定量	事後：レポート作成

履修上の注意

白衣を着用し踵の低いスニーカー系を着用。グループで協力し、安全に注意して行うこと（特に薬品や火気の使用）。実験室には不必要なものは持ち込まないこと。長髪の人は髪を束ねること（詳細はプリント配布）

成績評価方法・基準

授業参加状況（50%、積極性、協力性等）とレポート・小試験（50%）で総合的に評価する。レポート等については授業中にフィードバックを実施。履修上の注意が守れない場合は減点、遅刻３回で欠席１回とする。

教科書：[新しい食品学実験] [三共出版] [2,300 円]

参考書：随時プリント配布

備　考

講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます

授業科目名	食品学実験Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+45)
担当者	八巻　美智子	必・選	必	形態	実習	学期	後期	対象	健専１年

授業概要

食品学実験では、さまざまな食品からそれぞれの栄養素を分離しその特性を理解するとともに、化学実験を行うにあたっての基本的な認識、態度や基礎的な知識、技術を習得する。すなわち、器具の取り扱い方、測定器具の使用方法、データのまとめ方、レポートの書き方について習得することを目指す。管理栄養士養成課程に設置されている実験科目を習得する上での基礎的な技術と心がまえを身につける。また、実験を通して食品を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面において、定量的な考えが応用できることを目標とする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・化学実験を行うにあたっての基本的な態度や基礎的な技術を習得する			○		○		○		
・データのまとめ方、レポートの書き方について習得			○		○		○	○	
・食物を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面において、定量的な考えが応用できることを目標とする			○		○		○	○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．食品中の一般栄養成分分析の説明と恒量測定	事前：一般成分分析についてテキストを読む.
２．ケルダール分解	事後：レポート作成
３．水蒸気蒸留の説明とブランク値の測定	事後：レポート作成
４．水蒸気蒸留（試料中の窒素分析）	一般成分分析についてテキストを読む
５．水分の測定と灰分の測定	一般成分分析についてテキストを読む
６．原子吸光分析１：カルシウム測定、	事後：レポート作成
７．原子吸光分析２：マグネシウム測定	一般成分分析についてテキストを読む
８．　ソックスレー脂肪抽出器による脂肪の測定	一般成分分析についてテキストを読む
９．食物繊維の定量１：説明とｸﾞﾗｽﾌｨﾙﾀｰの恒量測定	事後：レポート作成
10．食物繊維の定量２：試料のアミラーゼ分解	食物繊維の測定方法についてテキストを読む
11．食物繊維の定量３：試料のﾌﾟﾛﾃｱｰｾﾞとｱﾐﾛｸﾞﾙｺｼﾀﾞｰｾﾞ分解	食物繊維の測定方法について理解する
12．食物繊維の定量４：酵素分解液のろ過	食物繊維の測定方法について理解を深める。
13．食物繊維の定量５：残渣の灰分測定	水蒸気蒸留法について理解を深める
14．食物繊維の定量６：水蒸気蒸留による残渣の蛋白測定	事後：レポート作成
15．GC‐MS による食品中の臭気物質の検出	事後：レポート作成

履修上の注意

白衣を着用し踵の低いスニーカー系を着用。グループで協力し、安全に注意して行うこと（特に薬品や火気の使用）。実験室には不必要なものは持ち込まないこと。長髪の人は髪を束ねること（詳細はプリント配布）

成績評価方法・基準

授業参加状況（50%、積極性、協力性等）とレポート・小試験（50%）で総合的に評価する。レポート等については授業中にフィードバックを実施。履修上の注意が守れない場合は減点、遅刻３回で欠席１回とする

教科書：[新しい食品学実験] [三共出版] [2,300 円]

参考書：随時プリント配布

備　考

講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。実験の内容により並行して行う場合もあります。質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

授業科目名	食品機能学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	村本　光二	必・選	管栄(必)	形態	講義	学期	後期	対象	健専３年

授業概要

健康維持には栄養バランスのとれた健全な食生活が必要であり、さらに健康寿命の延伸には食品がもつ生体調節機能、すなわち三次機能性を積極的に利用することが期待される。一方、グローバル化したわが国の食生活は、資源・環境や安全・安心といった課題とも密接に関連している。授業では、このような我われの食生活を取り巻く状況を俯瞰しながら、食品に含まれる機能成分の理解を深めるとともに、それらの利用と効果の科学的評価について考え、食環境のさらなる向上に取り組む姿勢を養う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・保健機能に関わる食品成分の基礎知識を身につける。		○	○		○				
・食品機能に関する情報を科学的に評価する能力を高める。		○	○		○				
・学修した知識を食環境の向上に応用する力を身につける。		○	○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１食品機能学の概要：我々を取り巻く食に関わる課題を俯瞰し、食品の機能性とは何か，その背景と利用の目的を理解する。	配布したプリントに関する課題のレポートを次回提出
２．大豆食品の機能性：大豆をモデルとして食品機能性を考え，その利用の実態を知る。	授業内容を復習してまとめる
３．食品に必要な要素：現代の食生活に求められる加工食品の要件と，健全な食生活とは何かについて考える。	配布したプリントに関する課題のレポートを次回提出
４．機能性の科学的評価 1～3：試験管内実験や動物実験を使った機能性と安全性の評価について学ぶ。	これまでの授業内容に関する小テスト
５．機能性の科学的評価 1～3：ニュートリゲノミクスなどの新しい手法について学ぶ。	授業内容と小テストの結果を復習する
６．機能性の科学的評価 1～3：介入試験や観察試験によるヒトにおける評価について学ぶ。	配布したプリントに関する課題のレポートを次回提出
７．保健機能食品制度 1～2：特定保健用食品・栄養機能食品・機能性表示食品について学ぶ。	授業内容を復習してまとめる
８．保健機能食品制度 1～2：特別用途食品や健康食品・健康補助食品・栄養補助食品・栄養強化食品などについて学ぶ。	これまでの授業内容に関する小テスト
９．食品素材の機能性関与成分 1～2：タンパク質・脂質とその構成要素たるペプチド・脂肪酸の化学的性状と機能性を理解する。	授業内容と小テストの結果を復習する
10. 食品素材の機能性関与成分 1～2：糖質とその構成成分たるオリゴ糖、およびファイトケミカルの食品機能性を理解する。	授業内容を復習してまとめる
11. ヒト介入試験による食品機能性評価 1～2：農産物（そば・タマネギ）の生活習慣病への予防効果の疫学調査と実証試験を学ぶ。	これまでの授業内容に関する小テスト
12. ヒト介入試験による食品機能性評価 1～2：農産物（みかん・大麦）の生活習慣病への予防効果の疫学調査と実証試験を学ぶ。	授業内容と小テストの結果を復習する
13. 食品機能性の分子機構 1～2：生活習慣病の予防に重要な抗酸化性・免疫賦活作用の分子機能について学ぶ。	授業内容を復習してまとめる
14. 食品機能性の分子機構 1～2：今後の開発が期待される脳機能調節や抗老化に関わる食品成分の役割を考える。	これまでの授業内容に関する小テスト
15. 保健機能食品の品質と安全性：多様な健康情報をどのように処理するか、また安全・安心な製品の生産と利用について考える。	授業内容と小テストの結果を復習する
16. 試験	

履修上の注意：講義内容を十分に理解するためには、栄養学・生理学・生化学等で学んだことが基盤になるので、それらの科目も授業の前後に復習すること。

成績評価方法・基準：期末に行う試験（60%）、レポートと小テストの結果（20%）、受講態度（20%）で評価します。レポートと小テストは添削後、返却してフィードバックを行います。

教科書：授業前にプリントを配布します。

参考書：〔改訂食品機能学（第２版)〕〔建帛社〕〔2,310 円〕〔大豆の機能と科学〕〔朝倉書店〕〔4,300 円〕

備　考：質問等については、授業終了時に受付けます。

授業科目名	食品加工学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	佐藤　靖子	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専３年

授業概要

加工食品は、安全性、貯蔵性、嗜好性、嗜好性等の付与により、生活の利便性や経済性の向上に関与するものであり、食品の加工方法、保存方法の学修により、製品化までの様々な要因に対する基礎知識を身につけるよう指導する。加工された食品の規格、表示および包装に関する学修を通して商品化される要因を理解する。食品の加工について総合的な理解力が深まるようになる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1.食品の物理的、化学的、生物的加工方法が理解できる	○								
2 食品加工の規格、表示が理解できる	○								
3 食品の製品化に伴う工程が理解できる		○	○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.食品加工の目的	目的を教科書・ノートで確認する
2.食品加工方法：物理的加工：粉砕、濃縮、ろ過等	物理的方法を確認する
3.食品加工方法：物理的加工：乾燥、冷凍等	教科書・ノートを読み返す
4.食品加工方法：化学的加工	化学的方法を確認する
5.食品加工方法：生物的加工	生物的方法を確認する
6.食品保存方法：水分活性等	授業内容を教科書・ノートで確認する
7.食品保存方法：CA 貯蔵等	授業内容を教科書・ノートで確認する
8.食品保存方法：浸透圧利用等	授業内容を教科書・ノートで確認する
9.食品保存方法：加熱、冷蔵等	授業内容を教科書・ノートで確認する
10.食品の包装：材料	包装の素材について確認する
11.食品の包装：特徴	教科書・ノートを読み返す
12.食品の規格	授業内容を教科書・ノートで確認する
13.食品の表示	授業内容を教科書・ノートで確認する
14.農産食品の加工	授業内容を教科書・ノートで確認する
15.畜産・水産食品の加工	授業内容を教科書・ノートで確認する
16.試験	

履修上の注意

出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は３回で１回の欠席とする。

ミニットペーパーを課した場合は、提出確認後に返却し加点対象とする。

成績評価方法・基準

期末試験 70%、受講態度 30%

試験問題は、教科書およびノートからの出題です。試験後確認すること。

教科書〔書名：食品加工学〕〔著者名：西村公雄、松井徳光〕〔出版社名：化学同人〕〔価格：2,100 円〕

参考書　なし

備　考　食品学各論の内容を復習しておく

質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

授業科目名	食品加工実習			単位（総授業時間＋自習時間）		1(45＋30)			
担当者	佐藤　靖子	必・選	必	形態	実習	学期	後期	対象	健専３年

授業概要

食品材料を物理的、化学的、生物的方法により変化させて、加工工程を経て製品を製造し、素材から製品までの過程を理解させる。加工工程による食品の様々な変化を良く観察させ、それらの現象を科学的に考察できる能力の向上を図る。製品の貯蔵中の変化を経時的に観察させ貯蔵・保蔵の理解を深める。
加工した製品について、保存に適した容器を選択し、安全に留意して保存できる

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1.食品の加工目的を原理が理解できる			○	○					
2.食品の加工方法を身につける			○						
3.食品の加工工程と貯蔵・保蔵が理解できる			○	○	○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.ガイダンス　安全・衛生、レポート作成など	実習の事前準備や容器等を確認する
２.グミ	レポート作成・提出
３.トリ味噌	レポート作成・提出
４.小麦加工品（パンまたはパスタ）	レポート作成・提出
５.ラーメン	レポート作成・提出
６.ヨーグルト	レポート作成・提出
７.コンニャク	レポート作成・提出
８.きな粉飴	レポート作成・提出
９.佃煮	レポート作成・提出
10.豆腐	レポート作成・提出
11.甘酒	レポート作成・提出
12.さつま揚げ	レポート作成・提出
13.塩辛	レポート作成・提出
14.ジャム	レポート作成・提出
15.ラムネ	レポート作成・提出

履修上の注意：レポートは次回の授業開始前までに指定の場所へ提出すること。遅れた場合は遅刻提出となり１点減点とする。
身支度が整わない学生の入室はできない（欠席扱い）。実習中の安全・衛生に十分注意すること。

成績評価方法・基準

レポート提出 85%（実習回数で割った積み重ね点とする）、授業態度（身支度を含む）15%。
提出されたレポートは確認後返却する。未提出のレポートがある場合は、評価なしとする。
他者と同内容のレポートが提出された場合は、評価なしとする。提出されたレポートは後日返却する。

教科書　なし：配布プリント使用

参考書　食品学各論、食品加工学、調理科学、イラスト調理 Book 等

備　考

学生の校外実習または教員の出張等の都合により授業計画の順番・内容が変更することがある。
学外実習で欠席する場合のレポート提出は、ガイダンスにて説明する。
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。

授業科目名	食品衛生学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	黒川　優子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専３年

授業の概要

近年、食品の安全性について多くの問題が社会的に注目されており、消費者の関心も高まっている。ここでは食品の腐敗や食中毒、寄生虫とその疾患、食品添加物、さらに身の回りに存在する各種合成化学物質や重金属などによる食品や水の汚染が健康にどのような影響を及ぼすかについて学び、食品の安全性確保に関する法律と安全性確保のための具体的な方法を解説する。また、飲料水や食品中に含まれる農薬などの合成化学物質の分析方法、天然および養殖魚介類における寄生虫の検査方法等、これまでの実務経験を反映させた講義を行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
食品の安全性を脅かすものについて学ぶ。	○	○	○		○				
食品の安全性確保に関する基礎知識を身につける。	○	○	○		○				
食品衛生に関する分野で興味を持った内容について調べ、レポートを提出する。	○	○	○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．食品衛生とは、食品衛生と法規	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
2．食品と微生物	関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。
3．食品の変質とその防止	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
4．食中毒の定義と概念、食中毒の発生状況	関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。
5．細菌性食中毒①　感染侵入型食中毒・感染毒素型食中毒	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
6．細菌性食中毒②　毒素型食中毒細菌	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
7．ウイルス性食中毒、マイコトキシン中毒	関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。
8．自然毒による食中毒－動物性自然毒・植物性自然毒	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
9．寄生虫とその疾患①　野菜・飲料水・魚介類からの感染	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
10．寄生虫とその疾患②　食肉類等からの感染	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
11．有害金属・動物用医薬品・飼料添加物による食品汚染	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
12．農薬・その他の有害物質による食品汚染	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
13．食品添加物の概念、安全性評価	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。
14．おもな食品添加物の種類と特徴	関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。
15．食品の器具・容器包装、食品衛生対策	関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。
16．試験	授業内容を総復習して試験に臨むこと。

履修上の注意

他の食品に関する学科目と関連性が高いので、履修済みの科目をよく理解して講義に臨むこと。また、身近な食品に関する事項が多いので、日頃から食品に対して関心・興味を持つことが講義内容の理解につながる。

成績評価方法・基準

・授業への取り組み（30%）、調査とレポートへの取り組み（30%）、試験（40%）
・提出されたレポートは、後日、添削して返却する。

教科書　・〔エキスパート食品衛生学〕〔白石淳編〕〔化学同人〕〔2,700 円〕
・必要に応じて資料を配布する。

参考書　授業時間内に適宜、参考書を紹介する。

備　考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

授業科目名	食品衛生学実験	単位（総授業時間＋自習時間）	1(45＋15)

担当者	鈴木　裕行	必・選	管栄・栄(必)	形態	実験	学期	後期	対象	健専３年

授業概要

管理栄養士の業務において重要な、食品安全性の重要性の認識と衛生管理方法の理解のために、代表的な微生物の性質を説明するとともに微生物の基本的な培養・観察の方法を指導する。それを基にして食品の細菌汚染検査、手指やふきん等の衛生試験の手技を指導する。また、市販の各種の加工食品を試料として、使用されている保存料・着色料・発色剤といった食品添加物の検出試験の手技を指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
食中毒原因菌の性質を理解しその検査方法を習得する	○	○	○	○	○		○		
食品中の食品添加物の役割を理解し分析方法を習得する	○	○	○	○	○		○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．実験の概要説明・微生物実験の基礎知識と基本操作	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
２．微生物の取扱い・植菌操作	
３．コロニーの観察・グラム染色法	
４．細菌の顕微鏡観察	
５．細菌の顕微鏡観察（つづき）	
６．手洗いの効果、各種衛生試験①：菌の採取	
７．手洗いの効果、各種衛生試験②：菌数計測・菌体観察	
８．手洗いの効果、各種衛生試験③：菌体観察	
９．食品中の生菌数の測定①：段階希釈法での生菌数測定	
10．食品中の生菌数の測定②：食品中の細菌の観察	
11．保存料の検出①：試料からのソルビン酸の抽出	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「食品添加物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
12．保存料の検出②：ソルビン酸の定量	
13．着色料の検出：食品中のタール色素の検出	
14．発色剤の検出①：試料からの亜硝酸塩の抽出	
15．発色剤の検出②：亜硝酸の定量	

履修上の注意

実験レポート作成に備え、実験記録をできるだけ綿密に取ること。

成績評価方法・基準

実験レポート（80%）および平常点（受講状況・実施状況；20%）・・・詳細はルーブリック参照
成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。レポートへのフィードバックとして後日コメントを提示する。

教科書　[新版　明解食品衛生学実験加][納碩雄　他][三共出版][2,484 円]

参考書　無し

備　考

オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

授業科目名	調理科学論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	佐藤　靖子	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専２年

授業概要

食品材料は、生食および加熱など様々な調理操作を経て食される。調理操作の種類や方法の確認を行いながら、食品素材の色調変化、組織の軟化、香りの発現などについて基礎的な知識を学習する。さらに基本的な調理方法の役割および食品の物理的・化学的変化について科学的視点を身につける。また、主菜・副菜の調理で使用される香辛料や香草については、可能な限り実物を用意して風味を学修する機会を与え、利用性について理解する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 基本的調理操作を理解できる	○	○							
2 調味料の種類と特徴を理解できる	○	○							
3 食品の調理特性を科学的に理解する能力を身につける			○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス、調理科学の定義	ノートを整理しておく
2．調理と嗜好性	教科書をよく読み授業に臨む
3．調理操作　非加熱調理	授業内容を教科書・ノートで確認する
4．〃　　加熱調理　煮る・蒸す	授業内容を教科書・ノートで確認する
5．〃　　加熱調理　揚げる・焼く	授業内容を教科書・ノートで確認する
6.調味料の種類と特徴	授業内容を教科書・ノートで確認する
7.香辛料の種類と特徴	授業内容を教科書・ノートで確認する
8.スパイスの風味を体験する	風味の特徴をまとめておく
9.ハーブおよび食塩の風味を体験する	次週の授業開始までにスパイス、ハーブ
10. 油脂・油脂性食品の調理特性	に関する特徴・献立のレポート提出
11. 炭水化物質性食品の調理特性	授業内容を教科書・ノートで確認する
12. タンパク質性食品の調理特性：食肉、魚介類	授業内容を教科書・ノートで確認する
13. 〃　　：卵、牛乳	授業内容を教科書・ノートで確認する
14. 成分抽出性食品の調理特性：デンプン	授業内容を教科書・ノートで確認する
15. 〃　　：ゼラチン、寒天その他	授業内容を教科書・ノートで確認する
16.試験	

履修上の注意　出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は３回で１回の欠席とする
ミニットペーパーを課した場合は、採点後に返却し加点対象とする。

成績評価方法・基準
期末試験 65%、受講態度・レポート提出 35%
試験問題は、教科書およびノートからの出題です。試験後各自確認すること
レポートは、提出後返却します

教科書　書名：調理科学　　著者名：森髙初恵、佐藤恵美子　出版社：建帛社　価格：2500 円

参考書　調理のためのベーシックデータ（他の授業で購入済み）

備　考：出張等の都合により授業計画が変更されることがある
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

授業科目名	調理科学実験			単位（総授業時間＋自習時間）		1(45＋30)			
担当者	佐藤　靖子	必・選	管栄(必)	形態	実験	学期	前期	対象	健専３年

授業概要

食品素材は、切る・潰すなどの調理操作により形態が変化して調味料等の浸透性が異なり風味に影響する。また、様々な加熱方法により色調の変化、組織の軟化、香りの発現などその状態が変化して嗜好性や消化性に影響することを指導する。さらに調理操作による食品材料の物理的・化学的変化を観察を通して、目的、方法、結果および考察をまとめる能力を身につけさせる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 実験方法に従って進めることができる	○	○							
2 食品の調理による変化を観察する	○	○							
3 調理による食品の変化を科学的に理解することができる			○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス：安全・衛生・レポート作成など	レポート作成方法を図書館で確認する
2.講義：食品の重量・容量、炊飯	授業内容を良くまとめて班で話し合う
3.食品の重量と容量に関する実験	レポート作成・提出
4.炊飯に関する実験	レポート作成・提出
5.講義：出汁の材料、卵	授業内容を良くまとめて班で話し合う
6.出汁に関する実験	レポート作成・提出
7.卵に関する実験	レポート作成・提出
8.講義：砂糖、飲み物	授業内容を良くまとめて班で話し合う
9.砂糖に関する実験	レポート作成・提出
10.飲み物に関する実験	レポート作成・提出
11.講義：小麦、野菜	授業内容を良くまとめて班で話し合う
12.小麦に関する実験	レポート作成・提出
13.野菜に関する実験	レポート作成・提出
14.講義：動物性食品	授業内容を良くまとめて班で話し合う
15.動物性食品の実験（食肉予定）	レポート作成・提出

履修上の注意：レポートは次回の授業開始前までに指定の場所へ提出すること。遅れた場合は遅刻提出となり１点減点とする。
身支度が整わない学生の入室はできない（欠席扱い）。実験中の安全・衛生に十分注意すること。

成績評価方法・基準

レポート提出 85%（実験回数で割った積み重ね点で評価する）、授業態度（身支度を含む）15%
提出されたレポートは確認後返却する。未提出のレポートがある場合は、評価なしとする。
他者と同内容のレポートが提出された場合は、評価なしとする。

教科書〔書名：イラスト調理 Book〕〔著者名：安部サト他〕〔出版社名：実教出版〕〔価格：770 円〕

参考書　成分表など

備　考：学生の校外実習または教員の出張等の都合により授業計画の順番・内容が変更することがある
学外実習で欠席する場合のレポート提出は、ガイダンスにて説明する
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

授業科目名	基礎調理学実習Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(15+30)
担当者	平本福子・深澤律子	必・選	必	形態	実習	学期	前期	対象	健専１年

授業概要

１．基礎調理技術（食材や調理法についての知識を整理し、調理操作のポイントを科学的に理解する能力とそれらの知識を活用して実際に調理ができる技術）を習得する。

２．栄養、試行、食文化、食環境などの多様な側面から、食べる人にとって望ましい食事を計画し、実際に食事として作りあげる技術を習得する。

３．授業で習得した調理の知識や技術を自分の生活の中で実践するための力を養った上で、実際に行い、振り返り、自己評価と課題を整理する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
食材や調理法についての基礎的な知識を修得する。	○								
修得した知識をもとに、実際の調理技術を習得する。	○			○					
食事構成の要点を理解し、献立を立てることができる。	○			○					

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．オリエンテーション　計量、調味パーセントの基礎（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
２．基礎調理技術（１）　切る（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
３．基礎調理技術（２）　だしをとる、汁を仕立てる（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
４．基礎調理技術（３）　焼く、炒める（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
５．基礎調理技術（４）　煮る（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
６．基礎調理技術　実技試験（平本・深澤）	課題の練習と振り返りを行い、レポート提出。
７．食事計画の基礎（平本・深澤）	実際に献立を作成する。
８．献立調理（食事単位での調理技術）（１）卵を主菜に（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
９．献立調理（食事単位での調理技術）（２）肉を主菜に（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
10．献立調理（食事単位での調理技術）（３）魚を主菜に（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
11．献立調理（食事単位での調理技術）（４）豆腐を主菜に（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
12．献立調理（食事単位での調理技術）（５）麺を主食に（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
13．献立調理　実技試験（献立作成から調理まで）（平本・深澤）	課題の練習と振り返りを行い、レポート提出。
14．調理技術に関する知識の確認（筆記試験）（平本・深澤）	教科書をよく読み、課題を整理する。
15．生活実習（実生活での応用）（平本・深澤）	課題を確認し、実践した上でレポートを提出。
16.フィードバック（実技試験・筆記試験を振り返り、補講）（平本・深澤）	ポートフォリオ評価表を記入してくる。

履修上の注意

実習なので出席することが重要である。また、調理技術の習得のためには授業時間だけでなく、自宅などでの実践が必要である。

成績評価方法・基準

基礎点（授業に取り組む態度と実際の行動）60 点、実技試験 25 点、筆記試験 15 点を基準として評価する。試験のフィードバックについては、実技試験では結果の講評と今後の課題について説明する。また、筆記試験では回答例を提示するとともに、口頭でも説明する。

教科書

〔調理学（健康・栄養・調理)〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2700 円〕
〔調理のためのベーシックデータ第 5 版〕〔松本仲子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1800 円〕

参考書〔7 訂食品成分表 2018〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1400 円〕

備　考

都合により、授業計画の順番などが変更する時がある。ルーブリック評価については第 1 回の授業で説明する。質問等は授業終了時に受け付ける。

授業科目名	基礎調理学実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(15+30)
担当者	平本福子・深澤律子	必・選	必	形態	実習	学期	後期	対象	健専１年

授業概要

１．調理器具や加工食品などの調理の簡便化、食事の食塩量・エネルギー量を調理方法により調節するなど、現代の食生活における課題解決に向けての知識と技術を習得する。
２．栄養教育のツールとして、人々に 1 食分の適量や栄養バランスを伝えるための方法（3・1・2 弁当箱法）についての知識と技術を習得する。
３．食文化の観点から、和洋華の食事様式、行事食、郷土食などについての知識や技術を習得する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
調理の簡便化、調理による栄養量についての知識を修得する。			○	○	○				
食事を用いた栄養教育についての知識と技術を習得する。				○	○	○	○		
栄養面、食文化面も含めて、献立を立てることができる。				○			○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.生活実習報告会、3・1・2 弁当箱法についての講義（平本・深澤）	配布プリントをよく読む。レポート提出。
2.栄養教育ツール（3・1・2 弁当箱法）の実習（平本・深澤）	配布プリントをよく読む。レポート提出。
3.調理の簡便化①（調理器具）切る、蒸す（平本・深澤） ※調理時間、食味などをまとめて発表する。	配布プリントをよく読む。レポート提出。
4.調理の簡便化②（加工食品）主食（五目ごはん）、主菜（真麻婆豆腐）　※調理時間、食味などをまとめて発表する。（平本・深澤）	配布プリントをよく読む。レポート提出。
5.調理の簡便化③（加工食品）合わせ調味料　胡麻和え（平本・深澤）※調理時間、食味等の結果をまとめ、発表する	配布プリントをよく読む。レポート提出。
6.様式別料理（日本料理）赤飯、サバの竜田揚げ、ほうれん草のくるみ和え、茶わん蒸し、茶まんじゅう（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
7.様式別料理（西洋料理）ビーフシチュー、サラダ、スポンジケーキ（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
8.様式別料理（中華料理）前菜、酢豚、スープ、中華クッキー（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
9.郷土食　東北 6 県に分かれて、各県の郷土食を調べ、作り、伝統を伝える方法等について発表する（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、レポート提出。
10.行事食（クリスマス）（平本・深澤） 前菜、ローストチキン、スープ、プラムケーキ	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
11. 行事食（正月）南蛮漬け、きんとん、根菜の煮物、椀物（平本・深澤）	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
12. 調理による塩分量の変化　（平本・深澤） 料理レベル、食事レベルでの減塩について	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
13. 調理によるエネルギー量の変化　（平本・深澤） エネルギー量を増減させる調理法について	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
14. 実技試験（平本・深澤）	課題の練習と振り返りを行い、レポート提出。
15. 筆記試験（平本・深澤）	教科書をよく読み、課題を整理する。
16.フィードバック（平本・深澤）（実技試験・筆記試験を振り返り、補講）	ポートフォリオ評価表を記入してくる。

履修上の注意

実習なので出席することが重要である。また、調理技術の習得のためには授業時間だけでなく、自宅などでの実践が必要である。

成績評価方法・基準

基礎点（授業に取り組む態度と実際の行動）60 点、実技試験 25 点、筆記試験 15 点を基準として評価する。試験のフィードバックについては、実技試験では結果の講評と今後の課題について説明する。また、筆記試験では回答例を提示するとともに、口頭でも説明する。

教科書　※調理学実習Ⅰで使用したもの
〔調理学（健康・栄養・調理）〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2700 円〕
〔調理のためのベーシックデータ第 5 版〕〔松本仲子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1800 円〕

参考書　〔7 訂食品成分表 2018〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1400 円〕

備　考

都合により、授業計画の順番などが変更する時がある。ルーブリック評価については第 1 回の授業で説明する。質問等は授業終了時に受け付ける。

授業科目名	応用調理学実習Ⅰ		単位（総授業時間＋自習時間）	1(15+30)

担当者	宮地洋子・深澤律子	必・選	管栄(必)	形態	実習	学期	前期	対象	健専２年

授業概要

基礎調理学の知識をもとに、18～29 歳の食事摂取基準を食品構成に展開できるよう、食事摂取基準を活用し、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるように、春・夏の出盛りの食材を理解し、季節感のある行事食や郷土料理も取り入れた具体的な実習献立を通して学ぶ。献立一食あたりの食品の使用量を学び、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるような実践力を修得する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
修得した知識をもとに、一日の摂取カロリーから食品構成を展開することが理解できる。	□	□	□						
グループで話し合い、献立一食あたりの食品の使用量が理解でき、献立を立てる技術を習得する。	□	□	□		□		□		
グループで話し合い、一日（朝・昼・夕）の献立を立てる技術を習得する。	□	□	□		□		□		
修得した調理技術をもとに、さまざまな野菜の切り方を習得する。	□	□	□						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.オリエンテーション　食事摂取基準、食品構成から献立作成について（宮地・深澤）	配布プリントをよく読み、食品構成を理解し、まとめを次回提出。
2.春の献立　西洋料理（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
3.春の献立　日本料理（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
4.春の献立　中国料理（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
5.春の献立　西洋料理（アフタヌーンティー）（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
6.行事食・七夕献立（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
7.夏の献立　西洋料理（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
8.夏の献立　中国料理（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
9. 演習・食品構成を考えた夏の献立①日本料理の献立作成（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
10. 演習・食品構成を考えた夏の献立①日本料理の栄養価計算（宮地・深澤）	作成した献立を次回提出。
11. 食品構成を考えた夏の献立①日本料理の実習（宮地・深澤）	実習の栄養価計算を次回提出。
12. 演習・食品構成を考えた夏の献立②西洋料理の献立作成（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
13. 演習・食品構成を考えた夏の献立②西洋料理の栄養価計算（宮地・深澤）	作成した献立を次回提出。
14. 食品構成を考えた夏の献立②西洋料理の実習（宮地・深澤）	実習の栄養価計算を次回提出。
15.講義、前期まとめ（宮地・深澤）	
16.筆記試験（宮地・深澤）	

履修上の注意

前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子、タオルハンカチを準備する。調理室内ではボールペン使用。調理室に入室したら手洗い消毒を済ませ、配布資料をファイルに保管する。出席することが重要である。調理技術の習得のためには、自宅で実践する。

成績評価方法・基準

実技試験 30 点、実習レポート提出 30 点、筆記試験 30 点、授業態度 10 点（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等）で評価する。提出されたレポートは後日添削して返却する。課題については授業中にフィードバックする。

教科書〔改定新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,300 円〕

参考書〔一品料理 500 選〕〔宗像伸子編著〕〔医歯薬出版〕〔5800 円〕＊最新版のものを 9 回目の講義で配布する。

備　考

・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示する。
・季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがある。
・ルーブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照する。
・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

授業科目名	応用調理学実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(15+30)
担当者	宮地洋子・深澤律子	必・選	管栄(必)	形態	実習	学期	後期	対象	健専２年

授業概要

基礎調理学の知識をもとに、18～29 歳の食事摂取基準を食品構成に展開できるよう、食事摂取基準を活用し、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるように、秋・冬の出盛りの食材を理解し、季節感のある行事食や郷土料理も取り入れた具体的な実習献立を通して学ぶ。グループ活動を通して、献立一食あたりの食品の使用量を学び、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるような実践力を修得する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
修得した知識をもとに、一日の摂取カロリーから食品構成を展開することが理解できる。	□	□	□						
グループで話し合い、献立一食あたりの食品の使用量が理解でき、献立を立てる技術を習得する。	○	□	□		□		□		
グループで話し合い、一日（朝・昼・夕）の献立を立てる技術を習得する。	□	□	□		□		□		
修得した調理技術をもとに、さまざまな野菜の切り方を習得する。	□	□	□						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.夏休みの課題「家族への食事作りのレポート」発表。（宮地・深澤）	レポートにまとめ、発表の準備を行う。レポート提出。
2.秋の献立　日本料理（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
3.秋の献立　日本料理（豆の展開調理）（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
4.秋の献立　西洋料理（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
5.秋の献立　中国料理（飲茶）（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
6.冬の献立　日本料理（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
7.冬の献立　西洋料理（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
8. 演習・食品構成を考えた冬の献立①日本料理の献立作成（宮地・深澤）	実習の献立を次回提出。
9. 演習・食品構成を考えた冬の献立①日本料理の栄養価計算（宮地・深澤）	実習の栄養価計算を次回提出。
10. 食品構成を考えた冬の献立①日本料理の実習（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
11. 演習・食品構成を考えた冬の献立②西洋料理の献立作成（宮地・深澤）	実習の献立を次回提出。
12. 演習・食品構成を考えた冬の献立②西洋料理の栄養価計算（宮地・深澤）	実習の栄養価計算を次回提出。
13. 食品構成を考えた冬の献立②西洋料理の実習（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
14. 行事食・ひな祭り献立（宮地・深澤）	実習のまとめレポートを次回提出。
15.講義、後期まとめ（宮地・深澤）	
16.筆記試験（宮地・深澤）	

履修上の注意

前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子、タオルハンカチを準備する。調理室内ではボールペン使用。調理室に入室したら手洗い消毒を済ませ、配布資料をファイルに保管する。出席することが重要である。調理技術の習得のためには、自宅で実践する。

成績評価方法・基準

夏休みの課題レポート 30 点、実習レポート提出 30 点、筆記試験 30 点、授業態度 10 点（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等）で評価する。提出されたレポートは後日添削して返却する。課題については授業中にフィードバックする。

教科書〔改定新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,300 円〕

参考書〔一品料理 500 選〕〔宗像伸子編著〕〔医歯薬出版〕〔5800 円〕

備　考

・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示する。

・季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがある。

・ルーブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照する。

・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

授業科目名	食文化論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30-60)
担当者	宮地　洋子	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専２年

授業概要

日本の自然環境と社会環境の中で形成されてきた食文化について、古代から現代までどのように変遷してきたかを学修する。また、各時代の特徴と大陸、南蛮、欧米などの異文化と係わり、どのように取り入れて日本独特の食文化を発展したかも学修する。さらに、年中行事や儀礼食及び郷土料理の学修を通じて食文化の伝承と継承の大切さを理解する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
食文化の定義およびその変遷を理解できる。		○	○		○				
各時代の特徴と異文化との係わりを理解できる。		○	○		○				
行事食・儀礼食を理解し各自の食体験を整理できる。			○		○				○

授業計画の内容	
1.「和食」：日本人の伝統的な食文化	教科書序章を読んでおくこと。
2.食文化の定義、食に関する思想	教科書食文化の定義、食に関する思想を読んでおくこと。
3.世界の食文化形成①世界の食文化類型とその特徴	教科書世界の食文化類型とその特徴を読んでおくこと。
4.世界の食文化形成③粉食文化と粒食文化	教科書粉食文化と粒食文化を読んでおくこと。
5.日本の食文化形成と展開	教科書日本の食文化形成と展開を読んでおくこと。
6異文化接触と受容.	教科書異文化接触と受容をよんでおくこと。
7.主食の文化①木の実といも類、米	教科書化木の実といも類、米を読んでおくこと。
8.主食の文化②大麦と小麦、雑穀	教科書大麦と小麦、雑穀を読んでおくこと。
9.副食の文化	教科書副食の文化を読んでおくこと。
10.行事と地域の文化　授業内課題について	教科書行事と地域の文化を読んでおくこと。
11.日本料理の形成と発展①日本料理の系譜と本膳料理	教科書日本料理の系譜と本膳料理を読んでおくこと。
12. 日本料理の形成と発展②懐石料理、会席料理、精進料理	教科書懐石料理、会席料理を読んでおくこと。
13.台所、食器、食卓の文化	教科書台所、食器、食卓の文化を読んでおくこと。
14.日常の食、非常の食	教科書日常の食、非常の食を読んでおくこと。
15.本講義全体のまとめ　授業内課題の提出	授業内課題をまとめておくこと。

履修上の注意

1.事前に講義予定の教科書内容を熟読して受講してください。

2.教科書及びスライドで提示された専門用語のうち、わからないものについては調べておいてください。

3.授業内課題については提出期限を守ってください。

成績評価方法・基準

期末試験（60%）、授業内課題（30%）提出された課題は添削して返却します、受講態度（10%）

教科書

〔新版　日本の食文化「和食」の継承と食育〕〔江原絢子・石川尚子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2,500 円〕

参考書

配布プリントで補足します。

備　考

毎回、講義終了後にオフィスアワーを用意します。

授業科目名	基礎栄養学	単位（総授業時間＋自習時間）	2(30＋60)

担当者	鈴木　裕行	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専１年

授業概要

ヒトをはじめ生物が外界の物質を体内に取り入れ、それをエネルギー源や体構成の材料として利用する「栄養」という現象は生命維持に不可欠である。ヒトの食欲を調節するしくみ、摂取した食物の消化と栄養素の吸収に携わる消化器官系の各臓器の構造と機能、消化（食品成分の分解反応）・吸収の機構、また、栄養素の種類と各栄養素の化学構造・性質、体内での代謝・機能と欠乏症・過剰症、および栄養素同士の関わりについて説明する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
健康の保持・増進における栄養の役割を説明できる	○	○	○						
消化・吸収における各消化器官の役割を説明できる	○	○	○						
各栄養素の代謝とその生理的意義を説明できる	○	○	○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．栄養とは、遺伝形質と栄養	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
２．食欲の調節、食事のタイミング	
３．消化器の構造	
４．消化器の機能	
５．各栄養素の消化吸収、消化吸収率	
６．たんぱく質・アミノ酸の体内代謝	
７．たんぱく質の量と質の評価	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
８．[中間試験]、糖質の体内代謝	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する
９．試験の解説、血糖の調節	
10．脂質の体内代謝	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
11．脂質の量と質の評価	
12．ビタミンの分類・構造	
13．ビタミンの機能・・・脂溶性ビタミン	
14．ビタミンの機能・・・水溶性ビタミン	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する
15．[期末試験]、ミネラルの種類と体内分布	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する
16．　試験の解説、ミネラルの機能	

履修上の注意

他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。

成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%

教科書　[基礎栄養学][駒井三千夫　他][アイ・ケイコーポレーション][2,592 円]

参考書　[栄養の生化学 1-2-3 改訂第 3 版][遠藤克己][南江堂][2,160 円]

備　考

試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

授業科目名	栄養生化学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	鈴木　裕行	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専 2 年

授業概要

メタボリック・シンドロームはその患者数の多さから現代の社会問題とも言えるが、いずれもその発症と進行に食生活が大きく関与する疾患群である。それに含まれる肥満症・糖尿病・脂質異常症・高血圧症・骨粗鬆症・および癌といった各疾患について、発症や病態の背景となる各種栄養素（特にエネルギー分子）の代謝とその調節機構、および発症と症状の進行の分子生物学的・細胞生物学的機構について講義する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
メタボリックシンドロームの病態を生化学的に説明できる	○	○	○						
メタボリックシンドロームの予防・治療への栄養に役割を説明できる	○	○	○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．メタボリック・シンドロームとは	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
2．メタボリック・シンドロームと関わるミネラルの機能	
3．肥満遺伝子	
4．脂肪細胞の機能	
5．血糖調節機構と糖尿病の分類	
6．糖尿病の発症機序と代謝	
7．糖尿病関連遺伝子、食事療法	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
8．[中間試験]、リポタンパク質とその受容体	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する
9．試験の解説、動脈硬化症の発症機序と代謝	
10. 動脈硬化症の治療と関連遺伝子	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…Ⓐ
11. 血圧調節機構	
12. 高血圧症の発症機序	
13. カルシウム代謝調節機構	
14. 骨粗鬆症の発症機序と治療	Ⓐに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する
15. [期末試験]、発癌の分子機構	Ⓐに加え、試験でできなかったところをよく復習する
16. 試験の解説、発癌と食事	

履修上の注意

他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。

成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度・提出物）・・・10%

教科書　無し（資料を配布する）

参考書　[栄養の生化学 1-2-3 改訂第 3 版][遠藤克己][南江堂][2,160 円]

備　考

試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

授業科目名	栄養学実験		単位（総授業時間＋自習時間）					1(45＋15)	
担当者	鈴木　裕行	必・選	必	形態	実験	学期	前期	対象	健専２年

授業概要

糖質・脂肪・たんぱく質のそれぞれの消化酵素による消化実験を行い、それぞれの消化酵素の性質や酵素活性の測定法、脂肪の消化における胆汁酸の機能等を説明する。また、食品に含まれるビタミン B_1 およびビタミン C の定量法を指導する。さらに、ダグラスバッグを用いて収集した呼気のガス分析を行い、間接法によるエネルギー消費量の測定を指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
各栄養素の消化の仕組みを説明できる	○	○	○	○	○		○		
食品中のビタミンが定量できる		○	○	○	○		○		
呼気分析によりエネルギー消費量が測定できる		○	○	○	○		○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．授業の概要説明・実験実施上の注意	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。
２．糖質の消化実験①吸光度分析法 ３．糖質の消化実験②マルトースの定量 ４．糖質の消化実験③唾液アミラーゼによるデンプンの消化 ５．糖質の消化実験④酵素活性の求め方（タンパク質定量）	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「糖質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
６．たんぱく質の消化実験①プロテアーゼによるたんぱく質の消化 ７．たんぱく質の消化実験②アミノ酸の検出	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「たんぱく質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
８．脂肪の消化実験①リパーゼによる脂肪の消化 ９．脂肪の消化実験②酸度の滴定	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「脂肪の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
10．ビタミン B1 の定量①：試料調製 11．ビタミン B1 の定量②：測定 12．ビタミン C の定量①：試料調製 13．ビタミン C の定量②：測定	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「ビタミンの定量実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
14．エネルギー消費量の測定①：測定の原理 15．エネルギー消費量の測定②：測定・計算	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「エネルギー消費量の測定実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。

履修上の注意

実験レポート作成に備え、実験記録をできるだけ綿密に取ること。基礎栄養学・生化学等の科目の内容と関連が深いのでそれぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。

成績評価方法・基準

実験レポート（80%）および平常点（20%；受講状況・実施状況）・・・詳細はルーブリック参照
成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。レポートへのフィードバックとして後日コメントを提示する。

教科書　無し（プリントを配布）

参考書　無し

備　考

オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

授業科目名	応用栄養学Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	川俣　幸一	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専2年

授業概要

各ライフステージにおける栄養状態や心身機能に応じた栄養管理の基本的な考え方を基準に、食事摂取基準への当てはめ方や、栄養マネジメントの方法について理解する。

具体的な内容としては、栄養マネジメントではスクリーニング・アセスメント・栄養ケアプラン・実行・モニタリング・評価からなる 6 項目を、基本的な概念理解を中心に学習する。ライフステージ別の栄養管理の分野では、成人期、妊娠期、授乳期、新生児期、乳児期の 5 分野を取り扱う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
各ライフステージの栄養状態や心身機能、ケアすべき問題点を理解することができるようになる。		○							
栄養マネジメントを各世代ごとに体系的に考えることができるようになる。			○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ライフサイクルの概要 ／ 栄養マネジメントの概要	事前学習として教科書の栄養マネジメント回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
2．成人期①：生理的特徴	事前学習として教科書の成人期の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
3．成人期②：栄養アセスメント	〃
4．成人期③：栄養ケア	〃
5．妊娠期①：生理的特徴	事前学習として教科書の妊娠期の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
6．妊娠期②：栄養アセスメント	〃
7．妊娠期③：栄養ケア	〃
8．前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
9．授乳期①：生理的特徴	事前学習として教科書の授乳期の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
10. 授乳期②：栄養アセスメント	〃
11. 授乳期③：栄養ケア	〃
12. 新生児期・乳児期①：生理的特徴	事前学習として教科書の新生児期・乳児期の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
13. 新生児期・乳児期②：栄養アセスメント	〃
14. 新生児期・乳児期③：栄養ケア	〃
15. 後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと

履修上の注意

応用栄養学実習、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。

成績評価方法・基準

小テストの点数・・・90%　受講態度（ルーブリックで評価）・・・10%

教科書〔応用栄養学　改訂第5版〕〔渡邊令子・他〕〔南江堂〕〔3,456 円〕

参考書　なし

備　考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。小テストは採点をして返却する。

授業科目名	応用栄養学Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	川俣　幸一	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専２年

授業概要

応用栄養学Ⅰに引き続き、各ライフステージにおける栄養状態や心身機能に応じた栄養管理の基本的な考え方を基準に、食事摂取基準への当てはめ方や、それぞれ特徴的な栄養マネジメントの方法（スクリーニング・アセスメント・栄養ケアプラン・実行・モニタリング・評価）について理解する。

具体的な内容としては、ライフステージ別の栄養管理の分野では、幼児期、学童期、思春期、高齢期、運動・スポーツ期と栄養、ストレス・特殊環境と栄養の６分野を取り扱う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
各ライフステージの栄養状態や心身機能、ケアすべき問題点を理解することができるようになる。		○							
栄養マネジメントを各世代ごとに体系的に考えることができるようになる。			○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．幼児期①：生理的特徴	事前学習として教科書の幼児期の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
２．幼児期②：栄養アセスメント	〃
３．幼児期③：栄養ケア	〃
４．学童期・思春期①：生理的特徴	事前学習として教科書の学童期・思春期の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
５．学童期・思春期②：栄養アセスメント	〃
６．学童期・思春期③：栄養ケア	〃
７．前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
８．高齢期①：生理的特徴	事前学習として教科書の高齢期の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
９．高齢期②：栄養アセスメント	〃
10．高齢期③：栄養ケア	〃
11．運動・スポーツ期①：生理的特徴	事前学習として教科書の運動・スポーツ期と栄養の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
12．運動・スポーツ期②：栄養アセスメント	〃
13．運動・スポーツ期③：栄養ケア	〃
14．ストレス・特殊環境と栄養	事前学習として教科書の環境と栄養の回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
15．後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと

履修上の注意

応用栄養学実習、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。

成績評価方法・基準

小テスト・・・90%　受講態度（ルーブリックで評価）・・・10%

教科書〔応用栄養学　改訂第５版〕〔渡邊令子・他〕〔南江堂〕〔3,456 円〕

参考書：なし

備　考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。小テストは採点をして返却する。

授業科目名	栄養管理論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	川俣　幸一	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専２年

授業概要　主として健康な人間を対象とした栄養管理業務において基本となる日本人の食事摂取基準について、その基本的な考え方、科学的根拠ならびに活用の方法を教授する。食事摂取基準を用いた栄養管理を理解できるようになるため、具体的には成人期を基準としたそれぞれの栄養素（34 種類）についての考え方を学び、それをライフステージ別（妊婦、授乳婦、乳児、小児、高齢者、軽度生活習慣病患者など）に当てはめて考えていく作法を学ぶ。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本人の食事摂取基準（2015 年版）の数値や科学的根拠を理解できるようになる。		○							
食事摂取基準を用いた栄養管理の考え方と方法を理解できるようになる			○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．概論 ／ 食事摂取基準について	事前学習として食事摂取基準の策定回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
2．食事摂取基準の各指標について	事前学習として食事摂取基準の活用回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
3．エネルギー（算定の科学的根拠・BMI との関係）	事前学習として食事摂取基準のエネルギー回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
4．たんぱく質（算定の科学的根拠）	事前学習として食事摂取基準のたんぱく質回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
5．脂質（算定の科学的根拠）	事前学習として食事摂取基準の脂質回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
6．前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
7．水溶性ビタミン（算定の科学的根拠）	事前学習として食事摂取基準の水溶性ビタミン回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
8．脂溶性ビタミン（算定の科学的根拠）	事前学習として食事摂取基準の脂溶性ビタミン回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
9．多量ミネラル（算定の科学的根拠）	事前学習として食事摂取基準の多量ミネラル回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
10. 微量ミネラル（算定の科学的根拠）	事前学習として食事摂取基準の微量ビタミン回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
11. ライフステージ別の栄養管理①（妊婦・授乳婦）	事前学習として食事摂取基準の妊婦・授乳婦回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
12. ライフステージ別の栄養管理②（乳児・小児）	事前学習として食事摂取基準の乳児・小児回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
13. ライフステージ別の栄養管理③（高齢者）	事前学習として食事摂取基準の高齢者回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
14. 生活習慣病とエネルギー・栄養素との関連	事前学習として食事摂取基準の生活習慣病回を予習し、事後学習としてノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
15. 後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと

履修上の注意　応用栄養学実習、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。

成績評価方法・基準　小テスト・・・90%　受講態度（ルーブリックで評価）・・・10%

教科書〔日本人の食事摂取基準 2015 年版〕〔菱田明・他〕〔第一出版〕〔2,916 円〕

参考書　なし

備　考　質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。小テストは採点をして返却する。

授業科目名	応用栄養学実習Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(45+45)
担当者	川俣　幸一	必・選	管栄・栄(必)	形態	実習	学期	前期	対象	健専２年

授業概要

各自の身体状況、食物摂取状況の調査などを通じて、自分の食生活状況をアセスメントする。自分自身に適した推定エネルギー必要量の算出や食事摂取基準の設定を行い、それらの結果を基に栄養診断を行う。最終的に栄養ケアプランやモニタリングシートを作成する。更には食品構成から献立作成までの実践的な栄養管理能力の取得を目指す。本実習での対象は自分自身（18-29 歳女性 or 男性）であるが、基本を学びそれ以外の世代においても対応できるようになることを目標とする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1）自分の食生活の現状についてアセスメントを行う能力を身につける		○					○	○	
2）自分の身体に合う食事についての栄養管理法を総合的に理解できるようになる。					○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス／スクリーニング	事前学習は配布プリントのスクリーニング回の予習。事後学習としてレポート作成。ルーブリックを配布する。
2．身体活動量の計算	事前学習は配布プリントの身体活動量回の予習。事後学習としてレポート作成。
3．体格測定	事前学習は教科書の体格測定回の予習。事後学習としてレポート作成。
4．食事調査（練習）	事前学習は教科書の食事調査回の予習。事後学習としてレポート作成。
5．栄養価計算（練習）	事前学習はこれまでの栄養価計算法の復習。事後学習としてレポート作成。
6．食事調査（3 日間の食事記録法）	事前学習として 3 日間の食事記録法の課題レポートが出ます。事後学習として食事記録を完成させてください。
7．栄養価計算（3 日間の食事記録法）	事前学習として 3 日間の食事記録法の課題レポートが出ます。事後学習として栄養価計算を完成させてください。
8．アセスメントシートの作成	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。
9．栄養ケア計画の作成①（問題点の抽出）	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。
10. 栄養ケア計画の作成②（栄養診断、栄養目標量の設定）	事前学習は配布プリントの食事摂取基準回の予習。事後学習としてレポート作成。
11. 栄養ケア計画の作成③（食品構成）	事前学習は配布プリントの食品構成回の予習。事後学習としてレポート作成。
12. 栄養ケア計画の作成④（献立作成）	事前学習は配布プリントの献立作成回の予習。事後学習としてレポート作成。
13. モニタリング①（チェックシートの作成）	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。
14. モニタリング②（再計画について）	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。
15. 評価（構造評価・経過評価・総合評価）／まとめ	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。

履修上の注意

応用栄養学・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学・公衆栄養学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。

成績評価方法・基準

課題レポート・受講態度（ルーブリックで評価）・・・100%
提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

教科書〔応用栄養学　改訂第５版〕〔渡邊令子・他〕〔南江堂〕〔3,456 円〕
その他、適宜プリントを配布する

参考書〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,512 円〕
〔調理のためのベーシックデータ〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,890 円〕
〔日本人の食事摂取基準［2015 年版］〕〔第一出版〕〔2,916 円〕

備　考　質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する

授業科目名	応用栄養学実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+45)
担当者	川俣　幸一	必・選	管栄・栄(必)	形態	実習	学期	後期	対象	健専２年

授業概要

応用栄養学Ⅰ・Ⅱで学んだ各ライフステージの生理現象や生活をふまえ。より良く生きるための栄養とそれに適した献立について、実際に献立調理、観察、試食などを行う。本実習での対象期は、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、妊娠期、成人期、老年期、災害時とする。また応用栄養学実習Ⅰで学んだ栄養管理の方法を踏まえて、各ライフステージに適した献立作成などを行いながら、栄養補給計画の前提となる考え方を学ばせる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1）各ライフステージに適している献立がどのように作成されているかを理解できるようになる。		○					○	○	
2）各ライフステージに適した栄養管理の考え方と方法を総合的に理解できるようになる。					○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．新生児期・乳児期栄養①（乳汁栄養）	事前学習は教科書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。ルーブリックを配布する。
2．新生児期・乳児期栄養②（離乳食前期～中期）	事前学習は教科書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。
3．新生児期・乳児期栄養③（離乳食後期～完了期）	事前学習は教科書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。
4．幼児期・学童期栄養①（行事・麺食）	事前学習は教科書の幼児期・学童期の予習。事後学習としてレポート作成。
5．幼児期・学童期栄養②（アレルギー：除去食・代替食）	事前学習は教科書の幼児期・学童期の予習。事後学習としてレポート作成。
6．幼児期・学童期栄養③（アレルギー：対応食材）	事前学習は教科書の幼児期・学童期の予習。事後学習としてレポート作成。
7．幼児期・学童期栄養④（アレルギー：発展調理法）	事前学習は教科書の幼児期・学童期の予習。事後学習としてレポート作成。
8．思春期栄養（貧血と高鉄分食）	事前学習は教科書の思春期の予習。事後学習としてレポート作成。
9．妊娠期栄養①（つわりを考えた食事）	事前学習は教科書の妊娠期の予習。事後学習としてレポート作成。
10. 妊娠期栄養②（付加量を考えた食事）	事前学習は教科書の妊娠期の予習。事後学習としてレポート作成。
11. 成人期栄養（更年期と高カルシウム食）	事前学習は教科書の成人期の予習。事後学習としてレポート作成。
12. 老年期栄養（低栄養予防の食事）	事前学習は教科書の老年期の予習。事後学習としてレポート作成。
13. 特殊環境と栄養（災害時の食事）	事前学習は教科書の特殊環境と栄養の予習。事後学習としてレポート作成。
14. アセスメントに基づいた調理実習①（食事調査に基づく献立）	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。
15. アセスメントに基づいた調理実習②（BMI=22 を目指す献立）	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。

履修上の注意

応用栄養学・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学・公衆栄養学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。

成績評価方法・基準

課題レポート・受講態度（ルーブリックで評価）・・・100%
提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

教科書

〔応用栄養学　改訂第５版〕〔渡邊令子・他〕〔南江堂〕〔3,456 円〕
その他、適宜プリントを配布する

参考書〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,512 円〕
〔調理のためのベーシックデータ〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,890 円〕
〔日本人の食事摂取基準［2015 年版］〕〔第一出版〕〔2,916 円〕

備　考　質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する

授業科目名	保健栄養学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	栗山　孝雄	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専３年

授業概要

本科目では、人間の健康面や栄養面に関する現状や問題点について、事例を交えて紹介する。具体的には、わが国の食環境やライフステージごとの特徴や問題点などを取り上げる。その上で健康・栄養教育を交えた対策について、食生活や栄養摂取の視点を交えて解説する。内容によっては、授業テーマに関する提出課題を出題し、履修者自身の立場で健康面や栄養面に関する現状や問題を把握し、それらについての対策や教育手法などを考えさせる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
①　授業のテーマに関する現状や問題点を把握することができる。		○	○	○	○	○			
②　その対策について、様々な視点で考える習慣を身につける。		○	○	○	○	○			
③　①、②に関して、健康面や栄養面に関する教育方法を身につける。		○	○	○	○	○			

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．健康・予防・QOL に関する栄養教育と健康教育	予防医学について復習する。
2．わが国の食環境と栄養教育①：食生活の変化と問題点	日本人の健康面も交えて考える。
3．わが国の食環境と栄養教育②：食生活の改善と行動変容	日本人の健康面も交えて考える。
4．わが国の食環境と栄養教育③：食に関する情報へのアクセス	情報の内容の吟味について考える。
5．わが国の食環境と栄養教育④：食品ロスを減らすための栄養教育	食品ロスの原因を理解する。
6．健康栄養面に関する指針の活用①：食生活指針	食生活指針の内容を復習する。
7．健康・栄養面に関する指針の活用②：身体活動・休養・睡眠指針	各種指針の特徴を理解する。
8．わが国の健康・栄養問題と栄養教育①：妊娠・授乳期、乳幼児期	ライフステージ別の問題点を確認する。
9．わが国の健康･栄養問題と栄養教育②:学童･思春期	ライフステージ別の問題点を確認する。
10. 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容①：食生活の乱れと亜鉛欠乏	食生活の内容も交えて考える。
11. 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容②：ストレスとその対処方法	食生活を交えて対処方法を考える。
12. 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容③：飲酒がもたらす問題	食生活や健康面を交えて対処方法を考える。
13. 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容④：特定保健指導による行動変容	特定保健指導の初回面接の内容を確認する。
14. 諸外国の健康・栄養問題①：現状と課題	教科書の該当箇所を確認する。
15. 諸外国の健康・栄養問題②：対策と栄養教育	教科書の該当箇所を確認する。
16. 試験	学習した内容全体を復習する。

履修上の注意

①遅刻は、始業時から 15 分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
②本科目は卒業必修科目である。

成績評価方法・基準

・期末試験（60%）、提出課題（30%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中の私語や、授業と関係ない行為を行うなど、受講態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。
・提出物、試験については、適宜フィードバックを行う。

教科書〔ウエルネス公衆栄養学〕〔前大道教子ほか〕〔医歯薬出版〕〔2,800 円〕

参考書　なし。授業内で適宜紹介する。

備　考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

授業科目名	臨床栄養学Ⅰ		単位（総授業時間＋自習時間）						2(30+60)
担当者	福岡　敦子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専2年

授業概要

病院栄養士としての実践経験を活かし、管理栄養士として臨床栄養学に対する基礎的な知識を習得させ、傷病者への適切な栄養療法を選択できることを指導する。実際、臨床において患者の疾患状態や栄養状況、薬剤の服用状況を客観的に即座に判断できるようにならなければならない。具体的には、臨床栄養学の意義と目的や傷病の権利など臨床栄養管理が重要になった社会的背景から進み、栄養アセスメント、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する臨床栄養管理の考え方について指導を行う。次に栄養補給法から学んでいき、薬剤との関係や疾病に対する栄養療法の指導について指導を行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 傷病者への適切な栄養管理を実施するための疾病の基本的な知識を習得する	○		○						
2. 栄養アセスメント、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する臨床栄養管理の考え方を習得する	○		○		○				
3. 栄養管理の考え方を理解し、習得する	○		○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. 臨床栄養とは～臨床栄養学の意義と目的を学ぶ	臨床における管理栄養士役割について考える
2. 医療における臨床栄養、制度の基本～臨床栄養管理	教科書を読んでくること
3. 栄養評価～栄養管理の目的	教科書を読んでくること
4. 栄養アセスメント～医療現場で発生する栄養状態	医療現場における管理栄養士について現時点の考えをまとめレポートにする
5. 栄養補給法について：①経口栄養法	教科書での範囲を予習・復習をする
6. 栄養補給法について：②経腸栄養法	教科書での範囲を予習・復習をする
7. 栄養補給法について：③静脈栄養法	教科書での範囲を予習・復習をする
8. 食物と薬剤の相互関係	教科書での範囲を予習・復習をする
9. 食事療法を必要とする疾患について：①糖尿病	教科書での範囲を予習・復習をする
10. 食事療法を必要とする疾患について：②脂質異常症	教科書での範囲を予習・復習をする
11. 食事療法を必要とする疾患について：③高尿酸血症	教科書での範囲を予習・復習をする
12. 食事療法を必要とする疾患について：④肥満・るいそう	教科書での範囲を予習・復習をする
13. 食事療法を必要とする疾患について：⑤口内炎・胃・食道逆流症	教科書での範囲を予習・復習をする
14. 食事療法を必要とする疾患について：⑥十二指腸潰瘍	教科書での範囲を予習・復習をする
15. 食事療法を必要とする疾患について：⑦下痢、便秘	教科書での範囲を予習・復習をする

履修上の注意

健康的な生活を行なうための衛生、疾病などの情報に関心を持ち、調理をする習慣を身に着ける。

成績評価方法・基準

単元ごとに小テストを行う（90%）、受講態度（積極的な態度、目的意識、遅刻）（10%）、
小テストは、教科書および授業で行ったことの基本的な内容から出題し、テスト終了後テストの解説を行なう。

教科書 [臨床栄養学][佐藤和人][医歯薬出版]　[3,996円]

参考書[糖尿病食事療法のための食品交換表] [日本糖尿病協会][文光堂][972円]

備　考

質問等については、オフィスアワー以外でも受け付けます

授業科目名	臨床栄養学Ⅱ	単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)

担当者	福岡　敦子	必・選	管栄(必)	形態	講義	学期	後期	対象	健専２年

授業概要

臨床栄養学Ⅰで学んだ各疾患の病因や病態に加えさらに、多様な疾患についての治療をおこなうために栄養食事療法の基礎知識を指導する。前期の疾患に加え、免疫系疾患・小児疾患・妊娠期疾患・高齢者疾患等における疾病について各疾病治療ガイドラインを基に治療および栄養療法を指導する。さらに食事・栄養療法の効果に対する客観的な観察を行え、疾病ごとの栄養療法の基本的な知識をもとに臨床栄養学実習や臨床栄養学指導論へ実践的な応用に結びつけることを目的とする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 多様な疾患に対し、その病態に対応した適切な食事療法の選択ができること。	○		○						
2. 手術後のケア、また生活習慣の改善などの学習を深め、管理栄養士として必要な病態生理や栄養食事療法を身に着けること。	○		○		○				
3. 栄養管理の考え方を理解し、習得する	○		○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. 食事療法を必要とする疾患について：臨床栄養学Ⅰの復習	前期のまとめを行う
2. 食事療法を必要とする疾患について： ①クローン病・潰瘍性大腸炎	消化器疾患の病態生理について本を読んでくること
3. 食事療法を必要とする疾患について：②肝臓疾患	肝炎の病態生理について本を読んでくること
4. 食事療法を必要とする疾患について： ③胆石症　胆のう炎　膵炎	胆石症・胆のう炎・膵炎の病態生理について本を読んでくること
5. 食事療法を必要とする疾患について：④循環器疾患	高血圧症の病態生理について本を読んでくること
6. 食事療法を必要とする疾患について：⑤腎臓　泌尿器疾患　透析	腎臓疾患の病態生理について本を読んでくること
7. 食事療法を必要とする疾患について：⑥内分泌疾患	代謝・内分泌の病態生理について本を読んでくること
8. 食事療法を必要とする疾患について：⑦神経疾患　精神疾患	心身症について本を読んでくること
9. 食事療法を必要とする疾患について：⑧呼吸器疾患	呼吸器疾患の病態生理について本を読んでくること
10. 食事療法を必要とする疾患について：⑨感染症　免疫アレルギー疾患	免疫・アレルギー疾患の病態生理について本を読んでくること
11. 食事療法を必要とする疾患について：⑩癌　術前・術後	外科の病態生理について本を読んでくること
12. 食事療法を必要とする疾患について：⑪高齢者	高齢者の病態生理について本を読んでくること
13. 食事療法を必要とする疾患について：⑫乳幼児・小児疾患	小児の病態生理について本を読んでくること
14. 食事療法を必要とする疾患について：⑬妊産婦・授乳婦の疾患	妊産婦・授乳婦の病態生理について本を読んでくること
15. 食事療法を必要とする疾患について：⑭血液疾患	血液疾患の病態生理について本を読んでくること

履修上の注意

健康的な生活を行なうための衛生、疾病などの情報に関心を持ち、調理をする習慣を身に着ける。授業で行った復習をすること

成績評価方法・基準

単元ごとに小テストを行う（90%）、受講態度（積極的な態度、目的意識、遅刻）（10%）、
小テストは、教科書および授業で行ったことの基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行なう。

教科書 [臨床栄養学][佐藤和人][医歯薬出版]　[3,996 円]

参考書[糖尿病食事療法のための食品交換表] [日本糖尿病協会][文光堂][972 円]

備　考　　質問等については、オフィスアワー以外でも受け付けます。

授業科目名	臨床栄養指導論Ⅰ	単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)

担当者	福岡　敦子	必・選	管栄・栄(必)	形態	講義	学期	前期	対象	健専３年

授業概要

栄養指導において、実際に病院で栄養指導した経験を授業に生かし、臨床の場での基本的な疾病についての患者教育や、栄養指導を行うため患者に理解をしてもらうための方法を学ぶ。また、個人においては、年齢・性差・生活状況などを考慮し栄養指導・食事指導を行わなければならない。そのために模擬栄養指導を行ったり、媒体を作成したりし、臨床栄養指導をどのように進めていくか、逆に患者の立場においてはどのような指導が理解しやすいか等を指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 患者の病状を理解し、科学的根拠に基づいた栄養・食事指導を行う際に患者に説明できるようにする。			○				○		
2. 臨床栄養指導を行うための知識及び方法の基礎について理解する。			○		○		○		
3. 患者の年齢や性差についても理解や知識を考慮し、栄養・食事指導が行えるようにする。	○		○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. 生活習慣病の現状と今後の在り方について　　臨床栄養指導とは何か	生活習慣病とは何かについて調べる
2. 医療における管理栄養士の役目	チーム医療について調べる
3. 栄養ケアマネージメント　栄養アセスメント（栄養評価）	栄養評価について復習をする
4. カルテ（医師・看護師・患者）からの情報	医師・看護師・その他コメディカルと管理栄養士・患者との関係について自分でまとめてみる
5. 生活習慣病と身体計測・血圧・検査値について	生活習慣病について調べる
6. 食道・胃・腸などの疾患の栄養指導について	消化器疾患について調べる
7. 食道・胃・腸などの疾患の治療となる食事療法について学ぶ	栄養媒体作成
8. 高尿酸血症の栄養指導について	高尿酸血症について調べる
9. 高尿酸血症の模擬栄養指導（栄養指導媒体作成・資料作成を作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）	症例検討をする
10. 食塩制限食（心臓病・高血圧症）の栄養指導について	食塩制限食について調べる
11. 食塩制限食の模擬栄養指導（栄養指導媒体作成・資料作成を作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）	栄養媒体作成
12. 糖尿病の栄養指導について	糖尿病食について調べる
13. 糖尿病の模擬栄養指導（栄養指導媒体作成・資料作成を作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）	症例検討をする
14. 糖尿病であるとともに食塩制限が必要な栄養指導について	事例について講義をする
15. 糖尿病であり食塩制限のかたの模擬栄養指導（栄養指導媒体作成・資料作成を作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）	栄養媒体作成

履修上の注意

疾病とのかかわりが深いため疾患について復習をする。また、栄養指導を行う際に多様な場面や背景を考えておくこと

成績評価方法・基準

小テスト・演習　90%、提出物の内容・提出期限の順守　5%、受講態度(積極的な態度、目的意識)5%
小テストは、教科書および授業で行ったことの基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行なう。演習は、授業で行う。

教科書　〔ビジュアル治療食 300〕〔宗像伸子〕〔医歯薬出版〕〔5,184 円〕

参考書：なし

備　考

質問等については、オフィスアワー以外でも受け付けます。

授業科目名	臨床栄養指導論Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	福岡　敦子	必・選	管栄(必)	形態	講義	学期	後期	対象	健専３年

授業概要

病院栄養士として実務経験を中心授業に進め、病院栄養士として業務を行う事ことを前提とした授業を行う。患者の性別、年齢、家庭環境や労働環境を加味した臨床栄養指導を行うために臨床栄養学実習Ⅰで学んだことを踏まえ、食事療法・栄養療法を必要とする患者の状況に合わせた献立をたてる。調理は、具体的に説明をすることができなければならない。併用して学んでいる臨床栄養学実習Ⅱで学んでいる計測についても患者の状況を把握し、その患者に合った食事について説明できなければならない。臨床栄養指導論Ⅰと同様に、媒体や模擬栄養指導を行い、症例検討における事例から食事・栄養指導を指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 臨床栄養指導論Ⅰに加え、対象者が正しく理解し健康を回復させるための行動を起こすための臨床栄養指導の技術・方法を学ぶ。	○		○						
2. 疾病に応じた栄養管理計画をたてることができるようにする。	○		○		○				
3. 疾病に応じた食事指導・栄養指導ができるようにする。	○		○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.高齢者疾患に対する栄養指導について	高齢者疾患について復習をする
2.高齢者の方に対する摂食指導、食事介護などについて栄養媒体作成・資料作成を作成する。	栄養媒体・資料の作成
3. 嚥下・困難食を作成。実際に自分で立てた献立について説明をし、試食した結果などについて発表を行う。	個人で献立をたて調理をする
4. 脂質異常症の栄養指導について	代謝・内分泌について復習をする
5.質異常症の模擬栄養指導（栄養媒体作成・資料作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）や症例検討を行う。	栄養媒体・資料の作成
6. 腎臓疾患および透析療法の栄養指導について	腎疾患について復習をする
7. 腎臓疾患および透析患者の模擬栄養指導（栄養媒体作成・資料作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）や症例検討を行う。	栄養媒体・資料の作成
8. 薬物との関係に注意を要する場合の栄養指導について	薬物との関係について復習をする
9. 食事に影響のある薬剤の内服をしている患者さんを対象に（栄養媒体作成・資料作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）や症例検討を行う。	栄養媒体・資料の作成
10. 胆嚢・膵臓疾患の栄養指導について	胆嚢・膵臓疾患について復習をする
11. 膵臓疾患の患者さんを対象に（栄養媒体作成・資料作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）や症例検討を行う。	栄養媒体・資料の作成
12. 肝臓疾患の栄養指導について	肝臓疾患について復習をする
13. 肝臓疾患の患者さんを対象に（栄養媒体作成・資料作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）や症例検討を行う。	栄養媒体・資料の作成
14. 内分泌疾患の栄養指導について	肥満症について復習をする
15. 肥満症、小児の肥満症を対象に（栄養媒体作成・資料作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）や症例検討を行う。	栄養媒体・資料の作成

履修上の注意

疾病とのかかわりが深いため臨床栄養学ⅠⅡについて復習をする。また、栄養指導を行う際に多様な場面や背景を考えておくこと。食事・栄養の情報、基準値などについて学習した疾病について食事、栄養の情報、基準値などについてまとめること。

成績評価方法・基準

小テスト・演習　90%、提出物の内容・提出期限の順守　5%、受講態度(積極的な態度、目的意識)5%
小テストは、教科書および授業で行ったことの基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行なう。演習は、授業で行う。

教科書〔エッセンシャル臨床栄養学第８版〕〔伊藤和人〕〔医歯薬出版〕〔3,996 円〕

参考書：なし

備　考　質問等については、オフィスアワー以外でも受け付けます。

授業科目名	臨床栄養学実習Ⅰ		単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+45)		
担当者	福岡　敦子	必・選	管栄・栄(必)	形態	実習	学期	前期	対象	健専３年

授業概要

実際に病院栄養士として患者の食事献立を作り、提供した経験を基に実習を勧める。臨床の場では、医師の治療計画を軸にそれぞれの医療スタッフが専門の立場から患者の疾病治療に計画をたてていかなければならない。したがって管理栄養士は自らの立場から治療のための栄養ケアプランを作成しなければならない。ここでは、経口摂取による食形態を中心に、治療食献立作成を個人で行い、食糧を購入し、実際に調理実習を行い、試食を行う。献立を作成するためには疾患についての知識が必須であり、調理実習はグループで行うのでコミュニケーションが必要である。ここでは、この一環の流れや、実際に患者の食事を作り、試食をして治療食の特色を学び取り、さらに何が必要であるのかを指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 疾患の概要と治療についての認識をする	○								
2. 治療食として適切な献立の作成ができること	○				○				
3. 治療食を作成・実技ができることを目標とする	○				○		○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. ガイダンス 臨床栄養学と食事療法について	『臨床栄養学』で学んだ知識は必須。復習を十分に行うこと。
2. 一般治療食と特別治療食について　常食・全粥食献立作成	教科書を読んでくること
3. 常食・全粥食献立提出　常食・全粥食実習ミーティング 糖尿病食献立作成	食事の形態や、嚥下・咀嚼のことについて復習をしてくること
4. 常食・全粥食　実習　糖尿病食献立提出	どのような手順で行うべきか考えてくる
5. 脂質異常症食献立作成　糖尿病食実習ミーティング	脂質異常症について復習をする
6. 脂質異常症食献立提出　糖尿病食実習	どのような手順で行うべきか考えてくる
7. 腎臓病食献立作成　脂質異常症食実習ミーティング	腎臓病について復習をする
8. 腎臓病食献立提出　脂質異常症食実習	どのような手順で行うべきか考えてくる
9. 摂食・嚥下障害食献立作成　　腎臓病食実習ミーティング	刻み・流動・ペースト等の形態を調べる
10. 摂食・嚥下障害食献立提出　腎臓病食実習	どのような手順で行うべきか考えてくる
11. 胃・十二指腸潰瘍食献立作成　摂食・嚥下障害食実習ミーティング	胃・十二指腸潰瘍について復習をする
12. 胃・十二指腸潰瘍食献立提出　摂食・嚥下障害食実習	どのような手順で行うべきか考えてくる
13. 高血圧症・心臓病食献立作成　胃・十二指腸潰瘍食実習ミーティング	循環器疾患について復習をする
14. 高血圧症・心臓病食献立提出　胃・十二指腸潰瘍食実習	どのような手順で行うべきか考えてくる
15. デザート 100kcal を各々で作る　腎臓病食市販品試食	デザートの食事の位置について

履修上の注意

健康的な生活を行なうための衛生、疾病などの情報に関心を持ち、調理をする習慣を身に着ける。洗濯された白衣、白パンツを着用すること。以下の条件で調理実習を行う。爪を切る、髪の毛を帽子から出さない、化粧をしない。以下の装着は認めない（マニキュア、ピアス、イヤリング、指輪、腕時計）

成績評価方法・基準

提出物の内容・提出期限の順守　90%、受講態度（積極的な態度、作業の進め方、チームへの協力度）10%
提出物に関しては、コメントを記載して返却する。また、内容の不明なものについては、説明し再提出をさせる場合もある。

教科書〔ビジュアル治療食 300〕〔宗像伸子〕〔医歯薬出版〕〔5,184 円〕

参考書：なし

備　考　質問等については、オフィスアワー以外でも受け付けます。

授業科目名	臨床栄養学実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(45+45)
担当者	福岡　敦子	必・選	管栄・栄(必)	形態	実習	学期	後期	対象	健専３年

授業概要

身体計測は、患者の栄養状態を最も簡単に測定できる基本的手技であり、病院においては日常、よく行われている。また、経済的かつ非侵襲的であるため、長期にわたり経時的に評価する場合に有効である。入院患者を血液検査などのデータから判断するのと違い、身体計測では患者に接することで、直接、患者の状態を感じ取ることができる利点もある。身体計測の目的は、貯蔵エネルギー量を示す体脂肪量と体タンパクならびに身体機能の能力を示す筋肉量を概算し、身体の栄養状態を推定することである。また１日に必要なエネルギーを推定するうえで身長や体重の値が基本的な事であるが、適切な栄養管理を行うためにもいろいろな身体計測を用い、身体測定の必要性を指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 正しい計測の仕方を行うことができるようにする	○						○		
2. 計測の目的や意義を明確に覚えること。					○				
3. 測定結果からの栄養状態や健康状態の推測する					○		○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス　身体の測定実習の説明	身体の測定法について調べてくる
2.インボディの使用説明　インボディを使用した体成分分析 ①　体成分分析・骨格筋・脂肪・肥満診断	インボディを用いた測定について資料を渡します。資料から体成分分析・骨格筋・脂肪・肥満診断を読んでくる
3.インボディの使用説明　インボディを使用した体成分分析 ②　筋肉バランス　体重測定　・身長測定	資料から、筋肉バランスについて読んでくる
4.インボディを使用した体成分分析③　ＥＣＷ/ＴＢＷ/	資料から、ＥＣＷ/ＴＢＷ/について読んでくる
5.インボディを使用した体成分分析④　部位別脂肪バランス・総合評価	資料から、部位別脂肪バランス・総合評価について読んでくる
6.インボディを使用した体成分分析⑤　体成分変化	資料から、体成分変化について読んでくる
7.インボディを使用した体成分分析⑥　インピーダンス	資料から、インピーダンスについて読んでくる
8.身体計測実技①　仰臥位身長	計測の必要性について調べておくこと
9.身体計測実技②　アームスパン・下腿周囲長	計測の必要性について調べておくこと
10.身体計測実技③　上腕周囲長	計測の必要性について調べておくこと
11.身体計測実技④　Knee-Height 計測	計測の必要性について調べておくこと
12.身体計測実技⑤　上腕三頭筋部皮下脂肪厚	計測の必要性について調べておくこと
13.身体計測実技⑥　肩甲骨下部皮下脂肪	計測の必要性について調べておくこと
14.身体計測実技⑦　血圧（デジタル・水銀）高齢者体験	血圧について調べる
15.身体計測実技⑧　血糖値測定 妊婦体験	糖尿病について復習をする

履修上の注意

計測の必要性について調べておくこと。また、身長を測る方法について測定方法による違いなどに関心や興味を持つこと。日常生活の中で、体重などは身近に計測をするものであり、健康へのバロメータでもあるので測定をするという習慣をもつこと

成績評価方法・基準

提出物の内容・提出期限の順守　90%
受講態度（積極的な態度、作業の進め方、チームへの協力度）10%
提出物に関しては、コメントを記載して返却する。また、内容の不明なものについては、説明し再提出をさせる場合もある。

教科書〔ビジュアル治療食 300〕〔宗像伸子〕〔医歯薬出版〕〔5,184 円〕

参考書：なし

備　考　質問等については、オフィスアワー以外でも受け付けます。

授業科目名	公衆栄養学	単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)

担当者	栗山　孝雄	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専３年

授業概要

公衆栄養学は、日常の生活圏である地域や市町村、都道府県、国などの住民レベル、学校や職域などの様々な集団に所属する人々を対象に、健康面や栄養面の現状を把握し、問題点の改善、健康の維持・増進、疾病の予防をはかることを目的とする。その際、食生活や栄養面の観点から検討を行う。本講義では、以上の内容に関する事項として、地域住民や各種集団の健康・栄養に関する現状や問題点、関係する法規や政策、公衆栄養活動の流れ等について解説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
公衆栄養活動に関連する法規を理解する。		○	○	○	○	○			
公衆栄養活動の企画から評価までの流れを理解する。		○	○	○	○	○			
公衆栄養活動を展開するために必要な知識や考え方を身につける。		○	○	○	○	○			

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．公衆栄養の概念	公衆衛生学を復習の上、受講する。
２．公衆栄養活動	過去と現在の活動を理解する。
３．わが国の栄養行政	栄養行政について理解を深める。
４．公衆栄養関連法規①：地域保健法、健康増進法	教科書の該当箇所を確認する。
５．公衆栄養関連法規②：食育基本法、栄養士法	教科書の該当箇所を確認する。
６．わが国の管理栄養士・栄養士の養成制度	栄養士法の内容を確認の上、受講する。
７．国民健康・栄養調査	調査の実施全般について確認する。
８．中間試験、公衆栄養マネジメント	PDCA サイクルの流れを確認する。
９．公衆栄養活動における調査方法	調査方法の利点、欠点を理解する。
10．公衆栄養活動における目標設定	目標設定、優先順位の決定を確認する。
11．公衆栄養活動の評価	評価の具体例を交え、理解を深める。
12．都道府県・市町村の健康増進計画	健康日本 21 を復習の上、受講する。
13．健康・食生活の危機管理と食支援①：事例と対策	震災発生時の食支援を理解する。
14．健康・食生活の危機管理と食支援②：栄養士による震災時の対応	震災発生時の栄養士の役割を理解する。
15．栄養疫学の指標	疫学を復習の上、受講する。
16．期末試験	学習した内容全体を復習する。

履修上の注意

①遅刻は、始業時から 15 分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。

②本科目の単位を取得できないと、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。

③本科目は卒業必修科目である。

成績評価方法・基準

・中間試験（40%）、期末試験（50%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。

※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中に私語や授業と関係ない行為を行うなど受講態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。

・提出物、試験については、適宜フィードバックを行う。

教科書〔ウエルネス公衆栄養学〕〔前大道教子ほか〕〔医歯薬出版〕〔2,800 円〕

参考書　なし。授業内で適宜紹介する。

備　考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

授業科目名	公衆栄養学実習	単位（総授業時間＋自習時間）	1(45+15)

担当者	栗山　孝雄	必・選	選・管栄・栄(必)	形態	実習	学期	前期	対象	健専３年

授業概要

本実習では、「公衆栄養学」で学習した内容をもとに、保健所や市町村保健センターの行政栄養士、地域での健康・栄養活動に携わる管理栄養士や栄養士が扱う健康や栄養に関する事業を中心に、公衆栄養活動を展開する上で必要な知識や手法を教授する。具体的には、公衆栄養活動の企画から評価までの一連の流れ、地域住民へのポピュレーションアプローチの実際などを扱う。

本実習の内容は、公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱでの実践活動に結びつくものである。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
公衆栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。		○	○	○	○	○	○		
ポピュレーションアプローチについて理解する。		○	○	○	○	○	○		
公衆栄養活動の企画から評価までの流れを理解する。		○	○	○	○	○	○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．地方自治体の健康増進計画について	健康日本 21 を復習の上、受講する。
２．健康問題に関する状況判断の実際	物事のポイントとなる点を検討する。
３．食生活改善に関する実習①：課題の提示、企画・準備	PDCA サイクルの計画について理解を深める。
４．食生活改善に関する実習②：課題に対する健康・栄養教育の実施	計画の実施で必要なことを確認する。
５．食生活改善に関する実習③：健康・栄養教育の評価、改善の検討	PDCA サイクルの改善について理解を深める。
６．食生活改善に関する実習④：改善を施した健康・栄養教育の実施	計画の実施で必要なことを確認する。
７．実習課題に関する評価のまとめ	PDCA サイクルの流れを確認する。
８．公衆栄養活動に関する実習①：地域の実態把握、情報収集	教科書などを参考に学習する。
９．公衆栄養活動に関する実習②：課題の確認	地域住民の健康課題を理解する。
10．公衆栄養活動に関する実習③：目標の確認	目標の優先順位を考える。
11．公衆栄養活動に関する実習④：健康事業の計画	8～11 回の授業全体を復習する。
12.「栄養まつり」（宮城県栄養士会主催）①ガイダンス、役割決め、ライフステージ別の健康面・栄養面の特徴の把握	「栄養まつり」全体の内容を確認する。
13.「栄養まつり」②： ライフステージ別の健康面・栄養面の課題の確認、各種準備	各自が担当する役割について確認する。
14.「栄養まつり」③：イベント当日にイベントへ参加	ポピュレーションアプローチの理解を深める。
15.「栄養まつり」④：振返り、まとめ	イベントの長所や改善点を確認する。

履修上の注意

①遅刻は、始業時から 30 分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
②内容によっては実習時間外、集中講義期間等に行うものもある。
③本科目の単位を取得できないと、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。
④本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。

成績評価方法・基準

・グループワークでの作業状況（40%）、提出物（50%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。
※受講態度については、①遅刻が多い、②実習と関係ない行為を行うなどの問題がある場合、状況に応じて減点する。
・提出物については、適宜フィードバックを行う。

教科書〔ウエルネス公衆栄養学〕〔前大道教子ほか〕〔医歯薬出版〕〔2,800 円〕

参考書　なし。授業内で適宜紹介する。

備　考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

授業科目名	地域栄養活動演習Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(30+15)
担当者	栗山　孝雄	必・選	選・管栄(必)	形態	演習	学期	前期	対象	健専４年

授業概要

本演習では、「公衆栄養学」や「公衆衛生学」等で学習した人間の生活圏である地域、市町村、都道府県のレベルを中心に、そこで展開される「地域栄養活動」に関して、以下の点を扱う。

【１】地域における健康面や栄養面、食生活に関する事例や課題より、現状や問題点を把握する。その上で、対策や政策などについて、食生活や栄養摂取、栄養改善の視点から検討する。

【２】「地域栄養活動」を展開する上で必要となる情報の検索や社会資源の把握などについて解説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
地域が抱える健康･栄養に関する課題の対処方法､解決方法を身につける。		○	○	○	○	○	○		○
地域栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。		○	○	○	○	○	○		○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．地域社会における健康・栄養に関する現状と問題点の把握	健康日本 21 を復習の上、受講する。
２．公的情報の検索①：国レベル	公的情報の種類、内容を理解する。
３．公的情報の検索②：自治体レベル	公的情報の種類、内容を理解する。
４．地域の栄養問題への対応①：課題の提示、情報検索	課題のポイントとなる点を検討する。
５．地域の栄養問題への対応①：検討、まとめ	情報検索した内容を確認する。
６．公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題について	問題点の対策を考える。
７．地域の栄養問題への対応②：課題の提示、情報検索	課題のポイントとなる点を検討する。
８．地域の栄養問題への対応②：検討、まとめ	情報検索した内容を確認する。
９．公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題について	問題点の対策を考える。
10．公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題について	問題点の対策を考える。
11．公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題について	問題点の対策を考える。
12．地域栄養活動①：計画立案	計画の実施で必要なことを確認する。
13．地域栄養活動②：準備	教科書などを参考に学習する。
14．地域栄養活動③：栄養教育 ※宮城県栄養士会主催「栄養まつり」参加	ポピュレーションアプローチについて、イベントを通じて理解を深める。
15．地域栄養活動④：まとめ	イベントの長所や改善点を考える。

履修上の注意

① 遅刻は、始業時から 15 分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
② 内容によっては授業時間外、集中講義期間等に行うものもある。
③ 本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。

成績評価方法・基準

・提出課題（50%）、受講態度（50%）を総合して、成績評価を行う。
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③演習中に演習とは関係ない行為を行うなど、問題のある者は、状況に応じて減点する。
・提出物については、適宜フィードバックを行う。

教科書〔ウエルネス公衆栄養学〕〔前大道教子ほか〕〔医歯薬出版〕〔2,800 円〕

参考書　なし。授業内で適宜紹介する。

備　考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

授業科目名	地域栄養活動演習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(30+15)
担当者	栗山　孝雄	必・選	選・管栄（必）	形態	演習	学期	後期	対象	健専４年

授業概要

本演習では、「公衆栄養学」や「公衆衛生学」等で学習した人間の生活圏である地域、市町村、都道府県のレベルを中心に、そこで展開される「地域栄養活動」に関して、以下の点を扱う。

【１】地域における健康面や栄養面、食生活に関する事例や課題より、現状や問題点を把握する。その上で、対策や政策などについて、食生活や栄養摂取、栄養改善の視点から検討する。

【２】「地域栄養活動」を展開する上で必要となる情報の検索や社会資源の把握などについて解説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
地域が抱える健康・栄養に関する課題の対処方法、解決方法を身につける。		○	○	○	○	○	○		○
地域栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。		○	○	○	○	○	○		○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. 地域の栄養問題への対応①：課題の提示、情報検索	課題のポイントとなる点を検討する。
2. 地域の栄養問題への対応①：検討、まとめ	情報検索した内容を確認する。
3. 公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題について	問題点の対策を考える。
4. 民間企業による健康・栄養活動について	活動の展開について理解する。
5. 地域の栄養問題への対応②：課題の提示、情報検索	課題のポイントとなる点を検討する。
6. 地域の栄養問題への対応②：検討、まとめ	情報検索した内容を確認する。
7. 公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題について	問題点の対策を考える。
8. 宮城県内保健所の健康・栄養活動について	活動の内容を理解する。
9. 宮城県内市町村の健康・栄養活動について	活動の内容を理解する。
10. 仙台市の健康・栄養活動について	活動の内容を理解する。
11. 他県の保健所の健康・栄養活動について	活動の内容を理解する。
12. 宮城県内医療機関の健康・栄養活動について	活動の内容を理解する。
13. 他県の医療機関の健康・栄養活動について	活動の内容を理解する。
14. 公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題について	問題点の対策を考える。
15. 地域栄養活動の今後について	学習した内容全体を復習する。

履修上の注意

① 遅刻は、始業時から 15 分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。

② 内容によっては授業時間外、集中講義期間等に行うものもある。

③ 本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。

成績評価方法・基準

・提出課題（50%）、受講態度（50%）を総合して、成績評価を行う。

※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③演習中に演習とは関係ない行為を行うなど、問題のある者は、状況に応じて減点する。

・提出物については、適宜フィードバックを行う。

教科書〔ウエルネス公衆栄養学〕〔前大道教子ほか〕〔医歯薬出版〕〔2,800 円〕

参考書　なし。授業内で適宜紹介する。

備　考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

授業科目名	給食管理学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	半澤　真喜子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	健専２年

授業概要

特定かつ多数の者に継続的に食事を供給する特定給食施設では、給食の運営を計画から評価まで総合的に判断し、栄養面、安全面、経営面全般をマネジメントする能力が必要となる。

実務経験を活かし以下の点を教授する。１．特定給食施設の定義、目的、法的根拠について学習させる。２．給食を運営する上で管理栄養士・栄養士に必要な各管理業務の目的、方法、評価について理解させる。３．喫食者の栄養アセスメント、献立作成および調理について実践的に学ばせる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
特定給食施設の定義、給食の目的や特徴を理解できる。		○	○		○				
給食を運営する上で必要な知識や技術を身につける。		○	○		○				
対象者に応じた給食の立案を身につける。		○	○		○				
給食の管理業務を理解し説明できるようになる。		○	○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．給食の概要、給食システム	事前学修）
２．給食を提供する施設と関連法規	・教科書の該当ページを熟読し、給食関係用語の理解に努めること。
３．経営管理の概要、給食とマーケティング	
４．給食経営と組織、給食経営管理の評価	
５．栄養・食事管理①概要、栄養・食事アセスメント	（事後学修）
６．栄養・食事管理②栄養・食事計画と実施	・2～15 回の授業開始時に前回の授業の理解度を確認するためミニテストを実施する。
７．給食の品質の標準化	・板書ノートを見直して復習すること。
８．給食の生産：原価、食材、生産	・教科書の各章の問題、記述式ノートを解いておくこと。
９．給食の安全・衛生①HACCP の運用、事故災害時対策	・授業で関わった給食関連法規の理解を確実にすること。
10. 施設・設備管理	
11. 給食の人事・事務	
12. 施設別給食経営管理①病院、高齢者・介護保険施設	
13. 施設別給食経営管理②児童福祉施設、障害者福祉施設	
14. 施設別給食経営管理③学校給食、事業所給食	
15. 施設別給食経営管理④外食・中食・配食と給食の概念	
16. 期末試験	

履修上の注意

①理解できない点は質問したり調べたりして、解決に努めること。
②遅刻３回で欠席１回とする。

成績評価方法・基準

・ミニテスト（40%）、期末試験（40%）、課題提出・時間厳守（10%）、授業態度（遅刻、私語、途中退場、授業とは関係のない行為を行う　等）（10%）
・ミニテスト期末試験については、解答を授業中にフィードバックする。
・課題については、後日添削して返却する。

教科書［給食経営と管理の科学］［井川聡子ほか］［理工図書］［3,240 円］
〔給食経営管理用語辞典〕〔日本給食経営管理学会監修〕〔第一出版〕〔2,700〕

参考書　適宜紹介する。

備　考

・質問は授業時間内、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受付ける。
・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照のこと。

授業科目名	給食経営学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	半澤　真喜子	必・選	管栄(必)	形態	講義	学期	前期	対象	健専４年

授業概要

実務経験を活かし以下の点を教授する。

・特定給食施設の定義、目的、法的根拠など基本的かつ重要な項目について学習させる。
・給食運営を計画から評価まで総合的に判断し、栄養面、安全面、経営面全般のマネジメントを解説する。
・給食を運営する上で管理栄養士に必要な各管理業務の目的、方法、評価について理解させる。
・給食に関連するビジネスの動向や、マーケティングの原理や応用、システム構築などの手法を取り入れたマネジメントをより具体的に、給食施設の経営管理のあり方を理論と事例をもとに解説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
給食施設の給食実務、経営管理、給食計画について説明できる。		○	○		○				
給食のマネジメントについて経営管理の理念に基づき説明できる。		○	○		○				
給食のシステムについて経営管理の理念に基づき説明できる。		○	○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.給食のマネジメントの基本①：給食のマネジメント	事前学修）
2.給食のマネジメントの基本②：給食における経営管理	・教科書の該当ページを熟読し、給食関係用語の理解に努めること。
3.給食のマネジメントの基本③：情報管理	
4.給食のマネジメントの展開①：栄養・食事管理	
5.給食のマネジメントの展開②：メニュー管理	（事後学修）
6.給食のマネジメントの展開③：食材管理	・2～15 回の授業開始時に前回の授業の理解度を確認するためミニテストを実施する。
7.給食のマネジメントの展開④：生産管理	
8.給食のマネジメントの展開⑤：食事サービス管理	・板書ノート、配布資料を見直して復習すること。
9.給食のマネジメントの展開⑥：リスクマネージメント	・教科書の各章の問題、記述式ノートを解いておくこと。
10.給食のマネジメントの展開⑦：施設設備管理	
11.給食のマネジメントの実際①：病院給食	・授業で関わった給食関連法規の理解を確実にすること。
12.給食のマネジメントの実際②：学校給食	
13.給食のマネジメントの実際③：児童福祉施設給食	
14.給食のマネジメントの実際④：高齢者福祉施設給食	
15.期末試験	
16.給食のマネジメントの実際⑤：事業所給食、配食サービス	

履修上の注意

①理解できない点は質問したり調べたりして、解決に努めること。

②遅刻 3 回で欠席 1 回とする。

成績評価方法・基準

・ミニテスト（40%）、期末試験（50%）、授業態度（遅刻、授業とは関係のない行為を行う等）（10%）
・ミニテスト・期末試験については、解答を授業中にフィードバックする。
・本科目は、管理栄養士養成課程の必須科目である。単位が取得できないと管理栄養士国家試験受験資格は取得できなくなる。

教科書〔給食経営管理用語辞典〕〔日本給食経営管理学会監修〕〔第一出版〕〔2,700 円〕
［給食経営と管理の科学］［井川聡子ほか］［理工図書］［3,240 円］2 年次購入済
資料を配布する。

参考書　給食の関連法規（授業で指示、ホームページから印刷して持参すること）

備　考

・質問は授業時間内、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受付ける。
・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照のこと。

授業科目名	給食管理実習Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+45)
担当者	半澤　真喜子	必・選	必	形態	実習	学期	後期	対象	健専２年

特定給食施設での給食業務の目的は、給食対象者に合った食事を提供し、対象者の疾病治癒、健康維持・増進を図るとともに、より良い食習慣を作り、生活習慣病予防ができるように指導することである。
実務経験を活かし以下の点を教授する。
・特定給食施設の基準に基づき、学内で学んだ栄養学、調理学、衛生学などの基礎知識を活かして、学生を対象とした 100 食以上の給食を実施し、給食に関する方法、技術を習得する。
・実習の計画（Plan）から、実施（Do）、検証（Check）、改善（Act）に至るすべてを、学生自身が進める
・グループで協力し意欲的に実習を行うことにより、栄養士・管理栄養士の実践力を習得させる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
特定給食施設における給食の運営・給食経営管理能力を身につける。		○		○	○		○	○	
対象集団の食事の計画と提供のための技術を身につける。		○		○	○		○	○	
給食運営の PDCA サイクルについて基礎的な内容を理解し説明できる。		○		○	○		○	○	
栄養面・安全面・経済面を統合したマネジメントを理解し自ら実行できる。		○		○	○		○	○	
HACCP の概念を基に調理作業行程表を作成し、調理する力を身につける。		○		○	○		○	○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.実習の意義・目的・内容・日程・役割分担、給食業務の流れ	［給食管理・経営管理実習の手引き］P.6～P.30を熟読してくること。
2.食事管理：対象集団の栄養アセスメント、給与栄養目標量、食品群別荷重平均成分表の作成	次週まで完成品で持参すること。
3．献立計画：栄養食事計画に基づいた献立作成	次週まで完成品で持参すること。
4．作業計画：調理行程・調理作業計画の作成	次週まで完成品で持参すること。
5．衛生管理・品質管理計画：試作、検討、各種書類作成	グループごと試作の材料を持参すること。 グループごと試作の検討をし、献立表を完成させる。
6．材料管理：食材料の購入計画書作成	グループごと献立表、作業行程表を完成品で提出する。
7～14　食事提供サービス ・栄養士班・調理師班・事務班に役割を分担し、業務を交代で体験する。 ・栄養士班役割：検収、調理指導、味付け決定、盛り付け指導、点検表の記録、後片付け、清掃、残食・残菜調査、材料費の算出、帳票整理など。終了後、実際に調理作業従事した立場から、評価を行う。 ・調理師班役割：栄養士班の指示に従い、下処理、裁断、調理、供食サービス、後片付け、清掃、食器洗浄作業などを行う。終了後、実際に調理作業従事した立場から、評価を行う。 ・事務班の役割：掲示用献立表作成、アンケート用紙作成、アンケート集計、指導案・指導教材の作成、栄養指導など。実際に従事した立場から、評価を行う。	（事前学修） ・大量調理施設衛生管理マニュアル、授業時配布の資料、教科書の内容を完全に習得してくること。 ・グループ内で作業工程表を確認し、シュミレーションをしてから実習に臨むこと。 ・実習班は実習前日までに準備を済ませておくこと。 （事後学修） ・実習ノートのまとめをしっかり行い、実習内容の理解を深めること。
15. 期末試験	
16. 施設・機器管理：機材の整備、評価、まとめ	

履修上の注意
①原則的に全出席とし、遅刻・無断欠席は認めない。
②検便検査は決められた日時まで提出すること。未提出の場合、実習はできない。
③自ら考えて行動できること。
④グループ内もしくはクラス内で報告、連絡、相談をしっかり行い、常にコミニュケーションを図ること。
⑤授業計画の準備時は、グループごとに実習時間外および空き時間に行なうこともあるので、事前に相談し出席すること。
⑥調理時は実習で定めた、非汚染地域・汚染地域専用の調理服上下、ネット帽、エプロン、シューズを着用する。衛生については、大量調理施設衛生管理マニュアル通りとする。
⑦衛生については、学生同士で注意しあい、確認してから行動すること。
⑧分からないことは必ず聞き、勝手な行動はしないこと。
⑨体調管理には十分留意すること

成績評価方法・基準
・期末試験（30%）、学習意欲及び積極的な態度（30%）、課題提出（10%）、実習ノート完成度（30%）
※提出物は時間厳守とし、未提出の場合は評価の対象としない。　授業態度不良、期末試験欠席の場合、単位は認めない。
・課題、実習ノートは、後日添削して返却する。　・期末試験については、解答を授業中にフィードバックバックする。

教科書　［給食管理・経営管理実習の手引き４版］［西川貴子他］［医歯薬出版］［2,052 円］　［衛生管理＆調理技術マニュアル］［文部科学省学校健康教育課］［学建書院］［1,080 円］　大学オリジナル「給食管理実習ノート」（授業開始後購入）［1,000 円］

参考書［給食経営と管理の科学］［井川聡子ほか］［理工図書］［3,240 円］、［給食経営管理用語辞典］〔日本給食経営管理学会監修〕〔第一出版〕〔2,700〕［調理のためのベーシックデータ］［女子栄養大学出版］［1,890 円］、［日本人の食事摂取基準（2015 年版）］［第一出版］［2,916 円］、［食品成分表］［女子栄養大学出版部］［1,512 円］、〔給食経営管理用語辞典〕〔日本給食経営管理学会監修〕〔第一出版〕〔2,700〕1.2 年時購入済み

備　考・食物アレルギーがある場合は担当教員まで速やかに申し出ること。・質問は授業時間内、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受付ける。

授業科目名	給食管理実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+45)	
担当者	半澤　真喜子	必・選	管栄・栄(必)	形態	実習	学期	後期	対象	健専２年

授業概要

特定給食施設での給食業務の目的は、給食対象者に合った食事を提供し、対象者の疾病治癒、健康維持・増進を図るとともに、より良い食習慣を作り、生活習慣病予防ができるように指導することである。実務経験を活かし以下の点を教授する。

・特定給食施設の基準に基づき、学内で学んだ栄養学、調理学、衛生学などの基礎知識を活かして、学生を対象とした 100 食以上の給食を実施し、給食に関する方法、技術を習得する。

・実習の計画（Plan）から、実施（Do）、検証（Check）、改善（Act）に至るすべてを、学生自身が進める。

・調理・供食計画に基づきグループごとに各管理業務、栄養教育、実験調査、品質評価、情報処理と実務管理を行い課題について検討する

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
給食運営のための知識・技術を習得する。		○		○	○		○	○	
給食施設の種類別の給食経営管理の特徴を理解できる。		○		○	○		○	○	
食事提供を計画・実施・評価できるようになる。		○		○	○		○	○	
HACCP の概念を基に、調理する力を身につける。		○		○	○		○	○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．食事計画：対象者・喫食者数の把握	教科書Ｐ.６～Ｐ.３０を熟読してくること。
2．食事計画：食品構成表の作成、予定献立表の作成	次週まで完成品で持参すること。
3．栄養教育計画：栄養教育媒体・アンケート調査内容計画の作成	次週まで完成品で持参すること。
4．衛生管理計画：各種帳票作成	次週まで完成品で持参すること。
5．品質管理計画：各種帳票作成	次週まで完成品で持参すること。
6．食材料の発注、計画内容の確認、計画発表	次週まで完成品で持参すること。
7．調理供食サービス①：和食 8．調理供食サービス②：洋食 9．調理供食サービス③：中華 10. 調理供食サービス④：郷土料理 11. 調理供食サービス④：郷土料理 12. 調理供食サービス⑤：弁当食 13. 調理供食サービス⑥：行事食 14. 調理供食サービス⑦：選択食 15. 給食の情報処理と事務管理（クックチルの給食、災害時の給食、冷凍食品の流通）、評価とまとめ	（事前学修） ・食品構成表・給与栄養目標量から季節ごとの献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 （事後学修） 実習ノートのまとめをしっかり行い、実習内容の理解を深めること。

履修上の注意

①原則的に全出席とし、遅刻・無断欠席は認めない。

②検便検査は決められた日時まで提出すること。未提出の場合、実習はできない。

③自ら考えて行動できること。

④グループ内もしくはクラス内で報告、連絡、相談をしっかり行い、常にコミニュケーションを図ること。

⑤授業計画の準備時は、グループごとに実習時間外および空き時間に行なうこともあるので、事前に相談し出席すること。

⑥調理時は実習で定めた、非汚染地域・汚染地域専用の調理服上下、ネット帽、エプロン、シューズを着用する。衛生については、大量調理施設衛生管理マニュアル通りとする。

⑦衛生については、学生同士で注意しあい、確認してから行動すること。

⑧分からないことは必ず聞き、勝手な行動はしないこと。

⑨体調管理には十分留意すること

成績評価方法・基準

・大量調理施設衛生管理マニュアルミニテスト（30%）、学習意欲及び積極的な態度（30%）、課題提出（10%）実習ノート完成度（30%）

授業態度不良、課題およびノート未提出、大量調理施設衛生管理マニュアルミニテスト欠席の場合、単位は認めない。

・課題、実習ノートは、後日添削して返却する。

・ミニテストについては、解答を授業中にフィードバックバックする。

教科書〔改訂新版　大量調理〕〔殿塚婦美子〕〔学建書院〕〔2,916 円〕

参考書参考書

［給食経営と管理の科学］［井川聡子ほか］［［理工図書］［3,240 円］、［給食経営管理用語辞典］〔日本給食経営管理学会監修〕〔第一出版〕〔2,700］［調理のためのベーシックデータ］［女子栄養大学出版］［1,890 円］、［日本人の食事摂取基準（2015 年版）］［第一出版］［2,916 円］、［食品成分表］［女子栄養大学出版部］［1,512 円］　１、２年時購入済み

備　考

・食物アレルギーがある場合は担当教員まで速やかに申し出ること。

・ルーブリック評価については、第１回目の授業で説明します。

・質問は授業時間内、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受付ける。

授業科目名	健康栄養学総合演習Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）		1(30+15)			
担当者	栗山孝雄・半澤真喜子・福岡敦子	必・選	管栄・栄(必)	形態	演習	学期	前期	対象	健専３年

授業概要

・３年次における給食管理実習を行うための事前指導の授業である。
・校外実習や臨地実習の目的・目標・実習内容・実習の心構え・事前学習　等を教授する。
・実習記録の記入のしかた、適切な文書表現、社会人としての話し方のマナーを学ぶ。
・実習施設の栄養士・管理栄養士の講義では、各給食施設の概要や実習に必要な知識などを説明する。
・実習の内容や課題を通じて実習内容を整理し、給食の実際と栄養士・管理栄養士の職務について自ら調べる授業である。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
実習に必要な知識や技術を身につける。		○	○		○		○	○	
施設の概要や知識の整理、研究課題の検討ができる。		○	○		○		○	○	
管理栄養士・栄養士が必要な専門的知識と技術を身につける。		○	○		○		○	○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．実習の目的・目標・実習内容・準備・心得・態度 実習施設の説明　（全教員）	・教科書Ｐ．１２～Ｐ．２１を熟読してくる。 ・「実習マニュアル」の重要な個所をまとめておく
２．会話表現①：話し方・挨拶の基本、敬語の使い方、自己紹介の仕方（福岡）	・教科書Ｐ．２４～Ｐ．６２を熟読してくる ・学習した内容をまとめておく
３．会話表現②：社会人としての話し方、栄養指導での話し方、電話のマナー（福岡）	・教科書Ｐ．２４～Ｐ．６２を熟読してくる ・学習した内容をまとめておく
４．文章表現①：文章作成上の留意事項、基本的な書き方（栗山）	・教科書Ｐ．６４～Ｐ．１３０を熟読してくる ・学習した内容をまとめておく
５．文章表現②：実習日誌の書き方、礼状の書き方、レポートの書き方、給食だよりの書き方　（栗山）	・教科書Ｐ．６４～Ｐ．１３０を熟読してくる ・学習した内容をまとめておく
６．施設事例①：学校給食の実際と栄養士の職務（学外講師）　（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる ・講話をレポートにまとめ次週に提出する
７．施設事例②：児童福祉施設給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる ・講話をレポートにまとめ次週に提出する
８．施設事例③：自衛隊給食の実際と栄養士の職務（学外講師）　（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる ・講話をレポートにまとめ次週に提出する
９.施設事例④：高齢者施設の実際と栄養士の職務（学外講師）　（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる ・講話をレポートにまとめ次週に提出する
10. 施設事例⑤：事業所給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる ・講話をレポートにまとめ次週に提出する
11. 施設事例⑥：委託給食の実際と栄養士の職務（学外講師）　（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる ・講話をレポートにまとめ次週に提出する
12. 施設事例⑥：委託給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる ・講話をレポートにまとめ次週に提出する
13. 実習施設の概要、実習内容の確認疑問等の事前準備　（全教員）	・実習ノートの下書きをしてくること
14. 実習のまとめと資料作成　（半澤）	・学内で学習したことと、臨地実習で経験したことを結び付け、今後の課題を検討する
15. 報告会準備　（半澤）	・学内で学習したことと、臨地実習で経験したことを結び付け、今後の課題を検討する

履修上の注意

①本科目は、給食管理臨地実習Ⅰ・Ⅱの事前学習、事後学習の役割も担う。
②各実習の実習目的、目標と関連法規を理解してから授業に臨むこと。
③臨地実習の事前準備、事後のまとめに重要な演習であるため真剣に取り組むこと。
④遅刻・無断欠席不可。

成績評価方法・基準

・試験 30%、出欠状況と受講態度（質問など積極的な態度、目的意識、受講中に居眠りしない等）40%、提出物（決められた日時まで必ず提出すること。未提出の場合は、評価の対象としない。）30%により総合的に評価する。
・提出物については、後日添削して返却する。
・試験については、解答を授業中にフィードバックする。

教科書　〔管理栄養士・栄養士になるための　国語表現〕〔田上貞一郎〕〔萌文書院〕〔1,944 円〕

参考書　授業内で適宜紹介する。

備　考

質問等については、授業中、授業後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

授業科目名	健康栄養学総合演習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(30＋15)
担当者	栗山孝雄・半澤真喜子・福岡敦子・川俣幸一・小野真実	必・選	選 管栄（必）	形態	演習	学期	後期	対象	健専３年

授業概要

本演習では、これまでに学習した健康の維持・増進、食生活の現状や栄養摂取状況の把握と改善などに関する内容を踏まえ、人間の健康面や栄養面の課題の把握、確認、対応について扱う。具体的には、人間の健康面や栄養面に関する課題を提示し、情報検索や意見交換などを交え、まとめる技法を教授する。本演習を通じて、管理栄養士が業務を行う上で必要な能力、技術の獲得を目指す。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
健康や栄養に関する調査、測定、教育の方法を身につける。		○	○		○		○	○	○
栄養評価や栄養教育に関する能力、技術を身につける。		○	○		○		○	○	○

授業計画の内容　（※全教員：栗山、半澤、福岡、川俣、小野）	自習（事前・事後学修の内容）
１．ガイダンス：演習内容の説明（全教員）	健康面、栄養面の評価について学習する。
２．健康面・栄養面の課題①　課題提示、情報検索（全教員）	健康や栄養に関する事項を学習する。
３．健康面・栄養面の課題①　検討、まとめ（全教員）	情報検索した内容を確認する。
４．健康面・栄養面の課題②　課題提示、情報検索（全教員）	健康や栄養に関する事項を学習する。
５．健康面・栄養面の課題②　検討、まとめ（全教員）	情報検索した内容を確認する。
６．健康面・栄養面の課題③　課題提示、情報検索（全教員）	健康や栄養に関する事項を学習する。
７．健康面・栄養面の課題③　検討、まとめ（全教員）	情報検索した内容を確認する。
８．健康面・栄養面の課題④　課題提示、情報検索（全教員）	健康や栄養に関する事項を学習する。
９．健康面・栄養面の課題④　検討、まとめ（全教員）	情報検索した内容を確認する。
10. 健康面・栄養面の課題⑤　課題提示、情報検索（全教員）	健康や栄養に関する事項を学習する。
11. 健康面・栄養面の課題⑤　検討、まとめ（全教員）	情報検索した内容を確認する。
12. 健康面・栄養面の課題⑥　課題提示、情報検索（全教員）	健康や栄養に関する事項を学習する。
13. 健康面・栄養面の課題⑥　検討、まとめ（全教員）	情報検索した内容を確認する。
14. 健康面・栄養面の課題⑦　課題提示、情報検索（全教員）	健康や栄養に関する事項を学習する。
15. 健康面・栄養面の課題⑦　検討、まとめ（全教員）	情報検索した内容を確認する。

履修上の注意

・本科目は集中講義である。授業は原則として、空き時間、補講期間、集中講義期間に行う。実施日時は、掲示で連絡する。１日で３～４回分の授業を行う場合もある。
・本科目は、管理栄養士養成課程の必修科目である。単位が取得できないと管理栄養士国家試験受験資格を取得できなくなる。
・開講時期の都合上、３年次で単位が取得できない場合、管理栄養士国家試験受験資格の取得は困難になる。

成績評価方法・基準

授業態度 50%、提出物 50%等により、総合的に評価する。
提出物は、後日フィードバックを行う。

教科書　なし。配布資料を準備する。

参考書　授業内で適宜紹介する。

備　考

質問は授業時間内、またはオフィスアワーで受付ける。

授業科目名	健康栄養学総合演習Ⅲ		単位（総授業時間＋自習時間）	1(30＋15)

担当者	栗山孝雄・半澤真子・福岡敦子・川俣幸一・小野真実	必・選	選 管栄(必)	形態	演習	学期	前期	対象	健専４年

授業概要

本演習では、これまでに学習した健康の維持・増進、食生活の現状や栄養摂取状況の把握と改善などに関する内容を踏まえ、人間の健康面や栄養面の課題の把握、確認、対応について扱う。具体的には、人間の健康面や栄養面に関する課題を提示し、情報検索や意見交換などを交え、まとめる技法を教授する。本演習を通じて、管理栄養士が業務を行う上で必要な能力、技術の獲得を目指す。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
健康や栄養に関する調査、測定、教育の方法を身につける。		○	○		○		○	○	○
栄養評価や栄養教育に関する能力、技術を身につける。		○	○		○		○	○	○

授業計画の内容　（※全教員：栗山、半澤、福岡、川俣、小野）	自習（事前・事後学修の内容）
１．ガイダンス：演習内容の説明（全教員）	健康面、栄養面の評価について学習する。
２．健康面・栄養面の課題①　課題提示、情報検索（全教員）	健康や栄養に関する事項を学習する。
３．健康面・栄養面の課題①　検討、まとめ（全教員）	情報検索した内容を確認する。
４．健康面・栄養面の課題②　課題提示、情報検索（全教員）	健康や栄養に関する事項を学習する。
５．健康面・栄養面の課題②　検討、まとめ（全教員）	情報検索した内容を確認する。
６．健康面・栄養面の課題③　課題提示、情報検索（全教員）	健康や栄養に関する事項を学習する。
７．健康面・栄養面の課題③　検討、まとめ（全教員）	情報検索した内容を確認する。
８．健康面・栄養面の課題④　課題提示、情報検索（全教員）	健康や栄養に関する事項を学習する。
９．健康面・栄養面の課題④　検討、まとめ（全教員）	情報検索した内容を確認する。
10. 健康面・栄養面の課題⑤　課題提示、情報検索（全教員）	健康や栄養に関する事項を学習する。
11. 健康面・栄養面の課題⑤　検討、まとめ（全教員）	情報検索した内容を確認する。
12. 健康面・栄養面の課題⑥　課題提示、情報検索（全教員）	健康や栄養に関する事項を学習する。
13. 健康面・栄養面の課題⑥　検討、まとめ（全教員）	情報検索した内容を確認する。
14. 健康面・栄養面の課題⑦　課題提示、情報検索（全教員）	健康や栄養に関する事項を学習する。
15. 健康面・栄養面の課題⑦　検討、まとめ（全教員）	情報検索した内容を確認する。

履修上の注意

・本科目は集中講義である。授業は原則として、空き時間、補講期間、集中講義期間に行う。実施日時は、掲示で連絡する。１日で３～４回分の授業を行う場合もある。

・本科目は、管理栄養士養成課程の必修科目である。単位が取得できないと管理栄養士国家試験受験資格を取得できなくなる。

成績評価方法・基準

授業態度 50%、提出物 50%等により、総合的に評価する。
提出物は、後日フィードバックを行う。

教科書　なし。配布資料を準備する。

参考書　授業内で適宜紹介する。

備　考

質問は授業時間内、またはオフィスアワーで受付ける。

授業科目名	給食管理臨地実習Ⅰ（給食の運営　校外実習）			単位（総授業時間＋自習時間）					1(45+60)
担当者	半澤　真喜子	必・選	管栄・栄(必)	形態	実習	学期	前期	対象	健専３年

授業概要

・事前に実習担当教員が実習施設と日程調整を行い、十分に協議し施設ごとの課題や実習内容を調整する。
・事前学習では、実習に関する心構え、社会人として常識的な行動をとるように指導する。
・実習に必要な専門知識や技術の確認、助言を行う。
・受託給食会社が運営する施設で実習する場合は委託側と受託側の関係を理解させる。
・学生が、実習施設の栄養士・管理栄養士と事前の打ち合わせを行い、給食経営管理に関する実習を行う。
・実習先からの課題、自主研究については、事前準備時に指導・確認する。
・実習終了後のまとめを行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
栄養士が果たす専門領域に関する基本的な能力を養う。		○	○	○	○	○	○	○	○
知識、技能、態度および考え方の総合的能力を身につける。		○	○	○	○	○	○	○	○
栄養の指導や給食の運営を行うために必要な能力を養う。		○	○	○	○	○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．実習施設：２年次後期に下記の特定給食施設のうちから１か所を選択する。 ①学校　②児童福祉施設　③障害者福祉施設 ④給食センター　⑤事業所 2～14 実習 事前訪問：事前に施設を訪問し実習施設の概要を知る。 実習内容：給食全般のマネジメントの理解と特定の業務を深く探求する。喫食者訪問、調理作業の分析、食材料の重点管理、栄養士業務の分析、衛生管理、従業員への衛生教育、食事のオーダーリングシステム、経営分析等を通して課題を発見し、問題解決策を検討する。なお具体的な内容は各施設の実習計画に沿って実施する。 15．実習のまとめと自己評価および報告：日々のねらいや学んだこと、課題、疑問などを実習記録に記入し、考察するとともに評価表で自己評価する。	事前学修） ・応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など関連分野の教科書および臨地実習マニュアルを熟読する。 ・　実習施設の対象者、給食の意義・特性、関係法規を把握したうえで、実習施設の栄養士・管理栄養士の指導のもと、十分な準備を行う。 ・実習先からの事前課題に取り組む。 ・自主研究のテーマを決め取り組む。 （事後学修） ・　実習を振り返り、実習で学んだことを通し、これからの課題をまとめる。

履修上の注意

①給食管理学、給食管理実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。
②食品構成表・給与栄養目標量からライフステージごとの献立作成および展開食ができること。
③適度な速さで包丁が使え、ライフステージごとの調理ができること。
④大量調理施設衛生管理マニュアルに従った衛生管理（個人衛生含む）ができること。
⑤指導案（略案）と指導教材の作成、PC による調査集計ができること。
⑥健康栄養学総合演習Ⅰを履修すること。
⑦日常生活の態度（自ら相手に伝わる挨拶・返事を含む）や実習への取り組み姿勢（目的意識をもって臨む、施設からの課題は決められた日時まで提出する等）が不可の場合は、実習を取り止めることもある。
⑧学内の事前・事後教育は空き時間に行う。日時は事前に指示する。
⑨実習施設の都合により、実習学期が後期になることもある。
⑩栄養士・管理栄養士の免許取得のための必須科目である。定められた時間数（45 時間）を実習しなければ単位は取得できない。実習期間中は遅刻、早退、無断欠席は認めない。
⑪実習先では施設のスタッフの一員として、施設職員や通園・通学者、入居者および地域住民に接すること。

成績評価方法・基準

・実習先からの評価（40%）、実習記録（20%）、報告会の内容（20%）、実習態度（20%）により総合的に評価する。実習態度には、事前・事後の教育も含む。報告会欠席の場合は評価の対象としない。
・実習先からの評価、実習記録ノートは後日添削して返却する。

教科書

給食実務必携］［実践給食実務研究大会編］［第一出版］［2,700 円］
［給食経営と管理の科学］［井川聡子ほか］［理工図書］［3,240 円］［管理栄養士、栄養士になるための国語表現］［萌文書林］［1,944 円］２・３年次購入済み

参考書

大量調理施設衛生管理マニュアル、健康増進法、大学オリジナル［臨地実習マニュアル］（健康栄養学総合演習Ⅰ授業時に配布済み）

備　考

・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照のこと。
・質問は授業時間内、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受付ける。

授業科目名	給食管理臨地実習Ⅱ（臨地実習）			単位（総授業時間＋自習時間）					1(45+60)
担当者	半澤　真喜子	必・選	管栄(選択必)	形態	実習	学期	後期	対象	健専３年

授業概要

・「給食管理臨地実習Ⅰ」を履修した者のみ履修することができる。
・事前に実習担当教員が実習施設と日程調整を行い、十分に協議し施設ごとの課題や実習内容を調整する。
・事前学習では、実習に関する心構え、社会人として常識的な行動をとるように指導する。
・実習に必要な専門知識や技術の確認、助言を行う。
・受託給食会社が運営する施設で実習する場合は委託側と受託側の関係を理解させる。
・学生が、実習施設の管理栄養士と事前の打ち合わせを行い、給食経営管理に関する実習を行う。
・実習先からの課題、自主研究については、事前準備時に指導・確認する。
・実習終了後のまとめを行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
管理栄養士が果たす専門領域に関する能力を養う		○	○	○	○	○	○	○	○
知識、技能、態度および考え方の総合的能力を身につける。		○	○	○	○	○	○	○	○
健康の保持増進、一次、二次予防の栄養指導能力を養う。		○	○	○	○	○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．実習施設：下記の特定給食施設のうちから １ か所を選択する。 ①陸上自衛隊　②高齢者施設　③院外調理施設 ④介護保険施設　⑤病院 ２~１４実習 事前訪問:事前に施設を訪問し､実習施設の概要を知る。 実習内容:給食全般のマネジメントの理解と特定の業務を深く探求する。喫食者訪問、調理作業の分析、食材料の重点管理、栄養士業務の分析、衛生管理、従業員への衛生教育、食事のオーダーリングシステム､経営分析等を通して課題を発見し､問題解決策を検討する。なお具体的な内容は各施設の実習計画に沿って実施する。 １５．実習のまとめと自己評価および報告：日々のねらいや学んだこと、課題、疑問などを実習記録に記入し、考察するとともに評価表で自己評価する。	（事前学修） ・応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など関連分野の教科書および臨地実習マニュアルを熟読する。 ・ 実習施設の対象者、給食の意義・特性、関係法規を把握したうえで、実習施設の栄養士・管理栄養士の指導のもと、十分な準備を行う。 ・実習先からの事前課題に取り組む。 ・自主研究のテーマを決め取り組む。 （事後学修） ・ 実習を振り返り、実習で学んだことを通し、これからの課題をまとめる。

履修上の注意

①給食管理学、給食管理実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。
②食品構成表・給与栄養目標量からライフステージごとの献立作成および展開食ができること。
③適度な速さで包丁が使え、ライフステージごとの調理ができること。
④大量調理施設衛生管理マニュアルに従った衛生管理（個人衛生含む）ができること。
⑤指導案（略案）と指導教材の作成、PC による調査集計ができること。
⑥健康栄養学総合演習Ⅰを履修すること。
⑦日常生活の態度（自ら相手に伝わる挨拶・返事を含む）や実習への取り組み姿勢（目的意識をもって臨む、施設からの課題は決められた日時まで提出する等）が不可の場合は、実習を取り止めることもある。
⑧学内の事前・事後教育は空き時間に行う。日時は事前に指示する。
⑨実習施設の都合により、実習学期が後期になることもある。
⑩栄養士・管理栄養士の免許取得のための必須科目である。定められた時間数（45 時間）を実習しなければ単位は取得できない。実習期間中は遅刻、早退、無断欠席は認めない。
⑪実習先では施設のスタッフの一員として、施設職員や通園・通学者、入居者および地域住民に接すること

成績評価方法・基準

・実習先からの評価（30%）、実習記録（20%）、報告会の内容（20%）、実習態度（30%）により総合的に評価する。実習態度には、事前・事後の教育も含む。報告会欠席の場合は評価の対象としない。
・実習先からの評価、実習記録ノートは後日添削して返却する。

教科書　［給食実務必携］［実践給食実務研究大会編］［第一出版］［2,700 円］
［給食経営と管理の科学］［井川聡子ほか］［理工図書］［3,240 円］［管理栄養士、栄養士になるための国語表現］［田中貞一郎ほか］［萌文書林］［1,944 円］2・3 年次購入済み

参考書　大量調理施設衛生管理マニュアル、健康増進法、　大学オリジナル［臨地実習マニュアル］（臨地栄養学演習授業時に配布済み）

備　考　・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照のこと。
・質問は授業時間内、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受付ける。

授業科目名	臨床栄養学臨地実習Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(45+15)
担当者	福岡　敦子	必・選	管栄(必)	形態	実習	学期	前期	対象	健専４年

授業概要

病院栄養士としての実務経験を活かし、実習を計画、指導する。事前教育として、実習に関する準備も含まれ、実習先の指導管理栄養士の話を聴講し、実際の臨床における管理栄養士の仕事を把握するように指導する。また、実習に行く医療施設に関しての機能性や特色について調査することを指導する。臨地実習先と直接連絡をし、さらに具体的な準備をさせ、実りある実習となることを指導する。実習終了後には、事後教育の指導として担当教員や巡回教員に終了報告をし、実習で学んだことをまとめさせ、報告会の準備を行わせ、発表をする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 学内で臨床栄養学、臨床栄養学指導論、臨床栄養学実習などで学んだ知識･技術を生かし臨床の場における実際の体験を行う。	○		○				○		
2.　実習を通して、社会で実践していくために必要な自己管理能力や社会的倫理観を身に着ける	○		○		○		○		○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス	臨床栄養学、臨床栄養学指導論、臨床栄養学実習、応用栄養学の復習をする。
2. 実習配属先との事前の打ち合わせ	実習先の要求する提出物の準備・作成 交通手段について調べる
3. 実習：病院または老人保健施設で行う	医療施設について調べる
・施設における食事療法、運営管理業務について	実際に実習させていただく施設について調べてみる
・栄養管理全般について	栄養管理について復習をする
・傷病者の栄養指導・教育について	栄養指導について復習をする
・チーム医療における管理栄養士の役割や活動について	チーム医療における管理栄養士について
・衛生管理、危機管理の実際について	危機管理について復習をする
4.　実習担当教員や巡回教員に終了報告をする	資料を整理する
5. 実習後のまとめをし、報告会に臨む	実習で得た知識と経験を整理する

履修上の注意

・臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学指導論Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること
・家政特別講義Ⅳを履修すること
・実習先に通う方法について、自家用車の使用は原則認めない。無断で使用した場合、実習の即刻中止、単位取得無効とする。
・清潔な調理衣（白衣・調理ズボン）を着用すること
・マニキュア、イヤリング、ピアス、つけまつげ、ネックレス、指輪、香水の着用は認めない
・実習先では施設スタッフとして、施設職員や患者・入居者に接すること。
・臨地実習報告会には、自分の発表以外においても聴講し、最後の発表まで参加すること。

成績評価の方法・基準

実習態度（90%）、提出物の内容（5%）、実習報告（5%）などを総合的に評価する。
※実習態度とは欠席・遅刻・早退の状況、巡回担当者の報告、配属先の担当者からの報告を指す。

教科書　〔ビジュアル治療食 300〕〔宗像伸子〕〔医歯薬出版〕〔5,184 円〕

参考書：なし

備　考
質問等については、オフィスアワー以外でも受け付けます。

授業科目名	臨床栄養学臨地実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）	1(45+15)
担当者	福岡　敦子	必・選	管栄(選択必)	形態	実習	学期	後期	対象	健専４年

授業概要

事前教育として、実習に関する準備も含まれる。実習先の指導管理栄養士の話を聴講し、実際の臨床における管理栄養士の仕事を把握するように指導する。また、実習に行く医療施設に関しての機能性や特色について調査することを指導する。臨地実習先と直接連絡をし、さらに具体的な準備をさせ、実りある実習となることを指導する。実習終了後には、事後教育の指導として担当教員や巡回教員に終了報告をし、実習で学んだことをまとめさせ、報告会の準備を行わせ、発表をする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 学内で臨床栄養学、臨床栄養学指導論、臨床栄養学実習などで学んだ知識・技術を生かし臨床の場における実際の体験を行う。	○		○				○		
2.実習を通して、社会で実践していくために必要な自己管理能力や社会的倫理観、責任感を身につける。	○		○		○		○		○
3.実習で得た知識や、授業を通して得たものを、伝えるプレゼンテーション能力を身に着ける							○		○
4.これまでの獲得した知識・技能などを総合的に活用し、新たな課題に活用できるようにする	○		○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス	臨床栄養学、臨床栄養学指導論、臨床栄養学実習、応用栄養学の復習をする。
2.実習配属先との事前の打ち合わせ	実習先の要求する提出物の準備・作成をする。疑問点について確認をする。
3.実習：病院または老人保健施設で行う	医療施設について調べる
・施設における食事療法、運営管理業務について	食事療法について復習をする
・栄養管理全般について	栄養管理について復習をする
・傷病者の栄養指導・教育について	栄養指導について復習をする
・チーム医療における管理栄養士の役割や活動について	チーム医療における管理栄養士について復習をする。実習先のチーム医療の特徴についてまとめる
・衛生管理、危機管理の実際について	危機管理について復習をする。実際に実習先での状況についてはどうだったか
4.実習担当教員や巡回教員に終了報告をする	きちんと実習先の状況を説明できるようにまとめておく
5.実習後のまとめをし、報告会に臨む	資料を整理する 実習で得た知識と経験を整理する

履修上の注意

・臨床栄養学実習Ⅰ（臨地実習）の単位を取得していること
・臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学指導論Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること
・家政特別講義Ⅲを履修すること
・実習先に通う方法について、自家用車の使用は原則認めない。無断で使用した場合、実習の即刻中止、単位取得無効とする。
・清潔な調理衣（白衣・調理ズボン）を着用すること
・マニキュア、イヤリング、ピアス、つけまつげ、ネックレス、指輪、香水の着用は認めない
・実習先では施設スタッフとして、施設職員や患者・入居者に接すること。

成績評価の方法・基準

実習態度（90%）、提出物の内容（5%）、実習報告（5%）などを総合的に評価する。
※実習態度とは欠席・遅刻・早退の状況、巡回担当者の報告、配属先の担当者からの報告を指す。

教科書〔ビジュアル治療食 300〕〔宗像伸子〕〔医歯薬出版〕〔5,184 円〕

参考書：なし

備　考　質問等については、オフィスアワー以外でも受け付けます。

授業科目名	公衆栄養学臨地実習Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）			1(45+15)		
担当者	栗山　孝雄	必・選	管栄(必)	形態	実習	学期	通年	対象	健専４年

授業概要

本実習では、保健所や市町村保健センターに所属する行政栄養士の役割や業務について、保健所または市町村保健センターに赴き、学習する。具体的には、以下の内容を扱う。

【１】実習前に、本学実習担当教員が実習日程や課題の確認を行い、実習に必要な知識や技術の確認、助言を行う。

【２】実習施設の行政栄養士やスタッフが、地域住民の適正な栄養管理と健康実現を目指すための政策や手法を教授する。

【１】 実習終了後に、本学実習担当教員が終了後のまとめに関する指導、助言を行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
保健所や市町村保健センターの行政栄養士の役割を理解する。		○	○	○	○	○	○	○	○
地域住民への栄養や健康に関する情報発信の方法を習得する。		○	○	○	○	○	○	○	○
公衆栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。		○	○	○	○	○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．ガイダンス	教科書の該当箇所を確認する。
２．実習配属先との事前の打合せ	実習内容について理解する。
３．実習：保健所または市町村で行う	施設の特徴を確認する。
【１　保健所で実習を行う場合】	
（１）保健所スタッフによる講話：保健所の業務・役割について、スタッフの業務・役割について	教科書を利用して、実習先の業務・役割を確認する。
（２）保健所栄養士による講話：保健所栄養士の業務、役割について	教科書を利用して、保健所栄養士の業務・役割を確認する。
（３）保健所活動の実際：保健所栄養士が係る広域的・専門的な業務の体験、理解	活動の内容を理解する。
【２　市町村で実習を行う場合】	
（１）市町村スタッフによる講話：市町村の業務、役割について、スタッフの業務・役割について	教科書を利用して、実習先の業務・役割を確認する。
（２）市町村栄養士による講話：市町村栄養士の業務、役割について	教科書を利用して、市町村栄養士の業務・役割を確認する。
（３）市町村活動の実際：市町村栄養士が係る地域的・一般的な業務の体験、理解	活動の内容を理解する。
４．実習後のまとめ	学習した内容全体を復習する。
５．公衆栄養学臨地実習報告会での報告	実習内容をまとめ、報告の準備をする。

履修上の注意

①公衆栄養学、公衆栄養学実習の単位を取得していないと、本実習は履修できない。
②家政特別講義Ⅳを履修すること。
③本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。
④実習以前の生活態度や学習態度に問題があり、指導しても良くならない場合は、実習を取り止めることがある。その点を十分注意すること。
⑤実習の配属先ならびに実習の時期は、他の実習の実施時期、履修者の学習状況を参考に、担当教員が実習施設の担当者と協議して決定する。
⑥実習先では学生ではなく、施設のスタッフとして施設職員や地域住民と接することになる。その点を十分に自覚すること。
⑦公衆栄養学臨地実習報告会は、自分の報告がない会にも出席し、他施設の実習内容について学習する。

成績評価方法・基準

・実習態度（50%）、提出物の内容（30%）、実習報告（20%）などを総合的に評価する。
※実習態度とは遅刻・早退の状況、巡回担当者の報告、配属先の担当者からの報告などを指す。
・提出物については、適宜フィードバックを行う。

教科書〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕〔無料〕
教科書〔ウエルネス公衆栄養学〕〔前大道教子ほか〕〔医歯薬出版〕〔2,800 円〕
教科書〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1,800 円+税〕
参考書　なし。授業内で適宜紹介する。
備　考　質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

授業科目名	公衆栄養学臨地実習Ⅱ	単位（総授業時間＋自習時間）	1(45+15)

担当者	栗山　孝雄	必・選	管栄(選択必)	形態	実習	学期	通年	対象	健専４年

授業概要

本実習は、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ」を履修した者のみが履修できる。

本実習は、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ」とは異なる施設に赴き、現場の行政栄養士の役割や業務について学習する。具体的には、以下の内容を扱う。

【１】実習前に、本学実習担当教員が実習日程や課題の確認を行い、実習に必要な知識や技術の確認、助言を行う。

【２】実習施設の行政栄養士やスタッフが、地域住民の適正な栄養管理と健康実現を目指すための政策や手法を教授する。

【３】実習終了後に、本学実習担当教員が終了後のまとめに関する指導、助言を行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
保健所や市町村保健センターの行政栄養士の役割を理解する。		○	○	○	○	○	○	○	○
地域住民への栄養や健康に関する情報発信の方法を習得する。		○	○	○	○	○	○	○	○
公衆栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。		○	○	○	○	○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．ガイダンス	教科書の該当箇所を確認する。
２．実習配属先との事前の打合せ	実習内容について理解する。
３．実習：保健所または市町村で行う	施設の特徴を確認する。
【１　保健所で実習を行う場合】	
（１）保健所スタッフによる講話：保健所の業務・役割について、スタッフの業務・役割について	教科書を利用して、実習先の業務・役割を確認する。
（２）保健所栄養士による講話：保健所栄養士の業務、役割について	教科書を利用して、保健所栄養士の業務・役割を確認する。
（３）保健所活動の実際：保健所栄養士が係る広域的・専門的な業務の体験、理解	活動の内容を理解する。
【２　市町村で実習を行う場合】	
（１）市町村スタッフによる講話：市町村の業務、役割について、スタッフの業務・役割について	教科書を利用して、実習先の業務・役割を確認する。
（２）市町村栄養士による講話：市町村栄養士の業務、役割について	教科書を利用して、市町村栄養士の業務・役割を確認する。
（３）市町村活動の実際：市町村栄養士が係る地域的・一般的な業務の体験、理解	活動の内容を理解する。
４．実習後のまとめ	学習した内容全体を復習する。
５．公衆栄養学臨地実習報告会での報告	実習内容をまとめ、報告の準備をする。

履修上の注意

①公衆栄養学、公衆栄養学実習の単位を取得していないと、本実習は履修できない。
②公衆栄養学臨地実習Ⅰを履修していないと、本実習は履修できない。
③家政特別講義Ⅳを履修すること。
④本科目の履修者は、本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。
⑤実習以前の生活態度や学習態度に問題があり、指導しても良くならない場合は、実習を取り止めることがある。その点を十分注意すること。
⑥実習の配属先ならびに実習の時期は、他の実習の実施時期、履修者の学習状況を参考に、担当教員が実習施設の担当者と協議して決定する。
⑦実習先では学生ではなく、施設のスタッフとして施設職員や地域住民と接することになる。その点を十分に自覚すること。
⑧公衆栄養学臨地実習報告会は、自分の報告がない会にも出席し、他施設の実習内容について学習する。

成績評価方法・基準

・実習態度（50%）、提出物の内容（30%）、実習報告（20%）などを総合的に評価する。
※実習態度とは遅刻・早退の状況、巡回担当者の報告、配属先の担当者からの報告などを指す。
・提出物については、適宜フィードバックを行う。

教科書〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕〔無料〕

教科書〔ウエルネス公衆栄養学〕〔前大道教子ほか〕〔医歯薬出版〕〔2,800 円〕

教科書〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1,800 円+税〕

参考書　なし。授業内で適宜紹介する。

備　考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

授業科目名	被服学			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	菊地　紗代	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	健専１年

授業概要

被服は人間の生活に大きな役割を果たしてきた。しかし、私たちを取り巻く社会環境が変化したため、この変化に対応すべく、今後の被服について考えていく必要がある。そこで本講義では、健康・安全・快適性をキーワードに衣生活について概説する。人間の着用を中心におきながら、社会性、素材、品質と管理について取り上げる。さらに、消費、環境についても触れ、これからの衣生活を向上させるために必要な知識を習得させ、実践能力が高められるよう指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
衣服の機能について理解できる。	○								
社会と被服の関係について理解できる。		○							
環境に配慮した衣生活を送るために必要な知識を身につける。			○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.オリエンテーション、被服学とは	教科書に目を通しておく。
２.人はなぜ装うのか	装いの機能についてまとめる。
３.気候風土と装い	民族服についてまとめる。
４.衣服のかたちの変遷	洋装と和装についてまとめる。
５.装いと健康	快適性についてまとめる。
６.装いによる気候調節	温度調節についてまとめる。
７.動きやすさと衣服	動きやすさについてまとめる。
８.衣服の素材と加工	素材についてまとめる。
９.衣服の品質と管理	表示、洗濯、管理についてまとめる。
10.人の成長とからだつき	体型についてまとめる。
11.アパレル産業と既製服	既製服についてまとめる。
12.装いのコミュニケーション	色、流行、個性についてまとめる。
13.ユニバーサルデザインと装い	ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝについてまとめる。
14.装いと生活環境	再利用についてまとめる。
15.まとめ	レポートを作成する。

履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。

日頃から被服に関することに興味関心を持つこと。

成績評価方法・基準

提出物（ワークシートやレポート 60%、受講状況(ミニットペーパー)40%で評価する。（未提出がある場合は評価対象としないことがある。）

提出物については、授業中にフィードバック、又は後日添削して返却する。

教科書〔ビジュアル衣生活論〕〔岡田宣子編著〕〔建帛社〕〔2,415 円〕

参考書　無し（適宜、プリントを配布する）

備　考

ルーブリック評価については、第一回目の授業で説明する。

質問等については、授業時間内または授業終了後に受け付ける。

授業科目名	被服造形実習Ⅰ	単位（総授業時間＋自習時間）	1(45＋30)

担当者	藤川　幸子	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	健専２年

授業概要

衣服生活について、私達の一番身近にある衣生活について学ぶ。深くかかわりのある衣生活の目的を理解し、身体を覆う被服の基礎を身に付ける。作品を作り上げることを目的とし、まず始めに作品をつくるための、必要な用具について知ること。針の持ち方からハサミの持ち方と基礎的な指導。ミシンの基礎的な扱い方を目的として、家庭用ミシン・ロックミシン（縁かがり）を学ぶ。ここでは、既製のパターンのサイズの見方等を学び、実習を加えた実践が出来る力を養う基礎・技術を習得する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
各種ミシン等の扱いを習得する。	○		○		○				
製作工程の実践出来る力を習得する。	○		○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.衣服製作の為の用具の説明	しっかりと説明を聞く
2.衣服製作の為の用具とその使い方	〃
3.ミシンの説明（家庭用・職業用・ロックミシン）	実習でミシンの使い方を習得する
4.ミシンの取り扱い調整の仕方	ミシンの取り扱い方の練習
5.家庭用ミシン・職業用ミシン・ロックミシンの部分縫い	〃
6.既製パターン使用（エプロン作成）	パターンの基礎の習得。
7.サイズの見方・用布の見積もり講義	〃　　使用量
8.裁断　　地直し・裁断・縫い代・印付け	パターン配列
9.ミシンの掛け方・アイロン温度・使用上の注意点	注意点の説明を聞く
10.縫製工程　ポケット作り・ポケット付ける・サスペンダー	ミシンを掛ける
11.　　作る・前中心縫う・見返しとサスペンダー付ける	〃
12.　　胴囲と裾の始末・	〃
13.完成　　仕上げ・提出	完成を目指す。
14.各自の採寸の仕方	完成を目指す。
15.作図の基礎	プリント参考

履修上の注意

衣服の構成を良く知る、ミシンを使うときの注意点などを理解する。

成績評価方法・基準

提出作品は完成度合（７０％）　　作品の評価は後日学生に返還する。

授業に対する取り組みと意欲・姿勢（３０％）

教科書〔中学校技術・家庭科　技術・家庭（家庭科分野）〕〔文部省　〕〔開隆堂〕

参考書　［高等学校家庭科用・家庭総合］プリント配布

備　考　授業終了時に質問等を受け付けます。

授業科目名	被服造形実習Ⅱ	単位（総授業時間＋自習時間）	1(45＋30)

担当者	藤川　幸子	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	健康２年

授業概要

私達は。着用目的や気温の変化に合わせ衣服を変える。その必要性は人によって異なるため、目的に合わせ衣服を着用する。また、衣服の活用は、どのように選び活用するか。既製服の選び方を学び、既製服につけられている表示の確認とサイズや着心地などの選び方を学ぶ。衣生活の目的を理解し、ここで、各自のサイズを採寸し、作図の製作する過程を知る。洋服を製作するための基礎的・作図法を学び、作品完成するまでを学ぶ。製作する過程を知り、能率よく進める方法を考え、衣服に関する総合的な知識・技術の習得を目的とする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
衣服構成を理解出来る			○		○				
衣服縫製技術の基礎習得			○		○				

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.衣服の構成を知る。	**プリント参考**
２.各自の採寸	採寸方法プリント参考
３.型紙作り	プリント参考
４.材料と用具の準備	布の使用量
５.裁断と印付け	縫製の基礎裁断。
６.基本的な縫い方	工程のプリント参考
７ミシンの準備.	〃
８.ミシン工程　　縫い方	〃
９. 〃	〃
10. 〃	〃
11. ファスナーの付け方	〃
12.裾上げ	〃
13. ベルト付け・スナップ（板金製ホック）	〃
14.仕上げアイロン	完成を目指す。
15.着用する	各自の着用

履修上の注意

衣服の構成を良く知り、ミシンを使うときの注意点などを理解する。

成績評価方法・基準

提出作品の完成度　（７０％）　　作品の評価は、後日学生に返還する。

授業に対する取り組みと意欲・姿勢　（３０％）

教科書〔文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座②スカート・パンツ〕〔文化服装学院編〕〔文化出版局〕

参考書［文化学園大学講座　服装造形学　技術編Ⅰ］［プリント配布］

備　考　授業終了時に質問等を受け付けます

授業科目名	住居学(製図を含む。)	単位（総授業時間＋自習時間）	2(30+60)

担当者	永井　康雄	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	健専３年

授業概要

住居は「生活の器」と言われているように、人間生活の中で最も基本的な役目を果している。しかしながら、住居は時代とともに、また風土・生活様式・地方性などの文化的要因からも大きな影響を受けながら、絶えず変化している。これらの観点から「住居」「人が住まう」とは何かを考える。前半は住居を構成する基本的な諸室に求められる機能について理解し、住居を設計する上での様々な留意点や考え方を理解する。後半は前半で身につけた考え方に基づき自らの生活スタイルに合った未来の住宅を設計・提案する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
住空間の設計方法を理解する	○	○		○				○	
生活行為を具体的に想定し、経年変化のイメージと人体的感覚を養う	○	○		○				○	
住空間のデザイン手法、空間特性、インテリアの観点から住空間を考える	○	○		○				○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．日本の住まいの特徴	建築はどの様にして成り立っているのかを意識して建物を観察する
２．間取り	〃
３．居間	〃
４．台所	〃
５．個室	〃
６．子どもと高齢者の住まい	〃
７．住宅の選択（戸建・集合住宅）	建築雑誌などを見て、建築に対する意識を高める
８．図面による表現方法の習得	〃
９．平面計画の検討(必要な室と広さ)	各自設計案を持参し、計画を検討する
10．平面計画の検討(室の配置と動線計画)	〃
11．断面計画の検討	〃
12．立面計画の検討	〃
13．製図(平面図・配置図)	〃
14．製図(立面図)	〃
15．製図(作品提出)	〃

履修上の注意

後半の設計・製図では、毎回各自の設計案を持参すること。

成績評価方法・基準

事前・事後学習を含む授業姿勢(30%)　提出課題(70%)
提出された課題は、後日添削して返却する。

教科書　毎時間、資料を配布する

参考書　なし

備　考

オフィスアワー：授業終了後

授業科目名	保育学(実習及び家庭看護を含む。)			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	香曽我部　琢	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	健専３年

授業概要

本科目では，まず、家庭科教育の「A 家族生活と家族」分野の内，保育領域に焦点を当て，その指導に必要とされる基本的な知識と技能を身につける。次に，基本的な知識と技能を基盤として、生涯発達の視点に立ち，最新の脳神経科学や大規模縦断研究の知見をもとに、人の発達や生活における諸様相とその特徴を理解した上で，現代社会において求められる適切な保育者・養育者の援助や環境構成の在り方について検討を行い，専門的知識と技能の修得を目指す。また、これらの専門的な知識や技能を身につける際に、アクティブラーニングを実施し、他者や社会との相互作用の中で、自律的にそれらの知識や技能を適応させて問題解決する力を身につける。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
「A 家族生活と家族」分野における保育領域の指導に必要とされる基本的な知識と技能を習得する。	○	○		○		○		○	
生涯発達の視点に立ち，人の発達や生活における諸様相とその特徴を理解することで、専門的な知識と技能を学ぶ。	○	○		○		○		○	
身につけた知識と技能を、他者や社会との相互作用の中で総合的、適応的に用いる能力を身につける。	○	○		○		○		○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．オリエンテーション：発達とは何か・保育とは何か	教科書の目次を読んで、授業の概要について把握する。
２．新生児，乳児期の発達と発育の特徴	教科書をよく読み、新生児から乳児までの発達の概要を把握する。
３．幼児期の発達と発育の特徴	教科書をよく読み、幼児期までの発達の概要を把握する。
４．児童期～成人期の発達，生涯発達とは	教科書をよく読み、児童期から青年、成人までの発達の概要を把握する。
５．言語と概念の発達	教科書をよく読み、新生児から乳児までの言語と概念発達の概要を把握する。
６．社会的認知の発達	教科書をよく読み、新生児から乳児までの社会的認知に関する発達の概要を把握する。
７．他者との関係発達	教科書をよく読み、発達における社会の相互作用の影響について概要を把握する。
８．生涯発達の視点から捉える自己形成のプロセス	教科書をよく読み、生涯発達の概念について理解する。
９．五感の発達：共感覚の発達を知る	教科書をよく読み、共感覚について知る。
10. 脳神経科学の視点で発達を捉える	教科書をよく読み、脳神経科学の最新の知見について把握する。
11. 社会・文化心理学の視点で発達を捉える	教科書をよく読み、社会・文化心理学における発達の概念の特徴を知る。
12. 比較行動学・進化心理学の視点で発達を捉える	教科書をよく読み、ヒト以外の動物の学習や認知の発達について、その概要を把握する。
13. 発達理論の歴史的変遷	教科書をよく読み、ヒトの発達を捉える概念の歴史的変遷を把握する。
14. 遊びの発達	教科書をよく読み、遊びが幼児の心身の発達に与える影響を把握する。
15. 生活習慣の育ちを知る	教科書をよく読み、乳幼児期に生活習慣を身につける意義を把握する。

履修上の注意

遅刻３回で欠席１回とする。

成績評価方法・基準

授業ごとのリアクションペーパー（40%）、基礎的な知識に関する小テスト(30%)、平常点(30%)
リアクションペーパーと小テストの未提出は評価の対象としないことがある。
リアクションペーパーや小テストについては後日添削して返却する。

教科書〔子ども理解のメソドロジー〕〔中坪史典〕〔ナカニシヤ出版〕〔2,160 円〕

参考書〔発達心理学をアクティブに学ぶ〕〔山本真由美〕〔北大路書房〕〔2,376 円〕

備　考

・ルーブリック評価については、第１回目の授業で説明します。
・質問等については、授業終了後に受け付けます。

授業科目名	情報処理Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	水谷　浩	必・選	選	形態	実習	学期	前期	対象	健専3年

授業概要（目的）

栄養士や管理栄養士の業務は，さまざまな統計資料を利用するだけでなく，実践活動のなかで収集されたデータを正確に処理・分析し，そこから得られた結果（有用な情報）を発信していくことが求められる。

本授業では，民間シンクタンクの研究員やシステム担当者としての実務経験を活かし，ビジネス文書作成やPCを用いたプレゼンテーション技法に加え，栄養素の摂取量や栄養状態などの調査結果を解析するための知識や技能を教授することにより，栄養改善の提案に役立つ情報リテラシーの取得をめざしている。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・ソフトウェアを利・活用し，文章表現や統計計算ができる					○	○	○		
・情報倫理に配慮し，情報の収集・加工・表現・発信ができる					○	○	○		
・ICTの仕組みと原理を理解し，説明できる					○	○	○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
16. オリエンテーション（授業のすすめ方・評価，情報倫理）	学生便覧の「ソーシャルメディア利用のガイドライン」および「OA実習室・OA教室利用案内」を必ず熟読しておくこと。
17. 日本語文書処理Ⅰ Microsoft Wordの基本（入力・書式変更）を学ぶ	
18. 日本語文書処理Ⅱ Microsoft Wordの応用①（見やすい文書作成）を学ぶ	授業計画やテキストを参考にして，Wordの諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，Wordの諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
19. 日本語文書処理Ⅲ Microsoft Wordの応用②（画像・グラフ挿入）を学ぶ	
20. 日本語文書処理Ⅳ Microsoft Wordの応用③（描画機能）を学ぶ	
21. 日本語文書処理Ⅴ これまでの授業の振り返り（課題作成）	
22. 表計算Ⅰ Microsoft Excelの基本（表・グラフの作成）を学ぶ	授業計画やテキストを参考にして，Excelの諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，Excelの諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
23. 表計算Ⅱ Microsoft Excelの応用①（表・グラフの加工）を学ぶ	
24. 表計算Ⅲ Microsoft Excelの応用②（データベース機能）を学ぶ	
25. 表計算Ⅳ Microsoft Excelの応用③（関数の使い方）を学ぶ	
26. 表計算Ⅴ これまでの授業の振り返り（課題作成）	
27. プレゼンテーションⅠ Microsoft PowerPointの基本（スライド作成）を学ぶ	授業計画やテキストを参考にして，PowerPointの諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，PowerPointの諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
28. プレゼンテーションⅡ Microsoft PowerPointの応用（オブジェクト作成）を学ぶ	
29. プレゼンテーションⅢ これまでの授業の振り返り（課題作成）を行う	
30. まとめ（課題発表）	5分以内に発表できるように練習する

履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできない。

成績評価方法・基準

平常点・授業への参加態度(35%)+課題の提出状況(30%)+課題発表(35%)にもとづき評価する。

なお，課題については，授業中にフィードバックをします。また，実習費（1,000円）を徴収します。

教科書

〔30時間アカデミック情報リテラシーOffice2016〕〔杉本くみ子，大澤栄子〕〔実教出版〕〔1,404円〕

参考書　授業中に適宜指示する。

備　考

質問などは，オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。

授業科目名	消費生活論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	水谷　浩	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	健専２年

授業概要（目的）

私たちは，誰もが「消費者」である。さまざまな商品やサービスを購入し，それらを利用（消費）し，暮らしている。そうしたなか「経済的に効率良く，地球環境にも配慮し，暮らしていくためには，合理的な意思決定を行うための智慧（消費者力）が求められる。

本講義では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第 46 期)』としての経歴を活かし，消費者問題の歴史的変遷を解説するともに，消費者・行政・企業の事例研究を通じて「現代社会を生きていくために知っておくべきこと，暮らしに役立つこと（消費者力)」の修得をめざしている。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・現代社会を生きていくための智慧(消費者問題)を理解できる	○	○							
・全ての人に関わっている問題という認識をもち，説明できる	○	○							
・今後の消費者・行政・企業のあるべき姿について説明できる	○	○							

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.オリエンテーション（授業のすすめ方・評価，消費者力） 現代社会を生きていくための智慧とは？	授業計画やテキストなどを参考にして，予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
2.消費者政策の歴史 消費者保護基本法から消費者基本法へ転換した理由は？	
3.消費者政策の理念と歴史 消費者の４つの権利から６つの権利へ発展した理由は？	「消費者の４つの権利」と「消費者の 6 つの権利」について A4 用紙 2 枚（1,600 字以上）のレポートにまとめ提出。
4.消費者行政と消費者関係法 消費者に役立つ様々な法律を学ぶ	
5.消費生活の安全の確保 消費生活相談員の役割を学ぶ	
6.広告・表示の適正化 景品表示法関連法令と事例について学ぶ	インターネット取引における広告・表示規制について調べ，A4 用紙 2 枚（1,600 字以上）のレポートにまとめ提出。
7.消費者契約の適正化 消費者契約法と重要説明事項を学ぶ	
8.企業と業界団体の責務 消費者・顧客志向の経営を学ぶ	東北地域の企業・業界団体の消費者対応を調べ，その概要をまとめるとともに，その取り組みに対する所感について A4 用紙 2 枚（1,600 字以上）のレポートを作成し，提出。ただし，取り上げる企業・業界団体は 3 社以上とする。
9.消費者対応部門の役割と機能 企業の消費者対応を学ぶ	
10.業界団体の消費者対応 通販 110 番や訪問販売 110 番などの事例について学ぶ	
11.消費者教育 国民生活センターや日本消費者協会を事例について学ぶ	「現代社会を生きていくために知っておくべきこと，暮らしに役立つこと」の視点から，これまでの授業のなかで，最も印象に残ったことについて要約し，考察を加え，A4 用紙 2 枚（1,600 字以上）のレポートにまとめ提出。
12.消費生活における情報の重要性 合理的な意思決定とは?	
13.消費生活情報の現況 I 暮らしに役立つ情報を見極めるには?	
14.消費生活情報の現況 II 賢い消費行動の実践に向けて	
15.まとめ（消費者力検定の紹介）	

履修上の注意

2/3 以上の出席がない場合には，単位を取得することはできない。

成績評価方法・基準

平常点・授業への参加態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)にもとづき評価する。
なお，課題については，授業中にフィードバックをします。

教科書〔消費生活論〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔1,600 円〕

参考書　授業中に適宜指示する。

備　考

質問などは，オフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）に受けつけます。

授業科目名	学校栄養指導論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	深澤　律子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	健専３年

授業概要

栄養教諭として児童生徒に合わせた指導を行うため、より広い知識と教養を身につけ実際に指導案を作成し、栄養指導の模擬授業を行いながら修得する。そのために、児童生徒の心理や発達段階を踏まえた上での指導案の作成、教材づくりを行う。また、各教科との食に関連する指導の関わり方を考え、他教科の先生方と連携し総合的な学びにつながるよう広い視野で考察し、栄養指導を実践する方法を解説する。その他、食教育を行うための学校内外関係者との地域連携についても理解し、地域における児童生徒の栄養教育を考察する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
栄養教諭の役割や食育について理解する。	○	○	○						
指導案の作成、栄養指導を実施し、食育の授業ができる力を身につける。				○	○		○	○	○
栄養だよりの作成、指導後の発表、レポート作成ができる。				○	○		○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. 栄養教諭の配置・身分・職務、学校給食の意義、その他	テキスト、学習指導要領を読む。
2. 食に関する指導の展開１（既存の指導案を基に指導する）	既存の指導案を調べ、班ごとに教育媒体の作成・練習を行う
3. 食に関する指導の展開１（既存の指導案を基に指導する）	既存の指導案を調べ、班ごとに発表準備、
4. 食に関する指導の展開１（発表・見学・班ごと）①	発表準備、教育媒体の作成・練習を行う
5. 食に関する指導の展開１（発表・見学・班ごと）②	発表準備、教育媒体の作成・練習を行う
6. 食に関する指導の展開１（発表・見学・班ごと）③	発表準備、教育媒体の作成・練習を行う
7. 食に関する指導の展開２（指導案を考え、指導、班ごと）	班ごとに指導案を考え、発表準備、教育媒体の作成・練習を行う
8. 食に関する指導の展開２（発表・見学・班ごと）①	発表準備、教育媒体の作成・練習を行う
9. 食に関する指導の展開２（発表・見学・班ごと）②	発表準備、教育媒体の作成・練習を行う
10. 食に関する指導の展開２（発表・見学・班ごと）③	発表準備、教育媒体の作成・練習を行う
11. 食に関する指導の展開３（個人で指導案を考え指導を行う）	個人で発表準備、教育媒体の作成・練習を行う
12. 食に関する指導の展開３（発表・見学・個人）①	発表準備、教育媒体の作成・練習を行う
13. 食に関する指導の展開３（発表・見学・個人）②	発表準備、教育媒体の作成・練習を行う
14. 食に関する指導の展開３（発表・見学・個人）③	発表準備、教育媒体の作成・練習を行う
15. 給食だよりの発表　まとめ	給食だよりを作成し、提出する。

履修上の注意

栄養教諭免許取得予定者は必ず受講する。来年度の栄養教育実習にむけて、発表や模擬授業など実践を主体とした授業とする。受講人数によって授業計画が変更される場合がある。テキストや学習指導要領を読み、対象者に合わせた指導案を考える。発表に向けて各自教育媒体の準備や練習をする。

成績評価方法・基準

指導案、レポートなど 60%、模擬授業の取り組み 40%で評価。模擬授業の未実施、未提出レポートがある場合は評価しないことがある。レポートは後日添削して返却する。課題については授業中にフィードバックを行う。

教科書〔栄養教諭論□　実践研究〕〔金田雅代編著〕〔建帛社〕〔2592 円〕、〔食に関する指導の手引〕〔東山書房〕〔1296 円〕〔小学校学習指導要領（平成 29 年告示）〕〔東洋館出版社〕〔217 円〕

参考書　授業内に適宜紹介

備　考

・都合により授業計画の順番等を変更することがある。ルーブリック評価については 1 回目の授業で説明する。質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付ける。

授業科目名	学校食育概論		単位（総授業時間＋自習時間）		2(30+60)				
担当者	大槻　友子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	健専３年

授業概要

栄養教諭としての実務経験を生かし、次の内容を教授する。

・国が食育を推進するにあたり法律を定めたこと、それに伴い学校での食育を進めるために様々な法律の改正などが行われたことを理解させる。

・児童・生徒の食に関わる現代的課題をふまえ、学校給食及び食に関する指導において栄養教諭が果たす役割及び職務内容について理解を深めさせる。

・食に関する指導の計画、実施、評価に関する知識を習得させる。

・栄養教諭が行う食に関する具体的な指導を知り、４年時の栄養教諭の教育実習に結びつくような知識、技能を身につけ実践できるようにさせる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
学校の食に関する指導の基礎的事項を習得する	○			○					
教育実習に必要な指導の実践力を身につける	○			○					

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス、食に関する現代的課題	課題を考え、まとめておく
2.食育基本法・食育推進計画と栄養教諭の役割	教科書を読む　p6～
3.学校における食育推進の必要性	教科書を読む　p11～
4.食に関する指導の全体計画	教科書を読む　p14～
5.食育推進と学校・家庭・地域の連携	教科書を読む　p228～
6.学校給食の役割と給食時間における食に関する指導	教科書を読む　p196～
7.給食時間における食に関する指導(教材研究)	教科書を読む　p200～
8.各教科等における食に関する指導の展開	教科書を読む　p46～
9.特別活動における食に関する指導の展開(学級活動)	教科書を読む　p146～
10. 特別活動における食に関する指導の展開(児童会活動など)	教科書を読む　p157～
11.体育科、保健体育科における食に関する指導の展開	教科書を読む　p109～
12.家庭科、技術家庭科における食に関する指導の展開	教科書を読む　p90～
13.社会、理科、生活科における食に関する指導の展開	教科書を読む　p47～
14.総合的な学習の時間における食に関する指導の展開	教科書を読む　p135～
15.個別栄養相談のあり方　まとめ	教科書を読む　p237～

履修上の注意

講義記録ノートを準備し、配布プリントは整理しファイルする。

成績評価方法・基準

受講態度 50%　レポートなど 50%

提出されたレポートは、後日、添削して返却する。

教科書〔食に関する指導の手引き（第一次改訂版)〕〔文部科学省〕〔東山書房〕〔1,200 円〕

参考書　随時プリント配布

備　考　質問等については授業終了時に受けつける。

都合により授業計画の順番等を変更することがある。

授業科目名	セミナーⅠ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(15+30)
担当者	健康栄養学専攻教員	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	健専３年

授業概要

本科目は、3 年次の管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。

①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。

②出題分野（科目）ごとに出題範囲、頻出事項について解説する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
国家試験受験に必要な知識を身につける。	○	○	○						

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．社会・環境と健康（土井、栗山）①	予習・復習を行い、知識を整理する。
2．社会・環境と健康（土井、栗山）②	不得意箇所の克服に努める。
3．社会・環境と健康（土井、栗山）③	学習した内容全体を復習する。
4．公衆栄養学（栗山）①	予習・復習を行い、知識を整理する。
5．公衆栄養学（栗山）②	不得意箇所の克服に努める。
6．公衆栄養学（栗山）③	学習した内容全体を復習する。
7．臨床栄養学（福岡）①	予習・復習を行い、知識を整理する。
8．臨床栄養学（福岡）②	不得意箇所の克服に努める。
9．臨床栄養学（福岡）③	学習した内容全体を復習する。
10. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（曽根、鈴木）①	予習・復習を行い、知識を整理する。
11. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（曽根、鈴木）②	不得意箇所の克服に努める。
12. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（曽根、鈴木）③	学習した内容全体を復習する。
13. 栄養教育論(小野)①	予習・復習を行い、知識を整理する。
14. 栄養教育論(小野)②	不得意箇所の克服に努める。
15. 栄養教育論(小野)③	学習した内容全体を復習する。
16. ミニテスト・(※）模擬試験（栗山）	学習した内容全体を復習する。

・管理栄養士国家試験受験を希望する者は履修すること。

・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席や遅刻がないように注意すること。

成績評価方法・基準

・平常点 80%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する)、
模擬試験 20%）の結果で評価する。

・提出物等は、後日フィードバックを行う。

教科書　〔管理栄養士国家試験　問題集〕〔大学作成〕
〔クエスチョンバンク 2020〕〔メディックメディア〕(7 月発売予定)

参考書　各授業で使用した教科書など（各担当の教員が指示する)。

備　考

質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。

授業科目名	セミナーⅡ			単位（総授業時間＋自習時間）					1(15+30)
担当者	健康栄養学専攻教員	必・選	選択	形態	講義	学期	後期	対象	健専４年

授業概要

本科目は、4 年次の管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。

①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。

②応用問題のように、出題分野（科目）を横断する内容の問題について、特徴や要点を説明する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
国家試験受験に必要な知識を身につける。	○	○	○					○	

授業計画の内容（全教員：鈴木、土井、佐藤、曽根、栗山、川俣、福岡、半澤、深澤、八巻）	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス、問題解説（栗山、川俣）	学習目標を確認する。
2.模擬試験①（栗山、川俣）	知識の修得状況を把握する。
3.問題解説（全教員）①	予習・復習を行い、知識を整理する。
4.問題解説（全教員）②	予習・復習を行い、知識を整理する。
5.問題解説（全教員）③	不得意箇所の克服に努める。
6.問題解説（全教員）④	不得意箇所の克服に努める。
7.模擬試験②（栗山、川俣）	知識の修得状況を把握する。
8.問題解決（全教員）⑤	予習・復習を行い、知識を整理する。
9.問題解説（全教員）⑥	予習・復習を行い、知識を整理する。
10.問題解説（全教員）⑦	不得意箇所の克服に努める。
11. 問題解説（全教員）⑧	知識の修得状況を把握する。
12. 模擬試験③（栗山、川俣）	知識の修得状況を把握する。
13. 問題解説（全教員）⑨	予習・復習を行い、知識を整理する。
14. 問題解説（全教員）⑩	予習・復習を行い、知識を整理する。
15. 問題解説（全教員）⑪	不得意箇所の克服に努める。

履修上の注意

・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。

・模擬試験の開催日時、問題解説の内容については、掲示で連絡する。

成績評価方法・基準

・平常点 80%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する）、模擬試験の結果 20%で評価する。

・提出物や模擬試験は、後日フィードバックを行う。

教科書　〔管理栄養士国家試験　問題集〕〔大学作成〕

〔クエスチョンバンク 2019〕〔メディックメディア〕※3 年次に購入済み

参考書　各授業で使用した教科書など（各担当の教員が指示する）。

備　考

質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。

授業科目名	家政特別講義Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	小野真実、八巻美智子	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	健専１年

授業概要

管理栄養士の使命および社会における役割や活動分野について理解させる。管理栄養士としての基本的な態度を身に着けさせるとともに、食品、調理、栄養に関する基礎知識および食の安全や衛生を含む食生活について学修し、日常生活においても実践できるようにする。

栄養士・管理栄養士の仕事について総合的に理解できるよう指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
栄養士・管理栄養士の役割について理解できる	○	○	○				○		
食品・調理・栄養素について理解できる	○	○	○				○		
栄養士・管理栄養士の活動分野について理解できる	○	○	○				○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学習の内容）	授業計画の内容	自習（事前・事後学習の内容）
1.ガイダンス（衛生チェックなど）(小野、八巻)	教科書の準備	16. ガイダンス（衛生チェックなど）(小野、八巻)	教科書を読んでくる
2．学生生活で必要なこと 学生生活のあり方について (小野、八巻)	教科書を読んでくる。	17.学生生活のあり方について 衛生管理の必要性(小野、八巻)	教科書を読んでくる
2．専門科目の理解 (小野、八巻)	教科書や学生便覧を読んでくる	18. 食生活について、安全な食事、環境にやさしい食生活とは (小野、八巻)	教科書を読んでくる
3．レポートの書き方 (小野、八巻)	教科書を読んでくる	19. 臨地実習・校外実習について(小野、八巻)	教科書を読んでくる
4．授業で使える基礎知識 (小野、八巻)	教科書を読んでくる	20. 16～19 のまとめ （理解不十分な内容の確認）(小野、八巻)	16～19 の内容を理解
6.2～5 のまとめ（理解不十分な内容の確認）(小野、八巻)	2～5 の内容を理解	21. 16～19 の内容の再確認 (小野、八巻)	16～19 の内容を理解
7.2～5 の内容の再確認 (小野、八巻)	2～5 の内容を理解	22. 栄養士の一日（小野、八巻)	教科書を読んでくる
8.食生活と食事内容 (小野、八巻)	教科書を読んでくる	23. 家政特別講義（卒業生）の聴講(小野、八巻)	質問等の記入
9．栄養と食品 （栄養素） (小野、八巻)	教科書を読んでくる	24. 家政特別講義のまとめ（感想）(小野、八巻)	感想の記入
10. 栄養と食品 （食品群） (小野、八巻)	教科書を読んでくる	25～27. 課題研究発表会の聴講(小野、八巻)	質問等の準備
11. 栄養と食品 （成分表） (小野、八巻)	教科書を読んでくる		
12. 8～10 のまとめ（理解不十分な内容の確認）(小野、八巻)	8～10 の内容を理解	28. 課題研究の意義とまとめ (小野、八巻)	質問等の準備
13. 8～10 の内容の再確認 (小野、八巻)	8～10 の内容を理解	29. 後期内容のまとめ （抱負と今後の課題）(小野、八巻)	自己評価など
14. 栄養士・管理栄養士の仕事について(小野、八巻)	教科書を読んでくる		
15.前期内容のまとめ (小野、八巻)	管理栄養士・栄養士の仕事について理解する	30 まとめ （抱負と今後の課題後半）(小野、八巻)	自己評価など

履修上の注意　学事への参加および外部講師などによる内容の場合は、日時や場所が変更になるため掲示を確認してください。授業計画はやむを得ず順不同となる場合があります。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。

成績評価方法・基準　受講態度（参加状況など）50%、提出物（ミニットペーパーなど）50%　未提出の場合は評価の対象外とする。

教科書〔イラストで学ぶ栄養士・管理栄養士の世界〕〔　松永美雪　〕〔学健書院〕〔1,944 円〕

参考書　学生便覧　必要に応じて紹介する

備　考　講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。
質問等は、授業終了後またはオフィスアワーにて受け付けます。

授業科目名	家政学特別講義Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	半澤真喜子･佐藤靖子	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	健専２年

授業概要

将来、食と健康の専門家として働くために必要な知識や情報、技術や能力の習得を目指す。学外研修として施設見学を行い、実際の業務内容や衛生管理等を体験し学習する。学内で開催される臨地実習報告会を聴講し、学校・事業所・介護福祉施設・病院・医療機関・保健所・保健センターで学修する。家政特別セミナー、課題研究発表会等を通して栄養士・管理栄養士を目指すために必要な知識や情報および技術を教授する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1.管理栄養士・栄養士となるために必要な知識と技術・態度を身に着ける	○	○	○		○		○		
2. 管理栄養士・栄養士の業務内容について理解できる	○	○	○		○		○		
3.自己の将来に必要な 知識・情報・技術および態度について理解できる	○	○	○		○		○		

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.オリエンテーション	学外研修の事前指導
2～6.学外研修	施設研修での質問を考えて臨む
7～8.課題研究発表の聴講	課題研究の感想を提出する
9～10.家政特別セミナー聴講	内容をまとめて提出する
11～14.臨地実習報告会聴講	内容をまとめて提出する
15.まとめ、今後の学習に関する説明	これまでの感想を提出する

履修上の注意

開講日程は、掲示連絡とする。無断遅刻・欠席しない（遅刻３回で欠席１回分となる）。

受講には真剣な態度で臨む。

2～14 は、研修および聴講の感想をレポート提出すること（指定の日時に遅れない）。

成績評価方法・基準

出席状況・受講態度 50%、提出物 50%

受講態度が悪い場合（居眠り・私語）は、評価の対象から外す

教科書　なし

参考書

随時紹介する

備　考

授業計画は、順番が変更となる場合がある。

質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

授業科目名	家政特別講義Ⅲ（臨地実習演習）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	栗山孝雄・半澤真喜子・福岡敦子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	健専３年

授業概要

・給食管理臨地実習、公衆栄養学実習、臨床栄養学実習後に、各実習施設の実習内容や研究課題の報告を実施し、学生が経験したことを持ち寄り、実習内容を整理することで、お互いの経験を学ぶ。
・報告を検討することにより、今後の取り組むべき課題を意識し、自ら解決方法を立案する。
・４年次における公衆栄養学実習および臨床栄養学実習を実践するための準備とする授業である。
・管理栄養士としての職域を広げ、仕事の内容についても自ら調べる授業である。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
報告会を通し、お互いの経験を共有できる。		○	○		○			○	
自ら解決方法を立案できる。		○	○		○			○	
管理栄養士・栄養士としての必要な知識と技術を身につける。		○	○		○			○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. 報告会①：学校・給食センター （全教員）	（事前学修） ・実習を振り返り、報告の準備、練習を行う。 （事後学修） ・聴講した内容を施設ごとに整理し、まとめる。 ・今後の実習の課題を考えておく。
2. 報告会②：福祉施設 （全教員）	
3. 報告会③：事業所・陸上自衛隊 （全教員）	
4. 報告会④：障害者福祉施設・介護福祉施設 （全教員）	
5. 報告会⑤：病院・自主研究紹介 （全教員）	
6. 公衆栄養学・臨床栄養学について（配属先の希望調査を含む） （全教員）	（事前学修） ・保健所、保健センター、病院など、実習施設の特徴を調べておく。 （事後学修） ・聴講した内容を施設ごとに整理し、まとめる。 ・今後の実習の目標を考えておく。
7. 報告会聴講①：病院 （全教員）	
8. 報告会聴講②：病院 （全教員）	
9. 報告会聴講③：病院 （全教員）	
10. 報告会聴講④：保健所 （全教員）	
11. 報告会聴講⑤：保健所 （全教員）	
12. 報告会聴講⑥：保健所 （全教員）	
13. 臨地実習関連事項の説明 （全教員）	
14. 臨地実習関連事項の説明 （全教員）	
15. ４年時の臨地実習に向けて （全教員）	

履修上の注意

①施設ごとの特色や特徴をよく調べ、まとめておく。

②３年次の校外・臨地実習の事後のまとめ、４年次の臨地実習の事前準備となる重要な演習であるため、遅刻や無断欠席は認めない。

成績評価方法・基準

・受講態度（積極的な態度、目的意識、質問をする、授業中に居眠りしない等）50%
・提出物の内容、提出期限の順守　50%
・提出物については、後日添削して返却する。

教科書〔管理栄養士・栄養士になるための　国語表現〕〔田上貞一郎〕〔萌文書院〕〔1,944 円〕

参考書　授業内で適宜紹介する。

備　考

質問等については、授業中、授業後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

授業科目名	家政特別講義Ⅳ（臨地実習演習）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	栗山孝雄・福岡敦子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	健専４年

授業概要

公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ、ならびに臨床栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱの実習前、ならびに実習後に必要な事項を教授する。具体的な内容は、次の通りである。

（1）実習前の授業　①実習施設の特徴、管理栄養士・栄養士の業務や役割について解説する。実際に、実習施設の管理栄養士による特別講義も行う。②実習を行うために必要な準備、注意事項などについて説明する。③事前課題に関する指導、助言を行う。

（2）実習後の授業：実習のまとめ、実習報告について、適宜指導、助言を行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
実習先の施設の特徴を理解できるようになる。		○	○		○			○	
実習先の管理栄養士の業務、役割を理解できるようになる。		○	○		○			○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス：実習の目的・目標の説明（栗山、福岡）	実習の目的・目標を確認する。
2.保健所栄養士の業務と役割（栗山、保健所栄養士）	保健所栄養士の業務と役割を確認する。
3.市町村栄養士の業務と役割（栗山、市町村栄養士）	市町村栄養士の業務と役割を確認する。
4.病院栄養士の業務と役割（福岡、病院栄養士）	病院栄養士の業務と役割を確認する。
5.老健施設栄養士の業務と役割（福岡、老健施設栄養士）	老健施設栄養士の業務と役割を確認する。
6.実習施設に関する注意事項の説明（栗山、福岡）	復習し、注意事項を理解する。
7.実習関係の書類、日誌の記入方法について（栗山、福岡）	記入に関する要点を理解する。
8.実習施設の特徴の把握（栗山、福岡）	実習施設の特徴を調べる。
9.実習施設ごとの事前課題の確認（栗山、福岡）	実習先に事前課題の問合せを行う。
10.事前課題の作業・打合せ（栗山、福岡）	事前課題をまとめ、授業に臨む。
11.事前課題の作業状況の確認・打合せ（栗山、福岡）	事前課題の内容を見直し、確認する。
12.事前課題の発表練習（栗山、福岡）	発表条件を確認の上、練習を行う。
13.臨地実習のまとめ（栗山、福岡）	実習を振返り、要点をまとめる。
14.実習報告の内容確認・打合せ（栗山、福岡）	報告内容を検討する。
15.実習報告の準備（栗山、福岡）	報告準備に取り組む。

履修上の注意

・公衆栄養学と臨床栄養学の臨地実習を履修する者は、本科目を履修すること。
・積極的な姿勢で学習に取り組むこと。
・実習課題によっては、授業時間外に作業を行うこともある。

成績評価方法・基準

・受講態度 50%（積極的な態度、目的意識、遅刻状況）、提出物 50%（内容、提出期限の順守）
・提出物、事前課題は、適時フィードバックを行う。

教科書〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕〔無料〕

参考書〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1,800 円+税〕

備　考

質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。

授業科目名	課題研究			単位（総授業時間＋自習時間）		6		
担当者	鈴木　裕行	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年

授業概要

食品・栄養学分野でこれまでの学習を基にしての課題の発見、課題の解明に関連する資料や文献の調査、課題を解明するための研究方針の立案、必要とされる実験技術の習得と実験実施、実験や調査で得られたデータの解析と整理・図表化、得られた結果からの考察を行う。さらに、それらをまとめた論文を執筆するとともに、スライドプレゼンテーションおよび展示ポスターを作成し、最終的に発表会での口頭発表および展示会でのポスター発表を実施する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
これまでの学修を基に課題発見できる			○		○	○	○	○	○
課題解決のための研究方法を立案し実行できる			○		○	○	○	○	○
研究成果を取りまとめた論文を作成し、プレゼンテーションができる			○		○	○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1～5：テーマ選定	・自身の持つ問題意識を関連の文献・資料を検索し熟読することで深め、具体的な研究課題（テーマ）を考える。
6～37：研究指導	・課題を解決するための研究（実験・調査）方法を、先行研究を参考にして設定する。 ・実験・調査を実施して得られたデータを整理し、図表に取りまとめ、データから考えられる事をまとめる。
38・39：課題研究発表プレゼンテーション作成 40：課題研究発表	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。
41～43：課題研究論文作成	
44・45：課題研究発表ポスター作成	

履修上の注意

研究テーマに関連する文献を数多く熟読して研究方針の立案、論文作成の参考にする。
（2単位分を3年次後期・4単位分を4年次通年で実施する）

成績評価方法・基準

論文、プレゼンテーション、研究への取り組み・・・評価の割合等、詳細はルーブリック参照
成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。
提出物・提示案等に対するフィードバックとして、その都度、授業内で添削・コメント等を行う。

教科書　無し（適宜、資料を配布する）

参考書〔これから研究を始める高校生と指導教員のために〕〔酒井聡樹〕〔共立出版〕〔2,808円〕

備　考

オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

授業科目名	課題研究					単位（総授業時間＋自習時間）			6
担当者	土井　豊	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年

授業概要

この課題研究では、将来栄養士あるいは管理栄養士として働いていく上で必要な〔食・栄養と健康状態との関連性〕、あるいは〔各種生活行動と健康・体力との関連性〕等に関する知見を得ることを目的として、個々人の研究課題（研究テーマ）に対する指導・助言及び自己研鑽（学習及び資料収集等）を重ねつつ、最終的には調査・測定等の結果を基に研究論文として纏め上げられるよう指導していく。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
研究課題（研究テーマ）を決定できる能力を身につける。			○						
研究を遂行していくための研究計画書を作成できる。			○						
研究テーマに関する書籍、資料等を収集できる能力をつける。			○						
収集した資料を基に、テーマに関する小論をまとめられる。					○				
課題追究のために、適切な調査・分析等をすることができる。						○	○		
研究成果をまとめ、研究発表できる能力をつける。									○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．3年次ガイダンス（今後の計画等について）	今後の「自身の抱負」をまとめ次回提出
2．研究指導（研究テーマ、研究方法、研究計画等について）	テーマ模索、及び研究方法等の検討
3～6．研究指導（研究テーマ決定、及び研究計画書作成に向けた指導）	研究テーマ決定、及び研究計画書作成に向け参考文献の検索等
7～14. 研究指導（データ収集、及び参考文献の整理）	同上
15. 研究テーマに関する収集資料をまとめ「小論」提出	これまでの資料をまとめ「小論」提出
16. 4年次ガイダンス（各自「自身の課題」を発表）	「自身の決意・抱負」をまとめ提出
17～20. 研究計画の遂行（プレテストと本調査の実施）	プレテストの準備、及び本調査の実施
21～25. 研究計画の遂行（調査・測定データ等の集計・分析）	データの入力・集計・分析作業
26～29. 研究計画の遂行（集計・分析結果についての考察）	集計・分析結果の解釈及び考察
30. 中間報告（関連学会にて口頭発表）	学会発表原稿の作成及び推敲
31～41. 研究計画の遂行（研究論文の作成）	緒言、研究方法、結果及び考察等作成
42. 課題研究発表会に向け抄録作成・提出	研究内容の要約及び発表原稿の作成等
43. 課題研究発表会にて発表	発表会の反省・評価
44. 課題研究論文の提出	論文完成に向けた推敲（加筆・訂正等）
45. まとめ及び総括（研究成果に対する最終評価）	自己評価、及び担当教員による評価

履修上の注意

正当な理由無き「無断欠席」は厳禁とする。

成績評価方法・基準

研究課題に臨む姿勢、及び研究成果のまとめ方（論文作成・完成・提出、及び最終の研究発表）などの成果を総合し評価する。その内訳は、研究姿勢25%、論文作成50%、研究発表25%とする。

教科書：なし

参考書：参考文献などを適宜紹介する。

備　考

・指導教員の指示に従い、研究内容・項目に関する事柄を予習・復習することを常とする。
・質問等については、オフィスアワー時（曜日日時は掲示で確認）ほか随時受付けます。

授業科目名	課題研究					単位（総授業時間＋自習時間）		6
担当者	佐藤　靖子	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年

授業概要

3年次では、興味のある食品について関連する研究論文を検索し、食品に対する情報を収集させ、研究テーマを決定させる。

4年次では、食品の組織構造の基礎実験を行い、研究内容を検討して計画、実験を行い、結果を討論しながら考察していく能力の向上を目指す。さらに、研究成果に対するプレゼンテーション力を身につけられるよう指導する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1.研究に関連する情報の収集ができる			○		○				
2.実験計画・実施ができる			○		○				
3.結果に対する考察力、プレゼンテ―ション力を身につける			○		○	○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス：目的など	研究目的を達成できるよう準備する
2～6　テーマの選定および情報収集	研究目的を達成できるよう準備する
7～10　基礎実験計画	研究目的を達成できるよう準備する
11～15　基礎実験	研究目的を達成できるよう準備する
16.～34　研究指導	研究目的を達成できるよう準備する
35～39　論文作成	研究目的を達成できるよう準備する
40～42　プレゼンテーション準備.	研究目的を達成できるよう準備する
43 研究発表	研究発表準備と自己評価を行う
44 論文提出.	論文提出の準備をする
45.ポスター作成	ポスター作成の準備をする

履修上の注意

研究課題の情報収集を行う．　欠席連絡は速やかに行い特に実験に支障が無いようにする．

成績評価方法・基準

受講態度 50%、論文・プレゼンテーション 50%

計画・実験の前後に十分な話し合いを行い、学生の理解度を確認しながら進めていく

教科書　なし

参考書　ガイダンスにて紹介する

備　考

質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

授業科目名	課題研究				単位（総授業時間＋自習時間）				6
担当者	曽根　正彦	必・選	選	形態	演習	学期	３年後期～4 年通年	対象	健専３年

授業の概要

臨床医学概論で学んだ疾患診断・治療などの基礎知識や主要疾患の知識を基礎にして、医学・栄養学分野に関連する研究テーマを設定する。そのテーマに関する文献を検索して知識を整理する。テーマに関するアンケート調査などを行い、その結果について解析を進め考察を深める。

最終的に研究論文を作成し、またオーラルプレゼンテーションを実施する。

テーマの研究と併行して、栄養学の専門家として必要な医学的・栄養学的知識を学習する。

なお指導については、臨床現場に 30 年以上携わってきた担当者が、実際の臨床での知識をアドバイスする。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
・研究課題を展開し解析する能力を身につける。			○		○	○	○	○	○
・資料調査や文献検索の方法を身につける。			○		○	○	○	○	○
・論文作成とプレゼンテーションの能力を身につける。			○		○	○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．研究ガイダンス	自主的に研究を進める。
２～３．テーマの設定	自主的に研究を進める。
４～３０．研究指導	自主的に研究を進める。
３１～３４．結果の解析・まとめ	自主的に研究を進める。
３５～４０．論文作成	文献検索を自主的に行う。
４１～４４．研究発表準備	自主的に発表準備を進める。
４５．課題研究発表	発表準備および評価

履修上の注意

研究テーマに関連する文献を数多く検索して、研究を展開する上で参考にする。

成績評価方法・基準

研究に取り組む姿勢（５０％）および課題研究発表・論文作成（５０％）。

研究精度を上げるため、課題・レポートに関するフィードバックをその都度行う。

教科書　「無し」

参考書　適宜、文献など参考資料を紹介する。

備　考

質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。

授業科目名	課題研究					単位（総授業時間＋自習時間）			6
担当者	福岡　敦子	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年

授業概要

まず、自分が調べたいと思ったことについて指導教員とお話をしてみる。その調べたいと思ったことについてまとめるためには、どのような方法で調べたらよいか、何が必要なのか、3年の後期から始めて時間的に可能かなどについて検討していくうちにまとめるということの構想が整理されてくる。内容が決まってきたら、資料の探し方、文献検索などの仕方を学ぶ。次に、調べたいことの内容が整理をする指導を行う。次に、論文作成の基礎を指導する。論文が完成したら、発表のためのプレゼンテーションの仕方について指導を行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. 研究テーマを考え、テーマの決定をする。	○		○						
2.文献検索、調査を行う。論文のまとめ方や、まとめる内容についての推測の仕方、書き方、およびプレゼンについて基礎を身に着ける。	○		○		○		○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　研究ガイダンス、なぜ、課題研究に取り組むのか	自分は、何についてまとめてみたいのかを考える
第2回～　第5回　テーマの決定をきめるための準備期間	まとめたいものを決める
第6回～　第35回　調査の方法について検討をし、調査に取り組む	テーマに沿った文献を探してみる。 どのようにしてまとめるか考える
第36回～第40回　内容を整理し、構成をきめる	先輩の課題研究を読む。
第41回～第43回　論文作成 課題研究発表プレゼンテーション作成	論文の型に添って書いてみる プレゼンテーションはどのようなものか調べる
第44回～第45回　課題研究発表ポスター作成	ポスター作製について考える

履修上の注意

日頃から、興味のある情報を得るようにする。何をテーマにしたいか考える。統計を使うこともあるので統計を復習しておくことが望ましい。論文を作成し、完成することによって何を学んだかを考える
途中で止めないで、最後まで取り組むこと。

成績評価の方法・基準

課題研究の内容80%、課題研究に取り組む態度20%

教科書　なし

参考書　適宜紹介する

備　考

質問等については、オフィスアワー以外でも受け付けます

授業科目名	課題研究			単位（総授業時間＋自習時間）			6		
担当者	栗山　孝雄	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年

授業概要

本研究では、主に衛生学や公衆衛生学、公衆栄養学に関連する研究テーマを扱う。衛生学や公衆衛生学、公衆栄養学では、日常の生活圏である地域や市町村、都道府県に居住する住民や、学校の生徒や学生、職場の勤労者など、様々な集団に所属する人々を対象に、健康面や栄養面の現状を把握する。その上で、改善すべき点について対策の検討を行う。本研究では、履修者が設定した研究テーマを遂行するための研究方法について教授する。研究成果は、課題研究発表会と課題研究展で報告する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
研究テーマを設定し、研究を展開する能力を身につける。			○		○	○	○	○	○
研究に関する情報や文献を収集し、内容を吟味する力を身につける。			○		○	○	○	○	○
論文をまとめ、研究発表する力を身につける。			○		○	○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.～5.　研究テーマの検討、情報収集、決定	研究テーマに関する情報を検討する。
6.～10.　研究内容・方法の検討	研究手法について考え、提案する。
11.～20.　データ・情報の収集	データや情報の収集について検討する。
21.～30.　データ・情報の分析、検討	収集したデータや情報を吟味し、分析する。
31.～40.　論文作成	文献等から論文のまとめ方を理解し、作業する。
41. 課題研究発表会の準備・発表練習	所定時間内での発表する技術を習得する。
42.課題研究発表会：研究発表	発表の要点、質疑応答の対応を確認する。
43.論文修正、提出	研究内容を見直し、適宜修正を行う。
44.課題研究展の準備：ポスター作成	研究報告をポスターにまとめる。
45.課題研究展	研究・報告内容を確認する。

履修上の注意

・研究テーマに関する情報や論文などを積極的に収集する意欲が必要である。
・データを集計、処理するためのパソコン操作能力が必要である。
・研究テーマの設定と研究発表、論文やポスターの作成は個人ごとに行う。
・状況によっては、時間割の時間外で行う場合もある。

成績評価方法・基準

・研究態度（30%）、研究発表（20%）論文の内容（50%）を総合して、成績評価を行う。

・提出物については、適宜フィードバックを行う。

教科書　なし。

参考書　適宜紹介する。

備　考

質問等については、授業中や終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

授業科目名	課題研究				単位（総授業時間＋自習時間）		6		
担当者	半澤　真喜子	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年

授業概要

3年次では、給食経営管理学の知識を基にして、給食施設における安全・安心な食の提供に関連するテーマを設定させる。テーマに関する関連文献を収集し、論文の講読をおこなう。4年次では、食事調査、各種アンケート調査の統計解析、対象者に適したメニュープランニングおよび生産・提供を行い評価方法を学ぶ。課題研究の授業を通して、各自が主体性を持って研究テーマの内容を追求し、論文として論理的に展開し、書き上げることを学習する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
研究計画、調査、研究能力を身につける。			○		○	○	○	○	○
文献や情報を収集し、考察する力を身につける。			○		○	○	○	○	○
論文をまとめる力を身につける			○		○	○	○	○	○
基礎的なプレゼンテーション力を身につける。			○		○	○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．　ガイダンス	・研究テーマに関連した論文を収集し、熟読する。
2．　テーマの設定	・研究テーマを考える。
3～5　資料の収集	・研究方法を考える。
6．　研究計画の立案	・データ種類は量的データか質的データか考える。
7．　調査票の立案	・調査票をつくる時はどのようなデータを取るかを考える。
8～9　調査票の作成	
10～12　調査の実施	・本調査をする前10人位にやってもらい修正する。
13～15　データ入力	・データの整理を行う。
16～34　研究指導	・論文の構成を考える。
35～38　成果、結果のまとめ、考察.	・手本となる論文を探す。
39～42　課題研究論文作成	・本文の書き方を学ぶ。
43～44　課題研究発表準備	・発表準備を自主的に行う。
45.　課題研究発表	

履修上の注意

①大学における研究活動の成果を集大成し総括する科目である認識をもって、積極的な取り組みをすること。

②今後の業務にどのように活かしていくか考えること。

③時間割の時間外で行う場合もある。

成績評価方法・基準

・学習態度や研究活動（40%）、中間報告（20%）、論文の内容（40%）について総合的に評価する。

・作業中に確認しながら次に進む。

・提出物については、後日添削して返却する。

教科書〔初めての栄養学研究論文〕〔稲山貴代他〕〔第一出版〕〔2,160円〕

参考書

適宜紹介する

備　考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

授業科目名	課題研究					単位（総授業時間＋自習時間）		6
担当者	川俣　幸一	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年

授業概要

スポーツ栄養学分野または応用栄養学分野において自ら学び、そこから湧き出たリサーチクエスチョンの解決を目指す。研究の充実を図るため、最初の半年はスポーツ栄養学の特別講義ならびに統計学の基礎を学ぶ。加えて J-stage か cinii、pubmed などにて文献を検索し、スポーツ栄養の最新論文の読み合わせ会も行う。知識が身についたところで、それぞれ個人の研究課題を実践するため、一人あたり一箇所の研究フィールドにて全国レベル（論文発表レベル・学会発表レベル）を前提とした研究活動を行う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
課題発見、研究計画の立案・実施、集計作業などを通じて情報処理能力を高める			○		○	○	○	○	
発表会でのプレゼンテーション、課題研究の論文提出を通じて総合能力を高める									○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス	事前学習として、おおまかで良いので自分のやりたい事を頭の中で整理してきて下さい。ルーブリックを配布します。
2～15．スポーツ栄養学特別講義＋統計学講義＋文献勉強会	事前学習は配布プリントの予習。事後学習としてレポート作成。
16～40．研究指導	事前学習はそれぞれのテーマの文献整理。事後学習として結果集計・考察のドラフト作成など。
41～43．課題研究発表の準備	事前学習は結果集計。事後学習としてパワーポイントの原稿作成。
44～45．課題研究論文の作成	事前学習は結果集計。事後学習として論文作成。

履修上の注意

研究活動では全員がフィールドに出て学外の第三者から学びますが、その全てが信頼関係に基づいています。研究室内では、礼儀や礼節、親や教員・先輩への感謝の気持ち、真摯に学ぶ態度を何より大切にしています。したがって 1-2 年次の出席状況、応用栄養学分野の成績、課題研究発表会の参加状況、教員へのこれまでの態度などを鑑みた上で、学生の履修（入門）をお断りする場合があります。

第一希望の研究室に入門できるよう、真面目で礼儀正しい学生生活をお送りください。

成績評価方法・基準

題研究発表会の内容・・・30%

課題研究論文の内容・・・30%

取り組み状況・・・40%

提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

教科書　なし

参考書　なし

備　考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する

授業科目名	課題研究					単位（総授業時間＋自習時間）		6
担当者	深澤　律子	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年

授業概要

日本の食文化、食物学、調理学に関する研究テーマを設定し、文献検索を行い、先行研究を調べる。先行研究を読み込み、研究方法を考え、調査研究、アンケート調査研究、レシピ開発研究、実験研究など研究内容を絞込み、春休みから試作や予備実験、プレアンケート等を行い、研究計画をたて、研究方法等の修正を行う。実験や調査結果からデータの解析やデータの整理、論文執筆を行い、パワーポイント等でプレゼンテーションを作成し、研究成果は課題研究発表会と課題研究展で報告する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
① 研究テーマを設定し、研究をすすめる基礎知識を修得する。			○			○	○		
② 研究に関する文献や先行研究を収集し、自分の研究では、何を明らかにしたいのかを考える能力を修得する。					○				○
③ 学修した情報を整理し、論文にまとめ、発表する技術を修得する。						○	○	○	

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.～5. ガイダンス、研究テーマの検討、情報収集、決定	図書館で日本調理科学会、栄養改善学会誌等から研究テーマを調べる。
6.～10. 研究内容・方法の検討	研究テーマの先行研究・文献収集を行い、方法を考える。
11.～20. 研究の試作、実験を行い、検討	プレ実験やプレ試作を行い、改善する。
21.～30. 研究の本実験を行い、データ・情報の分析、検討	実験や試作の結果を評価し、改善点を考え、研究ノートにまとめる。
31.～40. 研究結果の考察、論文作成	論文のまとめ方を理解し、論文を作成する。
41. 課題研究発表資料作成	課題研究発表にむけて、要旨をまとめ、発表の準備を行う
42. 課題研究発表会	発表の時間に合わせて内容を確認し、質疑応答の対応を確認。
43. 論文修正、提出	研究発表を振り返り、研究内容を見直し、適宜修正を行う。
44. 課題研究展にむけて	研究報告をポスターにまとめ、作成する。
45 課題研究展	ポスターを見ながら、研究内容を確認する。

履修上の注意

研究に必要なものはその都度指示する。調理や試作もすることを踏まえ、常に体調管理、衛生管理に気を配る。春休みや夏休み期間中に実験や論文作成のため一週間程度集中して課題研究の時間を設ける。

成績評価方法・基準

論文 40%、研究に取り組む姿勢（文献収集、参考資料の収集、課題の取り組み、ゼミ生同士の良好なコミュニケーション等）30%、パワーポイントでのプレゼンテーション資料作成・発表 30%で総合評価する。提出物については適宜フィードバックを行う。

教科書　なし

参考書　参考資料はその都度紹介する

備　考

・課題研究の内容、作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間の変更等を行う場合がある。
・ルーブリック評価については第1回の授業で説明する。提出物等については適宜フィードバックを行う。
・質問等についてはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）に受け付ける。

授業科目名	課題研究					単位（総授業時間＋自習時間）			6
担当者	八巻　美智子	必・選	選	形態	演習	学期	3年後期～4年通年	対象	健専3年

授業概要

食品学や栄養学分野に関連する学修を基礎として研究課題についてテーマを決め、文献調査方法、研究方法、実験技術などについて指導する。研究課題達成の為にはどのような文献調査が必要で、またどのような実験方法を用いるのがベストなのかについて検討しながら進める。さらに得られた結果のデータを解析、考察し、論文作成を実施する。また、スライドプレゼンテーションの作成とよりよいプレゼンテーションについて指導し、ポスター作製（作成）を実施する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
研究に関する情報や文献を収集し、理解する能力を修得する。			○		○	○	○	○	○
実験技術の修得 論文をまとめ、研究発表する能力を身に付ける。			○		○	○	○	○	○
自ら学び研究する意義を見出す。			○		○	○	○	○	○

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1. 研究ガイダンス文献調査方法	事後：文献調査方法を理解する
2．文献調査方研究テーマについて	事後：テーマに関することについて調べる
3.研究テーマについて	事後：テーマに関することについて調べる
4. 実験計画	事後：研究計画について自分なりに考える
5~15.基礎実験(実験技術修得)	事前、事後：実験技術を修得できるよう努力する
16~37.研究指導	事前、事後：研究について理解する
38～40.論文作成	事前、事後：論文作成を行う
41～42.研究発表会準備(パワーポイント作成)	事前、事後：発表会準備を行う
43.研究発表	事後：発表会の反省会、論文修正を行う
44.論文修正	論文修正とポスター作成を行う
45.ポスター作製	ポスター作成

履修上の注意

自ら進んで研究に取り組む意欲が必要。無断欠席はしない。教員等からの指導アドバイスに従う事。状況によっては時間割の時間外で行う場合がある。

成績評価方法・基準

研究態度（50%）、研究発表（25%）、論文の内容（25%）を総合して成績評価を行う。課題等については研究中にフィードバックをする。

教科書　なし

参考書　適時紹介する

備　考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

教職に関する科目

5．教職に関する科目

授業科目名	教職概論			単位（総授業時間＋自習時間）					2（30＋60）
担当者	笠間　賢二	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	家政・美表１年

授業概要

教師という職業（教職）の意義・職務・課題ついて学修を進め、自分の将来の進路として、教職を選択することの適否について考えることができるようになること、これを授業の目的とする。

（1）教職に対する社会的期待（教職観）がどのような変遷を辿って今日に至っているのか、（2）教職に関する法制や制度がどのような仕組みと構造になっているのか、（3）教職の現実を教員が実際に出くわすと思われる場面を想定しながら理解できるようにする、以上を学修内容とする。

授業の到達目標

（1）教師という職業の変遷について、その概略を理解できるようになる。

（2）教師という職業に関する法制や制度について、その概略を理解できるようになる。

（3）教師という職業の実際について、その難しさも含めて理解できるようになる。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．ガイダンス	予習の部分で定型的な作業は求めません。ただし、これまでの自分の被教育体験をしっかり振り返って整理してみてください。教育や教師のあり様を考える糧になるはずです。 復習することは、毎回、必須です。ただしその際、授業内容を記憶に留めるための学習ではなく、それをより膨らませる学習（例えば、関連する事項を図書館で調べることなど）を心がけてください。
2．教師のしごとの実際（VTR 併用）	
3．教職観の変遷：聖職者　⇔　労働者　⇔　専門職	
4．専門職としての教師：他の専門職との比較	
5．公教育と教師：公共的使命、身分保障と服務	
6．教師の職能成長：研修をめぐる諸問題	
7．カリキュラム編成と教師	
8．授業づくりと教師	
9．子どもの権利と教師	
10. 児童・生徒の懲戒（1）：教育作用としての懲戒	
11. 児童・生徒の懲戒（2）：とくに体罰をめぐって	
12. 受講者の報告（被教育体験）とグループ討議①：いま教師に求められる力量について	
13. 受講者の報告（被教育体験）とグループ討議②：いま教師に求められる力量について	
14. 「チーム学校」という考え方	
15. 「教員文化」をめぐる諸問題	
16.　最終試験	

履修上の注意

「私語」「内職」は慎むこと、欠席は事前に届け出ること、課題の提出は期限を守ること。これらは常識です。

成績評価方法・基準

おさらいレポート、グループ討議の報告内容（12～13 回）、定期試験、これらを勘案して評価します。レポートは後日フィードバックします。

教科書　教科書は使用しません。毎回授業前にレジュメを配布します。

参考書　参考書は随時紹介します。

備　考

（1）資格要件に関する情報　⇒　　教育職員免許状の取得に必要な授業科目です。
（2）特別な配慮を要する学生に対する扱い　⇒　　申し出てください。
（3）質問等については、授業終了時に受け付けます。

授業科目名	教育原理				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	宮澤孝子・盛下真優子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家政・生美 2 年

授業概要

本講義ではまず教育の本質を理解するために、教育の目的や意味、家庭教育や学校教育などの基礎理念を整理する。次に、子ども観や教育観の変遷とともに教育の起源や歴史を包括的にとり上げ、日本と諸外国でどのように教育が起こり広がっていったのかを解説する。また、教育に関するさまざまな思想を取り上げ、代表的な教育思想家や現代の教育思想を幅広く紹介する。最後に戦後の日本が直面してきた諸課題を歴史的に吟味し、今日の教育理念を幅広く紹介する。講義中には自らの考えを発表し他の学生と討論する時間を設けることで、学生自身が自らの教育観や子ども観を捉え直し、実践の基盤として据えられるようにしたい。

授業の到達目標

1. 教育の本質・目的・概念に関する基礎的な知識を習得する。
2. 教育の歴史的変遷や現代社会における教育課題を理解する。
3. 日本と諸外国の教育思想について理解する。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．オリエンテーション〔宮澤・盛下〕	シラバスの確認、学習内容を見通す
2．教育の本質と意義：教育とは何か〔盛下〕	辞書で「教育」を調べる／復習
3．教育の目的と目標〔盛下〕	人間形成とは何かを考える／復習
4．教育の場と内容：家庭と学校教育〔盛下〕	自分の教育観を考える／復習
5．教育の歴史（1）教育のはじまり〔盛下〕	教育の起源を考える／復習
6．教育の歴史（2）子どもの発見〔盛下〕	配布資料を読んでくる／復習
7．教育の歴史（3）近代教育制度以前の学び〔宮澤〕	配布資料を読んでくる／復習
8．教育の歴史（4）近代教育制度の成立〔宮澤〕	教育思想家について調べてくる／復習
9．教育思想（1）16〜18 世紀欧米の教育思想〔盛下〕	教育思想家について調べてくる／復習
10. 教育思想（2）18〜19 世紀欧米の教育思想〔盛下〕	教育思想家について調べてくる／復習
11. 教育思想（3）20 世紀欧米の教育思想〔盛下〕	教育思想家について調べてくる／復習
12. 教育思想（4）日本の教育思想〔盛下〕	教育思想家について調べてくる／復習
13. 戦後教育改革（1）教育理念〔宮澤〕	配布資料を読んでくる／復習
14. 戦後教育改革（2）教育制度〔宮澤〕	配布資料を読んでくる／復習
15. 歴史的課題と今日の教育理念〔宮澤〕	配布資料を読んでくる／復習
16. 試験	

履修上の注意

授業中の課題をしっかり行うこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。

成績評価方法・基準

平常点 40%（リアクションペーパーの内容、課題、参加態度）、期末試験 60%

各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。

試験については、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。

教科書　事前にレジュメ等を配布する。

参考書　〔教育思想史〕〔今井康雄 編〕〔有斐閣アルマ〕〔2,376 円〕

備　考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

授業科目名	教育心理学			単位（総授業時間＋自習時間）					2（30＋60）
担当者	宮前　理	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家政・生美２年

授業概要

児童・生徒の心身の発達の過程（運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達等）及び学習の理論（動機づけ・集団づくり・学習評価など）について概説し、それぞれの発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導について概説する。

授業の到達目標

１．児童・生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。

２．児童・生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

授業計画の内容	
1.オリエンテーション（授業の概要説明）	授業概要と到達目標を理解する
2.教育心理学とは（教育心理学の意味と課題）	教育における心理学の役割を理解する
3.発達とは（発達とその要因）	発達について心理学的に理解できること
4.発達の原理と段階	発達段階とその理論を理解できること
5.身体・運動機能の発達	講義内容について次回レポート提出
6.言語機能の発達	講義内容について次回レポート提出
7.認知機能の発達	講義内容について次回レポート提出
8.社会的能力の発達	講義内容について次回レポート提出
9.学習とは（学習とその様式）	学習について心理学的に理解できること
10.学習の諸相（学習の方法と環境）	教育心理学的実践例を通して理解できる
11.学習指導とは（学習指導とその方法）	教育心理学的実践例を通して理解できる
12.学習指導と動機づけ	学習における動機づけの役割を理解する
13.学級集団とは（学級集団とその発達、学級集団の指導）	学級集団に関する心理学理論を理解する
14.学習の評価とは（評価とその方法、能力と行動の評価）	評価の具体的指標と方法を理解する
15.主体的な学習活動を支える指導	近年の教育心理学の知見を理解する
16. 定期試験	

履修上の注意

第１回目に講義の進め方と注意事項を説明する。

成績評価方法・基準

レポート課題 20%, 試験 80%　　課題については後日、講義の中でフィードバックする。

教科書　授業の前に資料（プリント）を配布する。

参考書

[カウンセリングを教育にいかす][宮前理編著][八千代出版][2,160 円]

[中学校学習指導要領 平成 29 年][高等学校学習指導要領 平成 31 年発行予定]

備　考

質問等は、講義終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受付けます。

授業科目名	教育制度論					単位（総授業時間＋自習時間）		2(30+60)
担当者	宮澤　孝子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家政・生美３年

授業概要

本講義では現代の学校教育を取り巻く制度を理解するため、主に次の３つの内容を取り扱う。第一に、日本と諸外国の学校教育の制度を原理的、歴史的、構造的に解説する。第二に、学校教育制度を構成している教育関係の法規や、教育制度を実行に移す主体としての教育行政の仕組みについて講義する。その際、学校教育における課題と近年の教育政策とを関連付けながら解説する。第三に、学校と地域の連携ないし協働に対する意義を、学校安全に関する法律にも触れながら紹介する。

授業の到達目標

1．学校教育に関する制度的な基礎知識を習得する。
2．社会と学校教育の結びつきを理解し、教育政策の動向を理解する。
3．学校と地域の連携および学校安全への対応に関する知識を身につける。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.オリエンテーション	シラバスの確認、学習内容を見通す
2.公教育の原理・理念	公教育の意味について考える/復習
3.公教育制度の構造（1）戦前	教育勅語について調べる/復習
4.公教育制度の構造（2）戦後	学習指導要領(試案)を読む/復習
5.教育関係の法規①：日本国憲法と教育基本法	改正前後の教育基本法の比較（文部科学省HP 参照）を読む/復習
6.教育関係の法規②：学校教育法と関係法令	学校教育法を読む/復習
7.教育行政の理念	教育行政の条件整備義務について考える/復習
8.教育行政の仕組み	文部科学省の権限と組織について調べる/復習
9.教育委員会制度	出身地の教育委員会の組織と主な取り組みを調べる/復習
10.学校を巡る状況と指導上の課題	少人数学級等、教師の働き方と関連する政策について考える/復習
11.近年の教育政策の動向	
12.学校と地域の連携①：地域との連携・協働による学校教育活動	出身地の学校体系の特徴を調べる/復習
13.学校と地域の連携②：開かれた学校づくり	開かれた学校づくりについて調べる/復習
14.学校安全への対応①：学校保健安全法と学校安全	学校安全に関わる今日的問題、出来事について調べる/復習
15.学校安全への対応②：安全管理・安全教育の取り組み	
16.試験	

履修上の注意

試験を受けるにあたっては、3/2 以上の授業出席を条件とする。
講義形式およびディスカッション形式にて授業を進めるため、積極的な参加を期待します。

成績評価方法・基準

平常点 50%（リアクションペーパーの内容、課題）、期末試験 50%
各回でのリアクションペーパー、課題については、次回の授業冒頭においてフィードバックをする。

教科書　各授業前にレジュメ・資料を配布します。

参考書〔教育小六法 2019 年版〕〔市川須美子他 編〕〔学陽書房〕〔2,916 円〕

備　考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
都合により、授業計画を変更する場合があります。

授業科目名	教育課程論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	中島夏子・宮澤孝子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家政・生美２年

授業概要

本講義は教育課程とその編成方法について学ぶことを目的とする。各授業では、学習指導要領の位置づけやその内容、教育課程の編成の原理、カリキュラム・マネジメント等の教育課程の基礎的な知識を、関連資料の読解やグループワーク等を通して理解する。また、指導計画を立てることを通して、指導計画と教育課程の編成の仕方を習得する。

授業の到達目標

1．学校教育において教育課程が有する意義を理解する。
2．教育課程編成の原理及び方法を理解する。
3．カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．教育課程の社会における役割と機能（中島、宮澤）	教育課程について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
2．教育課程の基本構造（中島、宮澤）	教育課程の基本構造について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
3．学習指導要領の位置づけと教育課程編成の目的（中島、宮澤）	学習指導要領の制度について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
4．学校における教育課程と授業の指導計画（中島、宮澤）	学校における教育課程と授業の指導案について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
5．教育課程編成の原理（中島、宮澤）	教育課程編成の原理について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
6．学習指導要領の変遷（中島、宮澤）	教育課程の歴史について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
7．現行学習指導要領の特質（中島、宮澤）	学習指導要領の特質について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
8．教科横断的な教育課程とカリキュラム・マネジメント（中島）	カリキュラム・マネジメントについて調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
9．教育評価とカリキュラム評価（中島）	教育評価とカリキュラム評価について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
10. 中間まとめと試験（中島、宮澤）	これまでに学んだ事を配布資料を中心に復習する。
11. 教育課程の編成の方法（中島）	教育課程の編成方法について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
12. 指導計画を編成する（グループ活動）（中島）	指導計画を作成し、グループ活動に備える。
13. 指導計画を編成する（グループ報告会）（中島）	グループの報告の準備を行う。報告を踏まえて教育課程の修正を行う。
14. 指導計画を編成する（個人活動）（中島）	グループ活動で学んだ事を振り返り、教育課程を作成する。
15. まとめ（中島、宮澤）	これまでに学んだ事を配布資料を中心に復習する。

履修上の注意

授業の進行状況によって授業計画の順番が前後することがある。

成績評価方法・基準

各授業で課すレポート（40%）、中間試験（30%）、指導計画およびその発表内容（30%）
＊各授業で課すレポートは、授業中にフィードバックを行う。
＊中間試験は、その場で採点し、解説を行う。
＊指導計画については、添削を行う。

教科書　自作資料を準備する。授業前に配布する。

参考書

〔中学校学習指導要領（平成29年3月告示）〕〔文科省〕〔352円〕
〔高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）〕〔文科省〕
＊学習指導要領は文部科学省のウェブサイトからダウンロードも可能
〔ワークで学ぶ教育課程論〕〔尾崎博美・井藤元編著 2018 年〕〔ナカニシヤ出版〕〔2,808 円〕

備　考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等は、授業終了後受け付ける。

授業科目名	家庭科教育法Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）					4（60＋120）
担当者	佐藤　郷美	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	家政３年

授業概要

家庭科教育における教育目標，育成を目指す資質・能力を理解し，学習指導要領に示された家庭科教育の学習内容（A 家族・家庭生活，B 衣食住の生活，C 消費生活・環境）について，背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに，様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法とともに学習指導案の作成や模擬授業を通して，指導技術の向上を図る。
テーマ　～家庭科教育の理解と指導技術の向上を目指して～

授業の到達目標

・家庭科教育に関する学習指導要領に示された目標や内容を身に付ける。

・家庭科教育に関する具体的な学習指導理論を身に付ける。

・家庭科における具体的な授業場面を想定した授業設計を身に付ける。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．家庭科教育とは　家庭科で育てる資質・能力について	学習指導要領の基本方針を読む
2．家庭科教育の歴史とその変遷	家庭科教育の変遷について調べる
3．家庭科教育の意義とその展望	最近のニュース等で家庭科記事の収集
4．小学校における家庭科教育の内容について	小学校での学びのまとめ
5．中学校における家庭科教育の内容について	中学校での学びのまとめ
6．高等学校における家庭科教育の内容について	高校での学びのまとめ
7．ホームプロジェクト・家庭クラブと技能検定	教科書関連部分を読む
8．教科，道徳及び総合的な学習などとの関連・教育課程	学習指導要領，関連部分を読む
9．情報機器の操作と活用法	学習指導要領，教科書関連部分を読む
10. 学習指導計画①　作成の意義，留意点，等	学習指導要領，関連部分を読む
11. 学習指導計画②　年間指導計画案と題材指導計画案	学習指導要領，関連部分を読む
12. 学習指導案の作成（その形式と留意点）	学習指導要領，関連部分を読む
13. 学習指導過程の作成①（導入・展開）	指導案の作成
14. 学習指導過程の作成②（展開・終結）	指導案の作成
15. 学習指導案過程の作成に関するまとめと試験	今までの学びの復習
16. 家庭科教育に関する施設・設備の必要性と管理運営	学習指導要領，関連部分を読む
17. 学習指導方法①　学習類型と指導形態	学習指導要領，関連部分を読む
18. 学習指導方法②　実験・実習の指導と家庭科の特質	学習指導要領，関連部分を読む
19. 家庭科教育における教材研究①　教材作成上留意点	家庭科食と衣の教材調べ
20. 家庭科教育における教材研究②　教材づくりと授業の実際	教材づくりと発表準備
21. 評価について　評価方法とその実際	評価について調べる
22. 学習指導案の作成①（前段）	学習指導案の題材を決める
23. 学習指導案の作成②（本時の指導）	学習指導案，本時の指導を構想する
24. 学習指導案作成発表	学習指導案づくりと発表準備
25. 模擬授業①　～主に導入	模擬授業の準備，まとめ（導入）
26. 模擬授業②　～展開	模擬授業の準備，まとめ（展開）
27. 模擬授業③　～板書・学習カード	模擬授業の準備，まとめ（板書，カード）
28. 模擬授業④　～教材・教具	模擬授業の準備，まとめ（教材教具）
29. 模擬授業⑤　～まとめの工夫	模擬授業の準備，まとめ（まとめの工夫）
30. これまでの学習のまとめと教育実習	これまでの学びをまとめる
31. 試験	

履修上の注意

出席を重視する（遅刻禁）。提出物は期限厳守で必須。

成績評価方法・基準

講義と共に実践的・体験的な学びに対する真摯な取組み。
講義への出席と取組状況　４０％　定期考査　３０％　学習指導案及び模擬授業　３０％
次回の授業内でフィードバックをします。

教科書

中学校　教科書　技術・家庭（家庭分野）　開隆堂　643 円
高等学校　教科書　家庭総合　開隆堂　778 円

参考書

中学校学習指導要領解説　技術・家庭編　文部科学省/編　教育図書　82 円
高等学校学習指導要領解説　家庭編　文部科学省（著）288 円

備　考

授業終了時に質問を受け付けます。

授業科目名	家庭科教育法Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				4（60+120）	
担当者	深澤　律子	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	家政４年

授業概要

家庭科および家庭科教育を理解し、中学校「技術・家庭科」の家庭分野及び高等学校家庭科の授業のための実践力を修得する。そのために学習指導計画・指導法・評価・教材研究の進め方・教材教具の作成等演習を重視して、総合的・実践的な学習を深め、教育実習をより効果的に行う能力と態度を育成する。中学（高校）生の現代の生活課題について理解し、生徒がその課題を解決するための教材を考え、生徒が主体的に学ぶ家庭科の授業を作るための実践力を身につける。

授業の到達目標

①中学（高等学校）家庭科の指導要領を理解した上で、指導案を計画することができる。

②中学（高等学校）家庭科の指導要領を理解した上で、教材研究、教材教具の作成を行うことができる。

③中学（高等学校）家庭科の教育実習にむけて、自分の家庭生活の自立ができる。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス：教育実習について　模擬授業実践計画	学習指導要領をよく読み、教育実習で行う学校（中・高）の学習指導要領をまとめ、次回提出。
2.教育実習：教育実習事前指導　教材研究・指導案	教育実習で行う学校（中・高）の教材研究・指導案を調べてまとめ、次回提出。
3.教員採用試験に向けて・指導細案作成方法	前回まとめた教材研究・指導案を更に詳しくまとめ、次回提出。
4.学習指導：模擬授業実践に向けて（教材研究の要点）	教材研究について資料を集め、具体的に教材を作成し、次回提出。
5.情報機器の操作と活用法	情報機器の操作と活用法について、具体的な活用法を調べ、次回提出。
6．模擬授業Ⅰ：模擬授業実践①（導入の工夫・展開の山場）	模擬授業内容のタイムテーブルを作成し、次回提出。
6．　〃　：模擬授業実践②（まとめの工夫）	模擬授業内容のポイントとまとめをレポートにまとめ、次回提出。
7．　〃　：模擬授業実践③（板書の工夫）	模擬授業内容の板書すべきことをレポートにまとめ、次回提出。
8．　〃　：模擬授業実践④（評価の研究）	模擬授業内容の評価について、ルーブリック評価法をレポートにまとめ、次回提出。
9．　〃　：模擬授業実践⑤（教材教具の工夫と掲示）	模擬授業内容の教材教具について作成し、次回発表できるよう準備。
10.教育実習のまとめ：教育実習の反省・評価・まとめ	模擬授業内容についてのアンケート用紙を作成し、次回提出。
11.教育実習研究授業実践発表会・評価①	教育実習研究授業内容について自分で準備し、練習し、授業に備える。（課題 1）
12.　〃　②	教育実習研究授業内容について自分で準備し、練習し、授業に備える。（課題 2）
14.　〃　③	教育実習研究授業内容について自分で準備し、練習し、授業に備える。（課題 3）
15. 模擬授業実践の反省・評価　教員採用試験に向けて	模擬授業を行っての反省・評価をまとめ、教員採用試験にむけての決意を 800 字にまとめ次回提出。
16.学習指導計画：体験・実習・実験学習実践指導法	教科書をよく読み、体験・実習・実験の事例をレポートにまとめ、次回提出。
17.実践学習指導：実践学習の進め方（シニア体験学習）	体験学習の感想をレポートにまとめ、次回提出。
18.　〃　：　〃　（家庭看護）	実践学習の感想をレポートにまとめ、次回提出。
19.実験・実習学習指導の進め方：（食物分野）	教科書をよく読み、食物分野の実習・実験の事例をレポートにまとめ、次回提出。
20. 実験・実習学習指導の進め方：（衣生活分野）	教科書をよく読み、衣生活分野の実習・実験の事例をレポートにまとめ、次回提出。
21.模擬授業の計画：模擬授業指導案作成（食物分野）	教科書をよく読み、食物分野の模擬授業指導案を作成し、次回提出。

22.模擬授業Ⅱ：食物分野実験学習指導①（導入の工夫）	授業内容のタイムテーブルを作成し、次回提出。
23. 〃 : 〃 ②（展開の山場）	授業内容のタイムテーブルに補足を加え、次回提出。
24. 〃 : 〃 ③（板書・学習プリント）	教科書をよく読み、食物分野の実習の学習プリントを作成し、次回提出。
25. 〃 : 〃 ④（教材教具の工夫）	教科書をよく読み、食物分野の実習の教材を作成又は試作し、まとめたものを次回提出。
26. 模擬授業Ⅲ：衣生活分野実習学習指導①（導入の工夫）	授業内容のタイムテーブルを作成し、次回提出。
27. 〃 : 〃 ②（展開の山場）	授業内容のタイムテーブルに補足を加え、次回提出。
28. 〃 : 〃 ③（板書・学習プリント）	教科書をよく読み、衣生活分野の実習の学習プリントを作成し、次回提出。
29. 〃 : 〃 ④（教材教具の工夫）	教科書をよく読み衣生活分野の教材を作成し、レポートにまとめ、次回提出。
30.まとめ：模擬授業のまとめと評価、反省	実習の模擬授業の感想をレポートにまとめ、次回提出。
31 試験.	

履修上の注意

・受講は、自分が教育実習で授業を行うことを想定し、家庭科の教科書（中・高）・指導要領の精読を心がける。模擬授業の教材研究は、自主的にニュースや新聞、関連図書等で下調べを行い資料収集し、教材作成や試作を行うなど、積極的に取り組む態度を望みます。家庭科の内容（家族・家庭生活、衣・食・住・環境・消費者教育・情報）について、自分の日常生活の中で考え、実践する態度が重要です。

成績評価方法・基準

定期試験 50%、レポート・提出物 25%、模擬授業の実践 25%（学習指導計画案、指導技術、態度等）
提出されたレポートは、後日添削して返却する。課題については授業中にフィードバックする。

教科書　家庭科教育法Ⅰで使用したものを継続使用する。

参考書　無し

備　考

・就職関連で休む場合、事前にわかっている場合は、前もって連絡してください。
・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
・ルーブリック評価については第 1 回目の授業で説明します。学習目標として参照してください。
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。

授業科目名	美術科教育法Ⅰ		単位（総授業時間＋自習時間）		4（60＋120）				
担当者	加美山　裕子	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	生美３年

授業概要

中学校美術科・高等学校美術科の教員に必要とされる基礎的な指導理論の修得を図る。美術教育の時代的変遷を学び，学習指導要領の内容・構造の理解を図るとともに，基礎的な指導方法や造形的表現技術の指導方法について修得させる。中学校美術科の教科書を使った教材研究や模擬授業を行い，４年次での教育実習に向けての準備としていきたい。

授業の到達目標

・一つ一つの題材に含まれる教材としての価値・内容を把握，理解する。

・個々の学習内容を分析して，指導する上での留意点を理解し，創造的・造形的視点での授業が展開できる力を身につける。

・基礎的な学習指導理論を理解し，具体的授業を想定した授業計画を立てて学習指導案の作成がスムーズにできる。

（ア）模擬授業を通して学習指導案の具体的実践を体験し，授業改善の視点を理解する。

（イ）４年次での教育実習における基本的・実践的な学習指導方法の基礎を養う。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.オリエンテーション，美術教育とは何か。	配布されたレジュメによく目を通し，ファイリングを始める。
２.学びの基礎とはⅠ（学校教育の意義）	学校教育の意義について，講義内容を理解・把握し，次回実施のレポートに備える。
３.学びの基礎とはⅡ（学びと評価，指導の手立て）	レジュメを熟読しておく。
４.美術教育の確立Ⅰ（教科としての美術教育）	レジュメを熟読しておく。
５.美術教育の確立Ⅱ（①美術教育の目指すもの）	レジュメを熟読しておく。
６.美術教育の確立Ⅱ（②基礎・基本の指導の重要性）	課題として人間の発達段階について考え，配布されたプリントに記入。
7. 美術教育の確立Ⅲ（①発達課題と美術教育のかかわり）	レジュメを熟読しておく。
８.美術教育の確立　Ⅲ（②パートナーシップを生かした美術学習）	レジュメを熟読し，その活用について考えをまとめる。
９.学校の役割と美術教育Ⅰ（①学校の教育役割）	レジュメを熟読しておく。
10.学校の役割と美術教育Ⅰ（②美術における発展的学習について）	レジュメを熟読しておく。
11.学校の役割と美術教育Ⅰ（③表現の学習に関する指導）	レジュメを熟読しておく。
12.学校の役割と美術教育Ⅱ（教員養成から考察した造形教育指導上の課題）	レジュメを熟読しておく。
13.学習指導要領の研究（①学習指導要領について）	レジュメを熟読しておく。
14.学習指導要領の研究（②指導計画の作成と内容の取り扱い）	ここまで学修した内容を復習しまとめ，次回のレポート作成に備える。
15.美術教育の指導（指導と評価の一体化）	レジュメを熟読しておく。
16.美術教育での評価Ⅰ（①評価の種類）	レジュメを熟読しておく。
17.美術教育での評価Ⅰ（②評価の観点）	レジュメを熟読しておく。
18.美術指導での改革（美術指導を改革していく７つのポイント）	レジュメを熟読しておく。
19.学習指導案の作成について	指導案の参考資料等に目を通し，形式や記入すべき内容について理解・把握しておく。
20.指導内容・題材の分析	指導内容や題材についてまとめ，次回活用。
21.学習指導案作成　①	授業で使用する資料や参考作品の準備を行う。
22.学習指導案作成　②	自作の参考作品づくり等を進める。
23.学習指導案作成　③	指導案を完成させ，次回提出。
24.模擬授業実践　①	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
25.模擬授業実践　②	自己の模擬授業の準備や練習。

26.模擬授業実践　③	自己の模擬授業の準備や練習。
27.模擬授業実践　④	模擬授業から学んだ事をまとめておく。
28.模擬授業の講評とまとめ	模擬授業から学んだ事を自己の授業実践に生かせる手立てを考えていく。
29.指導計画について（年間指導計画の作成）	模擬授業を通して学んだ事についてまとめ，次回レポート記入。
30.美術科指導理論のまとめと教育実習に向けて	配布された全レジュメのファイリングを確認。

履修上の注意

・講義時に適宜配布するレジュメを順次ファイリングしていき，受講の際は必ず持参すること。

・自主的，意欲的に受講し，講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め，提出物は期限厳守で提出すること。

成績評価方法・基準

レポート・提出物（学習指導案　他）（６０％），　模擬授業（３０％），　受講態度（１０％）

・提出されたレポート等は，後日添削して返却する。

・模擬授業演習は，授業でのフィードバックと紙面による講評および意欲づけ（個々に）を行う。

教科書

・〔中学校学習指導要領美術編〕〔平成３０年　文部科学省〕〔１００円前後〕，〔高等学校学習指導要領芸術編〕〔文部科学省〕〔３５０円前後〕

・授業毎に適宜，テキストに代わるプリント（レジュメ）を配布する。

参考書

・〔中学校美術科教科書〕〔日文出版〕〔１，０００円前後〕，〔中学校美術資料集〕〔秀学社編〕〔７８０円〕

備　考

・質問等については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間等は適宜指示するので確認）で受付けます。

授業科目名	美術科教育法Ⅱ	単位（総授業時間＋自習時間）	4（60＋120）

担当者	加美山　裕子	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	生美４年

授業概要

教育実習の持つ意義等について理解を深め，授業実践への意欲を高める。模擬授業の展開にあたり，教材の分析や指導案作成の手順を具体例に即して把握させ美術指導の実践力を養いたい。題材の展開や授業の進め方などを模擬授業の中で理解させるとともに，美術指導における「指導と評価のあり方」や美術教育の意義やねらいについての自己の考えをしっかりと持つことができるようにしていきたい。

授業の到達目標

・美術科における効果的指導力の向上を目指し学習指導要領についてその全体構造を理解，把握している。

・子どもの発達段階における思考力や学力等の実態を考慮した授業計画を立案できる。

・美術科の特性に応じた教材の選択や情報機器の活用法について理解し，自己の授業設計に活用していくことができる。

・美術科の指導理論の理解，把握の下に学習指導案の作成がスムーズにできて，それに基づいた模擬授業の実践を充実させることができる。

・美術科における学習の評価について理解し，授業計画に取り入れて活用することができる。

・美術教育の持つ意義と目標を理解，把握し，そこから学校現場における実践感覚を育み，自己の指導力の向上に努めることができる。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.オリエンテーション，美術教育について	配布されたレジュメによく目を通し，ファイリングを始める。
2.教育実習での留意事項と心得①	実習校訪問時のあいさつ等の練習をしておく。
3.教育実習での留意事項と心得②	レジュメを熟読し，実習時のイメージを持つ。
4.学習指導案の書き方〈確認〉	復習と確認を行う。
5.美術教育の確立①（義務教育の目指すもの）	レジュメを熟読しておく。
6.美術教育の確立②（美術教育の持つ教育力）	レジュメを熟読しておく。
7.中学校での美術の授業①（美術教育の特色）	レジュメを熟読しておく。
8.中学校での美術の授業②（題材について）	レジュメを熟読しておく。
9.年間指導計画の実際について	基本的な考え方を理解し，次回の作成に生かせるようにする。
10.年間指導計画案作成①	指導計画案の作成を進める。
11.年間指導計画案作成②	指導計画案を完成させ，次回提出。
12.教育実習報告①	自己の報告書をまとめる。
13.教育実習報告②	自己の報告書をまとめる。
14.教員採用試験に向けて・諸注意	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
15.教育実習時の指導案による模擬授業①	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
16.教育実習時の指導案による模擬授業②	模擬授業から学んだことをまとめておく。
17 教育実習の講評とまとめ.	教育実習の反省とまとめをし，報告書を提出できるよう準備する。
18.美術の授業の特色（授業づくりの基本的留意点）	レジュメを熟読しておく。
19.美術教育の評価と指導①（学びと評価）	レジュメを熟読しておく。
20.美術教育の評価と指導②（絶対評価と指導の実際）	レジュメを熟読しておく。
21.学習指導案の作成について	レジュメを熟読し，題材について考えておく。
22.題材分析と評価をふまえた指導計画	題材の分析表を完成させ次回提出。
23.学習指導案の作成①	授業で使用する資料や参考作品の準備を始める。

24.　〃　②	授業で使用する資料の調達，自作参考作品の準備を進める。
25.　〃　③	指導案を完成させる。
26.模擬授業発表　①	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
27.　〃　②	自己の模擬授業の準備や練習。
28.　〃　③	自己の模擬授業の準備や練習。
29.　〃　④	自他の模擬授業から学んだことを振り返り，美術科の指導の基本やポイントについてまとめておく。
30.模擬授業の講評，美術科指導理論のまとめ	配布された全レジュメのファイリングを確認。

履修上の注意

・講義時に適宜配布するレジュメを順次ファイリングしていき，受講の際は必ず持参すること。

・自主的，意欲的に受講し，講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め，提出物は期限厳守で提出すること。

成績評価方法・基準

レポート・提出物（学習指導案，年間計画，題材分析　他）（５０%），　模擬授業　（４０%），受講態度　（１０%）

・提出されたレポート等は，後日添削して返却する。

・模擬授業演習は，授業でのフィードバックと紙面による講評および意欲づけ（個々に）を行う。

教科書

・〔中学校学習指導要領美術編〕〔文科省〕〔１００円前後〕，〔高等学校学習指導要領芸術編〕〔文科省〕〔３５０円前後〕＊３年次に購入のものを継続して使用する。

＊授業毎に適宜，テキストに代わるプリント（レジュメ）を配布する。

参考書

・〔中学校美術科教科書〕〔日文出版〕〔１，０００円前後〕，〔中学校美術資料集〕〔秀学社編〕〔７８０円〕

＊３年次に購入のものを継続して使用する。

備　考

・質問については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間等は適宜指示するので確認）で受付けます。

授業科目名	工芸科教育法			単位（総授業時間＋自習時間）					4（60+120）
担当者	瀬戸　典彦	必・選	選	形態	講義	学期	通年	対象	生美３年

授業概要

①「人間」、「教育」、「芸術」の定義について考察を促す。②教育の意味及び、教育における芸術科の役割について理解を促す。③「高等学校学習指導要領解説・芸術」に記載された「美術」と「工芸」の関係について理解を促す。④美術科と工芸科の違いと工芸科の特長について考察を促す。⑤工芸科学習指導要領に関する理解を促し、教材開発能力を育成する。⑥模擬授業の実践をとおして、学習指導案の作成力と授業の実践力を高める。⑦工芸科教育の可能性について示唆を与える。

授業の到達目標

学校教育における工芸科の意味と重要性について説明できる。

工芸科学習指導要領に示された教科の目的や内容を理解する。

基礎的な学習指導論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.オリエンテーション–工芸科教育の現状と可能性について	ワークシートによる予習
2.人間と教育について①–林竹二の教育論をとおして	ワークシートによる復習・予習
3.人間と教育について②–授業の役割　教師の役割	ワークシートによる復習・予習
4.人間と教育について②–芸術教育と工芸科の役割について	ワークシートによる復習・予習
5.人間と教育について③–シュタイナー教育の原点をとおして（子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性について）	ワークシートによる復習・予習
6 人間と教育について④–能動的学習の意味と工芸科における応用について	ワークシートによる復習・予習
7.教育と表現教育–国家と経済と精神性に関する考察をとうして	ワークシートによる復習・予習
8.鑑賞教育の意味とあり方について	ワークシートによる復習・予習
9.鑑賞教育と道徳教育について–ビアジェの「三つの山問題」をとおして	ワークシートによる復習・予習
10.工芸科における社会的視点について①–バウハウスに至るまで	ワークシートによる復習・予習
11.工芸科における社会的視点について②–バウハウスのコンセプト	ワークシートによる復習・予習
12.工芸科における社会的視点について③–バウハウスにおける実験	ワークシートによる復習・予習
13.工芸科における社会的視点について④バウハウスの遺産–製品デザインに与えた影響をとおして	ワークシートによる復習・予習
14.工芸科における社会的視点について⑤バウハウスの遺産–建築デザインに与えた影響をとおして	ワークシートによる復習・予習
15.工芸科における社会的視点について⑥バウハウスの遺産–教育に与えた影響をとおして	ワークシートによる復習・予習
16.工芸科学習指導要領の概要について	ワークシートによる復習・予習
17.工芸科学習指導要領における工芸 I の位置づけについて-「工芸 I」(文部科学省認定済教科書)の概要について	ワークシートによる復習・予習
18 工芸科学習指導要領における工芸 II の位置づけについて-「工芸 II」(文部科学省認定済教科書)の概要について	ワークシートによる復習・予習
19 工芸科学習指導要領における工芸 III の位置づけについて	ワークシートによる復習・予習
20「工芸 I」(文部科学省認定済教科書)の具体的応用について	ワークシートによる復習・予習
21「工芸 II」(文部科学省認定済教科書)の具体的応用について	ワークシートによる復習・予習
22.授業における工芸 III の具体的展開について–工芸科学習指導要領をとおして	ワークシートによる復習・予習
23 工芸科学習指導要領に即した評価方法について	ワークシートによる復習・予習

24 工芸科学習指導要領における「A 表現」の「(1) 身近な生活と工芸」に係る学習指導案の作成	ワークシートによる復習・予習
25 工芸科学習指導要領における「A 表現」の「(1) 身近な生活と工芸」に係る模擬授業の実践と振り返り	ワークシートによる復習・予習
26 工芸科学習指導要領における「A 表現」の「(2) 社会と工芸」に係る学習指導案の作成	ワークシートによる復習・予習
27 工芸科学習指導要領における「A 表現」の「(2) 社会と工芸」に係る模擬授業の実践と振り返り	ワークシートによる復習・予習
28 工芸科学習指導要領における「B 鑑賞」に係る学習指導案の作成について（授業における情報機器等の効果的活用方法を含む）	ワークシートによる復習・予習
29 工芸科学習指導要領における「B 鑑賞」に係る模擬授業の実践と振り返り（授業における情報機器等の効果的活用方法を含む）	ワークシートによる復習・予習
30　工芸科の可能性と工芸科教育における応用について（発展的な学習内容に関する探求と授業実践の事例をとおして）	ワークシートによる復習

履修上の注意

無断遅刻／欠席をしないこと

成績評価方法・基準

ワークシート：60%（フィードバックを行う）　指導案：20%（フィードバックを行う）　模擬授業：20%（フィードバックを行う）

教科書　〔**高等学校学習指導要領解説**〕（データ版：無料）

参考書　〔**工芸 I**〕〔**工芸 II**〕〔**日本文京出版株式会社**〕

備　考　オフィスアワー：2 時間/ 1 週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

授業科目名	道徳教育の指導法					単位（総授業時間＋自習時間）		2(30＋60)
担当者	加美山　裕子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家政・生美３年

授業概要

道徳性の涵養は，人間性発達の根幹をなすものである。道徳性を培い道徳的実践力の育成のためには，学校における「道徳科」の時間だけでなく教育活動全体を通して行われる必要がある。その基盤となるのはしっかりとした指導計画に沿った計画的な指導の実践である。ここでは道徳の意義・本質の把握や道徳教育の歴史の理解，道徳教材の分析などを通して，学校における「道徳科」の指導方法の修得を図りたい。

授業の到達目標

・道徳の本質について理解し，道徳教育の歴史と時代や社会との関係について説明できる。

・学習指導要領の道徳教育及び道徳科の目標や内容を理解し．子どもの道徳性の発達と道徳教育の担う役割について把握し，その重要性を受け止めることができる。

・学校における道徳教育の指導計画や学校教育活動全体を通じた指導の重要性について理解，把握している。

・道徳科の教材への理解をふまえて授業計画を立てることができ，授業のねらいを明確にした学習指導案を作成することができる。

・道徳科の特性をふまえた学習評価の在り方について理解する。

・模擬授業の実践を通して道徳の授業の実際を学び，そこから授業改善の視点を身に付ける。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.オリエンテーション，道徳の定義	配布されたレジュメを精読し，ファイリングを始める。
2.道徳教育の基礎Ⅰ（学校における道徳教育の充実）	配布されたプリントで予習をし，次回の講義で使用。
3.道徳教育の基礎Ⅱ（指導要領改訂の歩から見る道徳教育の歴史・道徳教育の目標）	指示された課題について調べ，次回のレポート作成に備える。
4.道徳教育の基礎Ⅲ（生き方教育としての道徳教育）	レジュメを熟読し，復習とまとめをしていく。
5.道徳教育の基本的あり方①（内容項目と主題について）	配布されたレジュメの熟読と復習。
6.道徳教育の基本的あり方②（道徳教育の基本的あり方）	〃
7.道徳教育の基本的あり方③（道徳性の発達と道徳教育）	〃
8.道徳性の具体的把握①（道徳的判断力とは）	〃
9.道徳性の具体的把握②（ピアジェ・コールバーグ等の理論）	次回のレポート作成に備え，復習とまとめをしておく。
10.道徳性の具体的把握③（道徳的実践意欲とは・道徳性を育む家庭教育の役割）	配布されたレジュメを熟読し，理解・把握に努める。
11.道徳科の学習評価について	〃
12.学習指導案の内容と作成（教材分析と指導案の作成について）	レジュメを熟読し，指導案作成に生かせるようにする。
13.道徳科指導案の作成	道徳学習指導案を完成させ次回提出。
14.道徳の授業の実際（模擬授業①）	模擬授業から学んだことを自己の授業実践に生かせる手立てを考える。
15.道徳の授業の実際（模擬授業②），講評とまとめ	道徳指導の基本や本質について復習とまとめを行い試験に備える。
16.定期試験	

履修上の注意

・講義時に配布するレジュメを順次ファイリングし，受講の際は必ず持参すること。
・自主的，意欲的に受講し，講義中は進んでメモをとる等，自己の学修の積み重ねに努めること。
・指示された提出物は，提出期限を守って必ず提出すること。

成績評価方法・基準

レポート等の提出物・学習指導案・模擬授業（４０%），　期末試験（５０%），　受講態度（１０%）
・提出されたレポート等は，後日添削して返却する。
・試験は，後日答案用紙に解答例の添削とコメントを加えて返却する。

教科書

〔中学校学習指導要領道徳科編〕〔平成３０年１０月　文部科学省〕〔１５０円前後〕
＊講義時に適宜，テキストに代わるプリント（レジュメ）を配布する。

参考書

＊必要な資料等は適宜，プリントにして配布する。

備　考・質問等については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間等はその都度指示）で受け付けます。

授業科目名	特別活動の指導法				単位（総授業時間＋自習時間）		1(15+30)		
担当者	須藤　由子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	家政・生美２年

授業概要

特別活動の意義や教育課程における位置付け，目標，内容を理解する。横断的な学習，集団活動の指導方法についてグループワークや討論を取り入れる中で具体的に理解し，指導案作成や模擬授業等を通して実践的指導力を育成する。実際におこなわれている授業実践について知り，評価ができる。随時 DVD 鑑賞等も行い、より実践的な視点からの理解を深める。

授業の到達目標

特別活動の意義や位置付け，目標や内容について考察する。

生徒の実態や総合的な学習の時間及び特別活動の具体例を題材に，指導・支援の在り方を考察する。

課題発表や討議等を取り入れて授業を展開するので，講義中の意見発表が求める。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．特別活動とは(授業オリエンテーション)	「学習指導解説書」の該当ページを読んでくる（前時にページを指示します。
2．特別活動の目標と内容	「学習指導解説書」の該当ページを読んでくる（前時にページを指示します。
3．特別活動の歴史と変遷	「学習指導解説書」の該当ページを読んでくる（前時にページを指示します。
4．子どもの現状と特別活動	「学習指導解説書」の該当ページを読んでくる（前時にページを指示します。
5．中学校における学級活動の目標と内容・指導ポイント	「学習指導解説書」の該当ページを読んでくる（前時にページを指示します。
6．高等学校におけるホームルーム活動の目標と内容・指導ポイント	「学習指導解説書」の該当ページを読んでくる（前時にページを指示します。
7．生徒会活動　（目標と内容・指導のポイント）	「学習指導解説書」の該当ページを読んでくる（前時にページを指示します。
8．学校行事　（目標と内容・指導のポイント）	「学習指導解説書」の該当ページを読んでくる（前時にページを指示します。
9．勤労体験・奉仕的活動	「学習指導解説書」の該当ページを読んでくる（前時にページを指示します。
10. 部活動の意義と指導の在り方	「学習指導解説書」の該当ページを読んでくる（前時にページを指示します。
11. 年間指導計画の作成	模擬授業のための指導案準備
12. 学習指導案の作成	模擬授業のための指導案準備
13. グループ別による模擬授業（１）教員の生徒理解、雰囲気作り、自由な意見交換など）	模擬授業のための指導案準備
14. グループ別による模擬授業（２）連帯意識、自主的・実践的態度の育成、社会的資質の育成など	模擬授業のための指導案準備
15. まとめ（指導法、留意事項などについての発表・討論）	試験に向けての復習
16. 試験	

履修上の注意

20 分遅刻の場合は、欠席とみなします。

成績評価方法・基準

・小論文（20%），期末試験（50%），講義中の議論への貢献度合い（30%）を総合して評価する。

・授業中に発表する機会があります。発表後その場でコメントします。

教科書〔中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編，特別活動編〕（平成 30 年 2 月下旬に発行予定）

参考書〔新しい特別活動指導論〕〔高旗 正人 〕〔ミネルヴァ書房〕

備　考　質問等については、授業終了後または、東北生活文化大学高等学校入試広報室で受け付けます。

授業科目名	教育方法論					単位（総授業時間＋自習時間）	2(30＋60)
担当者	清水禎文・松尾　広	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	家政・生美２年

授業概要

教育方法に関する基本的視点を確認した上で、教育方法の基礎的概念（時間と空間、教材･教具）、教育方法の諸類型、教育評価などについて学び、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質･能力を育成するために必要な教育の方法について講義する。

また学校教育においても ICT 化が急速に進む今日において、教育を行う上での教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識･技能を理解し、身につけられるよう具体的な事例を踏まえて紹介する。

授業の到達目標

1　教育方法の基礎的な理論と実践を理解する。
2　教育の目標に適した指導技術を理解し、身につける。
3　視覚的なコミュニケーションの意義と視聴覚機器の特徴を理解する。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.オリエンテーション（目標･内容と方法･評価など）　教育方法を学ぶ意義　教育方法は技術に還元されない（担当：清水）	ワークシート･ふり返りシート
2.教育方法の先行研究 戦後日本における教育方法とその理論（デューイ、ブルーナー、スキナー、ブルーム）　(担当：清水)	プリント予習とワークシート（以下 WS）による復習
3.教育課程の編成と教科の関連性 デューイとブルーナーの教育課程論から教科の意義へ　(担当：清水)	プリント予習と WS による復習
4.学習指導要領と「主体的･対話的で深い学び」　キー･コンピテンシー論から「資質･能力」論へ　(担当：清水)	プリント予習と WS による復習
5.教育方法における人的環境と物的環境　教育方法を規定する物理的要素　学びの時間と空間　(担当：清水)	プリント予習と WS による復習
6. 授業展開における教材の役割　授業の構成要素と教材･教具の意義　(担当：清水)	プリント予習と WS による復習
7.教材開発の方法　生活の中にある教材と教具 (担当：清水)	プリント予習と WS による復習
8.授業の設計と教材分析 授業の中での教材･教具の活用法　(担当：清水)	プリント予習と WS による復習
9.授業改善のための授業分析 授業プロトコルとその分析方法　(担当：清水)	プリント予習と WS による復習
10.指導方法と指導技術　教育の「技術」と教育の「わざ」　(担当：清水)	プリント予習と WS による復習
11.教師の指導力　教育の「わざ」の形成と教師たちの学び合い教育方法における熟達　(担当：清水)	プリント予習と WS による復習
12.教育評価論の発展と類型　教育評価の歴史と類型　絶対評価（目標準拠型評価）の特徴　(担当：清水)	プリント予習と WS による復習
13.授業改善に役立つ評価方法　診断的評価から対話的･協働的･形成的評価の手法　(担当：清水)	プリント予習
14.教育機器の特性　(担当：松尾)	
15.コンピュータを使った効果的な教育方法　(担当：松尾)	
16 定期試験	

履修上の注意

基本的に講義で使用する資料は前回に配布するので、予習時に概略を確認してくること。また、毎回配布するふり返りシートとワークシートを活用して、復習時に基本的知識の定着をはかること。

成績評価方法・基準

レポート課題 20%, 試験 80%
（レポート課題や試験等についてはフィードバックを行う。）

教科書　授業前に資料(プリント)を配布する。

参考書　[中学校学習指導要領][文部科学省][326 円][高等学校学習指導要領][文部科学省][666 円]

備　考　質問等については、授業終了後受け付ける。

授業科目名	生徒指導の理論と方法 A （進路指導の理論及び方法を含む。）		単位（総授業時間＋自習時間）		2(30＋60)
担当者	沼山　博　佐々木　晃	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	家政・生美３年

授業概要

一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、適切かつ組織的に生徒指導を進めていくための資質、能力を身につけるための知識や考え方などについて講義する。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日的課題を理解し、望ましい生徒指導の進め方を学修する。生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとして学びあい、そのために必要な知識・技能の習得を図ることを目指す。進路指導（キャリア教育含む）の意義・理論・指導の在り方についても取り上げる。

授業の到達目標

1）生徒指導・生徒指導の意義や原理を理解する。

2）生徒指導・生徒指導における集団指導・個別指導の進め方を理解する。

3）学修した内容を活用して新たな問題への対応策を考えることができる。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．オリエンテーション 生徒指導の意義と課題（沼山）	生徒指導提要第１章第１節を読む
2．教育課程における生徒指導の位置づけ（沼山）	生徒指導提要第１章第２節を読む
3．集団指導と個別指導の方法原理（沼山）	生徒指導提要第１章第４節を読む
4．進路指導の意義と課題（沼山）	資料（参考書第２章）を読む
5．キャリアカウンセリングの考え方（沼山）	資料（参考書第２章）を読む
6．キャリア教育の視点とカリキュラムマネジメント（沼山）	資料（参考書第２章）を読む
7．生徒理解と生徒指導・進路指導①：生徒理解の方法（沼山）	生徒指導提要第３章を読む
8．生徒理解と生徒指導・進路指導②：発達の理解（沼山）	生徒指導提要第３章を読む
9．生徒指導・進路指導の指導体制（佐々木）	生徒指導提要第４章を読む
10．校則・懲戒・体罰等に関する法令の理解（佐々木）	生徒指導提要第７章を読む 12 に関する資料を踏まえて発表準備する
11．個別の課題を抱える児童生徒への指導（1） ：暴力行為・いじめへの対応　（佐々木）	13 に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第６章Ⅱを読む
12．個別の課題を抱える児童生徒への指導（2） ：不登校への対応　（佐々木）	14 に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第６章Ⅱを読む
13．個別の課題を抱える児童生徒への指導（3） ：SNS や性に関する課題・児童虐待への対応（佐々木）	生徒指導提要第６章Ⅱを読む
14．生徒指導・キャリア教育と家庭・地域との連携（佐々木）	生徒指導提要第８章を読む
15．まとめ　（佐々木）	課題レポートを作成する

履修上の注意

教員を目指す者としての自覚を持って講義に臨んで下さい。

成績評価方法・基準

授業内の課題とレポート（70%）、発表会での発表内容（30%）

授業内課題については、授業中にフィードバックします。

レポートについては、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとします。

教科書［はじめて学ぶ生徒指導・進路指導］［広岡義之］［ミネルヴァ書房］［2,376 円］

［生徒指導提要］［文部科学省］［298 円］

参考書［カウンセリングを教育に生かす］［宮前理編著］［八千代出版］［2,160 円］

備　考

1）都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
2）質問等については授業終了時に受け付けます。

授業科目名	生徒指導の理論と方法 B			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋60)
担当者	沼山　博・佐々木　晃	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	健専３年

授業概要

一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、適切かつ組織的に生徒指導を進めていくための資質、能力を身につけるための知識や考え方などについて講義する。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日的課題を理解し、望ましい生徒指導の進め方を学修する。生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとして学びあい、そのために必要な知識・技能の習得を図ることを目指す。

授業の到達目標

1）生徒指導・生徒指導の意義や原理を理解する。

2）生徒指導・生徒指導における集団指導・個別指導の進め方を理解する。

3）学修した内容を活用して新たな問題への対応策を考えることができる。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．オリエンテーション（沼山）	生徒指導提要第１章第１節を読む
2．生徒指導の意義と課題（沼山）	生徒指導提要第１章第１節を読む
3．教育課程における生徒指導の位置づけ（沼山）	生徒指導提要第１章第２節を読む
4．教科・道徳・総合的学習の時間・特別活動と生徒指導（沼山）	生徒指導提要第２章を読む
5．集団指導と個別指導の方法原理（沼山）	生徒指導提要第１章第４節を読む
6．教育相談と生徒指導（沼山）	生徒指導提要第５章第１節を読む
7．生徒理解と生徒指導・進路指導①：生徒理解の方法（沼山）	生徒指導提要第３章を読む
8．生徒理解と生徒指導・進路指導②：発達の理解（沼山）	生徒指導提要第３章を読む
9．生徒指導の指導体制（佐々木）	生徒指導提要第４章を読む
10. 校則・懲戒・体罰等に関する法令の理解（佐々木）	生徒指導提要第７章を読む 12に関する資料を踏まえて発表準備する
11. 個別の課題を抱える児童生徒への指導① ：暴力行為・いじめへの対応　（佐々木）	13に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第６章Ⅱを読む
12. 個別の課題を抱える児童生徒への指導② ：不登校への対応　（佐々木）	14に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第６章Ⅱを読む
13. 個別の課題を抱える児童生徒への指導③ ：SNS や性に関する課題・児童虐待への対応（佐々木）	生徒指導提要第６章Ⅱを読む
14. 生徒指導と家庭・地域との連携（佐々木）	生徒指導提要第８章を読む
15. まとめ　（佐々木）	課題レポートを作成する

履修上の注意

教員を目指す者としての自覚を持って講義に臨んで下さい。

成績評価方法・基準

授業内の課題とレポート（70%）、発表会での発表内容（30%）

授業内課題については、授業中にフィードバックします。

レポートについては、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとします。

教科書［はじめて学ぶ生徒指導・進路指導］［広岡義之］［ミネルヴァ書房］［2,376 円］

［生徒指導提要］［文部科学省］［298 円］

参考書［カウンセリングを教育に生かす］［宮前理編著］［八千代出版］［2,160 円］

備　考

1）都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
2）質問等については授業終了時に受け付けます。

授業科目名	教育相談					単位（総授業時間＋自習時間）		2(30＋60)
担当者	宮前　理	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	家政・生美３年

授業概要

現在、学校では多くの教員がいじめ、不登校、虐待、非行など、児童・生徒の生命や健康にかかわる問題に直面し、それらへの対処方法に苦慮している。講義では、これらの諸問題について概説するとともに、対応についても検討する。とりわけカウンセリングの基礎的な理論や技法について学べるように演習を行う。

授業の到達目標

1 学校における教育相談の意義と理論を理解する。

2 教育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解する。

3 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.オリエンテーション（授業の概要説明）	教科書を必携し、毎回熟読すること
2.学校における教育相談の意義と課題	「教育相談」とは何か理解できること
3.教育相談に関わる心理学の理論	理論をレポートにまとめ次回提出
4.生徒理解の方法（心理テスト法、観察法、面接法等）	技法をレポートにまとめ次回提出
5.カウンセリングマインド	一部演習を通して理解を深める
6.カウンセリングの基礎的な知識	一部演習を通して理解を深める
7.カウンセリングの基礎的な姿勢や技法	一部演習を通して理解を深める
8.教育相談を行う際の目標の立て方や進め方	ケース・スタディのあり方を理解する
9.教育相談の進め方①：不登校の特徴とその対応	事例を通して学び次回レポート提出
10.教育相談の進め方②：いじめの特徴とその対応	事例を通して学び次回レポート提出
11.教育相談の進め方③：虐待の特徴とその対応	事例を通して学び次回レポート提出
12.教育相談の進め方④：非行の特徴とその対応	事例を通して学び次回レポート提出
13.教育相談の組織的な取組み①：（教育相談の計画の作成）	年間計画、未然防止等を理解する
14.教育相談の組織的な取組み②：（構内体制の整備）	「チーム学校」等について理解する
15.地域の専門機関との連携（医療・福祉・心理等）	学校外の機関、専門家を理解する
16. 定期試験	

履修上の注意

第１回目に講義の進め方と注意事項を説明する。

成績評価方法・基準

レポート課題 20%, 試験 80%　　課題については後日、講義の中でフィードバックする。

教科書　[カウンセリングを教育にいかす][宮前理編著][八千代出版][2,160 円]

参考書　[生徒指導提要　平成 22 年][中学校学習指導要領　平成 29 年]
[高等学校学習指導要領　平成 31 年発行予定]

備　考

質問等は、講義終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受付けます。

授業科目名	教職実践演習(中・高)				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋45)
担当者	宮前　理・植松　公威	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	家政・生美 4 年

授業概要

教職課程の総まとめとして、教育実習をはじめ教職課程履修の成果を踏まえて、教科指導、生徒指導、教育方法、学級経営に関する諸問題の講義と討議を行い、また、教育実習での授業や作成した学習指導案の検討を行うことにより授業を反省し改善策を考えるなどして、教員として必要とされる資質・能力の基礎が育成されるようにする。

授業の到達目標

1)教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができる。

2)生徒理解を基盤として適切な生徒指導や学級経営ができる。

3)学習指導の基礎的・基本的事項を習得している。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．授業全般に関する説明、履修上の諸注意　（宮前、植松）	
2．教職課程履修の振り返り(学習履歴の確認、省察等)（宮前、植松）	
3．教職の意義、教員の使命、教員の職務等について(講義、討議)（宮前）	「教職概論」の授業内容を復習すること
4．教科指導の諸問題(講義、討議)（植松）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
5．教育方法の諸問題(講義、討議)（植松）	
6．教育実習における教科指導の諸問題(討議(ロールプレイングを含む))（宮前、植松）	
7．教育実習における生徒指導の諸問題(討議(ロールプレイングを含む))（宮前）	
8．教職経験者による講義(主として教科指導､道徳教育について)（ゲストスピーカー）	
9．教職経験者による講義(主として生徒指導､学級経営について)（ゲストスピーカー）	
10. 各自の教育実習研究授業の学習指導案の作成（宮前、植松）	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること。
11. 題材を決めての学習指導案の作成（模擬授業を含む）（宮前、植松）	
12. 学級経営、学級経営案について(講義)、教育実習時の学級での活動状況(討議)（宮前）	教科指導、生徒指導に関する教育実習時の諸問題を把握しておくこと。
13. 教員間、保護者、地域の人々との連携、協力のあり方について(講義)（宮前）	資料を読んでおくこと。
14. 東北生活文化大学高等学校の見学（植松）	
15. レポート、アンケート調査結果など提出物に対する教員の講評（宮前、植松）	

履修上の注意

第 1 回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について説明する。教職課程履修のまとめ、反省、自己評価をしておくこと。

成績評価方法・基準

授業への参加状況(発表、発言、討議の状況)40%、レポート等の課題の内容 60% によって総合的に評価する。課題は後日授業で講評を行う。

教科書　授業前に資料を配布する。

参考書　中学校、高等学校学習指導要領及びその解説(総則編)　　文部科学省

備　考

質問等は授業終了後やオフィスアワーで受け付けるが、随時来室して(不在のときあり)差し支えない。

授業科目名	教職実践演習（栄養教諭）			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30＋45)
担当者	宮前　理・植松　公威	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	健専４年

授業概要

教職課程の総まとめとして、教育実習をはじめ教職課程履修の成果を踏まえて、学校給食をはじめとした食育に関する諸問題の講義と討議、生徒理解とそれに基づく生徒指導の方法や問題の講義と討議、教職経験者による現在の学校教育の課題についての講義、教育実習での授業の反省や学習指導案の検討、題材を決めての学習指導案の作成などを行うことによって、栄養教諭に必要とされる資質・能力の基礎が育成されるようにする。

授業の到達目標

・教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができるようになる。

・学校給食をはじめ食育に必要な基礎的・基本的な知識と指導方法を習得する。

・教職員組織の一員として他の教職員と協力して職務の遂行にあたることができるようになる。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.授業全般に関する説明、履修上の諸注意　（宮前、植松）	
2.教職課程履修の振り返り(学習履歴の確認、省察等)（宮前、佐々木）	
3.栄養教諭の意義、教員の使命、職務等について(講義)（宮前）	「教職概論」の授業内容を復習すること
4.食育に関する諸問題(学校給食を中心に)について(講義)（ゲストスピーカー）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
5.食育に関する諸問題(食生活に関して)について(講義)（ゲストスピーカー）	
6.学校給食の歴史と実情、給食指導について(講義)　（宮前）	
7.生徒理解、生徒指導に関する諸問題(講義、討議)　（宮前）	
8.教職経験者による講義(教科指導、道徳教育について)（ゲストスピーカー）	
9.教職経験者による講義(生徒指導、学級経営について)（ゲストスピーカー）	
10.学習指導案の作成法､それを踏まえた題材を決めての指導案の作成(講義､､実習)（宮前）	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること。
11.各自の教育実習研究授業指導案の検討　（宮前、植松）	
12.子どもの「食」に関する諸問題(討議)　（宮前）	子どもの「食」について考えておくこと
13.特別支援教育、チーム学校(講義)　（宮前、植松）	資料を読んでおくこと。
14.レポート、アンケートなど提出物に対する概評等（宮前、植松）	
15.授業の補足　（宮前、植松）	

履修上の注意

第１回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について説明する。教職課程履修のまとめ、反省、自己評価をしておくこと。

成績評価方法・基準

授業への参加状況(発表、発言、討議など)40%、レポート等の課題の内容 60%、によって総合的に評価する。課題については授業で講評を行う。

教科書　授業前に資料を配布する。

参考書〔食に関する指導の手引〕〔文部科学省〕〔東山書房〕〔1,260 円〕他

備　考

質問等は授業終了後やオフィスアワーで受け付けるが、随時来室して(不在のときあり)差支えない。

博物館に関する科目

6．博物館に関する科目

授業科目名	生涯学習概論			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)
担当者	伊藤　優	必・選	学(必)	形態	講義	学期	後期	対象	服・美表１年

授業概要

我が国の社会教育の歴史を辿りながら、生涯学習と社会教育、学校教育との関係性を明らかにする。また、「生涯学習論」やリカレント教育の思潮、生涯学習の多様な内容や方法、学習プランニング、プログラムの様々なあり方を解説することにより、生涯学習の基礎的理論を示す。その上で、生涯学習を推進する多様な主体の役割を示すとともに、博物館と学芸員の社会的位置付けを明らかにする。さらに、生涯各期にみられる生涯学習に係る現代的な課題と今後の展望を示す。

授業の到達目標

生涯学習に関する歴史・方法・計画等の基礎的知識を習得する。

生涯学習社会における博物館の使命を知り、学芸員の役割を検討する思考を身につける。

学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.ガイダンス：講義の進め方・生涯学習と社会教育	身近にある生涯学習施設を確認しておく
２.生涯学習と社会教育の歴史①（近代から現代）	仙台市の市民センターの歴史を調べて授業に臨む
３.生涯学習と社会教育の歴史②（現代）	
４.「生涯学習論」	ユネスコの概要を調べる
５.リカレント教育	OECD の概要を調べる
６.生涯学習と学校教育	生涯学習と学校教育の相違を調べる
７.生涯学習の方法と内容	身近な生涯学習施設の学習プログラムに参加し、その内容を授業中に報告する
８.生涯学習と社会教育の計画	
９.学習プログラムの編成①（学習プログラムの多様性）	
10.学習プログラムの編成②（学習プログラム編成の視点）	
11.生涯学習関連行政の仕組み①（行政の役割と組織）	身近な社会教育関連団体等を調べる
12.生涯学習関連行政の仕組み②（社会教育関連団体）	
13.生涯学習と博物館・学芸員	博物館の役割と機能を調べる
14.生涯各期の教育課題	少子高齢化社会の課題を調べる
15.講義のまとめ　生涯学習社会の課題とこれから	これまでの学修内容を復習する
16.試験	

履修上の注意

意欲的な学修姿勢を重視する。社会教育プログラム等に積極的に参加すること。

自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。

成績評価方法・基準

事前事後学修を含む受講態度（50%）、期末試験（50%）で評価する。試験については、問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。

教科書　なし　必要に応じて講義中に資料を配布する。

参考書〔生涯学習論 第１次改訂版〕〔佐藤晴雄〕〔学陽書房〕〔2,500 円＋税〕

備　考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

授業科目名	博物館概論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）
担当者	伊藤　優	必・選	学（必）	形態	講義	学期	前期	対象	服・美表１年

授業概要

仙台・宮城ミュージアムアライアンス加盟館等の身近な博物館の紹介を導入として、博物館の多面的な魅力を伝える。また、ICOM 規約や博物館法に依拠しながら、博物館の定義・目的・分類等の概要を示す。博物館機能の資料収集・整理保管、調査、展示、教育の特色と役割を詳述しながら、そこにみられる多様な課題も示す。その上で、博物館の歴史を辿り、日本における現状を示し、関係法令や文化政策、地域社会との関係性を解説する。これらを通して、博物館や学芸員が担うべき社会的役割の全体像を示す。

授業の到達目標

博物館の目的・機能・社会的役割等の基礎的知識を習得する。

博物館や学芸員の役割を知り、直面する多様な課題を検討する思考を身につける。

学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.ガイダンス：講義の進め方・学芸員資格について	自身のこれまでの博物館体験や、身近な博物館施設を確認する
２.身近な博物館（ＳMMA、歴ネット等）	
３.博物館の定義・目的	ICOM、ユネスコの概要を調べる
４.博物館の分類・施設・設備	博物館法を調べる
５.博物館の機能①（資料収集・整理保管）	博物館データベースを調べる
６.博物館の機能②（調査研究）	博物館研究紀要等を調べる
７.博物館の機能③（展示）	博物館展示情報を調べる
８.博物館の機能④（教育普及）	博物館教育プログラムを調べる
９.博物館史①（博物館の誕生）	欧米の博物館情報と、日本の様々な博物館情報を調べ、授業中に報告する
10.博物館史②（近代）	
11.博物館史③（日本の博物館史）	
12.博物館の現状	
13.博物館関係法令と政策	社会教育法、文化財保護法を調べる
14.地域社会と博物館	博物館ボランティアを調べる
15.講義のまとめ　博物館・学芸員の課題とこれから	これまでの学修内容を復習する
16.試験	

履修上の注意

意欲的な学修姿勢を重視する。積極的に博物館を訪問すること。

自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。

成績評価方法・基準

事前事後学修を含む受講態度（50%）、試験（50%）で評価する。試験については、問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。

教科書　なし

参考書〔博物館学Ⅰ〕〔大堀哲・水嶋栄治編〕〔学文社〕〔2,300 円＋税〕

備　考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

授業科目名	博物館経営論			単位（総授業時間＋自習時間）					2（30＋60）
担当者	笠原　信男	必・選	学（必）	形態	講義	学期	前期	対象	服･生美３年

授業概要

博物館は青少年や成人を対象に教育活動を行う、社会教育施設の一つである。博物館経営論では、博物館が社会教育施設として、そのあるべき姿を見定めながら、いかに運営するか、を多面的に解説する。具体的には、博物館の設置者・学芸員・利用者など、様々な視点から、博物館経営についての基本的な考え方・知識・動向を、それぞれの講義テーマに合わせて、時に図・表・写真等の資料・データを用いて解説する。また、博物館を訪れて、経営論の観点から実地の学習も行う。

授業の到達目標

１．博物館経営についての基本的な考え方・知識を学ぶ。

２．博物館を多角的な視点で観覧・考察する姿勢を身につける。

３．社会教育施設としての博物館の地域社会へ役割を学ぶ。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．博物館と博物館学及び博物館経営論	博物館を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
２．博物館経営の設置と使命	設置と使命を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
３．博物館経営の考え方	経営論的思考を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
４．博物館の経営手法	経営手法を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
５．博物館の運営方針	運営方針を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
６．博物館の組織	組織を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
７．博物館の中長期計画と予算	中長期計画等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
８．博物館の広報活動と来館者サービス	広報を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
９．博物館の危機管理	危機管理を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
10．博物館経営の実際（１）現地学習（施設の構造)	訪問先の博物館の施設情報を調べ、訪問後に作成するレポートに活かす。
11．博物館経営の実際（２）現地学習（展示活動等）	訪問先の博物館の諸活動を調べ、訪問後に作成するレポートに活かす。
12．経営論から見た博物館の展示活動	展示活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
13．経営論から見た博物館の教育普及活動	教育普及活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
14．経営論から見た博物館の資料管理、調査研究活動	資料管理等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
15．経営論から見た市民参画と地域社会との連携	地域との連携を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

履修上の注意

成績評価方法・基準

・受講態度２０％とレポート８０％で評価します。レポートは必ず提出してください。

・レポートは最終講義で、記述内容の要点をまとめたレジュメを用いて、フィードバックします。

教科書　なし

参考書〔新時代の博物館学〕〔全国大学博物館学講座協議会西日本部会〕〔芙蓉書房出版〕〔2,052 円〕

備　考

・現地学習は訪問先の博物館の事情等の都合により、授業計画の順番を変更することがあります。

・ルーブリック評価については第１回目の授業で説明します。

・質問等については授業終了時に受け付けます。

授業科目名	博物館資料論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	手塚　均	必・選	学（必）	形態	講義	学期	後期	対象	服･生美２年

授業概要

博物館資料とは、博物館の骨格を形成する資料で、その博物館が研究の対象とする情報を内包し、いつの時代にも必要に応じて再検証ができ得る状態に管理された資料である。講義では、歴史・美術など人文系博物館が所蔵する資料を中心に、博物館資料の収集や資料保管に関する知識・技術を習得するとともに、資料の調査研究、活用に関する知識や技術などの基礎的知識を養う。また、座学のみならず実際の博物館等施設の見学も計画している。

授業の到達目標

学芸員としての基礎知識を身につける。

多様な博物館資料を理解できる。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.博物館資料とは？　・授業計画のオリエンテーション ・資料の意義	各種の博物館施設を見学し、展示資料の特徴を理解しておく。
2．博物館資料の種類　・一次資料と二次資料	〃
3．博物館資料の収集　・収集理念と方法	後：博物館等の図録・目録で調べる。
4．民俗資料の収集から資料化へ　・収集と整理	前：民俗資料とは？を調べる。
5．民俗資料の種類と展示　・有形民俗資料と無形民俗資料	前・後：図録・研究報告等で調べる
6．歴史・美術資料の収集から資料化へ　・収集と整理	前：歴史・美術資料とは？を調べる
7．〃　・資料化から公開へ	後：実際に施設を訪ねる
8．考古資料の収集と資料化　・資料化から公開へ	前：考古資料について調べる。
9．博物館資料の一コマ　・宮城の伝統工芸品	前・後：興味ある実物を調べる
10. 博物館とコレクション資料　・近現代の私設博物館	後：興味ある施設を訪ねる
11. 博物館資料の保存管理　・環境づくりとは？	前：博物館資料保存論の復習
12.博物館資料の活用　・展示、体験学習	前・後：自分なりの方法を考える
13.歴史・民俗資料館の見学　・(仙台市歴史民俗資料館)	前：見学施設に関する予習
14.　〃	後：見学後の感想を記録
15.まとめ　・これからの資料収集について	前：自分なりの考えをまとめておく

履修上の注意

学芸員としての実務において必須の基礎知識であることを念頭に受講すること

成績評価方法・基準

授業態度・学習意欲・ミニテスト・ミニレポートで50%、最終レポートで50%。ミニテストについては以降の授業中にフィードバックを行う。

教科書　なし　プリント配布

参考書　なし

備　考

・配布された資料はファイルして以降の授業にも携帯すること。

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

・質問等については随時受け付けます。

授業科目名	博物館資料保存論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	手塚　均	必・選	学(必)	形態	講義	学期	前期	対象	服・生美２年

授業概要

資料保存に関する基礎的な知識として、温湿度・光・生物被害による資料劣化の要因とその対策、収蔵庫や展示室の環境のあり方、保存のための各種技術および活用などについて、パワーポイントやビデオを中心に解説する。また、災害への対応として、東日本大震災以降に展開された全国的な規模のレスキュー活動の中で、宮城県の博物館等の機関が共同して行った実際の活動について学ぶ。座学のみならず実際の施設に出向いての研修も計画している。

授業の到達目標

学芸員としての基礎知識を身につける。

自身の研究課題における資料の保存に対応できる知識・技術を身につける。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．博物館における資料保存の意義	前：複数の博物館等施設を見学しておく
２．資料保存の歴史	前：美術史を復習する
３．資料劣化の要因とその対策　①温度と湿度	前：博物館学での講義を復習する
４．資料劣化の要因とその対策　②光と空気汚染	前：博物館学での講義を復習する
５．資料劣化の要因とその対策　③生物被害とＩＰＭ	前：博物館学での講義を復習する
６．展示室と収蔵庫の環境	前：複数の博物館等施設を見学しておく
７．資料の梱包と運搬	後：梱包の実際を行う
８．有機質資料（出土木製品など）の科学的保存処理	前：発掘調査について調べる
９．無機質資料（金属製品など）の科学的保存処理	前：発掘調査について調べる
10.災害時における資料の救出（レスキュー活動）	前・後：東日本大震災関連の書籍を読む
11.救出された資料の管理・修復・公開	前・後：東日本大震災関連の書籍を読む
12.資料の保存と活用－学外研修－①　博物館バックヤード	前：これまでの講義内容を復習する
13.資料の保存と活用－学外研修－②　展示室など公開ゾーン	前：これまでの講義内容を復習する
14.伝統的な修理と修復（映像）	前：東大寺南大門金剛力士像について調べる
15.資料の保存と活用　　まとめ	

履修上の注意

学芸員としての実務において必須の基礎知識であることを念頭に受講すること

成績評価方法・基準

授業態度・学習意欲・ミニテストで 50%、課題レポートで 50%（未提出は評価０とする）。ミニテストについては以降の授業中にフィードバックを行う。

教科書　使用しない。講義前にプリントを配布。

参考書　［博物館資料保存論］　［石崎武志編著］　［講談社］　［2200 円］

備　考

・配布された資料はファイルして以降の授業にも携帯すること。

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

・質問等については随時受け付けます。

授業科目名	博物館展示論			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)
担当者	笠原　信男	必・選	学(必)	形態	講義	学期	後期	対象	服・生美３年

授業概要

本授業では、博物館の展示を制作者の視点でアプローチするのに必要な観点を提示する。博物館の様々な事業の中で、中心に位置づけられている展示には多角的な知識や技術が求められる。こうした展示を企画し、運営するのに必要な事項を各講義ごとに説明する。大きくは、展示の理論、展示の技術、展示の装置の３つに分けて進め、展示の役割・歴史等、展示の企画の立て方、展示の道具等の概要を、それぞれの講義テーマに合わせて、時に図・表・写真等の資料・データを用いて解説する

授業の到達目標

・展示を通して博物館の基本的な考え方・知識を学ぶ

・展示を通して博物館を多角的に観覧する姿勢が身に付く。

・展示を通して社会教育施設としての博物館の役割を学ぶ。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1．展示の理論１―博物館における展示の役割	展示の役割を参考書等で学習し、配布資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
2．展示の理論２―展示の歴史	展示の歴史を参考書等で学習し、配布資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
3．展示の理論 3―展示の諸類型、視点と運用	展示の諸類型等を参考書等で学習し、配布資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
4．展示の理論 4―生涯学習・学校教育と展示	生涯学習・学校教育と展示を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
5．展示の理論５ーユニバーサルデザインと展示	ユニバーサルデザインと展示を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
6．展示の理論６ー展示の評価	展示の評価を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
7．展示の技術１ープロセス(企画・実施・終了)	展示のプロセスを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
8．展示の技術２－動線計画	展示の動線計画を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
9．展示の技術３－展示環境(リスクマネージメント等)	展示環境(リスクマネージメント等)を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
10. 展示の技術４－照明	展示の照明を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
11. 展示の技術５ー解説システム	展示の解説システムを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
12. 展示の技術６－グラフィック	展示のグラフィックを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
13. 展示の技術７－広報	展示の広報を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
14. 展示の装置１－展示ケース	展示ケースを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
15. 展示の装置２ーレプリカとジオラマ及びまとめ	レプリカとジオラマの役割を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

履修上の注意

成績評価方法・基準

・受講態度(２０％)とレポート(８０％）で評価します。
・レポートは最終講義で、記述内容の要点をまとめたレジュメを用いて、フィードバックします。

教科書

参考書［博物館展示論］［黒澤 浩］［講談社］［2,592 円］

備　考　・都合により授業計画の順番等を変更することがあります。
・ルーブリック評価については第１回目の授業で説明します。
・質問等については授業終了時に受け付けます。

授業科目名	博物館情報・メディア論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)
担当者	佐藤　泰	必・選	学（必）	形態	講義	学期	後期	対象	服・生美２年

授業概要

教育・コミュニケーションツールとして情報・メディアの基本特性を、人と人とのコミュニケーションの諸相や文明史的な観点を交えて概観しつつ、博物館があつかう情報の種類や意義、それらを正しく伝え普及するためのメディアの活用方法や情報発信の手法について、博物館での具体的事例、さらにネットワーク上に流通する博物館にとどまらない多様な主体からの情報発信を参照しつつ、みずから博物館の情報発信を試みるなどの体験を試みるなどの体験を交えながら学ぶ。

授業の到達目標

情報コミュニケーションの基本原理と歴史を理解する

博物館における情報メディアの活用の実際を理解する

社会に向けた多様な文化情報の発信力を身につける

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.博物館における情報・メディアとはなにか	博物館等を利用する際は、情報メディアの活用について観察すること
2.教育・コミュニケーションツールとしてのメディアの理論	
3.教育・コミュニケーションツールとしてのメディアの歴史	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ
4.教育・コミュニケーションツールとしての博物館	発信できるか自分なりに考えること。
5.展示のなかの情報メディアの活用	
6.教育・普及・広報のなかの情報メディアの活用	
7.研究・保存その他における情報メディアの活用	
8.メディアテークにおける情報メディアの活用	
9.アーカイブの作成・運用と課題	
10.視覚など障がいのある利用者のためのメディアの活用	
11.地域の文化資源を活かすミュージアム都市とメディア	
12.仙台宮城ミュージアムアライアンス（SMMA）の取り組み	
13.情報リテラシーと博物館	
14.博物館の魅力を発信するための提案作成実習	
15.博物館の魅力を発信するための提案の評価	

履修上の注意

各自、博物館や美術館での見学とレポート提出が必要です。

成績評価方法・基準

学習意欲を含む授業態度 50%、課題レポート 50%

教科書　講義のなかでそのつど資料を配布します

参考書　講義のなかでそのつど資料を配布します

備　考

質問等については授業終了時に受け付けます

授業科目名	博物館教育論			単位（総授業時間＋自習時間）					2（30＋60）
担当者	伊藤　優	必・選	学（必）	形態	講義	学期	後期	対象	服・美表１年

授業の概要

博物館教育活動の変遷を明らかにし、現代社会において博物館教育が求められている実情を、歴史的・社会的背景を元に示す。また、博物館教育の特徴と可能性を学校教育・市民活動・生涯学習との関連から解説する。これらを踏まえた上で、博物館の諸活動にみられる教育プログラムの形態や方法を具体的に挙げ、教育プログラムの特色を館種別に紹介する。博物館教育には様々な課題も見出されることから、博物館評価システムをはじめとして、その解決の方策に対する理解を深める。

授業の到達目標

学芸員に必要な博物館教育の基礎的知識を習得する。

博物館教育の多様な課題を知り、その解決方策を検討する思考を身につける。

学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１.ガイダンス：講義の進め方・博物館教育の変遷	博物館概論の学修内容を復習しておく
２.博物館での学び	自身の経験をもとに「分かる」ことの事例を確認して授業に臨む
３.博物館教育の特徴と可能性	
４.博物館教育と市民活動	博物館と市民活動の事例を調べる
５.博物館教育と学校教育	博物館と学校教育の相違を調べる
６.博物館の教育活動①（教育活動の諸形態）	博物館教育に関わる教材等を入手し、授業中に報告する
７.博物館の教育活動②（教育プログラムの実施プロセス）	
８.博物館の教育活動③（教材の作成・ユニバーサルデザイン）	ユニバーサルデザインの事例を調べる
９.博物館の教育活動④（教育プログラムとボランティア活動）	ボランティア活動の事例を調べる
10.様々な博物館教育①（美術館・歴史博物館）	様々な博物館の教育プログラムに参加して、その内容を授業中に報告する
11.様々な博物館教育②（科学館・文学館）	
12.様々な博物館教育②（エコミュージアム・大学博物館）	
13.博物館教育プログラムの評価①（評価システムについて）	自身の経験をもとに「評価」の意義を確認して授業に臨む
14.博物館教育プログラムの評価②（評価の意義に関する演習）	
15.講義のまとめ　博物館教育の課題とこれから	これまでの学修内容を復習する
16 試験	

履修上の注意

意欲的な学修姿勢を重視する。博物館事業に積極的に参加すること。

自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。

成績評価方法・基準

事前事後学修を含む受講態度（50%）、試験（50%）で評価する。試験については、問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。

教科書　なし　必要に応じて講義中に資料を配布する。

参考書〔博物館教育論〕〔小笠原喜康　他編〕〔ぎょうせい〕〔3,048 円＋税〕

備　考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

授業科目名	博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む。）			単位（総授業時間＋自習時間）			1（30+60）		
担当者	菊地　逸夫	必・選	学（必）	形態	講義	学期	通年（前）	対象	服・生美３年

授業概要

博物館学芸員として必要な幅広い知識と基礎的な技術を身に着けることを目標とする。

具体的なテーマは、「資料の取り扱いに対する心構えや基本的な取り扱い方法、梱包の方法を身に着けるための講義や実習」「展示のできるまでを学び、模擬的な展示を企画する学習」「博物館で行われている教育普及活動(教育プログラム)を実践や講義を通して学び、自らプログラムを企画する学習」の以上３点で、これらの一連の学習を通して学芸員としての基本的知識・技術を習得する。

授業の到達目標

・資料の取り扱いの基礎的な技術を身に着ける。

・模擬的な展示を企画する力を身に着ける。

・博物館での教育普及活動(教育プログラム)を企画できるようになる。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
1.ガイダンス　授業の概要説明	
2.博物館資料の取り扱いについて	配布資料を読み、取り扱いについて復習する
3.考古資料の取り扱いと梱包	配布資料を読み、取り扱いについて復習する
4.刀剣の見方と取り扱い(手入れ方法)	配布資料を読み、取り扱いについて復習する
5.展示品の地震への対策(地震に対応する展示法)	県内の地震災害の歴史を調べておく
6.特別展示ができるまで	配布資料で特別展示ができるまでを復習する
7.シナリオ作成の方法、資料選択の方法	自分が関心のある展示を考えておく(事後)
8.展示環境、展示プランについて	展示のシナリオをまとめておく(事後)
9.展示のプラン作成、企画書作成	発表にむけて企画書をまとめておく(事後)
10.展示プラン発表	企画書を元に発表する
11.博物館の教育普及活動の紹介	博物館で行われている教育活動イベントについて調べておく
12.施設見学 1(教育普及施設の見学)	見学先の施設についてまとめる(レポート)
13.施設見学 2(施設での教育プログラム実践)	実践したプログラムをまとめる(レポート)
14.教育普及活動(教育プログラム)のプラン作成	自分が関心のあるプログラムを考えておく
15.活動プラン発表	企画書を元に発表する

履修上の注意

資格教科であるため出席を重視する。企画書の提出、発表は必須。

成績評価方法・基準

授業に対する意欲と姿勢(特に出席状況は重視)50%、レポート(企画書)50%

教科書　なし

参考書　なし

備　考

授業の際に資料を配布する。施設見学先の都合により、授業順は変更がある。

授業科目名	博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む）			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)
担当者	三上　秀夫	必・選	選	形態	講義	学期	通年（後）	対象	服・生美３年

授業概要

博物館実習は、学芸員養成教育において学んだ知識・技術や理論を生かして、館園での実体験や実技を通して、学芸員として必要とされる知識・技術等の基本を修得することを目標とする。博物館実習Ⅰでは、講義、学内実習、見学実習の三つからなる。講義では、展示企画書を作成し展示資料を展示する一連の流れを指導する。学内実習では、博物館資料の収集、整理、保管、調査研究、資料の取り扱い方法、展示などの基本事項の理解と実務実習を行う。見学実習では、一定地域の博物館を数日間見学し、利用者、学芸員の双方の立場に立って博物館の活動状況を知り博物館の現状と問題点を把握する。

授業の到達目標

学芸員養成教育において学んだ知識・技術や理論を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につける。

授業計画の内容	自習（事前・事後学修の内容）
１．ガイダンス　授業の概要説明 ２．学外実務実習のための説明会 1　実習先希望調査 ３．収集、整理、保管、調査の対象となる資料について　顕彰館、短大資料室見学 ４．資料の取り扱い１　短大資料の取り扱い（着物その他）	希望する実習先について調べる。
５．外部講師　掛軸の歴史	プリントをよく読み込み実践に備える。
６．外部講師　表具の取り扱い　屏風　刷毛　道具	プリントをよく読み込み実践に備える。
７．外部講師　学芸員の仕事	プリントをよく読み込み実践に備える。
８．資料の取り扱い２　顕彰館　資料の取り扱い（掛軸）	
９．資料の取り扱い３　顕彰館　資料の取り扱い（掛軸）	
10．資料の取り扱い４　顕彰館　資料の取り扱い（掛軸）	
11．資料の取り扱い５　顕彰館　資料の取り扱い（掛軸）	
12．展示計画 1（概要説明）　学外実務実習のための説明会 2　実習先希望調査結果　調整　実習記録下書き	グループで話し合った内容をまとめる。
13．展示計画２（動線計画）　実習先希望調査　調整	実習先博物館等の特徴を調べる。
14．展示計画３（展示器具）　実習先希望調査結果　調整	実習先を調べる。
15．展示計画４（発表）　学外実務実習について 諸注意他	清書、証明写真を準備する。

履修上の注意

資格科目のため欠席のないよう望む。課題（レポート、実技）作成、発表、提出あり。

成績評価方法・基準

授業の取り組みに対する意欲と姿勢（40%）、見学レポート（30%）、実務実習評価（30%）で評価する。

教科書　無し

参考書　無し

備　考　授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。